



東京・春・音楽祭 2024

主なアーティスト プロフィール

<五十音順>

(2023年10月27日付)

[WEB版でのご参照はこちら](#)



# 目次

マルクス・アイヒェ (バリトン) Markus Eiche 1	北原瑠美 (ソプラノ) Rumi Kitahara..... 36	東京春祭オーケストラ (管弦楽) Tokyo-HARUSAI Festival Orchestra..... 69
アイン・アンガー (バス) Ain Anger ..... 2	北村朋幹 (ピアノ) Tomoki Kitamura..... 36	東京バレエ団 The Tokyo Ballet..... 69
青木尚佳 (ヴァイオリン) Naoka Aoki ..... 4	城戸かれん (ヴァイオリン) Karen Kido..... 37	戸田弥生 (ヴァイオリン) Yayoi Toda..... 70
青山 貴 (バリトン) Takashi Aoyama ..... 4	木下美穂子 (ソプラノ) Mihoko Kinoshita... 37	ルクサンドラ・ドノーセ (メゾ・ソプラノ) Ruxandra Donose..... 71
秋本悠希 (メゾ・ソプラノ) Yuki Akimoto... 6	木村裕平 (ピアノ) Yuhei Kimura..... 38	戸原直 (ヴァイオリン) Nao Tohara..... 73
フェデリコ・アゴ스티ーニ (ヴァイオリン) Federico Agostini..... 6	ビルギッテ・クリステンセン (ソプラノ) Birgitte Christensen..... 38	富永悠紀子 (ヴィオラ) Yukiko Tominaga... 73
安達真理 (ヴィオラ) Mari Adachi ..... 7	コンスタンティン・クリンメル (バリトン) Konstantin Krimmel..... 39	富平安希子 (ソプラノ) Akiko Tomihira.... 74
荒木奏美 (オーボエ) Kanami Araki ..... 7	ローター・ケーニヒス (指揮) Lothar Koenigs..... 40	富平恭平 (合唱指揮) Kyohei Tomihira.... 74
アンサンブル・アンテルコンタンポラン..... 8	小泉隼子 (メゾ・ソプラノ) Eiko Koizumi... 41	中 実穂 (チェロ) Miho Naka..... 75
Ensemble intercontemporain..... 8	小泉隼子 (メゾ・ソプラノ) Eiko Koizumi... 41	中島郁子 (メゾ・ソプラノ) Ikuko Nakajima 75
アレクサンダー・イヴィッチ (ヴァイオリン) Aleksandar Ivic..... 8	郷古 廉 (ヴァイオリン) Sunao Goko..... 41	中野りな (ヴァイオリン) Lina Nakano..... 76
石井基幾 (テノール) Motoki Ishii ..... 9	小島綾子 (ヴィオラ) Ayako Kojima..... 42	中畑有美子 (ソプラノ) Yumiko Nakahata... 76
石上真由子 (ヴァイオリン) Mayuko Ishigami. 9	小林明子 (ヴィオラ) Akiko Kobayashi..... 42	長原幸太 (ヴァイオリン) Kota Nagahara... 77
石坂 宏 (指揮) Hiroshi Ishizaka ..... 10	小林海都 (ピアノ) Kaito Kobayashi..... 43	成田達輝 (ヴァイオリン) Tatsuki Narita.. 78
石田紗樹 (ヴィオラ) Saki Ishida ..... 11	坂口弦太郎 (ヴィオラ) Gentaro Sakaguchi.. 43	新倉 瞳 (チェロ) Hitomi Niikura..... 78
伊藤達人 (テノール) Tatsundo Ito ..... 11	佐々木 亮 (ヴィオラ) Ryo Sasaki..... 44	日橋辰朗 (ホルン) Tatsuo Nippashi..... 79
糸賀修平 (テノール) Shuhei Itoga ..... 12	..... 44	ルネ・パーペ (バス) René Pape..... 79
稲川永示 (コントラバス) Eiji Inagawa .... 13	佐藤友紀 (トランペット) Tomonori Sato... 45	ダニエル・ハイデ (ピアノ) Daniel Heide .. 80
セバスティアン・ヴァイグレ (指揮) Sebastian Weigle..... 13	佐藤晴真 (チェロ) Haruma Sato..... 45	萩谷金太郎 (ヴィオラ) Kintaro Hagiya.... 81
セルバン・ヴァシレ (バリトン) Serban Vasile..... 14	佐藤由起 (ファゴット) Yuki Sato..... 46	長谷川久恵 (児童合唱指揮) Hisae Hasegawa 81
ヴィルトゥス・クワルテット Virtus Quartet. 15	セラレーネ・ザネッティ (ソプラノ) Selene Zanetti..... 46	マリyam・バッティステッリ (ソプラノ) Mariam Battistelli..... 82
上野水香 (バレエダンサー) Mizuka Ueno... 15	佐野隆哉 (ピアノ) Takaya Sano..... 47	林 康夫 (ヴィオラ) Yasuo Hayashi..... 82
上野通明 (チェロ) Michiaki Ueno ..... 16	マリア・ホセ・シーリ (ソプラノ) Maria José Siri..... 47	イノン・バルナタン (ピアノ) Inon Barnatan 83
ヴィンセント・ヴォルフシュタイナー (テノール) Vincent Wolfsteiner..... 17	篠崎友美 (ヴィオラ) Tomomi Shinozaki.... 48	エレーナ・パンクラトヴァ (ソプラノ) Elena Pankratova..... 83
上森祥平 (チェロ) Shohei Uwamori ..... 18	清水華澄 (メゾ・ソプラノ) Kasumi Shimizu. 48	Piano Duo Sakamoto..... 84
枝並千花 (ヴァイオリン) Chika Edanami... 18	清水 太 (ティンパニー) Futoshi Shimizu... 49	東 亮汰 (ヴァイオリン) Ryota Higashi.... 84
NHK 交響楽団 (管弦楽) NHK Symphony Orchestra, Tokyo..... 19	ジョージ・ジャクソン (指揮) George Jackson..... 49	樋口雅世 (ヴィオラ) Masayo Higuchi..... 85
アブデル・ラーマン・エル＝バシヤ (ピアノ) Abdel Rahman El Bacha..... 20	ルウォ・ジャチン (ピアノ) Luo Jiaqing.... 50	オッカ・フォン・デア・ダメラウ (メゾ・ソプラノ) Okka von der Damerau..... 86
尾池亜美 (ヴァイオリン) Ami Oike ..... 20	白井 圭 (ヴァイオリン) Kei Shirai..... 51	藤木大地 (カウOUNTERテナー) Daichi Fujiki 87
アリソン・オークス (ソプラノ) Allison Oakes..... 21	新国立劇場合唱団 (合唱) New National Theatre Chorus..... 51	藤村俊介 (チェロ) Shunsuke Fujimura.... 88
大瀧拓哉 (ピアノ) Takuya Otaki ..... 22	杉山由紀 (メゾ・ソプラノ) Yuki Sugiyama.. 52	藤村実穂子 (メゾ・ソプラノ) Mihoko Fujimura..... 88
大塚直哉 (チェンバロ) Naoya Otsuka ..... 22	スチュアート・スケルトン (テノール) Stuart Skelton..... 52	ヴェンツェル・フックス (クラリネット) Wenzel Fuchs..... 89
大槻孝志 (テノール) Takashi Otsuki ..... 23	鈴木大介 (ギター) Daisuke Suzuki..... 53	ルドルフ・ブッフビンダー (ピアノ) Rudolf Buchbinder..... 89
大宮臨太郎 (ヴァイオリン) Rintaro Omiya.. 24	鈴木 学 (ヴィオラ) Manabu Suzuki..... 54	古部賢一 (オーボエ) Ken-ichi Furube.... 90
オーレリアン・ジニユ (打楽器) Aurélien Gignoux..... 24	鈴木康浩 (ヴィオラ) Yasuhiro Suzuki..... 54	幣 隆太郎 (コントラバス) Ryutarō Hei.... 91
小川響子 (ヴァイオリン) Kyoko Ogawa ..... 24	鈴木大樹 (ヴィオラ) Taiki Suzumura..... 55	オハッド・ベン＝アリ (ピアノ) Ohad Ben-Ari..... 91
隠岐彩夏 (ソプラノ) Ayaka Oki ..... 25	周防亮介 (ヴァイオリン) Ryosuke Suho..... 55	ライナー・ホーネック (ヴァイオリン) Rainer Honeck..... 92
沖 響子 (オーボエ) Kyoko Oki ..... 25	フランツ＝ヨゼフ・ゼーリヒ (バス) Franz-Josef Selig..... 56	外園萌香 (ヴァイオリン) Moeka Hokazono .. 93
小倉貴久子 (フォルテピアノ) Kikuko Ogura. 26	クレマン・ソーニエ (トランペット) Clément Saunier..... 57	ステファン・ポップ (テノール) Stefan Pop. 93
オディール・オーボワン (ヴィオラ) Odile Auboin..... 26	高木綾子 (フルート) Ayako Takagi..... 57	堀 正文 (ヴァイオリン) Masafumi Hori.... 94
甲斐栄次郎 (バリトン) Eijiro Kai ..... 26	高橋洋介 (バリトン) Yosuke Takahashi.... 58	リヴュー・ホレンダー (バリトン) Liviu Holender..... 94
クロディアン・カチャーニ (テノール) Klodjan Kaçani..... 28	竹多倫子 (ソプラノ) Michiko Takeda..... 59	松田拓之 (ヴァイオリン) Hiroyuki Matsuda 95
鎌富弦太郎 (ヴァイオリン) Gentaro Kagitomi..... 28	田崎尚美 (ソプラノ) Naomi Tasaki..... 60	ユリア・マトーチュキナ (メゾ・ソプラノ) Yulia Matochkina..... 96
梶川真歩 (フルート) Maho Kajikawa ..... 29	店村眞積 (ヴィオラ) Mazumi Tanamura..... 61	オラフ・マニングァー (チェロ) Olaf Maninger 97
加藤洋之 (ピアノ) Hiroshi Kato ..... 29	田原綾子 (ヴィオラ) Ayako Tahara..... 61	三浦一馬 (バンドネオン) Kazuma Miura.... 97
加藤宏隆 (バス・バリトン) Hirotaka Kato.. 29	玉井菜探 (ヴァイオリン) Natsumi Tamai... 62	三浦友理枝 (ピアノ) Yurie Miura..... 98
金山京介 (テノール) Kyosuke Kanayama.... 30	ボグダン・タロシュ (バス) Bogdan Talos̄... 62	三国レイチェル由依 (ヴィオラ) Rachel Yui Mikuni..... 99
金子美香 (メゾ・ソプラノ) Mika Kaneko... 30	辻本 玲 (チェロ) Rei Tsujimoto..... 63	水谷上総 (ファゴット) Kazusa Mizutani.. 100
ヴァレリア・カフェルニコフ (ハープ) Valeria Kafelnikov..... 31	津田裕也 (ピアノ) Yuya Tsuda..... 64	ハンナ＝エリーザベト・ミュラー (ソプラノ) Hanna-Elisabeth Müller..... 100
マルコ・カリア (バリトン) Marco Caria... 32	ディオティマ弦楽四重奏団 Quatuor Diotima 64	リッカルド・ムーティ (指揮) Riccardo Muti..... 101
川口成彦 (フォルテピアノ/チェンバロ) Naruhiko Kawaguchi..... 32	寺嶋陸也 (指揮/ピアノ) Rikuya Terashima. 65	向山佳絵子 (チェロ) Kaeko Mukoyama.... 104
川本嘉子 (ヴィオラ) Yoshiko Kawamoto.... 33	東京オペラシンガーズ (合唱) Tokyo Opera Singers..... 66	村上淳一郎 (ヴィオラ) Junichiro Murakami 105
関喜弦介 (ギター) Gensuke Kanki ..... 33	東京交響楽団 (管弦楽) Tokyo Symphony Orchestra..... 67	村田恵子 (ヴィオラ) Keiko Murata..... 105
ヴィットリオ・デ・カンポ (バス) Vittorio De Campo..... 34	東京少年少女合唱隊 (児童合唱) The Little Singers of Tokyo..... 68	デイヴィッド・メイソン (ヴィオラ) David Mason..... 105
菊池洋子 (ピアノ) Yoko Kikuchi ..... 35	東京都交響楽団 (管弦楽) Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra..... 69	ピエール・ジョルジョ・モランディ (指揮) Pier
北田千尋 (ヴァイオリン) Chihiro Kitada... 35		

Giorgio Morandi.....	106
盛田麻央 (ソプラノ) Mao Morita .....	107
安田謙一郎 (チェロ) Ken-ichiro Yasuda...	107
安宅 薫 (ピアノ) Kaoru Yasumi .....	108
マレク・ヤノフスキ (指揮) Marek Janowski	108
山内俊輔 (チェロ) Shunsuke Yamanouchi...	109
山岸 努 (ヴァイオリン) Tsutomu Yamagishi	109
山岸リオ (ホルン) Rio Yamagishi .....	110
山下浩司 (バス) Koji Yamashita .....	110
山田武彦 (ピアノ) Takehiko Yamada .....	111
トム・ヤンセン (ピアノ) Thom Janssen ...	111
尹 千浩 (トランペット) Yoon Cheonho ....	112
横坂 源 (チェロ) Gen Yokosaka .....	113
吉井瑞穂 (オーボエ) Mizuho Yoshii .....	113
吉田 秀 (コントラバス) Shu Yoshida .....	114
吉村結実 (オーボエ) Yumi Yoshimura .....	114
読売日本交響楽団 (管弦楽) Yomiuri Nippon Symphony Orchestra.....	115
トーマス・ラウスマン (音楽コーチ) Thomas Lausmann.....	115
カミッロ・ラディケ (ピアノ) Camillo Radicke .....	116
シュテファン・リューガマー (テノール) Stephan Rügamer.....	117
レネケ・ルイテン (ソプラノ) Lenneke Ruiten .....	118
マルソー・ルフューヴル (ファゴット) Marceau Lefevre.....	119
ソフィー・レノー (ピアノ) Sophie Raynaud	119
カタリーナ・ワグナー (監修/芸術監督) Katharina Wagner .....	120



## マルクス・アイヒェ (バリトン) Markus Eiche

ドイツのザンクト・ゲオルゲンに生まれ、カールスルーエとシュトゥットガルトで学んだ。マンハイム国民劇場でキャリアをスタートさせ、《ラ・ボエーム》マルチェッロ、《フィガロの結婚》アルマヴィーヴァ伯爵、《コジ・ファン・トゥッテ》グリエルモ、《タンホイザー》ヴォルフラム、《ドン・ジョヴァンニ》や《ヴォツェック》のタイトルロール等、レパートリーにおける重要な役を開拓した。

国際的にも引く手あまたで、ウィーン国立歌劇場とバイエルン国立歌劇場とは数年にわたる専属契約により、《トリスタンとイゾルデ》クルヴェナール、《ヘンゼルとグレーテル》ペーター、《ナクソス島のアリアドネ》音楽教師とハルレキン、《カプリッチョ》オリヴィエと伯爵、《エフゲニー・オネーギン》タイトルロール、《スペードの女王》エレットキー公爵、《死の都》フリッツとフランク、《神々の黄昏》グンター、《ファウスト》ヴァランタン、《ばらの騎士》ファニナル、《マノン》レスコー、《ニュルンベルクのマイスタージンガー》ベックメッサー等を歌った。

2007年よりバイロイト音楽祭に定期的に客演し、《ニュルンベルクのマイスタージンガー》コートナー、《ラインの黄金》ドンナー、《神々の黄昏》グンター、《タンホイザー》ヴォルフラムを歌った。19年からは現行のトビアス・クラッツァー演出による《タンホイザー》で、ヴォルフラムを歌っている。また同年、《ばらの騎士》ファニナルで、ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場にデビューした。ミュンヘンのバイエルン国立歌劇場には、クルシエネク《カール5世》ルターと《ナクソス島のアリアドネ》音楽教師で客演した他、ブリテン《ヴェニスに死す》でシュトゥットガルト州立歌劇場、《カプリッチョ》伯爵でチューリッヒ歌劇場に客演している。特筆すべき出演としては、バイエルン放送交響楽団との《カルディヤック》タイトルロールやリヒャルト・シュトラウス《火の危機》クンラート (CD化)、東京都交響楽団との《青ひげ公の城》青ひげ、ヘルシンキのフィンランド国立オペラでの《死の都》フリッツとフランク (DVD化)、クリスティーネ・オポライスやヨナス・カウフマンと共演したバイエルン国立歌劇場の新制作でプッチーニ《マノン・レスコー》レスコー兄、新制作のドビュッシェ《ペレアスとメリザンド》ゴロー等が挙げられる。アムステルダム・コンセルトヘボウではオランダ放送フィルハーモニー管弦楽団との演奏会形式による《烙印を押された人々》タマーレ伯爵、バイエルン国立歌劇場では、新制作の《ニュルンベルクのマイスタージンガー》ベックメッサーで大成功を収めた。

他にもザルツブルク音楽祭、ミラノ・スカラ座、コヴェント・ガーデンのロイヤル・オペラ・ハウス、アムステルダム・オランダ国立オペラ、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、ベルリン国立歌劇場、ドレスデン・ゼンパーオーパー等に客演している。バルセロナのリセウ大劇場とは、数年にわたって関係を築いており、これまでにアルマヴィーヴァ伯爵、エレットキー公爵、ネッド・キーン、フリッツとフランク、シューベルト《冬の旅》の舞台版、ヴォルフラム (DVD化)、オレスト等を歌った。ガルミッシュのリヒャルト・シュトラウス音楽祭では、《カプリッチョ》オリヴィエや《インテルメッツォ》ロベルト・シュトルヒを好演。

これまでに共演した指揮者には、ケント・ナガノ、ベルトラン・ド・ビリー、キリル・ペトレンコ、ゾルターン・ペシュコー、グスタフ・クーン、インゴ・メッツマッハー、ハリー・ピケット、ペーター・シュナイダー、クリストフ・ルセ、ステファン・アスバリー、クリストフ・フォン・ドホナーニ、ヘルムート・リリング、マリン・オールソップ、セバスティアン・ヴァイグレ、アダム・フィッシャー、アラン・ギルバート、ウルフ・シルマー、リッカルド・ムーティ、クリストフ・エッセンバッハ、マルコ・アルミリアート、エンリコ・ドヴィコ、アルフレート・エシュヴェ、マレク・ヤノフスキ、クリスティアン・ティエレマン、小澤征爾等が挙げられる。

彼の演奏家としての多才さは、様々な音楽の時代やスタイルに及ぶその幅広いコンサート・レパートリーに少なからず表れている。ベートーヴェンの交響曲第9番、オルフ《カルミナ・ブラーナ》、ブリテン《戦争レクイエム》、バッハの受難曲、ヘンデル《メサイア》、マーラーの《さすらう若人の歌》や《大地の歌》、メンデルスゾーン《エリヤ》や《聖パウロ》といったレパートリーから、アリベルト・ライマン、ヴォルフガング・リーム、ルイージ・ダッラピッコラ、ジュディス・ウィアーの作品までも含まれるのである。

またコンサートでは、これまでにバイエルン放送交響楽団、ハンブルク北ドイツ放送交響楽団、中部ドイツ放送交響楽団、南西ドイツ放送交響楽団、BBC 交響楽団、オランダ放送フィルハーモニー管弦楽団、ドルトムント・フィルハーモニー管弦楽団、ベオグラード・フィルハーモニー管弦楽団、ケルン・ギェルツェニヒ管弦楽団、ゲッヒンガー・カントライ、ミュンヘン・バッハ合唱団、レ・タラン・リリク、シカゴ交響楽団等と共演しており、数え切れないほどのコンサート録音が、CD、DVDとしてリリースされている。

2023年の主な出演には、バイエルン国立歌劇場の《ヘンゼルとグレーテル》ペーター、シルヴァン・カンブルラン指揮ハンブルク交響楽団でベートーヴェンの交響曲第9番、アクセル・コーバー指揮デュースブルク・フィルハーモニー管弦楽団でシューマン《ゲーテのファウストからの情景》タイトルロール、コルネリウス・マイスター指揮ドレスデン・ゼンパーオーパーでR.シュトラウス《ばらの騎士》ファニナル、カリーナ・カネラキス指揮ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団でヤナーチェク《利口な女狐の物語》ハラシュタ、バーゼル大聖堂でのブラームス《ドイツ・レクイエム》、シルヴァン・カンブルラン指揮ハンブルク交響楽団でハイドン《天地創造》、ミュンスター・フィルハーモニー合唱団とのヴォーン・ウィリアムズ《海の交響曲》、パイロイト音楽祭2023でマルクス・ポシュナー指揮の《トリスタンとイゾルデ》クルヴェナール、ナタリー・シュトゥッツマン指揮で《タンホイザー》ヴォルフラム、セビリアのマエストランサ劇場で《トリスタンとイゾルデ》クルヴェナール、ハンス＝クリストフ・ラーデマン指揮でシュトゥットガルトのゲッヒンガー・カントライによるヘンデル《サムソン》タイトルロール、ヨアヒム・クラウゼ指揮チューリッヒ混声合唱団及びバーゼル・バッハ合唱団とのブリテン《戦争レクイエム》、マルティン・レーマン指揮ドレスデン聖十字架合唱団でブラームス《ドイツ・レクイエム》、フライブルクでシューベルト《冬の旅》、シルヴァン・カンブルラン指揮ハンブルク交響楽団でベートーヴェンの交響曲第9番等がある。2012年に、チューリッヒ芸術大学で初めて教鞭を執り、16年からはフライブルク音楽大学で声楽科教授を務めている。

#### 出演公演

2024年3月27日[水]/30日[土]15:00 東京文化会館 大ホール

東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.15

《トリスタンとイゾルデ》(演奏会形式/字幕付)

2024年4月7日[日]15:00 東京文化会館 大ホール

ワーグナー『ニーベルングの指環』ガラ・コンサート



### アイン・アングァー (バス) Ain Anger

エストニア出身のバス歌手。世界で最も有名なオペラやコンサートの舞台には定期的に登場しており、2020年にはオーストリア政府から宮廷歌手の称号を授与された。04年、《リゴレット》モンテローネ伯爵でウィーン国立歌劇場にデビューして以来、同歌劇場では40以上の役を歌っており、セミヨン・ビシュコフの指揮でムソルグスキー《ホヴァンシチナ》ドシフェイ、クリスティアン・ティーレマン指揮で《ローエングリン》ハインリヒ王、フィリップ・ジョルダン指揮でバリー・コスキー演出の《ドン・ジョヴァンニ》騎士長の他、

ヴェルディ・レパートリーにおけるいくつかの主要な役、すなわち《ドン・カルロ》フィリッポ2世や宗教裁判長、《ナブッコ》ザッカリーア、《シモン・ボッカネグラ》フィエスコ、《リゴレット》スパラフチーレ等を演じてきた。

2023/24年シーズンの予定としては、スカラ座でロレンツォ・ヴィオッティ指揮による《シモン・ボッカネグラ》フィエスコとリッカルド・シャイー指揮による《ドン・カルロ》宗教裁判長、バイエルン国立歌劇場でセバスティアン・ヴァイグレ指揮による《タンホイザー》ヘルマン1世とローター・ケーニヒス指揮による《さまよえるオランダ人》ダーラント、ウィーン国立歌劇場で《エフゲニー・オネーギン》グレーミンを演じる。コンサートでは、ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン指揮による香港フィルハーモニー管弦楽団の《さまよえるオランダ人》に出演する。

今日最も優れたワグネリアン・バスの一人に位置づけられており、クリスティアン・ティーレマン指揮の《ラインの黄金》及び《ジークフリート》ファーフナーでバイロイト音楽祭にデビュー、ハルトムート・ヘンヒェン指揮の《さまよえるオランダ人》ダーラントでミラノ・スカラ座にデビューした。フンディング役としては、新制作の『リング』チクルスでケント・ナガノ指揮によるバイエルン国立歌劇場の他、フランツ・ウェルザー＝メスト指揮でウィーン国立歌劇場、セバスティアン・ヴァイグレ指揮でフランクフルト歌劇場、アンドルー・デイヴィス指揮でシカゴ・リリック・オペラ、アントニオ・パッパーノ指揮でコヴェント・ガーデンのロイヤル・オペラ・ハウスに出演した。《ニュルンベルクのマイスタージンガー》ポークナーでは、マーク・エルダー指揮でサンフランシスコ・オペラにデビューした。ベルリン・ドイツ・オペラに頻繁に客演しており、BBCプロムスでもドナルド・ラニクルズ指揮による《タンホイザー》で共演している。

最近のシーズンではレパートリーを大幅に広げ、《神々の黄昏》ハーゲンに、ヨハンネス・デブス指揮のカナディアン・オペラ・カンパニーでデビュー、またアンドルー・デイヴィス指揮のエディンバラ国際フェスティバルでも演じた。《トリスタンとイゾルデ》マルケ王は、フランツ・ウェルザー＝メスト指揮でクリーヴランド管弦楽団、ジェイムズ・ガフィガン指揮でソフィア王妃芸術宮殿、アッシャー・フィッシュ指揮により西オーストラリア交響楽団（ABCクラシックスよりCDリリース）等と共演した。

初めて出演して絶賛されたのは、ベルリン・ドイツ・オペラのリチャード・ジョーンズ演出《ボリス・ゴドゥノフ》タイトルロールだったが、同じ作品・演出のピーメン役で、コヴェント・ガーデンのロイヤル・オペラ・ハウスにデビューしている。ピーメンは、セバスティアン・ヴァイグレ指揮でメトロポリタン歌劇場に待望のデビューを飾った役でもある。またリッカルド・シャイー指揮によりスカラ座の2022/23年シーズン開幕公演でも演じた。最近では、パリ国立オペラで新制作の《ボリス・ゴドゥノフ》や《ドン・ジョヴァンニ》に出演。バイエルン国立歌劇場には定期的に客演し、レパートリーの核となるいくつかの役を歌っている。例えばベルトラン・ド・ビリー指揮による上演機会も稀なジャック・アレヴィ《ユダヤの女》プロニ枢機卿等である。

コンサートにおける最近の主な出演は、マーラーの交響曲第8番をリッカルド・シャイー指揮でスカラ座、パーヴォ・ヤルヴィの指揮でNHK交響楽団、ヴェルディ《レクイエム》をアジズ・ショハキモフ指揮でストラスブール・フィルハーモニー管弦楽団、ダニエル・オーレン指揮でサンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、ハイドンの《ネルソン・ミサ》をオマー・マイア・ヴェルバー指揮でミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、そしてベートーヴェンの交響曲第9番をジャンドレア・ノセダ指揮でウィーン交響楽団と歌っている。

#### 出演公演

2024年4月13日[土]14:00 東京文化会館 大ホール

東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol.11 ブルックナー 《ミサ曲第3番》



## 青木尚佳（ヴァイオリン） Naoka Aoki

1992年東京生まれ。

2014年11月、ロン＝ティボー＝クレスパン国際コンクールで第2位受賞。併せてコンチェルトの最良の解釈に贈られるモナコ大公アルベール二世賞を受賞、本格的な演奏活動を開始。

2009年第78回日本音楽コンクール第1位受賞、2010年NHK交響楽団とパガニーニ：ヴァイオリン協奏曲を共演しデビュー。11歳より堀正文氏に師事、桐朋学園大学音楽学部ソリスト・ディプロマコースを経て、2011年より英国王立音楽大学にトム・ナッパー氏及びロームミュージックファンデーションより奨学金を得て留学、15年7月、同大学全卒業生の中から男女各1名ずつ贈られるタゴール・ゴールドメダルを受賞、卒業。同年9月より英国王立音楽院にて藤川真弓氏に師事、17年9月に卒業、ディプロマを取得する。その後ミュンヘンに移りアナ・チェマチェンコ氏のもとでさらに研鑽を積む。2014年6月にはスイス国際音楽アカデミーに参加、小澤征爾氏とヴィクトリアホール、シャンゼリゼ劇場で共演した。

2022年春からは名門ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターに就任。オーケストラ活動と並行してヨーロッパを中心にソロ活動、室内楽を活発に行っている。使用楽器はアントニオ・ストラディヴァリ 1713年製”Rodewald”

### 出演公演

2024年3月26日[火]19:00 東京文化会館 小ホール  
東京春祭チェンバー・オーケストラ



## 青山 貴（バリトン） Takashi Aoyama

エストニア出身のバス歌手。世界で最も有名なオペラやコンサートの舞台には定期的に登場しており、2020年にはオーストリア政府から宮廷歌手の称号を授与された。04年、《リゴレット》モンテローネ伯爵でウィーン国立歌劇場にデビューして以来、同歌劇場では40以上の役を歌っており、セミヨン・ビシュコフの指揮でムソルグスキー《ホヴァンシチナ》ドシフェイ、クリスティアン・ティーレマン指揮で《ローエングリン》ハインリヒ王、フィリップ・ジョルダン指揮でバリー・コスキー演出の《ドン・ジョヴァンニ》騎士長の他、ヴェルディ・レパートリーにおけるいくつかの主要な役、すなわち《ドン・カルロ》フィリッポ2世や宗教裁判長、《ナブッコ》ザッカリーア、《シモン・ボッカネグラ》フィエスコ、《リゴレット》スパラフチーレ等を演じてきた。

2023/24年シーズンの予定としては、スカラ座でロレンツォ・ヴィオッティ指揮による《シモン・ボッカネグラ》フィエスコとリッカルド・シャイー指揮による《ドン・カルロ》宗教裁判長、バイエルン国立歌劇場でセバスティアン・ヴァイグレ指揮による《タンホイザー》ヘルマン1世とローター・ケーニヒス指揮による《さまよえるオランダ人》ダーラント、ウィーン国立歌劇場で《エフゲニー・オネーギン》グレーミンを演じる。コンサートでは、ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン指揮による香港フィルハーモニー管弦楽団の《さまよえるオランダ人》に出演する。

今日最も優れたワグネリアン・バスの一人に位置づけられており、クリスティアン・ティーレマン指揮の《ラインの黄金》及び《ジークフリート》ファーフナーでパイロイト音楽



祭にデビュー、ハルトムート・ヘンヒェン指揮の《さまよえるオランダ人》ダーラントでミラノ・スカラ座にデビューした。フンディング役としては、新制作の『リング』チクルスでケント・ナガノ指揮によるバイエルン国立歌劇場の他、フランツ・ウェルザー＝メスト指揮でウィーン国立歌劇場、セバスティアン・ヴァイグレ指揮でフランクフルト歌劇場、アンドルー・デイヴィス指揮でシカゴ・リリック・オペラ、アントニオ・パッパーノ指揮でコヴェント・ガーデンのロイヤル・オペラ・ハウスに出演した。《ニュルンベルクのマイスタージンガー》ポークナーでは、マーク・エルダー指揮でサンフランシスコ・オペラにデビューした。ベルリン・ドイツ・オペラに頻繁に客演しており、BBC プロムスでもドナルド・ラニクルズ指揮による《タンホイザー》で共演している。

最近のシーズンではレパートリーを大幅に広げ、《神々の黄昏》ハーゲンに、ヨハンネス・デブス指揮のカナディアン・オペラ・カンパニーでデビュー、またアンドルー・デイヴィス指揮のエディンバラ国際フェスティバルでも演じた。《トリスタンとイゾルデ》マルケ王は、フランツ・ウェルザー＝メスト指揮でクリーヴランド管弦楽団、ジェイムズ・ガフィガン指揮でソフィア王妃芸術宮殿、アッシャー・フィッシュ指揮により西オーストラリア交響楽団（ABCクラシックスよりCDリリース）等と共演した。

初めて出演して絶賛されたのは、ベルリン・ドイツ・オペラのリチャード・ジョーンズ演出《ボリス・ゴドゥノフ》タイトルロールだったが、同じ作品・演出のピーメン役で、コヴェント・ガーデンのロイヤル・オペラ・ハウスにデビューしている。ピーメンは、セバスティアン・ヴァイグレ指揮でメトロポリタン歌劇場に待望のデビューを飾った役でもある。またリッカルド・シャイー指揮によりスカラ座の2022/23年シーズン開幕公演でも演じた。最近では、パリ国立オペラで新制作の《ボリス・ゴドゥノフ》や《ドン・ジョヴァンニ》に出演。バイエルン国立歌劇場には定期的に客演し、レパートリーの核となるいくつかの役を歌っている。例えばベルトラン・ド・ビリー指揮による上演機会も稀なジャック・アレヴィ《ユダヤの女》プロニ枢機卿等である。

コンサートにおける最近の主な出演は、マーラーの交響曲第8番をリッカルド・シャイー指揮でスカラ座、パーヴォ・ヤルヴィの指揮でNHK交響楽団、ヴェルディ《レクイエム》をアジズ・ショハキモフ指揮でストラスブール・フィルハーモニー管弦楽団、ダニエル・オーレン指揮でサンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、ハイドンの《ネルソン・ミサ》をオマー・マイア・ヴェルバー指揮でミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、そしてベートーヴェンの交響曲第9番をジャンアンドレア・ノセダ指揮でウィーン交響楽団と歌っている。

#### 出演公演

2024年3月23日[土]14:00/24日[日]14:00/28日[木]19:00

30日[土]14:00/31日[日]14:00

三井住友銀行東館ライジング・スクエア1階 アース・ガーデン

東京春祭 for Kids 子どものためのワーグナー

《トリスタンとイゾルデ》(バイロイト音楽祭提携公演)





## 秋本悠希 (メゾ・ソプラノ) Yuki Akimoto

東京藝術大学、同大学院修士課程、同大学院後期博士課程修了。同大学より三菱地所賞、アカンサス賞等多数受賞。文化庁新進芸術家在外研修員としてロンドンの英国王立音楽院オペラ・ディプロマに留学。2020年世界屈指の音楽の殿堂であるウィグモアホールのリサイタルに出演し英国デビュー。第17回コンセール・マロニエ 21、リチャード・ルイス・アワード、英国音楽コンクールの全てで優勝。ワーグナーソサエティー国際コンクールファイナリスト。リーズ国際歌曲祭、NHK-FM リサイタル・ノヴァ、藝大メサイア、東急ジルベスターコンサート、東京交響楽団《第九》、東京・春・音楽祭ワーグナー・シリーズ、日生オペラ《ルサルカ》、小澤征爾音楽塾子どものためのオペラ《こうもり》、セイジ・オザワ 松本フェスティバル子どものためのオペラ《フィガロの結婚》等出演。NHK 交響楽団、読売交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢をはじめとする多くのオーケストラや指揮者と共演。近年では、南こうせつ氏、野村萬斎氏をはじめ、多くの著名なアーティスト達とも共演を重ねている。2023年、ユニバーサルミュージックよりCD『ことのは ゆかし』をリリース。

### 出演公演

2024年4月7日[日]15:00 東京文化会館 大ホール  
ワーグナー『ニーベルングの指環』ガラ・コンサート



## フェデリコ・アゴスティーニ (ヴァイオリン) Federico Agostini

イタリア・トリエステ生まれ。音楽家の家庭に育ち、6歳の頃から、祖父よりヴァイオリンの手ほどきを受ける。トリエステとベネチアの音楽院、さらにシエナのキジアナ音楽院で学び、サルバトーレ・アッカルドや叔父のフランコ・グッリらに師事する。16歳でカルロ・ゼッキ指揮のもと、モーツァルトの協奏曲を弾いてデビュー。数多くのコンクールで優勝・入賞がある。1986年から伝説的なイタリアの合奏団「イ・ムジチ合奏団」のコンサートマスターを務め、1987年からはローマ・フォーレピアノ五重奏団の、2004年よりアミーチ弦楽四重奏団の第一奏者として活躍。ヨーロッパ、アメリカ、日本など、世界各地の国際音楽祭に招聘され、室内楽奏者として、アメリカ四重奏団、エマーソン四重奏団、ファインアーツ四重奏団、東京四重奏団、ガエルネリ四重奏団などと共演してきている。ドイツ・トロッシンゲン音楽大学で10年、アメリカ・インディアナ大学で10年、ロチェスター大学イーストマン音楽院にて7年間教授を務める。日本、スウェーデン、イタリア、メキシコ、オーストラリア、香港などでもマスタークラスを開催。現在、愛知県立芸術大学の客員教授、及び洗足学園音楽大学の客員教授を務める。ヴィヴァルディの《四季》を含めた協奏曲のCDやDVD、小品集・ブラームスのCDなどが出ている。

### 出演公演

2024年3月30日[土]16:00 東京文化会館 小ホール  
東京春祭ディスクヴァリー・シリーズ vol.10 フェルッチョ・ブゾーニ



## 安達真理（ヴィオラ）Mari Adachi

日本フィルハーモニー交響楽団ヴィオラ客演首席奏者。ソリスト、室内楽奏者としても幅広く活動している。

桐朋学園大学卒業、ウィーン国立音楽大学室内楽科を経てローザンヌ高等音楽院ソリスト修士課程修了（卒業試験でローザンヌ室内管弦楽団と共演）と国内外で研鑽を積み、2013年からインズブルック交響楽団にて副首席奏者を2年間務めた。2016年よりパーヴォ・ヤルヴィ氏率いるエストニア・フェスティバル管弦楽団のメンバーとして、パルヌ音楽祭等に参加。2019年の来日ツアーでは、各地で行われた全てのプレコンサートにおいて、五嶋みどり氏とモーツァルトの二重奏曲を披露した。

アミティ・カルテットとして2022年よりバルトクの弦楽四重奏曲全曲演奏会チクルス、DSCH 弦楽四重奏団としてショスタコーヴィチの弦楽四重奏曲全曲演奏会チクルスを開始。CD『Winterreise』『J.S. バッハ 組曲&パルティータ』『MY DEAR』をリリース。

オフィシャルサイト [www.mariadachi.com](http://www.mariadachi.com)

### 出演公演

2024年4月6日[土]14:00 東京藝術大学奏楽堂（大学構内）

ディオティマ弦楽四重奏団



## 荒木奏美（オーボエ）Kanami Araki

東京藝術大学在学中にオーディションに合格し2015年（21歳）より、東京交響楽団の首席オーボエ奏者をつとめる。2023年11月より読売日本交響楽団首席奏者。

国内の数々のコンクールで入賞を重ね、第11回国際オーボエコンクール・軽井沢では日本そしてアジア勢で史上初となる第1位（大賀賞）、併せて聴衆賞（軽井沢町長賞）を受賞した。第27回出光音楽賞受賞。

新進気鋭のアンサンブル集団「Ensemble FOVE」、反田恭平率いる「Japan National Orchestra」コアメンバー。

ソリストとしては東京交響楽団、東京都交響楽団などと共演。デビューリサイタルを東京・春・音楽祭2016で行い、オペラシティB→Cシリーズや各音楽祭への参加、新作の初演はじめ現代音楽の公演など、各地でソロ・室内楽に幅広く活動を展開している。

オーボエの巨匠との共演も多く、ハインツ・ホリガーに認められてオーボエトリオで日本ツアー公演に出演する他、モーリス・ブルグ、シェレンベルガー両氏と共演。

メディア「題名のない音楽会」「リサイタル・ノヴァ」「エンター・ザ・ミュージック」出演。

茨城県出身で、東海村を愛する研究所研究員（PR大使）。東京藝術大学を首席卒業、その後同院修士課程修了。

### 出演公演

2024年4月19日[金]19:00 国立科学博物館 地球館地下2階常設展示室

梶川真歩（フルート）& 荒木奏美（オーボエ）



## アンサンブル・アンテルコンタンポラン Ensemble intercontemporain

1976年ピエール・ブルーーズによって、ミシェル・ギー（当時の文化大臣）の支援とニコラス・スノーマンの協力をを受けて設立された。アンサンブル 31 人のソリストは、20～21 世紀の音楽への情熱を共有している。彼らは、アンサンブルの主要な目的が果たせるように、期間を定めない契約で雇用されている。その目的とは、すなわちパフォーマンス、創造、若い音楽家や一般聴衆に向けての教育である。フランス人指揮者ピエール・ブルーーズによるアーティスティックな監督のもと、音楽家たちは作曲家たちと緊密な共同作業を行ない、楽器の演奏技術を探求し、音楽やダンス、演劇、映画、映像、ビジュアル・アーツを織り交ぜたプロジェクトを展開している。また、IRCAM（フランス国立音響音楽研究所）と共同で、合成音を生成する分野でも積極的に活動している。メイヤー財団の支援により、定期的に新作の委嘱を受け、演奏を行なっている。音楽教育に力を注いでいることでも有名で、子どものためのコンサート、学生のための創造的なワークショップ、演奏家・指揮者・作曲家を目指す人のためのトレーニング・プログラム等がある。2004年から、ルツェルン音楽祭が主催する数週間の教育プロジェクト「ルツェルン音楽祭アカデミー」において、現代音楽レパートリーの分野でアンサンブルのソリストたちが若手の器楽奏者・指揮者・作曲家を指導している。フィラルモニ・ド・パリを拠点として、フランス国内外で演奏やレコーディングを行ない、世界中の主なフェスティバルに参加している。22年には名誉あるポーラー音楽賞を受賞。フランスの文化省からの財政援助に加えて、パリ議会からも支援を受けている。

### 出演公演

2024年4月8日[月]19:00 東京文化会館 小ホール  
アンサンブル・アンテルコンタンポラン I  
2024年4月9日[火]19:00 東京文化会館 小ホール  
アンサンブル・アンテルコンタンポラン II



## アレクサンダー・イヴィッチ（ヴァイオリン）Aleksandar Ivic

6歳で初めてヴァイオリンのレッスンを受け、16歳の時にクロアチアでソリストや室内楽奏者として出演するようになった。ザグレブでクリスティヤン・ペトロヴィッチに師事、その後ケルンでイゴール・オジムやアマデウス弦楽四重奏団、デュッセルドルフではローザ・ファインのもとで研鑽を積んだ。1988年、ケルンWDR交響楽団の第1ヴァイオリン奏者としてオーケストラでのキャリアをスタートさせ、96年にはベルリン・フィルハーモニー管弦楽団に移籍した。数多くの室内アンサンブルでも活躍しており、シャロウン・アンサンブル（1997～2002）、ベルリン・バロック・ゾリステン（1999～2003）、ベルリン・フィルハーモニック・ストラディヴァリ・ソロイスツ（2000～）等が挙げられる。ベルリンでの個人的なレッスンの他、クロアチアとフランスでマスタークラスを開催している。

### 出演公演

2024年4月20日[土]18:30 東京文化会館 小ホール  
ベルリン・フィルのメンバーによる室内楽



## 石井基幾 (テノール) Motoki Ishii

神奈川県出身。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院音楽研究科声楽専攻（修士課程）を修了。卒業時にアカンサス音楽賞、同声会賞を受賞。第4回日光国際音楽祭声楽コンクール準大賞（第2位）、第30回宝塚ベガ音楽コンクール第2位受賞。2020年3月よりバリトンからテノールへ転向。これまでに神奈川フィルハーモニー管弦楽団（指揮：大井剛史）、東京フィルハーモニー交響楽団（指揮：沼尻竜典）、関西フィルハーモニー管弦楽団（指揮：佐々木新平）などと共演。W. A. モーツァルト《ヴェスペレ》、F. シューベルト《ミサ曲 第2番 ト長調 D167》、《ミサ曲 第5番 変イ長調 D678》などの宗教曲でソリストを務める。オペラでは2021年サントリーホール主催のフレッシュ・オペラ（指揮：村上寿昭）にてG. ヴェルディ《ラ・トラヴィアータ》アルフレード役を演じオペラデビュー。その後、2022年藤沢市民オペラ（指揮：園田隆一郎）G. プッチーニ《ラ・ボエーム》ロドルフォ役（カヴァー）、しまね県民オペラ2023《ラ・ボエーム》ロドルフォ役（カヴァー）、パルピニョール役、東京・春・音楽祭2023 イタリア・オペラ・アカデミー in 東京 Vol. 3 《仮面舞踏会》リッカルド役、日生劇場開場60周年記念公演 NISSAY OPERA 2023、L. ケルビーニ《メデア》（日本初演）ジャゾーネ役（アンダースタディ）とオペラでのレパートリーを広げている。公益財団法人日本舞台芸術振興会／日本経済新聞社主催の「旬の名歌手シリーズ2022-III」において、世界的ソプラノ歌手のL. オロペサとの共演（指揮：F. ランツィロッタ）で好評を博す。2023年6月タン・ドゥン作曲・指揮のオペラ《TEA - A Mirror of Soul》Prince 役で日本人初のキャストに抜擢され Shangyin Opera House にて海外デビューを果たす。2023年11月、藤沢市民オペラ50周年記念G. ロッシーニ《オテッロ》ルーチョ、ゴンドラ漕ぎの2役で出演予定。サントリーホール オペラ・アカデミー第5期アドバンスト・コース修了。これまでに声楽を柳澤涼子、福島明也、G. サッパティーニの各氏に師事。

### 出演公演

2024年4月17日[水]/20日[土]14:00 東京文化会館 大ホール  
《アイダ》（演奏会形式／字幕付）



## 石上真由子 (ヴァイオリン) Mayuko Ishigami

5歳からヴァイオリンを始め、8歳の時にローマ国際音楽祭に招待される。高校2年生で第77回日本音楽コンクール第2位、併せて聴衆賞及びE・ナカミチ賞受賞。第7回ルーマニア国際音楽コンクール弦楽部門第1位、全部門最優秀賞及びコンチェルトデビュー賞受賞。第5回宗次エンジェルヴァイオリンコンクール第4位受賞。第14回チェコ音楽コンクールヴァイオリン部門第1位受賞。2017年9月バルトークコンクールにて特別賞受賞。

題名のない音楽会、NHK クラシック音楽館、NHK-FM 名曲リサイタルやリサイタル・ノヴァ、NHK-FM「ブラボー！オーケストラ」等に出演。NHK テレビではドキュメンタリーや、東京交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団との共演も放送された。

東京交響楽団、東京都響交響楽団、読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、大阪交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、ブラショフ国立交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、旧 東京ニューシティ管弦楽団（現 パシフィックフィルハーモ



ニア東京)、セントラル愛知交響楽団、愛知室内オーケストラ、山形交響楽団など、国内外で多数のオーケストラと共演。Charlottesville Chamber Music Festival (アメリカ)・Festival Academy Budapest (ハンガリー)・Elba Isola Musicale d'Europa (イタリア)、Lobero Theatre Chamber Music Project (アメリカ) など、欧米各地の音楽祭・演奏会に出演。ソロ活動と共に、京都市交響楽団や大阪フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団、愛知室内オーケストラ、オーケストラ・アンサンブル金沢等に客演首席として出演するほか、長岡京室内アンサンブル、アンサンブル九条山のメンバーとしても活躍している。自らが主宰する Ensemble Amoibe シリーズ(<http://www.ensembleamoibe.com>)で室内楽公演をプロデュースし、京都・大阪・東京各地で公演を行っている。

Music Dialogue アーティスト。CHANEL Pygmalion Days 室内楽アーティスト。京都コンサートホール第1期登録アーティスト。令和2-4年度 公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト。令和元年度 京都市芸術新人賞受賞。アンサンブル九条山のメンバーとして2019年度音楽クリティック・クラブ賞 奨励賞受賞。令和元年度 大阪文化祭賞奨励賞受賞。2019年度第29回青山音楽賞 青山賞受賞。2021年の活動に対し、2021年度音楽クリティック・クラブ賞 奨励賞受賞。2019年1月、日本コロムビア Opus One レーベルよりCD『ヤナーチェク：ヴァイオリン・ソナタ』（レコード芸術準特選盤）をリリース。同年9月にリリースの『ラヴェル：ツィガーヌ』（東京ユヴェントスフィルハーモニー・坂入健司郎指揮）もALTUSレーベルより好評発売中。2022年6月に日本コロムビアより2枚目となるCD『ブラームス：ピアノとヴァイオリンのためのソナタ第1番』（ピアノ：鈴木優人）をDENONレーベルよりリリース、レコード芸術誌にて特選盤に選ばれた。2023年1月、藤堂顕一郎音楽褒賞基金 第42回 藤堂音楽賞を受賞。2022年10月に出演したフィリップ・グラス作曲『浜辺のアインシュタイン』（ザ・フェニックスホール主催）公演が令和4年度 文化庁芸術祭大賞を受賞。

[www.mayukoishigami.com](http://www.mayukoishigami.com)

Twitter @MayukoIshigami/Instagram @mayukoishigamiviolin

Facebook <https://www.facebook.com/IshigamiMayuko/>

#### 出演公演

2024年3月25日[月]19:00 上野の森美術館 展示室

石上真由子（ヴァイオリン）～現代美術と音楽が会おうとき～



#### 石坂 宏（指揮）Hiroshi Ishizaka

東京生まれ。5歳よりピアノ、ソルフェージュのレッスンを受け、のち、作曲、指揮も学ぶ。10代より藤原歌劇団などで稽古ピアニストを務める。

慶応大学卒業後、ドイツ・フライブルク音楽大学に留学、指揮、オペラコレペティツィオン、リート伴奏をA. Kortel、Ulrich. Furrer、Markus. Lehmann、Johannes. Fritzschのもとで研鑽する。1989年～2004年フライブルク音楽大学オペラ科講師。

フライブルク歌劇場のコレペティトゥーアを始めとして、ドイツ・スイスの歌劇場と契約。スイス・バーゼル歌劇場にてモーツァルト《偽の女庭師》で指揮者デビュー。以後、多くのオペラ・オペレッタを指揮する。2000年～04年バーゼル音楽大学オーケストラ講師。

日本では小澤征爾音楽塾、サイトウ・キネン・オーケストラ、東京オペラの森（現：東京・

春・音楽祭) プロダクションに音楽スタッフとして参加。2007年～20年新国立劇場オペラ音楽ヘッドコーチとして全てのオペラ公演に参加し、内外の多数の歌手、演出家、指揮者たちと仕事を共にし、《カルメン》、《ラ・ボエーム》、《蝶々夫人》、《夕鶴》、《愛の妙薬》、《ドン・ジョヴァンニ》、《コジ・ファン・トゥッテ》などの公演を指揮する。2009年10月には《オテロ》最終公演にて急病の指揮者の代役として急遽指揮台に立ち、大成功をおさめた。オペラプロデュース公演では、《ロビンソン・クルーソー》、《ラ・フィアンマ》を指揮し、大きな成果を挙げる。東京・春・音楽祭では子どものためのワーグナー《パルジファル》、《ローエングリン》を指揮し、高い評価を受けた。

2015～16年愛知県立芸術大学オーケストラ講師、2018年～東京音楽大学指揮科講師。

#### 出演公演

2024年3月23日[土]14:00/24日[日]14:00/28日[木]19:00

30日[土]14:00/31日[日]14:00

三井住友銀行東館ライジング・スクエア1階 アース・ガーデン

東京春祭 for Kids 子どものためのワーグナー

《トリスタンとイゾルデ》(バイロイト音楽祭提携公演)



### 石田紗樹 (ヴァイオラ) Saki Ishida

東京藝術大学卒業、同大学院修了。学内にて同声会賞、大学院アカンサス音楽賞を受賞。大学院修了を機にヴァイオラへ転向し渡欧、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学ポストグラデュエイト課程を修了。

2019年第13回ライオネル・ターティス国際ヴァイオラコンクール セミファイナリスト賞、特別賞を受賞。The Strad 誌ウェブサイトにて、高い評価を受ける。

ヴァイオラ・スペース、プロジェクト Q、小澤国際室内楽アカデミー奥志賀、サイトウ・キネン・オーケストラなどに参加。

ソリストとして、関西フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団、藝大フィルハーモニア管弦楽団と共演。紀尾井ホール室内管弦楽団 2019年度シーズンメンバー。

Eureka Quartet、クアルテット奥志賀メンバー。現在、東京都交響楽団ヴァイオラ副首席奏者。

#### 出演公演

2024年3月28日[木]19:00 東京文化会館 小ホール

都響メンバーによる室内楽 ヴァイオラ・アンサンブル



### 伊藤達人 (テノール) Tatsundo Ito

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学大学院修士課程音楽研究科声楽(オペラ)専攻修了。新国立劇場オペラ研修所第14期修了。文化庁新進芸術家海外留学制度奨学金を得て、2016年在外研修員としてベルリンに留学し、研鑽を積む。声楽を直野資、竹村靖子、五十嵐典子の各氏に師事。

2010年藝大オペラ第56回定期公演《イルカンピエッロ》ドーナ・パスクアで出演。新国立劇場オペラ研修所では、《フィレンツェの悲劇》グイード・バルディ、《カルディヤック》

騎士、《ナクソス島のアリアドネ》テノール歌手／バッカスで出演。その他、トウキョウ・モーツァルトプレイヤーズ定期公演において《魔弾の射手》マックス、《魔笛》武士 I。2014年 PMF 《ナクソス島のアリアドネ》スカラムッチョ、オーケストラ・アンサンブル金沢の定期公演において《魔笛（抜粋）》タミーノで出演。

2016年、シモーネ・ヤング指揮／カロリーネ・グルーバー演出によるオペラ《ナクソス島のアリアドネ》ブリゲッラで二期会デビューし、新進気鋭の若手テノールとして注目を集める。その後も2019年二期会シーズン・オープニング・コンサート《清教徒》（演奏会形式）ブルーノで出演し、好評を博す。

2018年日生劇場開場55周年記念公演《魔笛》武士 I、2019年 NISSAY OPERA 2019 《ヘンゼルとグレーテル》魔女ではコミカルな演技に高度な歌唱力で会場を沸かせた他、2020年は柴田真郁指揮／田尾下哲演出による《ルチア～あるいはある花嫁の悲劇～》ルトゥーロで出演。2021年新国立劇場《夜鳴きうぐいす》漁師、オペラ夏の祭典《ニュルンベルクのマイスタージンガー》ダーヴィットを演じ、2022年は石川県の哲学者を主人公にしたオペラ《禅～ZEN～》鈴木大拙で主演、さらに7月には、二期会創立70周年記念公演《パルジファル》(S. ヴァイグレ指揮読売日本交響楽団)にてタイトルロールを務め、高い評価を得た。同年 NISSAY OPERA 2022 《ランメルモールのルチア》アルトゥーロ、23年二期会《平和の日》市長で出演。

ベートーヴェン《第九》、バッハ《ヨハネ受難曲》、ヘンデル《メサイア》、オルフ《カルミナ・ブラーナ》等にソリストとして出演しており、輝かしい美声と表情豊かな音楽性で注目されている。

新国立劇場オペラ研修所14期の同期を中心にアンサンブルユニット「Pivot!」を結成し活動中。23年11月オペラ《禅》鈴木大拙、12月新国立劇場《こうもり》アルフレードにて出演予定。二期会会員。

#### 出演公演

2024年3月23日[土]14:00/24日[日]14:00/28日[木]19:00

30日[土]14:00/31日[日]14:00

三井住友銀行東館ライジング・スクエア1階 アース・ガーデン

東京春祭 for Kids 子どものためのワーグナー

《トリスタンとイゾルデ》(バイロイト音楽祭提携公演)



#### 糸賀修平 (テノール) Shuhei Itoga

武蔵野音楽大学卒業。同大学院、及び新国立劇場オペラ研修所修了。文化庁在外研修員として渡伊、その後ロームミュージックファンデーション音楽在外研究生としてドイツにて研鑽を積む。第1回エンツォ・ソルデッロ国際コンクールで入賞し、ロッシェニ《セビリアの理髪師》よりアルマヴィーヴァ伯爵役を獲得。イタリア・クーネオにおける Cultura del Mondo festivalにて同役を演じた。

国内でも、新国立劇場《フィガロの結婚》ドン・クルツィオ、《ファルスタッフ》バルドルフォ、《蝶々夫人》ゴローの他、ブリテン作曲《ピーター・グライムズ》では、急遽カヴァーキャストからボブ・ボウルズ役の代役を務め、好評を博した。ロームシアター《フィデリオ》ヤッキーノ、二期会《ダナエの愛》メルクール、《こうもり》アルフレード、C. ミヨ



ンファン指揮《蝶々夫人》ゴロー、オペラ夏の祭典《トゥーランドット》ポン、藤原歌劇団《ランスへの旅》騎士ベルフィオーレ、新国立劇場《カルメン》レメンダード等に出演して高い評価を得ている。コンサートにおいても、ベートーヴェン《第九》、オルフ《カルミナ・ブラーナ》などのソリストとして出演。二期会会員

#### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00/21日[日]15:00 東京文化会館 大ホール  
《エレクトラ》(演奏会形式/字幕付)



### 稲川永示 (コントラバス) Eiji Inagawa

桐朋学園付属高等学校を卒業。同大学を卒業。高校大学共に卒業演奏会に出演する。これまでに西田直文、溝入敬三に師事。2002年2005年のロストロポーヴィチ、小澤征爾率いるキャラバンコンサートに参加。フルート、クラリネット、マリimba、コントラバス、パーカッションによる、現代音楽の為の五重奏団『輪彩』のメンバー。大垣市文化連盟賞を受賞。現在NHK交響楽団団員。桐朋学園大学音楽学部非常勤講師。

#### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00 東京文化会館 小ホール  
N響メンバーによる室内楽



### セバスティアン・ヴァイグレ (指揮) Sebastian Weigle

1961年ベルリン生まれ。82年にベルリン国立歌劇場管弦楽団の首席ホルン奏者となった後、巨匠バレンボイムの勧めで指揮者へ転身。2003年には、ドイツのオペラ雑誌「オーパンヴェルト」の年間最優秀指揮者に選ばれ注目を浴びた。04年から09年までリセウ大劇場の音楽総監督を務め、評判を呼んだ。08年から今夏までフランクフルト歌劇場の音楽総監督を務めた。在任期間中に、同歌劇場管が「オーパンヴェルト」誌の年間最優秀オーケストラに、同歌劇場が年間最優秀歌劇場に度々輝くなど、その手腕は高く評価された。読売日本交響楽団には16年8月に初登場し、19年から第10代常任指揮者を務めている。近年もメトロポリタン歌劇場でムソルグスキー《ボリス・ゴドゥノフ》を、バイエルン国立歌劇場でR.シュトラウス《影のない女》を指揮するなど、国際的な活躍を続ける。23年7月には、フランクフルト歌劇場で最後の公演としてルディ・シュテファン《最初の人類》を振り、大きな話題を呼んだ。これまでに、バイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭に出演したほか、ウィーン国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、英国ロイヤル・オペラなどに客演。ベルリン放送交響楽団、ウィーン交響楽団、フランクフルト放送交響楽団などの一流楽団とも共演を重ねている。コロナ禍には何度も隔離期間を経て、読響と充実した演奏を繰り広げ、ファンを魅了した。

#### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00/21日[日]15:00 東京文化会館 大ホール  
《エレクトラ》(演奏会形式/字幕付)



## セルバン・ヴァシレ (バリトン) Serban Vasile

故郷ブカレストの国立音楽大学で学び、国立芸術大学の試験も受けている。その後、2007～09年にかけて、クリスティアン・バデア（指揮）、エドゥアルト・トゥマジヤン（バリトン）、ネリー・ミリチオウ（ソプラノ）、ジョルジェ・クラスナル（バス）のマスタークラスを受講した。

数多くの賞を受賞しており、スポレート（イタリア）、マエストリ・アルテイ・リリチェ（ルーマニア）、アスリコ（イタリア）、第1回サリチェ・ドーロ（イタリア）第2位等が挙げられる。これまでに、《ランメルモールのルチア》、《セビリアの理髪師》、《エディプス王》、《エジプトのジュリアス・シーザー》、《ビリー・バッド》、《チェネレントラ》等の作品を、コモ、ブレスア、ブカレスト、ラヴェンナ等で歌っている。

主な出演としては、ニューヨークのメトロポリタン歌劇場とアムステルダムのおランダ国立オペラで《ファルスタッフ》フォード、ブカレスト国立歌劇場で《エフゲニー・オネーギン》、《ファウスト》ヴァランタン、《愛の妙薬》ベルコーレ、《セビリアの理髪師》フィガロ、ジョルジェ・エネスク・フェスティバルでマーラーの交響曲第8番、《ファウストの劫罰》ブランデル、《ヴォツェック》、カイロ・オペラハウスとブダペスト、バッサノー・デル・グラッパで《イル・トロヴァトーレ》ルーナ伯爵、また、クラヨーヴァ・オペラとグラーツ・オペラ、ブカレスト国立歌劇場で《ドン・カルロ》ポーザ侯爵、フィレンツェ市立劇場とテルアビブのイスラエル・オペラで《ファウスト》ヴァランタン、ラヴェンナ音楽祭とノルチャ（リッカルド・ムーティ指揮）、クルジュ＝ナポカで《マクベス》、ラヴェンナ音楽祭（舞台監督クリスティーナ・ムーティ）とクルジュ＝ナポカ・オペラで《ナブッコ》、ローマ歌劇場とダブリンで《椿姫》ジョルジョ・ジェルモン、フィレンツェ五月音楽祭で《異国の女》ヴァルデブルゴ男爵、ラヴェンナで《アイーダ》アモナズロ、《カヴァレリア・ルスティカーナ》アルフィオ、《道化師》トニオに出演した他、ニース・オペラ座、マルセイユ市立オペラ、トゥーロン歌劇場、アヴィニオン歌劇場で《スペードの女王》エレツキー公爵、ミラノとラヴェンナ（リッカルド・ムーティ指揮）で《ナブッコ》、シュトゥットガルト州立歌劇場で《蝶々夫人》シャープレス、ニース・オペラ座で《ラ・ボエーム》マルチェッロ、ヤシ（ルーマニア）で《カルメン》エスカミーリョ、ボローニャ市立劇場で《イオランタ》エブレン＝ハキア、東京・春・音楽祭のリッカルド・ムーティ指揮で《仮面舞踏会》レナート等がある。今後の出演予定としては、《椿姫》でアヴィニオン歌劇場、ハンガリー国立歌劇場、プラハ国民劇場、《ナブッコ》でラヴェンナ（リッカルド・ムーティ指揮）、《イル・トロヴァトーレ》でマルセイユ歌劇場等がある。

### 出演公演

2024年4月17日[水]/20日[土]14:00 東京文化会館 大ホール

《アイーダ》（演奏会形式／字幕付）



## ヴィルタス・クワルテット Virtus Quartet

三上 亮、對馬佳祐 (ヴァイオリン)

馬淵昌子 (ヴィオラ)

丸山泰雄 (チェロ)

2008年、チェリストの丸山泰雄と福島県いわき市に新しく開館した、いわき芸術文化交流館アリオスとの共同プロデュースにより同館を拠点に活動を開始。メンバー全員がソリストとしても活躍する「凄腕集団」として全国で演奏活動の他ワークショップやアウトリーチを組み合わせた活動を積極的に展開する。2011年東日本大震災の後、市民有志とともに「いわき室内楽協会」を設立。第2回ウイーン・フィル&サントリー音楽復興記念賞受賞。2018年にベートーヴェン・ツィクルス、2023年にはメンデルスゾーン・ツィクルスを終え近年ではラ・フォルジュルネ・オ・ジャポン等の音楽祭にも度々招聘されている。2021年CD『ベートーヴェン；弦楽四重奏曲第13番(終楽章大フーガ版)』をリリース、専門誌にて高く評価されている。

### 出演公演

2024年4月2日[火]14:00 東京都美術館 講堂

ミュージアム・コンサート

「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」展記念コンサート

vol.4 ヴィルタス・クワルテット



## 上野水香 (バレエダンサー) Mizuka Ueno

5歳よりバレエを始める。1989年埼玉全国舞踊コンクール、ジュニアの部第1位。1993年、ローザンヌ国際バレエコンクールにてスカラシップ賞を受賞した後、モナコのプリンセス・グレース・アカデミーに2年間留学。帰国後、古典全幕作品やローラン・プティ作品に主演した。2004年、東京バレエ団に入団した。

おもなレパートリーに、ブルメイステル版《白鳥の湖》のオデット/オディール(2016年、バレエ団初演)、《ジゼル》のジゼル、マラーホフ版《眠れる森の美女》のオーロラ姫、リラの精、《ラ・シルフィード》のシルフィード、ベジャール《ザ・カブキ》の顔世御前、《ボレロ》のメロディ、《ギリシャの踊り》のハサピコ、《バクチ III》などがある。バレエ団初演作品にマカロワ版《ラ・バヤデル》のニキヤ(2009年)、ベジャール《第九交響曲》(2014年)、ロビンズ《イン・ザ・ナイト》(2017年)、バランシン《セレナーデ》(2018年)、《海賊》のメドーラ(2019年)などがある。

2014年、自身初のプロデュース公演「ジュエルズ フロム ミズカ」でルイジ・ボニーノとの《チーク・トゥ・チーク》、また《レ・トロワ・ジムノペディ》《シャブリエ・ダンス》などを踊る。2018年の「ジュエルズ フロム ミズカ II」ではプティ版《ボレロ》、また、ルセロ・ゴメスとアロンソ版《カルメン》のアダージオなどを踊った。2009年、2012年、2015年、2018年には世界バレエフェスティバルに出演している。

ウラジーミル・マラーホフ、ジョゼ・マルティネス、マチュー・ガニオ、フリーデマン・

フォーゲルをはじめ数々の世界的ダンサーと共演。東京バレエ団の海外ツアーでは、パリ・オペラ座ガルニエ、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場ほか世界各地の劇場で主演。また、ミラノ・スカラ座に客演したほか、ベルリンでの「マラーホフ・アンド・フレンズ」、ハンブルクでの「ニジンスキー・ガラ」、ニューヨークでの「YAGPガラ」、ローザンヌ国際バレエコンクール40周年ガラなどに出演している。  
令和3年度（第72回）芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。

#### 出演公演

2024年3月19日[火]19:00/20日[水・祝]16:00 東京文化会館 大ホール  
東京バレエ団 上野水香オン・ステージ



### 上野通明（チェロ） Michiaki Ueno

2021年ジュネーヴ国際音楽コンクール・チェロ部門で日本人初の優勝を果たし、あわせて Young Audience Prize、Rose Marie Huguenin Prize、Concert de Jussy Prize と3つの特別賞も受賞。

パラグアイで生まれ、幼少期をスペイン、バルセロナで過ごす。13歳のとき、第6回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクールで全部門を通じて日本人初の優勝。また、第6回ルーマニア国際コンクール最年少第1位、ルーマニア大使館賞、ルーマニア・ラジオ文化局賞をあわせて受賞。ほかにも第21回ヨハネス・ブラームス国際コンクール優勝、第11回ヴィトルト・ルトスワフスキ国際チェロ・コンクール第2位。これまでソリストとしてワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団、スイス・ロマン管弦楽団、ロシア交響楽団、KBS 交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団など国内外のオーケストラと数多く共演している。また、ジャン＝ギアン・ケラス、ダニエル・ゼベック、ホセ・ガヤルド、堤剛、諏訪内晶子、伊藤恵らの著名なアーティストと共演して好評を博している。

桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース全額免除特待生として毛利伯郎に師事し、2015年秋よりオランダの名チェリスト、ピーター・ウィスペルウェイに招かれて渡独。デュッセルドルフ音楽大学でコンツェルトエグザメン（ドイツ国家演奏家資格）を満場一致の最高得点で取得した。2021年からはベルギーのエリザベート音楽院にも在籍してゲーリー・ホフマンに師事。更なる研鑽を積みながら、主にヨーロッパと日本で活発な演奏活動を行っている。

公益財団法人日本演奏家連盟宗次エンジェル基金、ロームミュージックファンデーション、第44回江副記念リクルート財団奨学生。岩谷時子音楽文化振興財団より第1回 Foundation for Youth 賞、第6回岩谷時子賞奨励賞、青山音楽賞新人賞、第31回出光音楽賞、第24回ホテルオークラ音楽賞、第21回齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。令和3年度文化庁長官表彰を受彰。

使用楽器は1758年製 P.A. Testore (宗次コレクション)、弓は匿名のコレクターより F. Tourte をそれぞれ貸与されている。

#### 出演公演

2024年3月29日[金]19:00 東京文化会館 小ホール  
シヨスタコーヴィチの室内楽





## ヴィンセント・ヴォルフシュタイナー (テノール) Vincent Wolfsteiner

ミュンヘン出身のテノール歌手。ニューイングランド音楽院でウィリアム・コットンに学び、グラニット州立オペラの《ラ・ボエーム》ロドルフォでデビュー、その後《カルメン》ドン・ホセ、《カヴァレリア・ルスティカーナ》トゥリッドゥ、《海賊》コルラード、《道化師》カニオ等を、マサチューセッツ、ニューヨーク、フロリダ、ニューハンプシャーで演じた。

ロストック国民劇場のアンサンブル・メンバーとしてヨーロッパでのキャリアをスタートさせ、その後、ハノーファー州立歌劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、ダルムシュタット州立劇場、オルデンブルク州立劇場、ハイデンハイム・オペラ・フェスティバル等に客演し、《ワルキューレ》ジークムント、《フィデリオ》フロレスタン、《エレクトラ》エギスト、《ナクソス島のアリアドネ》バッカス、《魔笛》第1の武者、ヴァインベルガー《ヴァレンシュタイン》ピッコロミーニ、ヒンデミット《カルディヤック》士官、《クーハンデル》ファン・サントス等を演じた。

2012～14年の2シーズンをニュルンベルク州立劇場のアンサンブル専属歌手として過ごした後、フランクフルト歌劇場のアンサンブル・メンバーとなり、ヴェルディ《オテロ》タイトルロールでデビューした。以来、ワーグナー『リング』チクルスにおける主要なテノール役や、《トリスタンとイゾルデ》、《ローエン格林》、《ピーター・グライムズ》、《アンドレア・シェニエ》等のタイトルロール、《さまよえるオランダ人》エリック、《トゥーランドット》カラフ、そしてセバスティアン・ヴァイグレ指揮の新制作《トリスタンとイゾルデ》ではタイトルロールを演じた。

コンサート歌手としても積極的に活動しており、そのレパートリーには、モーツァルト《レクイエム》、ベートーヴェンの交響曲第9番、メンデルスゾーン《エリヤ》と《最初のワルプルギスの夜》、シューマン《ゲーテのファウストからの情景》、シェーンベルク《グレの歌》、マーラーの交響曲第8番や《大地の歌》等の重要な作品がある。

これまで共演した指揮者には、ダニエル・バレンボイム、トーマス・グッガイス、セバスティアン・ヴァイグレ、コンスタンティン・トリックス、コルネリウス・マイスター、ヤクブ・フルシャ、ヘンリク・ナナシ、クリスティアン・マンデアル、シュテファン・ブルニエ、ローター・ツァグロセク、スティーヴン・スローン等があり、演出家には、クリストフ・ロイ、キース・ウォーナー、バリー・コスキー、カリスト・ビエイト、クラウス・グート、フランク・ヒルブリッヒ等がいる。

近年の主な出演としては、《サロメ》ヘロデの役デビューでウィーン国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、モスクワのポリショイ劇場、《ローエン格林》タイトルロールで東京・春・音楽祭等がある。加えて、ペンデレツキ《ルダンの悪魔》でバイエルン国立歌劇場に戻り、《タンホイザー》タイトルロールでベルリン国立歌劇場、《ムツェンスク郡のマクベス夫人》セルゲイでハンブルク州立歌劇場、マレク・ヤノフスキ指揮ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団と演奏会形式によるジークムントとジークフリート、またこの2役はエルル（オーストリア）でもブリギッテ・ファスベンダーの新制作で演じた。

来たる2023/24年シーズンには、リヨン国立オペラで《影のない女》皇帝を歌う。さらにまたハンブルク州立歌劇場に《ムツェンスク郡のマクベス夫人》セルゲイで出演する予定。

### 出演公演

2024年4月13日[土]14:00 東京文化会館 大ホール  
東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol.11 ブルックナー 《ミサ曲第3番》

2024年4月7日[日]15:00 東京文化会館 大ホール  
ワーグナー『ニーベルングの指環』ガラ・コンサート



## 上森祥平 (チェロ) Shohei Uwamori

東京藝術大学在学中に日本音楽コンクール第1位、及び松下賞受賞。安宅賞受賞。各地で開催されたデビューリサイタルでは、その高い表現力や表情豊かな包容力が誌上で高く評価された。1999年の宮崎国際室内楽音楽祭でアイザック・スターン、エマニュエル・アックス、ジュリアード・クアルテット等に師事。スターン自身の招きによって2000年に再び同音楽祭に出演。この模様はNHK総合、BS他で繰り返し放送された。東京藝術大学でヨーヨー・マのマスタークラスを受講。2001年にベルリン芸術大学留学。2004年、J.S. バッハ無伴奏チェロ組曲連続演奏会に出演し成功を収め、誌上では「無駄な音は一つもない。その響きは無類」と絶賛される。パブロ・カザルス国際チェロコンクール、エマニュエル・フオイアマン・グランプリ、セミファイナリスト。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会にオーケストラの一員として出演の他、欧州各地で演奏活動の後、2005年ドイツ国家演奏家資格を取得し、ベルリン芸術大学を卒業。帰国後はソロ、室内楽、主要オーケストラの客演首席等で活躍する他、東京藝術大学において後進の育成に力を注ぐ。ドイツ三大Bチェロ作品全曲リサイタルシリーズでは、ベートーヴェン(2005年)、ブラームス(2006年)のソナタ、及びバッハ無伴奏チェロ組曲(2008年)を一夜で演奏し、成功を収めた。2008年「熱狂の日」音楽祭、東京のオペラの森、NHK-FM名曲リサイタル等に出演。また全国でバッハ無伴奏チェロ組曲全曲リサイタル(+6つの小品)を開催、大成功を収めた。この年よりバッハ無伴奏チェロ組曲全曲リサイタルを毎年開催、2017年からはプログラムをバッハ×ブリテン無伴奏チェロ組曲全曲演奏会へ拡大し、各地で開催している。小林研一郎、下野竜也らの指揮のもと、東京交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、神戸市室内合奏団、藝大フィルハーモニア等と共演。アナ・チュマチェンコ、安永徹、玉井菜採、篠崎史紀、清水和音らと室内楽を共演。上村昇、河野文昭、藤森亮一、林裕らとチェロアンサンブルを結成。ヴォルフガング・ベツチャー、河野文昭、山崎伸子の各氏に師事。京都芸大非常勤講師。京都市芸術文化特別奨励者及び京都府文化賞奨励賞受賞。第14回齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。相愛大学特任准教授。神奈川フィルハーモニー管弦楽団特別契約首席奏者。上森祥平公式サイト <http://www.uwamori.jp/>

### 出演公演

2024年4月5日[金]19:00 東京文化会館 小ホール  
名手たちによる室内楽の極(きわみ)



## 枝並千花 (ヴァイオリン) Chika Edanami

4歳よりヴァイオリンを始める。

桐朋女子高等学校音楽科を経て、同大学音楽学部卒業。

1998年第52回全日本学生音楽コンクール中学生の部全国第1位。東儀賞、兎東賞、都築音楽賞受賞。2003年第24回ミケランジェロ・アバド国際ヴァイオリンコンクール優勝、及びソナタ賞受賞など、国内外のコンクール入賞歴多数。

2004年「井上道義の上り坂コンサート」にソリストとして出演。同年、大友直人指揮、東京交響楽団と共演。2005年ソウルにて日韓交流演奏会に出演するなど、学生時代から多くの演奏会に参加。

これまでに奥村和雄、辰巳明子各氏に師事。

2006年4月東京交響楽団へ入団。退団後はソリスト、室内楽奏者、コンサートマスターとして幅広く活動。日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦

楽団等にゲストコンサートマスターとして招かれる。名古屋フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団と協演。宮崎国際音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ、東京・春・音楽祭などへ出演。

若手育成プロジェクト“Regalo Project”主宰し、後進の指導にも力を注いでいる。

これまでに3枚のアルバムをリリース。

使用楽器は1791年作 Tommaso Balestrieri

枝並千花オフィシャルサイト <https://edanamichika.jp/>

#### 出演公演

2024年3月26日[火]19:00 東京文化会館 小ホール

東京春祭チェンバー・オーケストラ



### NHK 交響楽団（管弦楽）NHK Symphony Orchestra, Tokyo

1926年10月5日に新交響楽団の名称で結成。創設後まもなく、ドイツからジョセフ・ローゼンストックを専任指揮者として迎え、日本を代表するオーケストラとしての基礎を築いた。演奏活動の根幹となる定期公演は、1927年2月20日の第1回予約演奏会に始まり、第2次大戦中も中断することなく続けられた。1951年には日本放送協会（NHK）の支援を受けることとなり、NHK 交響楽団と改称。以来、今日に至るまで、ヘルベルト・フォン・カラヤン、エルネスト・アンセルメ、ヨーゼフ・カイルベルト、ロヴロ・フォン・マタチッチ、ウォルフガング・サヴァリッシュ、ロリン・マゼールなど、世界一流の指揮者を次々と招聘、また、話題のソリストたちと共演し、歴史的な名演を残してきた。

2013年8月、ザルツブルク音楽祭に初出演、2020年春には、ベルリン、ウィーンをはじめ、ヨーロッパ主要9都市で公演を行うなど、その活動ぶりと演奏は国際的にも高い評価を得ている。

現在、年間54回の定期公演をはじめ、全国各地で約120回のコンサートを行い、その演奏は、NHKのテレビ・FMで日本全国に放送されるとともに、国際放送を通じて全世界にも紹介されている。また事業の中核の一つである社会貢献活動として、全国の学校を訪問する「NHK 子ども音楽クラブ」、ファミリー向けの「N響ほっとコンサート」、被災地や病院に安らぎと元気を届ける室内楽コンサート、次世代の音楽家を育成する「N響アカデミー」など、多彩な活動を行っている。

2023年12月の第2000回定期では、首席指揮者ファビオ・ルイーゲのタクトにより、ファン投票で選ばれたマーラー《一千人の交響曲》を演奏予定。

指揮者陣には、首席指揮者ファビオ・ルイーゲ、名誉音楽監督シャルル・デュトワ、桂冠名誉指揮者ヘルベルト・ブロムシュテット、桂冠指揮者ウラディーミル・アシュケナージ、名誉指揮者パーヴォ・ヤルヴィ、正指揮者 尾高忠明、下野竜也を擁している。

#### 出演公演

2024年3月27日[水]/30日[土]15:00 東京文化会館 大ホール

東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.15

《トリスタンとイゾルデ》（演奏会形式／字幕付）

2024年4月7日[日]15:00 東京文化会館 大ホール

ワーグナー『ニーベルングの指環』ガラ・コンサート





## アブデル・ラーマン・エル＝バシヤ (ピアノ) Abdel Rahman El Bacha

1958年ベイルート生まれ。

10歳でアラウに将来を嘱望され、フランス、ソ連、イギリスの各国政府より奨学金の申し出を受け、1974年パリ高等音楽院に入学。ピアノ、室内楽、和声法、対位法の4科で首席卒業。

1978年(19歳)エリザベート王妃国際音楽コンクールにて審査員全員一致で優勝。併せて聴衆賞受賞。

以来、モーツアルテウム、シャンゼリゼ劇場を始め世界各地でリサイタルを行なう。インバル、スクロヴァチェフスキ、クリヴィヌ、フルネ、マズアなどの指揮者の下ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、管弦楽団等と共演。バッハから現代音楽まで幅広いレパートリーを持ち、数多くのCDで様々な賞を受賞。大野和士指揮モネ歌劇場管弦楽団と、プロコフィエフのピアノ協奏曲全曲を録音。

1998年フランス政府より芸術・文芸シュヴァリエ賞、2002年レバノン大統領より功労賞の最高位メダルを授与。エリザベート王妃音楽院ピアノ科教授。

ラ・フォル・ジュルネ TOKYO 音楽祭で毎年来日している他、優れたテクニック、威厳に満ち明快でしかも静穏な演奏は各地で絶賛を博している。近年では作曲家としても活躍し、自作のピアノ作品のCDも発売されている。

戸田弥生とはエリザベート王妃国際音楽コンクール覇者デュオ演奏会を行っており、2015年シューマン&フランクのCDを録音(エクストン・レーベル)。新譜の発売も予定されている。パリ在住。レバノンとフランスの両国籍を持つ。

### 出演公演

2024年4月5日[金]18:30 旧東京音楽学校奏楽堂

戸田弥生(ヴァイオリン) & エル＝バシヤ



## 尾池亜美 (ヴァイオリン) Ami Oike

2008年、第11回江藤俊哉ヴァイオリンコンクール第1位。2009年、第78回日本音楽コンクール第1位、聴衆賞(岩谷賞)ほか受賞。2011年、第2回RNCMマンチェスター国際ヴァイオリンコンクール第1位、委嘱課題曲最優秀演奏賞。2013年、第12回カール・フレッシュ国際ヴァイオリンコンクール第2位。

これまでに日本フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、関西フィルハーモニー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団、ジュール交響楽団などのオーケストラと共演。また国内のみならず、イギリス、スイス、セルビア、韓国、中国等でもリサイタルを開催。3歳より叔母山下真澄の手ほどきによりヴァイオリンを始める。父の転勤で6歳より2年間スイスに在住、ハビブ・カヤレイ氏に師事。

帰国後、石井志都子氏に師事。東京藝術大学附属高校、同大学音楽学部にて澤和樹、ジェラルド・プーレ、オレグ・クリサの各氏に師事、安宅賞、アカンサス賞、同声会賞を受賞し卒業。スイス・ローザンヌ高等音楽院にてピエール・アモイヤル氏に、イギリス・王立北音楽院、グラーツ芸術大学にてヤイル・クレスに師事。ロームミュージックファンデーション、明治安田クオリティオブライフ奨学生。

2014年2月に初のソロ・CD『French Romanticism』をリリース。「豊かで多彩な音色と滑

らかな技巧で多様な人間感情を投影（タワーレコード）」など好評を博し、「CD屋さんが選ぶ『クラシック CD アワード 2014』」に選出される。2016年にバッハとバルトークの無伴奏作品をウィーンの教会で録音した CD『A』をリリース。レコード芸術誌特選盤に選ばれる。2019年、Ensemble FOVE との共作でアルバム『ZINGARO!!!』をリリース。また Ensemble FOVE のメンバーとして宇多田ヒカル、米津玄師の各氏の楽曲制作に参加。2020年より東京藝術大学講師。2021年10月、Bartók World Competition 弦楽四重奏部門の審査員を務める。

#### 出演公演

2024年3月22日[金]14:00 東京都美術館 講堂

ミュージアム・コンサート

「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」展記念コンサート

vol.2 尾池亜美（ヴァイオリン）



### アリソン・オークス（ソプラノ）Allison Oakes

メトロポリタン歌劇場など世界の主要劇場で活躍の場を広げるディーヴァ。英国出身。ドイツにて声楽を学び、第一級学位および修士課程を優秀成績で修了。2005年ハンブルクでのロベルト・シュトルツ声楽コンクールでは第1位および聴衆賞を、10年デンマークでのラウリッツ・メルヒオール国際声楽コンクールでは第1位および聴衆賞・オーケストラ賞を受賞するなど受賞歴多数。

これまでに《サロメ》表題役、《エレクトラ》クリソテミス、《烙印を押された人々》カルロッタ、《死の都》マリエッタ、《タンホイザー》エリーザベトおよびヴェーヌス、《トリスタンとイゾルデ》イゾルデ、《ジークフリート》《神々の黄昏》ブリュンヒルデなどで、メトロポリタン歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク歌劇場、マンハイム国立劇場など欧米の主要劇場に登場し成功をおさめ、ドラマティック・ソプラノとしての地位を確固たるものにしていく。2013年から15年には、バイロイト音楽祭に《ラインの黄金》フレイア、《神々の黄昏》グートルーネなどで出演するほか、ラヴェット音楽祭など各地の音楽祭やコンサートにも招かれている。また英国デビューとなったボーンマス交響楽団との共演では、R. シュトラウス《4つの最後の歌》を披露した。2023/24 シーズンは、《ワルキューレ》ジークリンデをアテネ国立劇場とソウルで、新制作の《トリスタンとイゾルデ》イゾルデをパレルモ・マッシモ劇場で歌うなど、活躍の場を広げている。

#### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00/21日[日]15:00 東京文化会館 大ホール

《エレクトラ》（演奏会形式／字幕付）



## 大瀧拓哉（ピアノ） Takuya Otaki

愛知県立芸術大学、シュトゥットガルト音楽演劇大学、アンサンブルモデルン・アカデミー、パリ国立高等音楽院で学ぶ。2016年オルレアン国際ピアノコンクールで優勝。現在東京を拠点にクラシックから現代音楽の初演まで幅広く演奏活動を行う。愛知県立芸術大学非常勤講師。

### 出演公演

2024年3月22日[金]14:00 東京都美術館 講堂

ミュージアム・コンサート

「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」展記念コンサート

vol.2 尾池亜美（ヴァイオリン）



## 大塚直哉（チェンバロ） Naoya Otsuka

東京藝術大学楽理科を経て同大学院チェンバロ専攻修了、アムステルダム・スウェーリンク音楽院チェンバロ科及びオルガン科卒業。チェンバロを渡邊順生、鈴木雅明、B.V. アスペレン、オルガンを今井奈緒子、早島万紀子、P.V. ダイク、W. ディッペンホルスト、J.V. オールトメルセンの各氏に師事。アムステルダム郊外の聖ウルバヌス教会のオルガニストを務めたほか、ヨーロッパの各地で演奏活動を行なう。1999年より東京に拠点を移し、「アンサンブル コルディエ」「バッハ・コレギウム・ジャパン」などのアンサンブルにおける通奏低音奏者として、またチェンバロ、オルガン、クラヴィコードのソリストとして活躍。神奈川県民ホールのシリーズ「チェンバロの魅力」「C×（シーバイ）Baroque」、彩の国さいたま芸術劇場「大塚直哉レクチャーコンサートシリーズ」、姫路パルナソスホール「バロック in 姫路」、宮崎県立芸術劇場「オルガンと仲間たち」「ひなたのバロック」など、チェンバロやオルガンを用いた息の長い企画を各地で担当している。また、こうした鍵盤楽器に初めて触れる人のためのワークショップを全国各地で行なっているほか、《メサイア》（ヘンデル）、《ロ短調ミサ曲》（バッハ）など、バロック期の声楽作品を中心とする指揮活動でも高い評価を得ている。ソロ CD『J.S. バッハ：イタリア協奏曲』（ALM RECORDS）、『平均律クラヴィーア第1巻』『同第2巻』（Waon Records）をはじめ、多くの録音に参加。現在、東京藝術大学教授、国立音楽大学講師、東京音楽大学特任教授、宮崎県立芸術劇場および彩の国さいたま芸術劇場のオルガン事業アドバイザーを務める。日本チェンバロ協会会長、日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。NHK・FM「古楽の楽しみ」に案内役として出演中。

### 出演公演

2024年4月7日[日]14:00 国立科学博物館 日本館2階講堂

ミュージアム・コンサート

藤木大地（カウンターテナー）&大塚直哉（チェンバロ）



## 大槻孝志 (テノール) Takashi Otsuki

東京藝術大学卒業。東京藝術大学大学院ソロ科修了。大学院在籍中に休学しドイツ州立シュトゥットガルト音楽大学リート科に在籍。ドイツ及びイタリアに留学。声楽を大槻義昭、高橋啓三、大熊文子、川上洋司、B. アーベル、W. マッテウツィ、小山由美の各氏に師事。ドイツリート解釈をK. リヒターの元で学ぶ。二期会オペラ研修所第47期マスタークラス修了。修了時に優秀賞ならびに奨励賞を受賞。

2004年ノルトハウゼン歌劇場管弦楽団来日公演《アイダ》伝令役で出演し、歴史的名歌手F. コソットを始めとする外国人歌手との共演が本格オペラデビュー。翌年、メキシコ・グアナフアト市で開催された国際セルバンテス音楽祭開幕オペラ《夕鶴》とひょう役で出演し、メキシコ各地の劇場で歌い現地の新聞各紙に絶賛される（同役ダブルキャストは世界的テノールのハビエル・カマレナ）。さらに当時の新国立劇場芸術監督、ノヴォラツスキー氏に見出され、新国立劇場小劇場オペラシリーズに多数出演し研鑽を積む。シリーズ最後となるヘンデルのオペラ《セルセ》セルセ役での成功を機に、新国立劇場大劇場へ進出。新国立劇場にて、これまでに《西部の娘》《ファルスタッフ》《魔笛》《ムツェンスク郡のマクベス夫人》《ローエン格林》《こうもり》《カルメン》《愛の妙薬》《夕鶴》等に主要キャストとして出演し、招聘歌手のカヴァーとしても20演目以上の作品に携わる。東京二期会では《エフゲニー・オネーギン》レンスキー役に抜擢され、その類稀なる美声を聴衆に強く印象付けた。また2008年ストラヴィンスキーのオラトリオ《エディプス王》羊飼役（シャルル・デュトワ指揮・NHK交響楽団）での名唱が「最も心に残ったN響コンサート」第2位に選ばれると、その実績を受け、同年のN響《第九》では、外国人歌手の急遽代役として出演。サイトウ・キネン・フェスティバル松本（現：セイジ・オザワ 松本フェスティバル）でも、当時キャスティングの責任者であったメトロポリタン歌劇場ヴォーカル・コーチのP. ヴァレーにオーディション時の歌唱が認められ、《エリア》《スペードの女王》《サロメ》など、これまでに邦人歌手としては初となる3演目ソリスト出演を果たす。

2012年第55回NHKニューイヤーオペラコンサートに初出演（同62回IL DEVUとして出演）。以後、2016年日生劇場《後宮からの逃走》ペドリッロ役、2017年小澤征爾音楽塾《カルメン》レメンダード役（同役2019年）、2017・2018年日生劇場オペラ《ルサルカ》王子役で出演。コンサートに於いても、東京都交響楽団《第九》、仙台フィルハーモニー管弦楽団《エリア》、ウィーン楽友協会合唱団モーツァルト《レクイエム》など多数出演。第九ソロでは出演回数60回を超え、宗教曲のソリストとしても高い評価を受け、その琴線に触れる力強い美声と堅実な役作りや歌唱は、小澤征爾等著名な内外の指揮者や主要オーケストラより信頼を得ている。近年、2019年間宮芳生作曲《ニホンザル・スキトオリメ》スキトオリメ役、二期会《サロメ》ナラポート役、2022年Bunkamuraシアターオペラ《椿姫》ガストン役、東京フィルハーモニー交響楽団定期《ファルスタッフ》（チョン・ミョンファン指揮）バルドルフォ役、2023年東京・春・音楽祭《ニュルンベルクのマイスタージンガー》ツォルン役、二期会《椿姫》ガストン役に出演。第一線でのキャリアを着実に積みつつ、新たな境地を開拓し続けている。

2011年、自ら選抜した太メンユニットIL DEVUを結成し、新たな試みをスタート。結成後たちまち大人気ユニットとなり、これまでにファースト・アルバム『Debut』、セカンド・アルバム『NUKUMORI』サード・アルバム『LOVE CHANGES EVERYTHING』を日本コロムビアよりリリース。全国各地でのコンサートに加え、数々の新聞・雑誌・ラジオやテレビ番組等に掲載及びゲスト出演するなど、その企画・構成力にも定評がある。

男声ユニットIL DEVU創設者兼メンバー。東邦音楽大学・大学院特任准教授、愛知県立芸術大学講師、二期会会員



#### 出演公演

2024年3月27日[水]/30日[土]15:00 東京文化会館 大ホール  
東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.15  
《トリスタンとイゾルデ》(演奏会形式/字幕付)

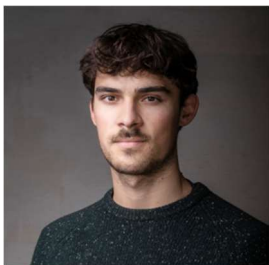


### 大宮臨太郎 (ヴァイオリン) Rintaro Omiya

1981年生まれ。横浜市出身。辰巳明子・堀 正文両氏に師事。  
2000年第69回日本音楽コンクール3位。同年ミレニアム・ニュークラシックオーディション1位、併せて審査員特別賞を受賞。2001年仙台国際コンクール5位、聴衆者賞受賞。2002年メニューイン国際ヴァイオリンコンクール(フランス)2位、2003年プラハの春国際コンクールファイナリストほか国内外のコンクールにて受賞多数。桐朋学園大学4年生在学中にNHK交響楽団オーディションに合格、2005年毎日新聞社主催 毎日ゾリステンにてリサイタル(ピアノ清水和音 於王子ホール)、ウィーンヴィルトゥオーズとモーツァルトのヴァイオリン協奏曲第5番《トルコ風》を共演、2008年12月より1年間アフィニス文化財団の奨学金を得てドイツフライブルグに留学。これまでに小澤征爾音楽塾、セイジ・オザワ松本フェスティバル、東京・春・音楽祭の他、「紀尾井シンフォニエッタ」「響」「PACE」「ヴィルトゥオーズカルテット」「クインテット・スペランツァ」などの室内楽メンバーとしても活躍。現在、NHK交響楽団ヴァイオリン奏者。

#### 出演公演

2024年4月10日[水]19:00 国立科学博物館 日本館2階講堂  
ミュージアム・コンサート N響メンバーによる室内楽



### オーレリアン・ジニユ (打楽器) Aurélien Gignoux

#### 出演公演

2024年4月8日[月]19:00 東京文化会館 小ホール  
アンサンブル・アンテルコンタンポラン I



### 小川響子 (ヴァイオリン) Kyoko Ogawa

東京藝術大学、同大学院修士課程を首席で修了。ミュンヘン音楽演劇大学、ベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミーにて研鑽を積む。  
第10回東京音楽コンクール弦楽部門第1位、聴衆賞を受賞。ピアノ三重奏団「葵トリオ」として2018年ARD国際音楽コンクール(ミュンヘン国際音楽コンクール)で、ピアノ三重奏として日本人団体初の優勝を受賞。これまでに、国内の主要ホールその他、ベルリン、ハンブルク、ミュンヘンをはじめ、ヨーロッパでの公演にも数多く出演している。  
葵トリオでは、4枚のCDをリリースし、全てレコード芸術誌に特選盤に選ばれて好評を得た。第28回青山音楽賞バロックザール賞、第29回日本製鉄音楽賞等を受賞。  
サントリーホール室内楽アカデミー第3期、第4期フェロー。現在は葵トリオの活動のほか、室内楽奏者、ゲストコンサートマスター等、国内外で活動している。

#### 出演公演

2024年4月13日[土]19:00 東京文化会館 小ホール  
ブラームスの室内楽 XI



### 隠岐彩夏 (ソプラノ) Ayaka Oki

岩手大学教育学部卒業。東京藝術大学大学院修士、博士後期課程修了。R. シューマンの歌曲を研究し博士号取得。文化庁新進芸術家在外派遣研修員としてニューヨークにて研鑽を積む。第20回友愛ドイツ歌曲コンクール第1位、文部科学大臣賞受賞。第85回日本音楽コンクール声楽部門第1位、岩谷賞（聴衆賞）、E. ナカミチ賞受賞。15年三菱地所賞、19年東奥文化選奨受賞。

歌曲とオラトリオに幅広いレパートリーをもち、J.S. バッハ《マタイ受難曲》《ヨハネ受難曲》《クリスマスオラトリオ》《ロ短調ミサ》、ヘンデル《メサイア》《ソロモン》遊女 II、シバの女王役《セメレ》セメレ役、ハイドン《天地創造》、モーツァルト、ブラームス、フォーレ《レクイエム》、メンデルスゾーン《パウルス》《エリヤス》、ドヴォルザーク《スターバト・マーテル》、マーラー《交響曲第4番》等のソリストを務める。22年にはインバル指揮東京都交響楽団《第九》、ノット指揮東京交響楽団《第九》にてソリストを務めた。オペラでは《魔笛》パミーナ、《愛の妙薬》アディーナ、《ラ・ボエーム》ミミ、ムゼッタ、《カヴァレリア・ルスティカーナ》ローラ役にて出演。NHK-Eテレ「クラシックTV」等のメディアや「ディズニー・オン・クラシック」全国ツアーに参加する等幅広く活躍中。キングレコードより初のソロアルバム『Dearest Night 愛しの夜』をリリース。レコード芸術にて特選盤に選出された。三島せせらぎアンサンブルメンバー。二期会会員

#### 出演公演

2024年3月16日[土]14:00 旧東京音楽学校奏楽堂  
隠岐彩夏 (ソプラノ)



### 沖 響子 (オーボエ) Kyoko Oki

神奈川県横浜市出身。4歳からピアノを習い12歳よりオーボエを始める。東京藝術大学音楽学部卒業、2022年に同大学院修士課程を修了。これまでに、オーボエを和久井仁、小畑善昭、吉井瑞穂各氏に師事。第88回、第91回日本音楽コンクール・オーボエ部門第3位入賞。北九州国際音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ、トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア、ARK シンフォニエッタ等に参加。現在パシフィックフィルハーモニア東京オーボエ・イングリッシュホルン奏者。

#### 出演公演

2024年3月26日[火]19:00 東京文化会館 小ホール  
東京春祭チェンバー・オーケストラ



## 小倉貴久子（フォルテピアノ）Kikuko Ogura

東京藝術大学を経て同大学大学院ピアノ科修了。アムステルダム音楽院を特別荣誉賞付き首席卒業。第3回日本モーツァルト音楽コンクールピアノ部門第1位。1993年ブルージュ国際古楽コンクールアンサンブル部門第1位、95年同コンクールフォルテピアノ部門で第1位と聴衆賞受賞。

「クラシック倶楽部」「ららら♪クラシック」「カルチャーラジオ 芸術の魅力」などTV、ラジオへの出演も多い。浜松市楽器博物館コレクションシリーズの録音やコンサートでの演奏も高い評価を得ている。これまでに『輪舞～モーツァルト』『星の冠～シューマン』『アルルの女～プレイエルピアノによるビゼー』『ベートーヴェン～ハンマークラヴィーア』などCDを50点以上リリース。それらの多くが朝日新聞、読売新聞、毎日新聞やレコード芸術誌等で推薦盤や特選盤に選ばれている。著書に『ピアノの歴史』（河出書房新社）。校訂楽譜『ソナチネ音楽帳』（音楽之友社）『ジュスティニーニ：12のソナタ集』（カワイ出版）他。シリーズコンサート「小倉貴久子の《モーツァルトのクラヴィーアのある部屋》」全40回完結。平成24年度文化庁芸術祭レコード部門 大賞、第30回ミュージック・ペンクラブ音楽賞 クラシック部門 独奏・独唱部門賞、第48回JXTG音楽賞 洋楽部門奨励賞、令和3年度下総皖一音楽賞受賞。自主企画シリーズ「小倉貴久子《フォルテピアノの世界》」を好評展開中。フォルテピアノ・アカデミーSACLA 主宰。東京音楽大学講師。

### 出演公演

2024年3月16日[土]14:00

「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」展 記念コンサート

vol.1 小倉貴久子（フォルテピアノ）



## オディール・オーボワン（ヴィオラ）Odile Auboin

### 出演公演

2024年4月8日[月]19:00 東京文化会館 小ホール

アンサンブル・アンテルコンタンポラン I



## 甲斐栄次郎（バリトン）Eijiro Kai

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、東京藝術大学大学院音楽研究科声楽専攻（オペラ）修了。1998年第29回イタリア声楽コンクール シエナ部門第1位・シエナ大賞受賞。1999年第4回藤沢オペラコンクール第3位入賞。2002年6月イタリア、リーヴァ・デル・ガルダで開催された第8回リッカルド・ザンドナイ国際コンクール第3位入賞、同年11月プーリア州レッツェで開催された第10回ティト・スキーパー国際コンクール第1位。平成14年度五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。1996年二期会オペラスタジオ第39期マスタークラス修了、修了時に最優秀賞及び川崎静子賞を受賞。1998年文化庁オペラ研修所第11期修了。1999年より文化庁派遣芸術家在外研修員としてニューヨークにおいて研鑽を積む。2002年五島記念文化財団の助成により、イタリア、ボローニャへ留学。2000年テル・アヴ



ィヴ（イスラエル）で開催された Israel Vocal Arts Institute (IVAI)、キアーリ（イタリア）にて開催された International Institute of Vocal Arts (IIVA) の両オペラ・プログラムに参加。テル・アヴィヴでは、パイズィエッコ作曲《セヴィリアの理髪師》フィガロを務める。2001年カザルマッジョーレ（イタリア）で開催された IVAI プログラムに再び参加、《フィガロの結婚》フィガロを務める。2003年9月、ウィーン国立歌劇場にデビュー。その後、同劇場において10年間に渡り専属ソリスト歌手として活躍。レパートリーは60役を超え、42役で約330公演に出演。2003年12月、トーマス・ハン普森主演の《シモン・ボッカネグラ》においては、急病の歌手に代わりパオロ役で急遽出演し、暗殺者を緻密に表現、存在を深く印象付けた。同役では、ヌッチ、ドミンゴ、フリットリ、フルラネット、サッバティーニらとも共演。2012年5月、エディータ・グルベローヴァとの共演で、歌唱、演技共に高い評価を得たドニゼッティ作曲《ロベルト・デヴェリユー》ノッティンガム公爵をはじめとし、《ランメルモールのルチア》エンリーコ、《愛の妙薬》ベルコーレ、《ラ・ファヴォリータ》アルフォンソ11世、《蝶々夫人》シャープレス、《ラ・ボエーム》マルチェッロ、《マノン・レスコー》レスコー等、特にイタリア・オペラ作品において高い評価を得ている。2008年、ウィーン国立歌劇場の日本公演において、エディータ・グルベローヴァ主演《ロベルト・デヴェリユー》にグアルティエーロ・ローリで出演、2012年、同歌劇場の来日公演に再度参加し《子供のための魔笛》においてパパゲーノを好演。国内においては、2002年二期会創立50周年記念公演《フィガロの結婚》フィガロ、《ニュルンベルクのマイスタージンガー》夜警役で出演。小澤征爾音楽塾オペラプロジェクト III 《ドン・ジョヴァンニ》公演で、タイトルロール・カヴァーを務め、特別演奏会には同役で出演。2003年小澤征爾オペラプロジェクト パリ・オペラ座共同制作《ジャンニ・スキッキ》にベットで出演。2004年には市川團十郎演出オペラ《鳴神》鳴神上人で新国立劇場デビュー、2011年同劇場《蝶々夫人》シャープレスで出演、2014年、2017年にも同役で再登場。2011年東京文化会館50周年記念公演《古事記》イザナギで出演。2013年東京・春・音楽祭《ニュルンベルクのマイスタージンガー》コートナー、2018年同《ローエングリン》王の伝令、宮崎国際音楽祭《蝶々夫人》シャープレス、2019年同《ラ・ボエーム》マルチェッロ、二期会《清教徒》リッカルドで出演。その他、《フィガロの結婚》アルマヴィーヴァ伯爵、《コシ・ファン・トゥッテ》グリエルモ、《泥棒とオールドミス》ボブ、《魔笛》弁者、《サムソンとデリラ》大司祭、《真珠とり》ズルガ等がある。コンサートにおいては、ベートーヴェン《第九》、ブラームス《ドイツ・レクイエム》、メンデルスゾーン《エリア》、フォーレ《レクイエム》、モーツァルト《レクイエム》、ヘンデル《メサイア》、マーラー《嘆きの歌》、ヤナーチェク《グラゴル・ミサ》等のソリストを務め、著名な指揮者・オーケストラからの信頼も厚い。2008年にはNHKニューイヤーオペラコンサートに出演し、同年、N響《第九》のソリストを務め、その後2013年、2014年、2017年にも再登場している。2019年には東京・春・音楽祭 シェーンベルク《グレの歌》にも出演。東京藝術大学准教授、聖徳大学客員教授、洗足学園音楽大学客員教授、日本声楽アカデミー会員、二期会会員

#### 出演公演

2024年3月27日[水]15:00/30日[土]15:00 東京文化会館 大ホール  
東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.15  
《トリスタンとイゾルデ》(演奏会形式/字幕付)



## クロディアン・カチャーニ (テノール) Klodjan Kaçani

アルバニア生まれ。ティラナ芸術大学のクラシック声楽科を卒業した。2012年からアルバニア国立劇場に出演し始め、その後の数年間、様々な役にデビューした。例えば、《蝶々夫人》ゴロー、セバスティアノー・ロッシ指揮で《ジャンニ・スキッキ》ゲラルド、ミケランジェロ・マッツァ指揮で《道化師》ペッペ（アルレッキーノ）、15年にパオロ・カルボーネ指揮で《ドン・ジョヴァンニ》ドン・オッターヴィオ等がある。16年は、エルダ・ラロ指揮で《カプレーティとモンテッキ》テバルド、ジェラルド・アコカ指揮で《魔笛》タミーノとベートーヴェンの交響曲第9番を歌った。17年は《魔笛》タミーノでアスリコ国際コンクールに優勝し、フェデリコ・マリア・サルデッリの指揮により、コモを皮切りに北イタリア・ツアーでも演じた。また同年、アルバニア国立劇場で《椿姫》アルフレードに役デビュー。18年はオペラ・ノマドのフランス・ツアーで新制作の《魔笛》にも出演。その後、カタールでジャンルイジ・ジェルメッティ指揮による新制作の《魔笛》、ヴェローナのフィラルモニコ劇場で《アドリアーナ・ルクヴルール》に出演した。19年には、テネリフェ歌劇場のオペラ（E）スタジオに加わって《愛の妙薬》ネモリーノに役デビューし、テネリフェ歌劇場、トビリシへのツアー、またジョナサン・ブランダーニ指揮によるボローニャ市立劇場の2020/21年シーズン開幕を飾った。20年は、ベルガモのドニゼッティ・オペラ・フェスティバルでリッカルド・フリッツァ指揮による《ベリサリオ》エウトロピオ、21年はアルバニア国立劇場で《椿姫》アルフレードを演じた。22年、スルボリウブ・ディニッチ指揮ウーゴ・デ・アナ演出の《椿姫》アルフレードでザグレブのクロアチア国立劇場にハウス・デビューを果たした。さらに、ヴェルディ《レクイエム》と《こうもり》アイゼンシュタインをアルバニア国立オペラ・バレエ劇場で、またリッカルド・ムーティ指揮によるヴェルディ《レクイエム》をラヴェンナのアリギエーリ劇場で歌った。23年はティラナで《椿姫》アルフレード、ヴェルディ《レクイエム》に出演。同年10月には中国・成都のSKTオペラ・ガラ、11月にはリッカルド・ムーティ指揮によるラヴェンナ音楽祭で《ノルマ》ポリオーネに出演した。24年2～3月にはトリノのレージョ劇場で《仮面舞踏会》リッカルドを歌う。

### 出演公演

2024年4月17日[水]/20日[土]14:00 東京文化会館 大ホール  
《アイーダ》（演奏会形式／字幕付）



## 鍵富弦太郎 (ヴァイオリン) Gentaro Kagitomi

1986年新潟市生まれ。桐朋女子高等学校音楽科（男女共学）を首席で卒業し、桐朋学園大学ソリストディプロマコースに進学。高校在学中にビクターエンタテインメントよりCDをリリース。幼少より様々なコンクールを制覇し、第72回日本音楽コンクール第1位、調布市芸術厚労賞受賞。サンクトペテルブルグ音楽祭（ロシア）からの招聘や、国際交流基金よりカナダ5都市に派遣される。現在、室内楽やオーケストラのゲストコンサートマスターなど国内外で活躍している。2019年日本アコースティックレコーズより最新CDをリリース。

### 出演公演

2024年4月5日[金]19:00 東京文化会館 小ホール  
名手たちによる室内楽の極（きわみ）



## 梶川真歩（フルート） Maho Kajikawa

愛知県立明和高等学校、東京藝術大学、パリ・エコールノルマル音楽院、パリ地方音楽院を卒業。コンクールジュヌフルーティスト1位（仏）、大阪国際室内楽コンクール3位、東京音楽コンクール3位、日本音楽コンクール入選等、多数コンクールで入賞。

東京藝術大学時代から続けるアンサンブルミクスト木管五重奏団では大阪国際室内楽コンクール3位を受賞。（日本人過去最高位）

CD『ミクストノート』『ファンタジー』『ピーターと狼』を販売中。

NHK 交響楽団フルート奏者、桐朋学園大学、東京藝術大学非常勤講師。

### 出演公演

2024年4月19日[金]19:00 国立科学博物館 地球館地下2階常設展示室

梶川真歩（フルート） & 荒木奏美（オーボエ）



## 加藤洋之（ピアノ） Hiroshi Kato

東京藝術大学附属音楽高校を経て同大学を首席で卒業。大学院在学中の1990年にジュネーヴ国際音楽コンクール第3位入賞、ハンガリー国立リスト音楽院に留学してイシュトヴァン・ラントシュ氏に師事する。1996年からはケルンに移りパヴェル・ギリロフ氏の下でさらに研鑽を積んだ。これまでにハンガリー国立交響楽団、ブダペスト・フィルハーモニー管弦楽団、ブルガリア国立放送交響楽団、ヘルシンボリ交響楽団、東京都交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団など内外のオーケストラとの協演、ウィーン芸術週間、プラハの春、ルセ国際音楽祭、リムザン室内楽フェスティバル等の音楽祭、ウィーン楽友協会、ウィグモア・ホールをはじめヨーロッパの主要ホールへの出演など各地で演奏活動を続けている。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の奏者たちと頻りに室内楽を演奏し、特にライナー・キュッヒル氏とは1999年以来、国内外において数多くの公演を重ねてきた。2019年にオクタヴィアレコードより初のソロCD『時間から空間へ〜ワーグナーへのオマージュ』がリリースされレコード芸術誌で特選盤となる。令和元年度文化庁芸術祭音楽部門 大賞を受賞。

### 出演公演

2024年3月30日[土]16:00 東京文化会館 小ホール

東京春祭ディスカヴァリー・シリーズ vol.10 フェルッチョ・ブゾーニ

2024年4月19日[金]19:00 東京文化会館 小ホール

東京春祭 〈Geist und Kunst〉 室内楽シリーズ vol.4

郷古 廉（ヴァイオリン） & 加藤洋之（ピアノ） 横坂 源（チェロ）を迎えて



## 加藤宏隆（バス・バリトン） Hiroataka Kato

東京藝術大学卒業。ジョンズ・ホプキンス大学ピーボディ音楽院、インディアナ大学ジェイコブス音楽院にて学ぶ。フィレンツェでも研鑽を積む。

アメリカでは、『フィガロの結婚』フィガロ、バルトロ、『魔笛』パパゲーノ、『愛の妙薬』ドゥルカマーラ、『セビリアの理髪師』バジリオ、『蝶々夫人』シャープレス等多くの公演

に出演。その活躍は、ヘラルド・タイムズ紙（インディアナ州）や、ボルチモア・サン紙（メリーランド州）をはじめとする新聞各紙で好評を博した。  
アスペン音楽祭へ2年連続で参加し、ブリテン「真夏の夜の夢」にも出演。  
国内では、東京・春・音楽祭『ファルスタッフ』ピストーラ、二期会『ドン・カルロ』宗教裁判長、『魔弾の射手』カスパール、『後宮からの逃走』オスミン、『サロメ』ユダヤ人5、日生劇場『アイナダマール』トリバルディ、『ルサルカ』森番、神奈川県民ホール『魔笛』武士Ⅱ、グランドオペラ共同制作『カルメン』ダンカイロ等数々のオペラに出演し、高い評価を得ている。2013年10月東京・春・音楽祭特別公演にて、ソリストとしてリッカルド・ムーティと共演。コンサートでも、「第九」をはじめ、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト及びフォーレ「レクイエム」等宗教曲のソリストとしても活躍。二期会会員

#### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00/21日[日]15:00 東京文化会館 大ホール  
《エレクトラ》（演奏会形式／字幕付）



### 金山京介（テノール）Kyosuke Kanayama

国立音楽大学声楽科首席卒業。卒業時に矢田部賞受賞。オペラ・ソリストコース修了。東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程（オペラ）を修了。二期会オペラ研修所第56期マスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。オペラ《コジ・ファン・トゥッテ》フェランド、《秘密の結婚》パオリーノ、《椿姫》アルフレード、千住明作曲オペラ《滝の白糸》（世界初演）口上の芸人役、《フィレンツェの麦わら帽子》ファディナールにて出演。2015年二期会《魔笛》（宮本亜門演出）タミーノで二期会本公演デビュー。同年日生劇場《ドン・ジョヴァンニ》ドン・オッターヴィオ、2016年同《セヴィリアの理髪師》アルマヴィーヴァ伯爵、《後宮からの逃走》ベルモンテ、2019年東京芸術劇場《ドン・ジョヴァンニ》ドン・オッターヴィオ、2020年二期会《メリー・ウィドー》カミーユ、2021年二期会《こうもり》アルフレード、22年新国立劇場《椿姫》ガストン子爵等多数出演。コンサート・ソリストとしても、ヘンデル《メサイア》、ハイドン《天地創造》、モーツァルト《レクイエム》、ロッシーニ《スターバト・マーテル》、ベートーヴェン《第九》等で活躍している。2023年10月新国立劇場高校生のための鑑賞教室関西公演《魔笛》タミーノにて出演予定。二期会会員。

#### 出演公演

2024年3月27日[水]/30日[土]15:00 東京文化会館 大ホール  
東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.15  
《トリスタンとイゾルデ》（演奏会形式／字幕付）



### 金子美香（メゾ・ソプラノ）Mika Kaneko

東京音楽大学声楽演奏家コースを首席で卒業、同大学大学院声楽専攻修了。ザルツブルグモーツァルテウム音楽院マスタークラス修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。平成18年度文化庁新進芸術家国内研修員。第18回奏楽堂日本歌曲コンクール第3位入賞。第15回日仏声楽コンクール第2位及び日本歌曲賞を受賞。2008年2月二期会《ワルキューレ》（飯守泰次郎指揮）グリムゲルデで二期会オペラデビ

ュー。また、同年9月には新日本フィルハーモニー交響楽団定期《ばらの騎士》(クリスティアン・アルミンク指揮)に出演し好評を博す。以降、二期会ニューウェーブオペラ《ウリッセの帰還》主役ペネロペ、二期会《オテロ》エミーリア、同《魔笛》侍女 III、横須賀芸術劇場《霊媒》ババ、同《泥棒とオールドミス》ミス・トッド等に出演。さらに、日生劇場《ルサルカ》森の精 3、同《魔笛》侍女 III、新国立劇場でも2015年《ラインの黄金》、2016年《ワルキューレ》、2017年《カルメン》等存在感ある美声と高い音楽性で好評を博した。また、ワーグナー作品にも定評があり、東京フィルハーモニー交響楽団オーチャードホール20周年ワーグナーガラコンサート(飯守泰次郎指揮)、2013年びわ湖ホール・神奈川県民ホール共同制作《ワルキューレ》シュヴェルトライテ、東京・春・音楽祭においては、2014年《ラインの黄金》、2015年《ワルキューレ》、2017年《神々の黄昏》に出演。2018年にはバイロイト音楽祭《ワルキューレ》グリムゲルデ(プラシド・ドミンゴ指揮)に、バイロイト音楽祭総監督/カタリーナ・ワーグナー氏からの直々のオファーにより出演、話題をよんだ。さらに、2019年新交響楽団(飯守泰次郎指揮)《トリスタンとイゾルデ》演奏会形式 ブランゲーネ、同年東京・春・音楽祭子どものためのワーグナー《さまよえるオランダ人》マリー、2020年びわ湖ホールプロデュースオペラ《神々の黄昏》第2のノルン、2021年新国立劇場《ワルキューレ》グリムゲルデ、同年「ニーベルングの指環」ハイライト特別演奏会～飯守泰次郎 傘寿記念～等立て続けに出演。21年には新国立劇場・びわ湖ホール《カルメン》(大野和士指揮東京都交響楽団/新制作)メルセデス、新国立劇場《さまよえるオランダ人》マリー、22年東京・春・音楽祭子どものためのワーグナー《ローエンングリン》オルトルート、同年新国立劇場シーズンオープニング公演新制作《ジュリオ・チェーザレ》セスト、23年東京・春・音楽祭子どものためのワーグナー《ニュルンベルクのマイスタージンガー》マグダレーネ等に出演し好評を博した。コンサートでも全国各地のオーケストラと共演、ヘンデル《メサイア》、モーツァルト《レクイエム》、ベートーヴェン《合唱幻想曲》《第九》、メンデルスゾーン《エリア》、ヴェルディ《レクイエム》等のソリストを務める。東京・春・音楽祭では、2021年4月、故シュテファン・ショルテス指揮モーツァルト《レクイエム》に出演。第56回NHKニューイヤーオペラコンサートに出演。平成24年度山口県芸術文化振興奨励賞受賞。二期会会員

#### 出演公演

2024年3月23日[土]14:00/24日[日]14:00/28日[木]19:00

30日[土]14:00/31日[日]14:00

三井住友銀行東館ライジング・スクエア1階 アース・ガーデン

東京春祭 for Kids 子どものためのワーグナー

《トリスタンとイゾルデ》(バイロイト音楽祭提携公演)

2024年4月7日[日]15:00 東京文化会館 大ホール

ワーグナー『ニーベルングの指環』ガラ・コンサート

### ヴァレリア・カフェルニコフ (ハーブ) Valeria Kafelnikov

#### 出演公演

2024年4月8日[月]19:00 東京文化会館 小ホール

アンサンブル・アンテルコンタンポラン I







## マルコ・カリア (バリトン) Marco Caria

2002年、キエーティでの《ランスへの旅》でデビューして以来、輝かしいキャリアで、ヨーロッパ、アメリカ、中東等の主要な音楽会場に出演している。例えば、ローマ歌劇場、パルマのレージョ劇場、ヴェネチアのフェニーチェ劇場、ヴェローナのフィラルモニコ劇場、ボローニャ市立劇場、パレルモのマッシモ劇場、マチェラータのスフェリステリオ音楽祭、パリのサル・プレイエル、ロンドンのバービカン・センター、バルセロナのリセウ大劇場、ビルバオの ABAO-OLBE、アムステルダムのオランダ国立オペラ、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ロサンゼルス・オペラ、シンシナティ・オペラ、ブエノスアイレスのテアトロ・コロソ、マスカット王立歌劇場、東京文化会館等が挙げられる。定期的に共演する指揮者には、ロベルト・アバド、イヴ・アーベル、マルコ・アルミリアート、ブルーノ・カンパネッラ、チョン・ミョンフン、オッターヴィオ・ダントーネ、ヴァレリー・ゲルギエフ、ミケーレ・マリオッティ、リッカルド・ムーティ、ダニエル・オーレン、ステファノ・ランザーニ等がいる。近年のシーズンの主な出演としては、モデナでヴェルディ《海賊》と《リゴレット》、マチェラータで《イル・トロヴァトーレ》ルーナ伯爵と《アイダ》アモナズロ、北京とアテネで《イル・トロヴァトーレ》と《ランメルモールのルチア》、ボローニャで《リゴレット》、キャリアでは再び《カルメン》と《道化師》、バルセロナとウィーンで《仮面舞踏会》、ザンクト・ガレンでベッリーニ《海賊》エルネスト、ウィーン国立歌劇場で《セビリアの理髪師》、《愛の妙薬》ベルコーレ、《ラ・ボエーム》、《シモン・ボッカネグラ》、韓国の大邱（テグ）で《リゴレット》、ローマ歌劇場で《椿姫》、カラカラ浴場で《アイダ》、トゥールで《アンドレア・シェニエ》と《ジョヴァンナ・ダルコ》の他、大邱とキシノウで《リゴレット》、パルマのレージョ劇場で《カルメン》、レッジョ・エミリアではシルヴィア・パオリによる新制作の《カルメン》、パレルモのマッシモ劇場で《シモン・ボッカネグラ》、モンペリエで《トスカ》、サッサリで《椿姫》等が挙げられる。今後の予定としては、サッサリで《カヴァレリア・ルスティカーナ》と《道化師》、ローマ歌劇場で《椿姫》等がある。

### 出演公演

2024年4月11日[木]18:30/14日[日]14:00 東京文化会館 大ホール

東京春祭プッチーニ・シリーズ vol.5 《ラ・ボエーム》(演奏会形式/字幕付)



## 川口成彦 (フォルテピアノ/チェンバロ) Naruhiko Kawaguchi

1989年に岩手県盛岡市で生まれ、横浜で育つ。第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクール第2位、ブルージュ国際古楽コンクール最高位。フィレンツェ五月音楽祭や「ショパンと彼のヨーロッパ」音楽祭(ワルシャワ)をはじめとした音楽祭にも出演。協奏曲では18世紀オーケストラ、{oh!} Orkiestra Historycznaなどと共演。2023年には神奈川フィルハーモニー管弦楽団の弾き振りも行う。東京藝術大学/アムステルダム音楽院の古楽科修士課程修了。フォルテピアノを小倉貴久子、リチャード・エガーの各氏に師事。第46回日本ショパン協会賞受賞。第31回日本製鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞受賞。CDは『ゴヤの生きたスペインより』(MUSIS, レコード芸術/朝日新聞特選盤)などを発表している。

## 出演公演

2024年4月1日[月]19:00 東京文化会館 小ホール

吉井瑞穂（オーボエ） & 川口成彦（フォルテピアノ & チェンバロ）



## 川本嘉子（ヴィオラ） Yoshiko Kawamoto

3歳よりヴァイオリンを始める。桐朋学園子供のための音楽教室、桐朋女子高等学校音楽科を経て同大学を卒業。これまでに、ヴァイオリンを江藤俊哉、鈴木愛子、室内楽を末吉保雄、原田幸一郎の各氏に師事。1991年、東京都交響楽団への入団をきっかけにヴィオラに転向。1999年より2002年退団まで首席奏者を務めた。アメリカのタングルウッド音楽祭、マールボロ音楽祭、スイスのダボス音楽祭などのほか、サイトウ・キネン・オーケストラ、水戸室内管弦楽団、アルゲリッチ音楽祭等にも定期的に参加し、マルタ・アルゲリッチやユーリ・バシメットなど世界一流のソリスト達と共演し絶賛を博している。ソリストとしては、これまでにガリー・ベルティエニ、ジャン・フルネ、ペーター・マークなどの著名な指揮者と共演。CDは『J.S. バッハ：ヴィオラ・ダ・ガンバとチェロのためのソナタ』『シャコンヌ 無伴奏ヴィオラ作品集』等をリリース。1989年東京国際音楽コンクール室内楽部門優勝（イグレック・クアルテット）。1992年ジュネーヴ国際音楽コンクール・ヴィオラ部門で最高位（1位なしの2位）、1996年村松賞、1997年第7回新日鉄音楽賞・フレッシュアーティスト賞、2015年東燃ゼネラル音楽賞・奨励賞の各賞を受賞。2017年より2021年3月までNHK交響楽団の首席客演奏者を務めた。京都アルティ弦楽四重奏団、AOI・レジデンス・クアルテットのメンバーとしても活躍。

小澤音楽塾、愛知室内オーケストラでは弦楽器アドヴァイザーとして、後進の育成にも積極的に力を注いでいる。類稀なる表現力とテクニックで聴衆を魅了し、日本を代表するヴィオラ奏者の一人として常に第一線で活躍している。

## 出演公演

2024年4月13日[土]19:00 東京文化会館 小ホール

ブラームスの室内楽 XI



## 閑喜弦介（ギター） Gensuke Kanki

1995年8月14日生まれ。大阪府出身。

3歳で父からギターの手ほどきを受けて以来今日に至るまでプレイヤーとしての活動にとどまらず、編曲、作曲家としても、各方面からその卓越したセンスと技術に称賛を浴びている。ギター音楽大賞コンクールをはじめ、日本国内外で数々の受賞を経て、2014年よりパリエコールノルマル音楽院にて研鑽を積み、演奏家ディプロムを満場一致の首席で取得。2018年にはリール高等音楽院にてジュディカエル・ペロワの元でフランス国家演奏家資格を取得。その後、パリ地方音楽院 JAZZ 科を満場一致の首席で卒業。現在は日本に活動の場を移し、引き続き活動の幅を広げている。

## 出演公演

2024年3月19日[火]19:00 上野の森美術館 展示室

ミュージアム・コンサート

三浦一馬（バンドネオン）～現代美術と音楽が会うとき





## ヴィットリオ・デ・カンポ (バス) Vittorio De Campo

1992年イタリアのティラーノ生まれ。ミラノ＝ビッコカ大学で経済学と商学を学びながら、同時にパトリツィア・ファブリ指導のもとでオペラ歌唱の研鑽に励んだ。

その才能は様々な国際声楽コンクールで認められており、受賞した賞には次のようなものがある。2022年、第14回ジュリオ・ネリ・コンクールで最優秀バス・ヴォイス賞及び聴衆賞、22年ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ国際声楽コンクールで聴衆賞及びユールマラ（ラトビア）のズィンタリ・コンサートホールにおける特別賞コンサート、22年SOIイタリア・オペラ学校コンクールで第3位、キャリア・リリコ劇場賞（2022/23シーズン契約）、ブラジル・サンパウロ市立劇場賞（コンサートもしくは新制作参加）、22年マルモ・アオペラ・コンクール第1位、23年ジュディッタ・パスタ・コンクール第1位、オペラ・ラス・パルマス賞（2023/24シーズン契約）、22年マグダ・オリヴェロ国際声楽コンクール第1位等である。トッレ・デル・ラーゴのプッチーニ音楽祭における《トスカ》で初舞台を踏み、ラヴェンナのアリギエーリ劇場における秋の三部作ではクリスティーナ・マツァヴィッラーニ・ムーティ演出、ニコラ・パスコフスキ指揮による《アイーダ》でランフィスに役デビュー、またアレッサンドロ・ベニーニ指揮による《ノルマ》オロヴェーゾにも抜擢された。さらに、マドリードのテアトロ・レアルで開催されたコファレス財団の第25回チャリティ・コンサートでは、カイン・ジョーンズ指揮で《ラ・ボエーム》コッリーネを演じた。この役はスペインのオーディトリオ・デ・サラゴサでも演じた。ソリストとしては、マドリードのテアトロ・レアルでカイン・ジョーンズ指揮によるベートーヴェンの交響曲第9番に出演、マドリード国立音楽堂とサラゴサでも歌った。「リッカルド・ムーティ イタリア・オペラ・アカデミー」に参加、リッカルド・ムーティ指揮で《ナブッコ》ベルの大司教を、ミラノ、リミニ、ラヴェンナで歌った。22年夏には、エアフルトのドームシュトゥーフエン音楽祭でもこの役を演じている。アルバニア・ティラナのシュチプタルラジオ・テレビでは、ヤーコポ・シーパリ・ディ・ペスカッセーロリ指揮によるヴェルディ《レクイエム》でソリストを務めた。また、ラヴェンナとリミニで《ラ・ボエーム》コッリーネ、23年夏にはエアフルトのドームシュトゥーフエンでベルリオーズ《ファウストの劫罰》メフィストフェレスを演じた。アレーナ・ディ・ヴェローナ音楽祭では、アンナ・ピロツィ、グレゴリー・クンデ、パク・ヨンジュンとの共演で、ダニエル・オーエン指揮による《アイーダ》エジプト王を歌った。今後の予定としては、パレルモのマッシモ劇場でリッカルド・ムーティ指揮、キアラ・ムーティ演出による《ドン・ジョヴァンニ》騎士長、「リッカルド・ムーティ イタリア・オペラ・アカデミー」で《ノルマ》オロヴェーゾ等がある。最後には、もう一度《ラ・ボエーム》コッリーネを、ベニート・ペレス・ガルドス劇場の「オペラ・デ・ラス・パルマス・デ・グラン・カナリア」で歌う予定。

### 出演公演

2024年4月17日[水]/20日[土]14:00 東京文化会館 大ホール  
《アイーダ》（演奏会形式／字幕付）



## 菊池洋子（ピアノ） Yoko Kikuchi

2002年第8回モーツァルト国際コンクールにおいて日本人として初めて優勝、一躍注目を集めた。その後、ザルツブルク音楽祭に出演するなど国内外で活発に活動を展開し、いまや実力・人気ともに日本を代表するピアニストの一人である。前橋市生まれ。故田中希代子、故林秀光の各氏に師事。桐朋学園女子高等学校音楽科卒業後、イタリアのイモラ音楽院に留学、フランコ・スカラ、フォルテピアノをステファノ・フィウッツィに師事。国内主要オーケストラとの共演をはじめ、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団、ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団等と共演。ザルツブルク音楽祭、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン音楽祭等、世界の著名な音楽祭にも度々招かれる。2009年、2018～2019年には、モーツァルトのピアノ・ソナタ全曲をフォルテピアノとモダンピアノを用いて演奏するといった意欲的な企画に取り組み好評を得た。バレエとのコラボレーション公演にも積極的に出演し、ディアナ・ヴィシニョワや吉田都、上野水香ほかと共演。CDはモーツァルトを中心としたソロ作品のほか、ホルンの世界的名手ラデク・バボラークと共演したアルバムもリリース。2023年には『バッハ：ゴルトベルク変奏曲』をリリース。前橋市 Presents 舞台芸術祭芸術監督。第1回上毛芸術文化賞（音楽部門）受賞。2007年第17回出光音楽賞受賞。2023年3月よりウィーン国立音楽大学にて後進の指導に当たる。菊池洋子オフィシャルホームページ yokokikuchipf.com

### 出演公演

2024年3月18日[月]19:00 東京文化会館 小ホール  
ライナー・ホーネック（ヴァイオリン）&菊池洋子（ピアノ）



## 北田千尋（ヴァイオリン） Chihiro Kitada

広島市出身。3歳よりヴァイオリンを始める。桐朋学園大学音楽学部卒業、同大学院修士課程修了後、ブリュッセル王立音楽院を経てマーストリヒト音楽院にて研鑽を積む。第7回仙台国際音楽コンクール第4位受賞。第1回ブラチスラヴァ舞台芸術アカデミー国際音楽コンクール第2位。第65回全日本学生音楽コンクール全国大会中学生の部第1位。いしかわミュージックアカデミーIMA奨励賞、ミュージックアカデミーinみやざき優秀賞、霧島国際音楽祭賞など数々の賞を受賞。東京・春・音楽祭、宮崎国際音楽祭、霧島国際音楽祭、別府アルゲリッチ音楽祭等に出演。日本フィルハーモニー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、スロヴァキア放送交響楽団など国内外のオーケストラと共演。ソリストのほかオーケストラのゲストコンサートミストレス、室内楽奏者としても国内外のコンサートに出演。カルテット・アマービレのメンバーとしても活動し、第65回ARDミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門にて第3位及び特別賞受賞。ニューヨークで行われたヤングコンサートアーティスト国際オーディション第1位。霧島国際音楽祭賞、堤剛音楽監督賞、ホテルオークラ賞など数々の賞を受賞。マルタ・アルゲリッチ、ダン・タイ・ソン、ポール・メイエ、イェルク・ヴィトマン、エリソ・ヴィルサラゼ、エルサレム・カルテットほか著名な音楽家と共演を重ねる。これまでに川本義幸、小室瑛子、村上直子、篠崎功子、堀米ゆず子の各氏に師事。

### 出演公演

2024年3月26日[火]19:00 東京文化会館 小ホール  
東京春祭チェンバー・オーケストラ



## 北原瑠美（ソプラノ） Rumi Kitahara

東京藝術大学卒業。同大学大学院修士課程修了。二期会オペラ研修所プロフェッショナルコース修了。修了時に中山悌一賞を受賞。その後、イタリアにて研鑽を積む。

2012年日生劇場『フィガロの結婚』伯爵夫人をはじめ、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『愛の妙薬』アディーナ、『椿姫』ヴィオレッタ、『道化師』ネッダ等、数多くのオペラに出演している。

2015年東京二期会・リンツ州立劇場との共同制作公演『魔笛』侍女Ⅰに出演、2016年あいちトリエンナーレ『魔笛』においても同役を演じた。最近では、2017年日生劇場『ラ・ボエーム』ミミ、2018年神奈川県民ホール『魔笛』侍女Ⅰ、東京二期会・デンマーク王立歌劇場とアン・デア・ウィーン劇場との提携公演 ベルトラン・ド・ビリー指揮＜三部作＞『外套』ジョルジュッタ、『修道女アンジェリカ』アンジェリカに出演し、高い評価を得ている。コンサートでは、ヴェルディ「レクイエム」、ドヴォルザーク「スタバト・マーテル」の他、千住明『滝の白糸』を創唱する等、現代作品にも定評がある。また、『ロックオペラ モーツァルト』、『サクラ大戦ライブ 2013』、『イノサン musicale』等ミュージカルにも度々出演するなど、幅広く活躍している。二期会会員

### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00/21日[日]15:00 東京文化会館 大ホール  
《エレクトラ》（演奏会形式／字幕付）



## 北村朋幹（ピアノ） Tomoki Kitamura

愛知県生まれ。3歳よりピアノを始め、浜松国際ピアノ・コンクール第3位、シドニー国際ピアノ・コンクール第5位ならびに3つの特別賞、リーズ国際ピアノ・コンクール第5位、ボン・テレコム・ベートーヴェン国際ピアノ・コンクール第2位などを受賞。

第3回東京音楽コンクールにおいて第1位ならびに審査員大賞（全部門共通）受賞、以来日本国内をはじめヨーロッパ各地で、オーケストラとの共演、リサイタル、室内楽、そして古楽器による演奏活動を定期的に行っている。その演奏は「類稀なる時間の感覚。まるで素晴らしい指揮者によるオーケストラの演奏を聴いているよう（パヴェル・ギリロフ）」

「卓抜な詩的感性、そして哲学的叡智を具えた芸術家（濱田滋郎）」などと評されている。

2020年9月、東京オペラシティ文化財団主催「B → C：バッハからコンテンポラリーへ」における、4台の鍵盤楽器を用いた、ケージの作品を中心としたプログラムによる画期的なリサイタルは「我が国のピアノ演奏史において重要な一夜と言っても過言ではない（伊藤制子）」と高く評価された。2022年10月、びわ湖ホール及び、滋県立美術館で行った「北村朋幹 20世紀のピアノ作品（ジョン・ケージと20世紀の邦人ピアノ作品）」が、第22回（2022年度）佐治敬三賞受賞。

2019年からは自身のリサイタル企画「Real-time」を展開している。録音は「遙かなる恋人に寄す—シューマン「幻想曲」からの展望—」（2011）、「夜の肖像」（2014）、「黄昏に—ブラームス／リスト／ベルク作品集」（2016）、「Bagatellen」（2019）、「ケージ プリペアド・ピアノのためのソナタとインターリュード」（2021）がそれぞれフォンテックから発売され、レコード芸術誌をはじめとする主要な音楽メディアにおいて好評を得ている。東京藝術大学に入学、2011年よりベルリン芸術大学ピアノ科で学び最優秀の成績で卒業。ま

たフランクフルト音楽・舞台芸術大学では歴史的奏法の研究に取り組んだ。これまでに伊藤恵、エヴァ・ポブウォツカ、ライナー・ベッカー、イエスパー・クリステンセンの各氏に師事。ベルリン在住。

#### 出演公演

2024年3月29日[金]19:00 東京文化会館 小ホール  
シヨスタコーヴィチの室内楽



### 城戸かれん (ヴァイオリン) Karen Kido

ミケランジェロ・アバド国際ヴァイオリンコンクール第1位、ニールセン国際コンクール第4位、日本音楽コンクール第2位など数々のコンクールで受賞し、東京都交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、バーデン＝バーデン・フィルハーモニー管弦楽団等と共演。東京藝術大学を首席で卒業し、同大学院修士課程修了。これまでに、原田幸一郎、漆原朝子、堀正文の各氏に師事。徳永二男、R. パスキエ、D. カン、川崎雅夫の各氏より薫陶を受ける。現在はソロや室内楽、オーケストラへの客演のほか、自らコンサートを企画するなど精力的な活動を展開。宮崎国際音楽祭、東京・春・音楽祭、CHANEL PYGMALION DAYS 等への出演を重ねる。ラ・ルーチェ弦楽八重奏団、紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。使用楽器は個人貸与によるピエトロ・グアルネリ 1698。

#### 出演公演

2024年3月26日[火]19:00 東京文化会館 小ホール  
東京春祭チェンバー・オーケストラ



### 木下美穂子 (ソプラノ) Mihoko Kinoshita

鹿児島県出身。

大分県立芸術短期大学卒業、武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラスタジオ修了。日本音楽コンクール第1位。日伊声楽コンクール第1位、イタリア声楽コンクール・シエナ大賞を同一年度で受賞。ほかに出光音楽賞、新日鉄音楽賞、リチーア・アルバネーゼ・プッチーニ国際声楽コンクール（ニューヨーク）第1位、ブッセート市ヴェルディの声楽コンクール第2位（イタリア）など、数々の栄誉に輝く。

2002年小澤征爾指揮《ドン・ジョバンニ》ドンナ・エルヴィーラ役でデビュー。以後東京二期会《蝶々夫人》《ボエーム》《仮面舞踏会》などに出演。また《イル・トロヴァトーレ》《椿姫》など相次いでヒロインを演じ、完璧なヴェルディ・ヴォイスで絶賛を博す。またマゼール指揮トスカニーニ・フィル日本公演では、世界的巨匠からも絶賛が寄せられた。海外では、2007年スポケーン交響楽団ヴェルディ《レクイエム》でアメリカデビュー後、ミシガンオペラ、ヒューストンランドオペラ、ボルチモアオペラ、バンクーバーオペラなどに出演。近年では、ロンドン・ロイヤルアルバートホール、ピサ・ヴェルディ劇場、ソフィア国立歌劇場に《蝶々夫人》のタイトルロール、東京二期会《トスカ》《フィデリオ》《こうもり》、東京二期会及びびわ湖ホール《ローエングリン》、ランドオペラ共同制作《アイダ》への主演、同《トゥーランドット》リユーで出演。2023年3月新国立劇場《ホフマン物語》アントニア、9月～10月は東京二期会オペラ《ドン・カルロ》エリザベッタを演じた。東京藝術大学音楽学部准教授。二期会会員



## 出演公演

2024年4月18日[木]19:00/21日[日]15:00 東京文化会館 大ホール  
《エレクトラ》(演奏会形式/字幕付)



## 木村裕平 (ピアノ) Yuhei Kimura

父親の海外赴任に伴い、ブラジル・サンパウロ市に生まれ幼少期を過ごす。中・高をドイツ・デュッセルドルフ市にて育つ。帰国子女。ドイツ桐蔭学園高等部を経て、武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。

現在、自身の後援会主催によるソロ・コンサートをはじめ、著名な声楽家の共演ピアニストとしてリサイタルやコンサート、レコーディングなど活発な演奏活動を行う。その演奏は日刊ゲンダイ等、誌面においても高く評価されている。

テノール歌手・新垣勉氏のピアニストとしては、全国ツアーをはじめ、テレビ朝日「徹子の部屋」、NHK「歌謡コンサート」、TBS「NEWS23」等、数多くのメディアや雑誌、ラジオ、CD等にて共演している。

また、これまでに国内外多数のオペラ・プロダクション主催のオペラ公演において、コレペティトウア、プロンプターとして公演を支えている。

一方、合唱指揮者としての活躍も多く、現在9団体の指揮者・音楽監督として、イタリア・ヴェルディ劇場での公演を成功に導く他、全国コンクール3位やコーラス・フェスティバルの講評講師等、常に高い評価を得ている。

また、実績が話題を集め、自身の主宰による会員制声楽クラス The Class ”Voices” が都内を中心に開講するなど、活躍の場は留まることを知らない。

公益財団法人東京二期会ピアニスト

二期会オペラ研修所ピアニスト

JCDA 日本合唱指揮者協会会員

## 出演公演

2024年3月16日[土]14:00 旧東京音楽学校奏楽堂  
隠岐彩夏 (ソプラノ)



## ビルギッテ・クリステンセン (ソプラノ) Birgitte Christensen

ノルウェー出身のソプラノ歌手。オスロの国立音楽アカデミーで学び、ノルウェー屈指の歌手としての地位を確立した。17世紀初頭の商品から現代作品に至るまで、とてつもなく広いレパートリーを築いている。

オペラでは、パリ国立オペラ、チューリッヒ歌劇場、ベルリン国立歌劇場、ドレスデン・ゼンパーオーパー、シュトゥットガルト州立歌劇場、アン・デア・ウィーン劇場、チリ市立劇場、ヴェルサイユ王立オペラ、ルーアン・オート＝ノルマンディー歌劇場、モスクワ・ボリショイ劇場、ルールトリエンナーレ、インスブルック古楽音楽祭等に出演。最も頻繁に出演しているのはノルウェー国立オペラである。

これまで演じた役には、《ドン・ジョヴァンニ》ドンナ・アンナ、《皇帝ティートの慈悲》ヴィテリヤ、《椿姫》ヴィオレッタ、《トゥーランドット》リユー、《道化師》ネッダ、《カルメン》ミカエラ、《ドン・カルロ》エリザベッタ、《仮面舞踏会》アメーリア、《ピーター・



《グライムズ》エレン・オーフォード、《こうもり》ロザリンデ、《マハゴニー》ジェニーの他、タイトルロールにはベートーヴェン《レオノーレ》、グルック《トーリードのイフィジェニー》と《アルチェステ》、ヘンデル《アルチーナ》、ハイドン《アルミーダ》、ヴェルディ《アイダ》等が挙げられる。

また、コンサート歌手として、ヨーロッパ中のコンサートホールや音楽祭に定期的に出演している。

これまでにヨーロッパを代表する指揮者たちと共演しており、そのなかにはリナルド・アレッサンドリーニ、ファビオ・ビオンディ、ジャンルカ・カプアーノ、パオロ・カリニャーニ、テオドール・クルレンツィス、ポール・ダニエル、アレッサンドロ・デ・マルキ、レオ・フセイン、エンリケ・マッツォーラ、ディエゴ・ファソリス、ジョン・フィオーレ、アダム・フィッシャー、ルネ・ヤーコプス、アレクサンダー・ジョエル、クリストファー・モールズ、ジョルジュ・ペトルー、スティーヴン・スローン、アレクサンドル・ヴェデルニコフ、ローター・ツァグロセク等がいる。

#### 出演公演

2024年3月27日[水]/30日[土]15:00 東京文化会館 大ホール

東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.15

《トリスタンとイゾルデ》(演奏会形式/字幕付)



#### コンスタンティン・クリンメル (バリトン) Konstantin Krimmel

ルーマニア系ドイツ人。ウルムのザンクト・ゲオルク少年聖歌隊で最初の音楽教育を受けた。21歳の時に吉原輝教授のもとで声楽を学び始め、2020年に優秀な成績で卒業。以降は、ミュンヘンのトビアス・トゥルーニガーに師事している。在学中からすでに、コンサートや歌曲のレパートリーにのめりこみ、着実にそのレパートリーを広げていた。そして数え切れぬほどのコンクール受賞歴が、彼のキャリアの行く先を決定づけた。21~23年には、「BBC ニュージェネレーション・アーティスト」としてプロモーション活動をしている。すでに国内外をツアーでまわっており、歌曲リサイタルをケルン・フィルハーモニー、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン・コンツェルトハウス、フランクフルト歌劇場、ハイデルベルク春の音楽祭等で行なった他、ヴィラベルトランのシューベルティアーダやシュヴァルツェンベルクのシューベルティアーデにも招かれた。また、マドリード、ロンドンのウィグモア・ホール、コンセルトヘボウ、オックスフォード・リート・フェスティバルにも客演している。

2023/24年シーズンは、20以上のリサイタルを行なう予定で、マドリード、ドルトムント、ロンドン、ヴィラベルトラン、エルマウ城、ミュンヘン、シュヴァルツェンベルク/ホーエネムスの他、ウィーンのコンツェルトハウスに初めて出演する。ピアニストのエレーヌ・グリモーとの共同プロジェクトでは、ヴァレンティン・シルヴェストロフの歌曲集《静寂の歌》を、ルール・ピアノ・フェスティバルとルクセンブルクで演奏する。

その他のコンサート・プロジェクトの予定としては、オスロでセバスティアン・ヴァイグレ指揮オスロ・フィルハーモニー管弦楽団とブラームス《ドイツ・レクイエム》や、フィリップ・ヘレヴェッヘ指揮コレギウム・ヴォカール・ヘントとバッハ《マタイ受難曲》で、カトヴィツェ、ミラノ、アントワープ、ブリュッセル、ハンブルク、ミュンヘン、インスブルックをツアーでまわる。

21年秋からバイエルン国立歌劇場のメンバーであり、23/24年シーズンは開幕で新制作のモーツァルト《フィガロの結婚》(エフゲニー・ティトフ演出、ステファノ・モンタナーリ指揮)でフィガロを歌い、その後《魔笛》パパゲーノ、ドニゼッティ《愛の妙薬》ベルコ

ーレ、《コジ・ファン・トゥッテ》グリエルモでも出演。またヴィースバーデン五月音楽祭では《フィガロの結婚》アルマヴィーヴァ伯爵を演じる予定。

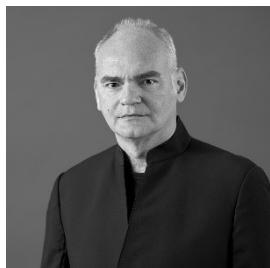
最近のCD録音としては、ダニエル・ハイデ伴奏で『美しき水車小屋の娘』をALPHAレーベルからリリース。23年春には、エレヌ・グリモーと『静寂の歌』（シルヴェストロフ）をドイツ・グラモフォンからリリース。エレヌ・グリモーとの2枚目のアルバム『フォー・クララ』（ブームスの歌曲とシューマンのピアノ作品）は、同じくドイツ・グラモフォンから23年秋にリリース予定。これ以前のアルバムには、ピアノのダニエル・ハイデとともにAVIレーベルからリリースしたリートCD『リスト：歌曲集』や、22年秋にリュディガー・ロッター指揮ホーフカペレ・ミュンヘンの伴奏でALPHAレーベルからリリースした『魔法のオペラ』（グルック、ヴラニツキー、シャック、モーツァルト、ハイドン、ペーター・ヴィンターのアリア）等がある。

#### 出演公演

2024年4月12日[金]19:00 東京文化会館 小ホール

東京春祭 歌曲シリーズ vol.39

コンスタンティン・クリンメル（バリトン） & ダニエル・ハイデ（ピアノ）



#### ローター・ケーニヒス（指揮）Lothar Koenigs

2009～16年までウェールズ・ナショナル・オペラの音楽監督を務めた。アーヘンで生まれ、ケルンでピアノと指揮を学ぶ。1999～2003年までドイツのオスナブリュック歌劇場で音楽監督を務め、03年以降はウィーン国立歌劇場、ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場、ミュンヘン、ドレスデン、スカラ座、ハンブルク、ブリュッセル、リヨン等の歌劇場に客演する。モーツァルトからベルクまで幅広いレパートリーで、特にワーグナー、シュトラウス、ヤナーチェクのオペラに力を入れている。ウェールズ・ナショナル・オペラ在任中の主な出演には、10年にブリン・ターフェルがハンス・ザックスを演じたリチャード・ジョーンズ演出の《ニュルンベルクのマイスタージンガー》があり、これは同年BBCプロムスでもテレビ放映された。他に12年にエディンバラ・フェスティバルで《トリスタンとイゾルデ》、15年にコヴェント・ガーデンのロイヤル・オペラ・ハウスで《モーゼとアロン》等がある。これまで指揮したオーケストラには、ハレ管弦楽団、ボン・ベートーヴェン管弦楽団、ルクセンブルク・フィルハーモニー管弦楽団、読売日本交響楽団、ブレーメン・ドイツ室内フィルハーモニー管弦楽団、ザールブリュッケン放送交響楽団、トリノ・RAI国立交響楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、ローマ聖チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団、サンパウロ交響楽団、ベルリン放送交響楽団、ウィーン交響楽団、ヴェローナでドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団の他、シドニー交響楽団、タングルウッド音楽祭でボストン交響楽団等がある。

近年の主な活動としては、コヴェント・ガーデンのロイヤル・オペラ・ハウスと21年のエディンバラ・フェスティバルで《ナクソス島のアリアドネ》、チューリッヒ歌劇場で《エレクトラ》、ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場で《皇帝ティートの慈悲》、新制作の《ルル》、《魔笛》、ミュンヘン・バイエルン国立歌劇場で《ヴォツェック》、《ナクソス島のアリアドネ》、《ローエングリン》、シュトゥットガルト州立歌劇場で《サロメ》、ワルシャワで《死の都》、ブリュッセルのモネ劇場で《エレクトラ》、《ダフネ》、《カプリッチョ》、《死の都》、マドリッドのテアトロ・レアルで《モーゼとアロン》、オスロで《ヴォツェック》、《スペードの女王》、ブリテン《戦争レクイエム》、《エフゲニー・オネーギン》、リヨンで《白墨の輪》、《アリアーヌと青ひげ》、コペンハーゲンで《トリスタンとイゾルデ》、フランクフルトで《カプリッチョ》等があり、ウェールズ・ナショナル・オペラでは《トリスタン

とイゾルデ》、《ローエン格林》、《ドン・ジョヴァンニ》、《カーチャ・カバノヴァー》、《フィデリオ》、《ナクソス島のアリアドネ》、《トゥーランドット》、《ペレアスとメリザンド》等が挙げられる。最近および今後の予定としては、ミュンヘンで《トリスタンとイゾルデ》、《魔弾の射手》、《さまよえるオランダ人》、新制作の《カプリッチョ》、ルクセンブルクで《トリスタンとイゾルデ》、フランクフルトで《ダフネ》、ウィーン国立歌劇場で《エフゲニー・オネーギン》、韓国国立劇場で《死の都》等がある。

#### 出演公演

2024年4月13日[土]14:00 東京文化会館 大ホール  
東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol.11 ブルックナー 《ミサ曲第3番》



### 小泉詠子 (メゾ・ソプラノ) Eiko Koizumi

東京藝術大学大学院修士課程、博士課程修了、博士号取得。二期会オペラ研修所マスタークラス修了時に、優秀賞および奨励賞を受賞。平成24年度文化庁新進芸術家在外研修員としてイタリアに留学。第76回日本音楽コンクール(オペラ・アリア)第3位、第8回藤沢オペラコンクール第2位入賞。三菱地所賞受賞。

オペラでは、09-10年、12-14年サイトウ・キネン・フェスティバル松本『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼルで出演を重ねる。10年二期会『ファウストの劫罰』マルグリット、12年小澤征爾音楽塾特別演奏会『蝶々夫人』スズキ、15年二期会『リゴレット』ジョヴァンナ、15年日生劇場『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル、16年新国立劇場『イエス・ファ』バレナ、二期会『ナクソス島のアリアドネ』ドゥリヤーデ、17年日生劇場『ルサルカ』料理人の少年等多数出演。18年3月には二期会『ノルマ』の難役アダルジーザで出演し、絶賛を博した。以後も、新国立劇場シーズンオープニング『魔笛』(新制作)侍女II、グランドオペラ共同制作『カルメン』メルセデス等で活躍している。

コンサートにおいても、藝大合唱定期ブルックナー「ミサ曲へ短調」「テ・デウム」にて、M・シュナイト指揮藝大フィルハーモニアと共演。モーツァルト「レクイエム」ではプラハ国立歌劇場管弦楽団や、コソボ交響楽団とも共演。ベルリンで開催された「ヤング・ユーロ・クラシック音楽祭」では「第九」ソリストを務めた。18年には、「NHK ニューイヤーオペラコンサート」に出演している。二期会会員

#### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00/21日[日]15:00 東京文化会館 大ホール  
《エレクトラ》(演奏会形式/字幕付)

### 郷古 廉 (ヴァイオリン) Sunao Goko

2013年8月ティボール・ヴァルガ シオン国際ヴァイオリン・コンクール優勝ならびに聴衆賞・現代曲賞を受賞。現在、国内外で最も注目されている若手ヴァイオリニストのひとりである。

1993年生まれ。宮城県多賀城市出身。2006年第11回ユーディ・メニューイン青少年国際ヴァイオリンコンクールジュニア部門第1位(史上最年少優勝)。2007年12月のデビュー以来、各地のオーケストラと共演。共演指揮者にはゲルハルト・ボッセ、フランソワ＝グザヴィエ・ロト、秋山和慶、井上道義、下野竜也、山田和樹、川瀬賢太郎各氏などがある。2017年より3年かけてベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全曲を演奏するシリーズに



も取り組んだ。

これまでに勅使河原真実、ゲルハルト・ボッセ、辰巳明子、パヴェル・ヴェルニコフの各氏に師事。国内外の音楽祭でジャン・ジャック・カントロフ、アナ・チュマチェンコの各氏のマスタークラスを受ける。

使用楽器は1682年製アントニオ・ストラディヴァリ（Banat）。個人の所有者の厚意により貸与される。2019年第29回出光音楽賞受賞。

NHK交響楽団ゲスト・アシスタント・コンサートマスターを経て、2023年4月にNHK交響楽団ゲスト・コンサートマスターに就任。

#### 出演公演

2024年4月19日[金]19:00 東京文化会館 小ホール

東京春祭〈Geist und Kunst〉室内楽シリーズ vol.4

郷古 廉（ヴァイオリン） & 加藤洋之（ピアノ） 横坂 源（チェロ）を迎えて

### 小島綾子（ヴィオラ） Ayako Kojima

東京藝術大学音楽学部弦楽器科卒業。

同大学大学院在学中にドイツ国立デトモルト音楽大学に留学し、今井信子氏に師事。同大学において、室内楽をヴィルヘルム・シュヌア、カリーネ・ゲオルギアン、ハンス・クラウスの各氏に師事。これまでにアメリカ、ボストンのタングルウッド音楽祭、フロリダのサラソタ音楽祭、イギリスのオールドバラ音楽祭でのブリテン・ピアーズミュージックフェスティバルなどに招待され参加をする。

また東京においてはカザルスホール共催のリサイタルを行うほか、NHK-FM「名曲リサイタル」などの番組に出演。デトモルト音楽大学在学中には、ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団において、数年間プラクティカントを務める。

ドイツ国立デトモルト音楽大学卒業後、同大学のコンツェルトイグザーメン課程に進学し、ドイツ国家演奏家資格を最高位で取得する。同年、オランダのアーンヘム・フィルハーモニー管弦楽団の副首席奏者として入団し、ロベルト・ベンツィ音楽監督のもとアムステルダム コンサートヘボウ、ロッテルダム、デン・ハーグをはじめオランダ国内のほか、スペインなど、ヨーロッパ各地で演奏を行う。現在、東京都交響楽団の活動の一方、ストリングトリオ・アクアとしての活動やヴィオラとピアノのデュオのコンサートに出演している。

#### 出演公演

2024年3月28日[木]19:00 東京文化会館 小ホール

都響メンバーによる室内楽 ヴィオラ・アンサンブル

### 小林明子（ヴィオラ） Akiko Kobayashi

東京藝術大学音楽学部卒業、同音楽院修了。故浅妻文樹、店村眞積、ジークフリート・フューリンガー各氏に師事。大泉文化むら賞受賞。現在東京都交響楽団ヴィオラ奏者。国内外の音楽祭に参加、講師として招聘されるなど、後進の指導にも当たる。アキコズスタジオ主宰。各方面の講師を招き身体操作法の勉強会を定期的に行っている。



## 出演公演

2024年3月28日[木]19:00 東京文化会館 小ホール  
都響メンバーによる室内楽 ヴィオラ・アンサンブル



## 小林海都 (ピアノ) Kaito Kobayashi

1995年、神奈川県横浜市生まれ。2021年9月にイギリスで行われたリーズ国際ピアノコンクールにて46年ぶりの日本人歴代最高位の第2位及びヤルタ・メニューイン賞（最優秀室内楽演奏賞）を受賞。その他ドイツのエトリンゲン国際青少年ピアノコンクールのカテゴリーB（20歳以下の部）にて歴代最年少優勝及びハイドン賞、ポルトガルのサンタ・チェチーリア国際ピアノコンクールにて第3位、東京音楽コンクール第2位、松方ホール音楽賞などの受賞歴を持つ。高校在学中に日本で行われたマリア・ジョアン・ピリス氏のワークショップにおいて留学を強く勧められ、高校卒業後に渡欧。ベルギーのエリザベト王妃音楽院にてピリス氏に師事。同氏の若手育成プロジェクトの一員としてこれまでにイタリア、モロッコ、日本でのコンサートツアーを行った他、ポルトガルのベルガイシュ村での収録にも携わった。またオーギュスタン・デュメイ氏とも共演を重ねるなど、室内楽にも積極的に取り組んでいる。NHK交響楽団をはじめ国内のオーケストラ、さらには海外でもベルギー国立管弦楽団、バーゼル交響楽団、ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団など多数のオーケストラと共演。2022年12月には、東京・紀尾井ホール、ロンドン・ウィグモアホールにて、本格的なリサイタルデビューを飾った。中学生よりヤマハマスタークラス特別コースに在籍し、上野学園高等学校音楽科演奏家コースを特待生として卒業。エリザベト王妃音楽院での2年間の在籍を経て、バーゼル音楽院にて、学士課程、修士課程演奏科、修士課程ソリスト科を修め、2023年卒業。同時に最優秀修士リサイタル演奏に贈られるBrambilla賞を受賞。これまでにピアノをマリア・ジョアン・ピリス、湯口美和、故ヴェラ・ゴルノスタエヴァ、横山幸雄、田部京子の各氏に師事。現在はクラウディオ・マルティネス＝メーナーのもと研鑽を積む。2014年・2015年ロームミュージックファンデーション奨学生。江副記念リクルート財団第45・48回生。

## 出演公演

2024年4月6日[土]15:00 東京文化会館 小ホール  
小林海都 (ピアノ) と仲間たち



## 坂口弦太郎 (ヴィオラ) Gentaro Sakaguchi

NHK交響楽団ヴィオラ次席代行奏者。

大阪府堺市に生まれ3歳よりヴァイオリンを始め17歳でヴィオラに転向。東京藝術大学音楽学部器楽科ヴィオラ専攻、同大学院音楽研究科修士課程器楽科室内楽専攻（ヴィオラとピアノの二重奏）修了。

第9回日本室内楽コンクール第3位入賞。（原田恭子:pfとの二重奏）奨励賞受賞。2000年大学院在学中にNHK交響楽団に入団。オーケストラの他に「アペルト弦楽四重奏団」、高橋希とN響メンバーによる室内楽団「スペランツァ」のメンバーとして日本全国でNHKカジュアル・クラシックコンサートや、また様々なプロオーケストラへの客演首席、TV、ラジオ出演、アーティストのサポート録音などジャンルの垣根をこえて演奏活動を行い、ヴィオラの伝道師としてその魅力の啓発活動も行なっている。2005年12月マティアス・ムジ



クム・カルテットのメンバーとして、すぎやまこういち作曲の弦楽四重奏による『ドラゴンクエスト』をリリース。2008年NAR（日本アコースティックレコーズ）より「クインテット・デイ・ピアノフォルテ・ラ・スペランツァ」のメンバーとして『シューマン：ピアノ五重奏曲 変ホ長調 他』、Casual Classics Vol.1『赤とんぼのふるさと』の2枚をリリース。2014年10月マイスターミュージックよりN響メンバーによるゴールドベルク変奏曲をリリース。その他にも数多くのレコーディングを行なっている。これまでにヴィオラを中塚良昭氏に、ヴィオラとピアノの二重奏を松原勝也氏に師事。

#### 出演公演

2024年4月10日[水]19:00 国立科学博物館 日本館2階講堂  
ミュージアム・コンサート N響メンバーによる室内楽



### 佐々木 亮（ヴィオラ） Ryo Sasaki

東京藝術大学附属音楽高等学校を経て東京藝術大学卒業。

在学中、安宅賞受賞。藝大オーケストラと共演。1991年、現音室内楽コンクール第1位、朝日現音賞 受賞。1992年、東京国際室内楽コンクール（民音）第2位、ルフトハンザ賞受賞。1992年秋より、ニューヨーク、ジュリアード音楽院入学。アスペン音楽祭、マルボロ音楽祭に参加。マルボロ音楽祭ではMusicians from Marlboro Tourのメンバーに3年連続で選ばれ全米各地にて演奏した他、2000年のマルボロ音楽祭50周年記念コンサートに出演。在米中リンカーンセンターでリサイタルの他ソロ、室内楽奏者として全米各地にて活動、内田光子、ヒラリー・ハーン、ナージャ・サレルノ・ソネンバーグ、リン・ハレル、デイヴィッド・ソイヤール等と共演し、好評を博した。また弦楽アンサンブル Sejong Soloists, ヴィヴァルディ・ヴィルトゥオーゾのメンバーとしてカーネギー・ホールなど各地の主要ホールで演奏した。CDはEMI/Angelよりチャイコフスキー弦楽六重奏、ブラームス弦楽6重奏をリリース。これまでに掛谷洋三、澤 和樹、故田中千香士、故ドロシー・ディレイ、川崎雅夫の各氏に師事、また室内楽を故ジェイコブ・ラタイナー、故フェリックス・ガリミアの各氏に師事。2003年帰国。2004年NHK交響楽団入団。2008年より首席奏者。2008年から2014年まで岡山潔弦楽四重奏団メンバー。東京クライスアンサンブルなど室内楽奏者としても幅広く活動している。2016年9月にはRCA/Sonyよりパーヴォ・ヤルヴィ指揮NHK交響楽団、チェリストトゥルルス・モルクとの共演によるR.シュトラウスの『ドン・キホーテ』がリリースされた。また演奏活動の傍ら桐朋学園大学、東京藝術大学、東京音楽大学、洗足学園音楽大学にて後進の指導にも当たっている。

#### 出演公演

2024年3月26日[火]19:00 東京文化会館 小ホール  
東京春祭チェンバー・オーケストラ  
2024年4月6日[土]15:00 東京文化会館 小ホール  
小林海都（ピアノ）と仲間たち



## 佐藤友紀（トランペット） Tomonori Sato

東京藝術大学卒業。アカンサス音楽賞受賞。第16回日本管打楽器コンクール第1位。第69回、第72回日本音楽コンクール第2位。第2回リエクサ国際トランペットコンクール入選。第6回フィリップ・ジョーンズ国際コンクール第3位。東京藝術大学管弦楽研究部非常勤講師(現: 藝大フィルハーモニア管弦楽団)を経て渡独、ドイツ国立ハンブルク音楽演劇大学にてマティアス・ヘフス氏に師事。2006年より17年間首席奏者を務めた東京交響楽団を2023年7月に退団し、現在はソロや室内楽を中心に幅広い活動を行っている。シエナ・ウインド・オーケストラ客員契約団員。ARK BRASS、BachArtistsJapan 匠、各メンバー。東京藝術大学、洗足学園音楽大学、尚美ミュージックカレッジ専門学校ディプロマ科各非常勤講師。日本トランペット協会常任理事。

### 出演公演

2024年3月26日[火]19:00 東京文化会館 小ホール  
東京春祭チェンバー・オーケストラ



## 佐藤晴真（チェロ） Haruma Sato

実力・人気を兼ね備えた若い世代を代表するチェリスト。2019年、長い伝統と権威を誇るミュンヘン国際音楽コンクール チェロ部門において日本人として初めて優勝して、一躍国際的に注目を集めた。18年には、ルトスワフスキ国際チェロ・コンクールにおいて第1位および特別賞を受賞している。ほかにも全日本学生音楽コンクール第1位および日本放送協会賞、日本音楽コンクール第1位および徳永賞・黒柳賞、ドメニコ・ガブリエリ・チェロコンクール第1位、アリオン桐朋音楽賞など、多数の受賞歴を誇る。

バイエルン放送交響楽団をはじめ国内外のオーケストラと共演を重ねており、室内楽公演などにも出演して好評を博している。テレビ、ラジオ番組にもたびたび出演。18年、ワルシャワにて「ショパンと彼のヨーロッパ国際音楽祭」に出演。19年には、本格デビューとなるリサイタル公演を成功裡に終える。

20年11月には、名門ドイツ・グラモフォンよりデビューアルバムとなる『The Senses〜ブラームス作品集〜』をリリースし、第13回CDショップ大賞2021クラシック賞を受賞。21年11月には、セカンド・アルバム『SOUVENIR〜ドビュッシー&フランク作品集』をリリース。23年4月には、サード・アルバム『歌の翼に〜メンデルスゾーン作品集』をリリースし、話題を集めている。

これまでに、林良一、山崎伸子、中木健二の各氏に師事。ベルリン芸術大学では、イェンス＝ペーター・マインツ氏に師事。

13年東京都北区民文化奨励賞受賞。15年ヤマハ音楽振興財団奨学生。16年度東京藝術大学宗次特待奨学生。18年ロームミュージックファンデーション奨学生。江副記念リクルート財団第52回奨学生。20年、第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第30回出光音楽賞受賞。21年度文化庁長官表彰に選出。22年、第32回日本製鉄音楽賞受賞。

使用楽器は宗次コレクションより貸与されたE. ロッカ 1903年。

### 出演公演

2024年3月26日[火]19:00 東京文化会館 小ホール  
東京春祭チェンバー・オーケストラ  
2024年4月6日[土]15:00 東京文化会館 小ホール  
小林海都（ピアノ）と仲間たち



## 佐藤由起 (ファゴット) Yuki Sato

桐朋学園大学音楽学部卒業、シドニー大学大学院修了。第 21 回日本管打楽器コンクール第 2 位入賞。パシフィック・ミュージック・フェスティバル、スイス・ツェルマット・フェスティバル、宮崎国際音楽祭、セイジ・オザワ 松本フェスティバル等出演。2009 年より NHK 交響楽団ファゴット、コントラファゴット奏者。洗足学園音楽大学、桐朋学園大学非常勤講師。

### 出演公演

2024 年 3 月 26 日 [火] 19:00 東京文化会館 小ホール  
東京春祭チェンバー・オーケストラ



## セレーネ・ザネッティ (ソプラノ) Selene Zanetti

イタリアの若手ソプラノ歌手。パドヴァのポリニ音楽院でオペラ歌唱を学び、満点かつ優秀な成績で卒業後、ブルガリアのソプラノ歌手ライナ・カバイヴァンスカ指導のもと、シエナのキジアーナ音楽院、ソフィアの新ブルガリア大学、モデナのヴェッキートネリ高等音楽学校でマスター・クラスを受講した。2015～16 年の間に、国際コンクールで数々の賞を受賞。バルセロナのテノール・ビニヤス・コンクールでは最優秀ヴェルディ演奏家賞、ケープタウンのベルヴェデーレ・コンクールでは国際メディア賞を受賞した。

16 年に招かれて、ミュンヘンにあるバイエルン国立歌劇場のオペラ・スタジオ研修生となった。この歌劇場には、ジャン・カルロ・メノッティ《領事》の主演マグダ・ソレルでデビューしている。クラーゲンフルト市立劇場では《シモン・ボッカネグラ》アメリア・グリマルディに役デビュー、またキプロスではモーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》ドンナ・アンナ、カーリではプッチーニ《修道女アンジェリカ》タイトルロールにもデビューした。17 年、ヴェネツィアのフェニーチェ劇場で《ラ・ボエーム》ミミに役デビュー、同役はシュトゥットガルト州立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、ナポリのサン・カルロ劇場でも演じた。18 年及び 19 年、バイエルン国立歌劇場のアンサンブル・メンバーとなり、すぐに新制作のスメタナ《売られた花嫁》で主演のマリー役に抜擢された。またアンサンブル・メンバーとして、アンナ・ネトレプコやユシフ・エイヴァゾフとの共演で《トゥーランドット》リユーの他、《ジャンニ・スキッキ》ネッラ、《セビリアの理髪師》ベルタ、フンパーディンク《ヘンゼルとグレーテル》眠りの精、《魔笛》侍女 I、《愛の妙薬》ジャンネッタ、《パルジファル》花の乙女にもデビューした。マリーナ・アブラモビッチ《マリア・カラスの 7 つの死》のキャストに、アブラモビッチによって選ばれた。これはセルビア人パフォーマーによる野心的なプロジェクトで、パリ・オペラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、アテネのギリシャ国立オペラ、ナポリのサン・カルロ劇場等、数多くの劇場で公演した。新型コロナによる緊急事態の期間中には、バイエルン国立歌劇場のストーリーミング配信で、エルマンノ・ヴォルフ＝フェラーリの幕間劇《スザンナの秘密》スザンナにデビューした。その後、サン・カルロ劇場主催の《カルメン》ミカエラに役デビュー、プレビシト広場の刺激的な舞台に出演した。ヴェルディのレパトリーでは、パレルモのマッシモ劇場で《シチリアの晩鐘》エレナ、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団とは演奏会形式の《イル・トロヴァトーレ》でレオノーラを務めた。また、パルマのアルトゥーロ・トスカニーニ管弦楽団と《妖精ヴィトリ》、フェニーチェ劇場で《ファルスタッフ》、カタニアのマッシモ・ベッリーニ劇場でレオンカヴァッロ《ラ・ボエーム》を歌った。最近では、《シモン・ボッカネグラ》でハンブルク州立歌劇場にハウス・デビューした他、シャンゼリゼ劇場で《ラ・ボエーム》を歌っている。

## 出演公演

2024年4月11日[木]18:30/14日[日]14:00 東京文化会館 大ホール  
東京春祭プッチーニ・シリーズ vol.5 《ラ・ボエーム》(演奏会形式/字幕付)



## 佐野隆哉 (ピアノ) Takaya Sano

都立芸術高校、東京藝術大学を経て同大学院修士課程を修了。在学中、アリアドネムジカ賞、アカンサス音楽賞、同声会賞を受賞。大学院修了時にベーゼンドルファー・コンサートに選出される。2005年に渡仏後、スコラ・カントルム音楽院を最優秀で修了。06年、日本人男性として初めてパリ国立高等音楽院第三課程研究科からの入学を許可され、08年に修了。併せて10年・室内楽科を最優秀で卒業。明治安田生命クオリティオブライフ文化財団海外音楽研修生。

これまでに中野万里子、山城浩一、三井美奈子、松本明、ジャック・ルヴィエの各氏に師事。日本音楽コンクール第2位入賞(2003年)をはじめ、ホセ・ロカ国際第2位(スペイン・08年)、ロン＝ティボー国際第5位及び聴衆賞、特別賞(仏・09年)等、国内外の国際コンクールで入賞。ショパン国際コンクール・ディプロマ受賞(ポーランド・10年)。これまでにソリストとして、フランス国立管弦楽団、NHK交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団等々と共演。現在、国立音楽大学、都立総合芸術高校において後進の指導にもあたっている。

平成16年度青梅市芸術文化奨励賞受賞。第3回グラチア音楽賞受賞。CD『DANZA』(LPDCD-010)、『クロイツァーの記憶』(NAT15431~2、レコード芸術準特選盤)、『ドゥーズ・エチュード』(NAT17481、レコード芸術特選盤)をリリース。2023年、世界初となる山田耕筰ピアノ作品全集『ピアノ作品にみる「山田耕筰ルネサンス」』(NAT20484)をリリース、レコード芸術誌特選盤に選出された他、新聞、音楽各誌上で絶賛された。

## 出演公演

2024年4月20日[土]14:00 旧東京音楽学校奏楽堂  
佐野隆哉 (ピアノ)



## マリア・ホセ・シーリ (ソプラノ) Maria José Siri

今日を代表するソプラノ歌手の一人として認められている。ベルカントからヴェリズモまで幅広いレパートリーを持ち、ヴェルディやプッチーニの最も有名なヒロインにおいて高い評価を得る演者として頭角を現わした。イタリア系ウルグアイ人として生まれ、幼い頃から音楽を学び始めた。パリ国立高等音楽院で学んだ後は、イレアナ・コトルバシュに師事した。

2008年、ジェノヴァのカルロ・フェリーチェ劇場における《イル・トロヴァトーレ》レオノーラでヨーロッパ・デビューを果たし、その後ミラノのスカラ座で《アイダ》タイトルロールを演じた。それ以来、キャリアを急速に伸ばし、とりわけ16年には《蝶々夫人》タイトルロールでスカラ座のシーズン開幕を飾り、それからマノン・レスコーやフランチェスカ・ダ・リミニを演じた。17年には名誉ある国際オペラ賞(オスカー・デッラ・リリカ)を受賞し、一躍スターダムにのし上がった。イタリアの主要な劇場に出演しており、特にアリーナ・ディ・ヴェローナとは長期的な関係を築いている。

ドイツ、ベルギー、スペインと並んで、ラテンアメリカ、日本、ロシア、イスラエル、東



欧諸国の主な劇場とも変わらぬ繋がりを築いている。得意な役としては、これまでに 150 回演じたアイーダをはじめ、オダベッタ、アビガイッレ、ヴァロワ家のエリザベッタ、ルクレツィア・コンタリーニ、トスカ、マノン・レスコー、修道女アンジェリカ、アドリアーナ・ルクヴルール等がある。昨シーズンは、ロイヤル・オペラ・ハウス、バーデン＝バーデン祝祭劇場、グラーツ楽友協会にデビューした。

CD や DVD の録音も数多くあり、『ロッシーニのためのミサ曲』や『蝶々夫人』（デッカ）の他、『ドン・ジョヴァンニ』、『三部作』、『アッティラ』、『ナブッコ』、『二人のフォスカリ』、『ノルマ』、『アドリアーナ・ルクヴルール』（ナクソス、ダイナミック）等が挙げられる。最近の出演としては、アレーナ・ディ・ヴェローナで《アイーダ》、聴衆と批評家から絶賛された《蝶々夫人》と《ナブッコ》アビガイッレ、さらにフィレンツェ五月音楽祭で《エルナーニ》と《イル・トロヴァトーレ》、ドレスデン・ゼンパーオーパーで《アイーダ》、ジェノヴァのカルロ・フェリーチェ劇場で《トスカ》、ボローニャ市立劇場で《蝶々夫人》、ベルリン・ドイツ・オペラで《ナブッコ》等がある。

この 2023/24 年シーズンには、ベルリン国立歌劇場で《アイーダ》、東京へのツアーで《トスカ》、スカラ座で《ドン・カルロ》エリザベッタ、モンテカルロ歌劇場で《カヴァレリア・ルスティカーナ》サントウツァ、トリエステ・ヴェルディ劇場で《ナブッコ》アビガイッレ等に出演する予定。

#### 出演公演

2024 年 4 月 17 日[水]/20 日[土]14:00 東京文化会館 大ホール  
《アイーダ》（演奏会形式／字幕付）



### 篠崎友美（ヴィオラ）Tomomi Shinozaki

1995 年桐朋学園大学を首席で卒業。

1992 年東京国際音楽コンクール室内楽部門において齋藤秀雄賞 受賞。1994 年ライオネル・ターティス国際ヴィオラコンクール特別賞受賞。1997 年ミュンヘン国際音楽コンクール第 3 位入賞。2002 年～2021 年 3 月まで、新日本フィルハーモニー交響楽団首席奏者を務め、現在東京都交響楽団首席奏者。紀尾井ホール室内管弦楽団、トリトン晴れた海のオーケストラ、サイトウ・キネン・オーケストラ、ラ・ストラヴァガアンツァ東京等のメンバー。桐朋学園大学非常勤講師。

#### 出演公演

2024 年 3 月 28 日[木]19:00 東京文化会館 小ホール  
都響メンバーによる室内楽 ヴィオラ・アンサンブル



### 清水華澄（メゾ・ソプラノ）Kasumi Shimizu

国立音楽大学卒業。同大学院及び新国立劇場オペラ研修所修了後、文化庁在外研修員として渡伊。オペラでは、グランドオペラ共同制作《アイーダ》アムネリス、新国立劇場《ラインの黄金》フロスヒルデ、《アンドレア・シェニエ》ベルシ、《オテロ》エミーリア、《紫苑物語》（世界初演）うつろ姫、二期会《カヴァレリア・ルスティカーナ》サントウツァ、《ドン・カルロ》エボリ公女、《イル・トロヴァトーレ》アズチーナ、《ローエン格林》オルトルート、《サロメ》ヘロディアス、



日生劇場開館 50 周年記念《メデア》ゴラ、《アイナダマール》ロルカ、《ルサルカ》イェジババ、佐渡 裕芸術監督プロデュースオペラ《夏の夜の夢》ヒポリタ等で出演。またコンサートでも、ヴェルディ《レクイエム》、ベートーヴェン《ミサ・ソレムニス》、マーラー《復活》、メンデルスゾーン《エアリア》等のソリストを務めるなど、その卓越した歌唱は常に高い評価を得ている。カルロス・ゴメス国際コンクール第 2 位。二期会会員

#### 出演公演

2024 年 4 月 18 日[木]19:00/21 日[日]15:00 東京文化会館 大ホール  
《エレクトラ》(演奏会形式/字幕付)



### 清水 太 (ティンパニー) Futoshi shimizu

東京交響楽団首席ティンパニ・打楽器奏者。

16 歳の時に百瀬和紀氏の門を叩き、国立音楽大学卒業。R. Seegers 氏のマスタークラスを介しドイツ国立ハノーファー音楽大学に留学し E. Trog 氏の元で学ぶ。その後ドイツ国立ロストック音楽大学に籍を移し卒業。D. Barenboim 氏が音楽監督を務めるベルリン国立歌劇場のオーケストラアカデミー打楽器科、翌年に同アカデミーのティンパニ科に第 1 号として合格し、2 年にわたりシュターツカペレ・ベルリンの準メンバーのティンパニストとして研鑽を積む。マーラー・ツィクルスに 2nd ティンパニとして参加。アカデミー・コンサートにソリストとして出演。ハノーファー・ニーダーザクセン国立歌劇場にて首席ティンパニ奏者の契約団員、群馬交響楽団ティンパニ打楽器・第一奏者、宮崎国際音楽祭、ARK シンフォニエッタのティンパニ奏者を務める。その他ゲスト・ティンパニストとして NHK 交響楽団、読売日本交響楽団、ベルリン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、ハンブルク・フィル等、国内外の主要オーケストラに客演。2019 年より洗足学園音楽大学の非常勤講師。

#### 出演公演

2024 年 3 月 26 日[火]19:00 東京文化会館 小ホール  
東京春祭チェンバー・オーケストラ



### ジョージ・ジャクソン (指揮) George Jackson

その仕事の幅広さとひたむきな姿勢で、急速に名を揚げており、オペラや交響曲のレパートリーであろうと、現代音楽作品であろうと、指揮するオーケストラと強固な関係を築いている。アマリロ交響楽団を率いる音楽監督であり、同楽団は 2023/24 年シーズンで 100 周年を迎える。複雑な楽譜を読み解くスキルは、アンサンブル・アンテルコンタンポランとの継続的な関係にも繋がっている。ステイーヴ・ライヒの世界初録音『ライヒ/リヒター』をノンサッチ・レコードからリリース、その後ローマ、パリ、ルクセンブルクでの公演も大成功を収めた。2019 年パリの秋フェスティバルにおける、レベッカ・サンダースとジェイムズ・ディロンによる作品のフランス初演でも同アンサンブルを指揮している。また、イザベル・ムンドリーの新作《ノリ・メ・タンゲレ (私に触れるな)》でコレギウム・ノヴム・チューリッヒを指揮した他、ブリュッセル・フィルハーモニックとクレール＝メラニー・シニューベールの新作《シャユ》を世界初演した。その大胆不敵な指揮ぶりと徹底したりハーサル・テクニクが高く評価され、客演指揮者としてヨーロッパのオーケスト

ラからも引く手あまたとなっている。最近の共演では、パリ管弦楽団、アイルランド国立交響楽団、BBC 交響楽団、バーミンガム現代音楽グループ、ルーアン歌劇場管弦楽団等が挙げられる。生来のオペラとの相性の良さが称賛されており、《ヘンゼルとグレーテル》、《ブrouček氏の旅行》(グランジ・パーク・オペラ)、《ラ・ボエーム》、《フィガロの結婚》(ホランド・パーク・オペラ)、《セビリアの理髪師》(アン・デア・ウィーン劇場)といった公演で高い評価を受けている。最近の主な仕事には、グランジ・パーク・オペラのためにスカイ・アーツが委嘱した共同オペラ《ゲームの神々》の世界初演がある。両親ともに俳優で、幼い頃から姉と芝居の創作を始め、同時にヴァイオリンも学んだ。その後、ポスト・パンク、ロック、アイリッシュ・フォークのバンドでドラマーやギタリストとして活動し、幅広い音楽テイストを身につけ、それを今日まで保持している。ルツェルン音楽祭アカデミーやアスペン音楽祭に参加したことが大きな経験となっており、2015年にはアスペン指揮賞を受賞した。情熱的で、指揮の芸術と伝統にも造詣が深く、定期的にその話題に関してはポッドキャストで熱意を伝えている。

#### 出演公演

2024年4月8日[月]19:00 東京文化会館 小ホール  
アンサンブル・アンテルコンタンポラン I  
2024年4月9日[火]19:00 東京文化会館 小ホール  
アンサンブル・アンテルコンタンポラン II



#### ルウオ・ジャチン (ピアノ) Luo Jiaqing

1999年、中国・湖南省生まれ。

2011年、武漢音楽学院附属中学校に入学し、フー・ヤンに師事。卒業後渡米し、オーバーリン音楽院でロバート・シャノンに師事。現在、ニューイングランド音楽院でダン・タイソンに師事している。

2013年、アメリカ(ミネソタ州)のヤング・アーティスト・ワールド・ピアノフェスティバル協奏曲コンクールにおいて、マーリーン・ポーレイ指揮、ミネソタ・フェスティバル・オーケストラとベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 op. 37 を演奏し優勝。2014年にはCCTVピアノ&ヴァイオリンコンクール(若手ピアノ部門)で銀賞を受賞。ノース・コーストピアノ音楽祭コンクール(2016年)、第5回Blüthner Irmler(青島)国際ピアノコンクール(2017年)でそれぞれ第1位。2019年には、アーサー・ダン・コンクール、ルドルフ・ゼルキン・コンクール(オーバーリン)で優勝。同年、若いピアニストのためのシヨパン国際ピアノコンクール・北京で4位入賞。ピアノテキサス・ヤング・アーティスト協奏曲コンクールでは、ミゲル・ハース＝ベドローヤ指揮、フォートワース交響楽団とプロコフィエフ：ピアノ協奏曲 第2番 op. 16 を演奏し優勝。2022年、第8回仙台国際音楽コンクールピアノ部門で第1位。ファイナル及びガラコンサートで、高関健指揮、仙台フィルハーモニー管弦楽団とプロコフィエフ：ピアノ協奏曲 第2番 op. 16 を演奏。

上海、広州など中国各地でリサイタルを開催するほか、2015年にはフランスのアニマート協会から招待され、パリのコルトー・コンサートホールで演奏。2016年8月にはカリフォルニアのハンボルト州立大学のファルカーソン・リサイタルホールでリサイタルを開催。また、仙台フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、ミネソタ管弦楽団、中国フィルハーモニー管弦楽団、武漢フィルハーモニー管弦楽団などとも共演している。

#### 出演公演

2024年3月23日[土]14:00 旧東京音楽学校奏楽堂

中野りな（ヴァイオリン） & ルウオ・ジャチン（ピアノ）



### 白井 圭（ヴァイオリン） Kei Shirai

1983年トリニダード・トバゴ共和国に生まれる。3歳よりヴァイオリンを庭野冬子の下で始め、6歳より徳永二男氏の薫陶を受ける。東京藝術大学附属高校を経て、同大学を卒業。その間、大谷康子、田中千香士、堀正文、ゴールドベルク山根美代子の各氏に師事。2007年文化庁の奨学生として留学。ウィーン国立音楽演劇大学室内楽科にてヨハネス・マイスル氏に師事する。これまでに日本音楽コンクール（第2位及び増沢賞）、ARD ミュンヘン国際コンクール（第2位及び聴衆賞）、ハイドン国際室内楽コンクール（第1位及び聴衆賞）を始めとしたコンクールで受賞歴をもち、ソリストとしてチェコ・フィルハーモニー管弦楽団など内外のオーケストラと共演、ウィーン楽友協会や、ロンドンのウィグモアホール、ベルリン・コンツェルトハウス等で演奏する。2011年9月より半年間はウィーン・フィルの契約団員として演奏。2018年まで約5年間、神戸市室内合奏団（旧称）のコンサートマスターを務め、2020年から3年間NHK交響楽団のゲスト・コンサートマスターとして活躍した。結成20年を迎えたトリオ・アコードとしての活動の他、木曾音楽祭、武生国際音楽祭、調布国際音楽祭には毎年出演。2023年に鶴沼音楽アカデミーを立ち上げ、講師を務める。Stefan Zweig Trio、Ludwig Chamber Playersのメンバー。田中千香士レボリューション・アンサンブル音楽監督。

[www.creomu.com/artist/kei-shirai.htm](http://www.creomu.com/artist/kei-shirai.htm)

<https://www.lesprit-francais.jp/kma.pdf>

#### 出演公演

2024年4月16日[火]国立科学博物館 地球館2階常設展示室

ミュージアム・コンサート 白井圭（ヴァイオリン） & 安田謙一郎（チェロ）



### 新国立劇場合唱団（合唱） New National Theatre Chorus

新国立劇場は、オペラ、バレエ、ダンス、演劇という現代舞台芸術のためのわが国唯一の国立劇場として、1997年10月に開場した。新国立劇場合唱団も年間を通じて行われる数多くのオペラ公演の核を担う合唱団として活動を開始。新国立劇場で上演されるシーズン公演の出演に加え、2007年からは劇場外からの出演依頼の声に応じて外部公演への出演を開始した。個々のメンバーは高水準の歌唱力と演技力を有しており、合唱団としての優れたアンサンブル能力と豊かな声量は、公演ごとに共演する出演者、指揮者、演出家・スタッフはもとより、国内外のメディアからも高い評価を得ている。

#### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00/21日[日]15:00 東京文化会館 大ホール

《エレクトラ》（演奏会形式／字幕付）



## 杉山由紀 (メゾ・ソプラノ) Yuki Sugiyama

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラ研究所修了時に最優秀賞・川崎静子賞・所長賞受賞。ウィーン国際音楽ゼミナール受講、ディプロマ取得。全日本学生音楽コンクール第1位・横浜市民賞・ANA副賞、日光国際音楽祭声楽コンクール大賞・審査員長賞等を受賞。

2015年《ヘンゼルとグレーテル》ヘンゼルでオペラデビュー。二期会《ジュリオ・チェーザレ》タイトルロール、《ナクソス島のアリアドネ》作曲家、《アルチーナ》ルッジェーロ、《ルル》劇場の衣裳係/ギムナジウムの学生、びわ湖ホール《神々の黄昏》ヴェルグンデ、日生劇場《コジ・ファン・トゥッテ》ドラベッラ、日本オペラ協会《紅天女》しじま、まつもと市民オペラ《山と海猫》花月の他、《皇帝ティートの慈悲》セスト、《プラテ》ジュノン等出演。2022年は二期会《パルジファル》(宮本亜門演出)花の乙女たち、《フィガロの結婚》(宮本亜門演出)ケルビーノ、J.ノット指揮東京交響楽団《サロメ》ヘロディアスの小姓等多数出演。

コンサート・ソリストとしても、バッハ《ロ短調ミサ》、ヘンデル《メサイア》、ベートーヴェン《第九》、メンデルスゾーン《エリア》、ファリャ《三角帽子》等で好評を博している

2023年10月新国立劇場《子どもと魔法》羊飼いの少年/牝猫/りす、2024年5月同《椿姫》フローラにて出演予定。

二期会会員

### 出演公演

2024年4月7日[日]15:00 東京文化会館 大ホール

ワーグナー『ニーベルングの指環』ガラ・コンサート



## スチュアート・スケルトン (テノール) Stuart Skelton

これまでに世界の名だたる歌劇場に出演しており、そのなかにはメトロポリタン歌劇場、シアトル・オペラ、サンフランシスコ・オペラ、コヴェント・ガーデンの王立歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ドレスデンのゼンパー・オーパー、ウィーン国立歌劇場等がある。主な役柄としては、《ローエングリン》、《リエンツィ》、《パルジファル》、《ディミトリー》、《オテロ》、《ピーター・グライムズ》等のタイトルロールの他、《フィデリオ》フロレスタン、《イエヌーフア》ラツァ、《さまよえるオランダ人》エリック、《影のない女》皇帝、《ナクソス島のアリアドネ》バッカス、《魔弾の射手》マックス、《道化師》カニオ、《スペードの女王》ゲルマン、《ニーベルングの指環》ジークムント等が挙げられる。

世界中のコンサート・ステージに定期的に呼ばれ、アトランタ交響楽団、ボストン交響楽団、シカゴ交響楽団、クリーヴランド管弦楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニック、サンフランシスコ交響楽団、モントリオール交響楽団、バイエルン放送交響楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ロンドン交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、BBCスコティッシュ交響楽団、BBCウェールズ交響楽団の他、シドニー、メルボルン、アデレード、西オーストラリア、タスマニア等の交響楽団と共演している。また、エディンバラやルツェルンの音楽祭、BBCプロムスにも出演している。

キャリアを通じて数多くの著名な指揮者と仕事をしており、ウラディーミル・アシュケナ



ージ、ダニエル・バレンボイム、カリーナ・カネラキス、アッシャー・フィッシュ、エドワード・ガードナー、フィリップ・ジョルダン、ファビオ・ルイージ、デイヴィッド・ロバートソン、サー・サイモン・ラトル、ドナルド・ラニクルズ、シモーネ・ヤング、ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン等と共演している。

近年の録音には、アダム・フィッシャー指揮デュッセルドルフ交響楽団でマーラー《大地の歌》、サー・サイモン・ラトル指揮バイエルン放送交響楽団でマーラーと《ワルキューレ》ジークムント等がある。同役はアッシャー・フィッシュ指揮によりアデレードとシアトル、シモーネ・ヤング指揮でハンブルク、ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン指揮により香港でも収録している。長年共演し、友人でもあるエドワード・ガードナーの指揮によるベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団との《ピーター・グライムズ》の録音は、2020年にリリースされると国際的な称賛を浴び、21年にはグラミー賞の最優秀クラシック録音賞を受賞した。最近録音され、世界的な評判を得たものとしては、再びエドワード・ガードナーの指揮により、BBC交響楽団とのコルンゴルト《別れの歌》、オスカー・フリート《浄められた夜》、レハール《熱》等の他、初のソロ・アルバム『シャイニング・ナイト』や、アッシャー・フィッシュ指揮・西オーストラリア交響楽団との『トリスタンとイゾルデ』等がある。21年には、アイスランド音楽賞の年間最優秀男性歌手賞を受賞している。

#### 出演公演

2024年3月27日[水]/30日[土]15:00 東京文化会館 大ホール  
東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.15  
《トリスタンとイゾルデ》(演奏会形式/字幕付)



### 鈴木大介 (ギター) Daisuke Suzuki

ことがないようなギタリスト」と評され、作曲者の依頼によって翌年に録音、ベストセラーとなった『武満徹ギター作品集』(1997)によって高い評価を得る。以後、室内楽とコンチェルトを含む膨大なレパートリーでの、明晰な解釈力と洗練された技術によって常に注目を集める。これまで池辺晋一郎、西村朗、猿谷紀郎、伊左治直、金子仁美、酒井健治(敬称略)らを始めとする現代日本の作曲家による作品の初演を数多く行った他、武満徹による遺作《森のなかで》《ギターのための小品〜シルヴァーノ・ブソッティの60歳の誕生日に》《ヴァイオリン、ギターとオーケストラのためのスペクトラル・カンティクル》を世界初録音。2012年に板倉康明 指揮 東京シンフォニエッタと初演した西村朗作曲ギター協奏曲《天女散花》のライブは、2013年度のレコード・アカデミー賞現代音楽部門を受賞。近年はジャズやタンゴのアーティストたちとのデュオでの活動や、自作品によるライブ演奏も行い、また多くの名曲のアレンジは録音やコンサート共に好評で、様々なギタリストに提供・演奏されている。楽譜は現代ギター社から『12のエチュード』、『キネマ楽園 ギター名曲集』、『Daisuke Suzuki The Best Collection for Guitar solo (1&2)』を、2021年2月20日には、武満徹没後25周年を記念して、『武満徹 映画とテレビ・ドラマのための音楽 ギター編曲作品集』を日本ショットより出版。

美術作品からインスパイアされたプログラムにも積極的で、国立新美術館「オルセー展」、ブリジストン美術館「ドビュッシー展」、都立現代美術館「田中一光展」他、多くの美術展でのコンサートを成功させている。斬新なレパートリーと新鮮な解釈によるアルバム制作はいずれも高い評価を受け、『カタロニア讃歌〜鳥の歌/禁じられた遊び〜』は2005年度芸術祭優秀賞(レコード部門)を受賞。最新作『浪漫の薫り』では8弦ギターでロマン派作品を録音。マリア・カナルス国際コンクール第3位、アレクサンドリア市国際ギター・コンクール優勝。第10回出光音楽賞、平成17年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。



#### 出演公演

2024年3月26日[火]19:00 東京国立博物館 法隆寺宝物館エントランスホール  
東博でバッハ vol.66 鈴木大介 (ギター)

2024年4月9日[火]19:00 東京国立博物館 平成館ラウンジ  
東博でバッハ vol.68 鈴木大介 (ギター)



### 鈴木 学 (ヴィオラ) Manabu Suzuki

桐朋学園大学卒業後、DAAD ドイツ文化交流会奨学金を得てハンブルク国立音楽大学に留学。93年オーストリアのリンツ・ブルックナー管弦楽団、首席ヴィオラ奏者に就任。同オーケストラとはソリストとしても共演し、ブルックナーハウスでの演奏会やドイツ演奏旅行でも好評を博す。又、同オーケストラの首席奏者により弦楽四重奏団を結成し、ウィーン、ミュンヘン、チューリッヒ、ミラノ等で活躍。オーストリア放送等、数々の録音に携わるなど積極的に活動する。04年に帰国、現在東京都交響楽団ソロ首席奏者。ルツェルン音楽祭(スイス)、サンガト音楽祭(インド)、サンタフェ室内楽音楽祭(アメリカ合衆国)、セイジ・オザワ 松本フェスティバル等数々の音楽祭に招かれている他、都響、ブルックナー管、マインツ室内管弦楽団、九州交響楽団等多数のオーケストラとソリストとしても共演。国際的活躍を続ける一方、インバル指揮、東京都交響楽団でE.プロッコのヴィオラ組曲(コンチェルト版)を、ヴィオラスペースにてI.エロードのヴィオラ協奏曲を日本初演するなど、ヴィオラ作品を日本に紹介する活動も積極的におこなっている。インディアナ大学ジェイコブス音楽院、上オーストリア州弦楽協会等に招かれマスタークラスを行う他、桐朋学園大学院大学、桐朋オーケストラ・アカデミー、ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン、上田国際音楽村ヴィオラセミナー等にて後進の指導にも精力的にあたっている。

#### 出演公演

2024年3月28日[木]19:00 東京文化会館 小ホール  
都響メンバーによる室内楽 ヴィオラ・アンサンブル



### 鈴木康浩 (ヴィオラ) Yasuhiro Suzuki

新潟県生まれ。5歳よりヴァイオリンを始める。辰巳明子氏に師事。桐朋女子高等学校音楽科(共学)を経て、桐朋学園大学卒業。読売新聞社新人演奏会出演。第47回全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部第1位。卒業後ヴィオラに転向、岡田伸夫氏に師事。第9回日本クラシック音楽コンクール全国大会ヴィオラ部門最高位。第2回淡路市立しづかホールヴィオラコンクール第2位。第12回宝塚ベガ音楽コンクール弦楽器部門第1位。2001年よりドイツのヘルベルト・フォン・カラヤン・アカデミーで研鑽を積み、その後ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の契約団員となる。03年にはクラズィッシュェ・フィルハーモニー・ボンのソリストとして、ドイツ各地で演奏し好評を博す。04年秋に帰国し、日本で活動を始める。ソロ活動として、東京オペラシティでの「B→C」に出演、リサイタル、読売日本交響楽団とコンチェルトのソリストとして共演、ヴィオラスペースに出演。室内楽ではレガメ弦楽四重奏団のメンバーとしてカルテットの活動、王子ホールでの「MARO ワールド」やランチタイムに行われる名曲シリーズ、JTアートホールではJTアー

トホール室内楽シリーズに度々出演。その他にもセイジ・オザワ松本フェスティバル、宮崎国際音楽祭等、多方面で活動中。フェリス女学院大学の非常勤講師として後進の指導にも当たる。現在、読売日本交響楽団ソロ首席ヴィオラ奏者。

#### 出演公演

2024年4月5日[金]19:00 東京文化会館 小ホール  
名手たちによる室内楽の極（きわみ）



### 鈴木大樹（ヴィオラ） Taiki Suzumura

3歳よりヴァイオリンを始め18歳でヴィオラに転向。洗足学園音楽大学、同大学大学院卒業。第3回横浜国際音楽コンクール弦楽器部門1位。山手の丘音楽コンクール1位、横浜ライオンズクラブ賞、Fグループ賞を併せて受賞、第9回東京音楽コンクール3位等、数々のコンクールに入賞している。これまでに宮崎国際音楽祭、プロジェクトQ、東京・春・音楽祭、等のコンサートに出演する他、様々なオーケストラへのゲスト首席として出演している。ヴァイオリンを脇野真樹、宮下要、大川内弘の各氏に師事、ヴィオラと室内楽を岡田伸夫氏に師事。現在パシフィックフィルハーモニア東京特別首席奏者。

#### 出演公演

2024年4月5日[金]19:00 東京文化会館 小ホール  
名手たちによる室内楽の極（きわみ）



### 周防亮介（ヴァイオリン） Ryosuke Suho

1995年京都府生まれ。7歳よりヴァイオリンを始める。

2016年ヘンリック・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクール入賞及び審査員特別賞を受賞。2009年クロスター・シェンタール国際ヴァイオリンコンクール第1位及び2つの特別賞（ヴィルティオーゾ賞、全部門の最高演奏者に贈られるEMCY賞）、2010年ダヴィッド・オイストラフ国際ヴァイオリンコンクール最高位及びスポンサー特別賞を受賞。また2011年東京音楽コンクール第1位及び聴衆賞、2012年日本音楽コンクール第2位及び聴衆賞を受賞するなど、数々のコンクールで優勝や入賞の実績を持つ。

2015年 第25回出光音楽賞、2016年 第25回青山音楽新人賞、2018年 大阪文化祭奨励賞を受賞。12歳で京都市交響楽団との共演を皮切りに、パリ管弦楽団、フランス国立管弦楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、パリ国立歌劇場管弦楽団、ポズナンフィルハーモニック管弦楽団、サンクトペテルブルク国立アカデミー管弦楽団、シュトゥットガルト室内管弦楽団、プラハ室内管弦楽団、アマデウスポーランド放送室内管弦楽団、NHK交響楽団、東京交響楽団、読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団、九州交響楽団、アンサンブル金沢、横浜シンフォニエッタなど、数多くの国内外のオーケストラと共演。また15歳で初リサイタルをおこない、清水和音や江口 玲、上田晴子など第一線で活躍するピアニストと共演を重ねる。2019年にはCHANEL Pygmalion Daysのアーティストに選出され、CHANEL Nexus Hallにて6回に及ぶリサイタルや室内楽シリーズに出演。その他、テレビ朝日「題名のな

い音楽会」、NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」、「ベストオブクラシック」などのメディアにも多数出演。2017年には、ヘンリク・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクールの入賞記念として、オクタヴィア・レコードよりファーストアルバム『Souvenir』をリリース。2021年5月には初のコンチェルト・アルバム『チャイコフスキー&メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲』（オクタヴィア）をリリースした。これまでに岡本智紗子、岩谷悠子、小栗まち絵、大谷康子、原田幸一郎、神尾真由子、マキシム・ヴェンゲーロフの各氏に師事し、東京音楽大学特別特待奨学生としてアーティスト・ディプロマコースを修了。現在は、江副記念リクルート財団奨学生としてメニューイン国際音楽アカデミーにて研鑽を積んでいる。使用楽器は NPO 法人イエローエンジェルより貸与されている、1678 年製ニコロ・アマティ。

#### 出演公演

2024年3月29日[金]19:00 東京文化会館 小ホール

ショスタコーヴィチの室内楽

2024年4月13日[土]19:00 東京文化会館 小ホール

ブラームスの室内楽 XI



### フランツ＝ヨゼフ・ゼーリヒ (バス) Franz-Josef Selig

シリアス・バスという分野の役どころでは、世界的に最も名の知られた歌手の一人で、グルネマンツ、マルケ王、ザラストロ、ロッコ、オスミン、ダーラント、フィエスコ、ファーズルト等を歌う。世界のあらゆる有名歌劇場に出演しており、そのなかにはバイエルン国立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、マドリードのテアトロ・レアル、パリ・オペラ座、ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場等がある。また、一流の音楽祭にも登場しており、バイロイト音楽祭、バーデン＝バーデン音楽祭、ザルツブルク音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭等が挙げられる。有名なオーケストラや指揮者とも共演しており、これまでに共演した指揮者には、クリスティアン・ティーレマン、サー・サイモン・ラトル、マレク・ヤノフスキ、ズービン・メータ、セミヨン・ビシュコフ、リッカルド・ムーティ、ヤニック・ネゼ＝セガン、アントニオ・パッパーノ、フィリップ・ジオルダン、ダニエル・ハーディング等がいる。

ケルン音楽舞踊大学で宗教音楽を学んだ後、クラウディオ・ニコライの声楽クラスに移った。エッセンのアアルト劇場のアンサンブル・メンバーとしてプロ活動をスタートし、6年間在籍した後にフリーランスとなった。

2023/24年シーズンは、マドリードの国立音楽堂でダーフィット・アフカム指揮による演奏会形式のワーグナー《パルジファル》第3幕によって始まった。ウィーン・コンツェルトハウスではオマー・マイア・ヴェルバー指揮でベートーヴェンの交響曲第9番、ベルリンではロビン・ティチャーティ指揮の演奏形式による《トリスタンとイゾルデ》、ダラスではファビオ・ルイージ指揮によるフランツ・シュミット《7つの封印の書》を3回のコンサートで歌う。数多くの国際的なオペラ・プロジェクトにも出演する予定で、ハンブルク州立歌劇場ではワーグナー《さまよえるオランダ人》ダーラントとベートーヴェン《フィデリオ》ロッコを演じる。ミュンヘンでは再演のモーツァルト《後宮からの誘拐》オスミンと、ドビュッシーの《ペレアスとメリザンド》アルケル、トゥールーズでも《ペレアスとメリザンド》アルケルを演じる。そして今夏にはワーグナー《トリスタンとイゾルデ》マルケ王をグラインドボーン音楽祭で演じる。ゲロルト・フーバーとのリート・リサイタルは、エルマウ城でのリート週間やドルトムントのコンツェルトハウス等で行なわれた。数多くのCDやDVDが、この類まれな歌手の芸術的な幅の広さを示している。それはバッハ《マタイ受難曲》から、モーツァルト《魔笛》(サー・コリン・デイヴィス指揮ロンドン・

ロイヤル・オペラ)、《ドン・ジョヴァンニ》(リッカルド・ムーティ指揮ウィーン国立歌劇場)、《フィガロの結婚》(ニコラウス・アーノンクール指揮ザルツブルク音楽祭)、《後宮からの誘拐》(クリストフ・ロイ演出アイヴァー・ボルトン指揮リセウ大劇場)、《ポッペアの戴冠》(デヴィッド・オールデン演出ハリー・ビケット指揮リセウ大劇場)にまで及ぶ。

#### 出演公演

2024年3月27日[水]/30日[土]15:00 東京文化会館 大ホール  
東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.15  
《トリスタンとイゾルデ》(演奏会形式/字幕付)



#### クレマン・ソーニエ (トランペット) Clément Saunier

#### 出演公演

2024年4月9日[火]19:00 東京文化会館 小ホール  
アンサンブル・アンテルコンタンポラン II



#### 高木綾子 (フルート) Ayako Takagi

高木綾子は、確かなテクニックと、個性溢れる音色、ジャンルを超えた音楽性で、今最も注目を集める実力派フルート奏者である。テレビ・ラジオへの出演や CM 出演など従来のクラシック演奏家の枠にとらわれない幅広い活動とレパートリーで各方面から注目を集めている。

愛知県豊田市生まれ。3歳よりピアノ、8歳よりフルートを始める。東京藝術大学付属高校、東京藝術大学を経て、同大学院修了。これまでにフルートを西村智江、橋本量至、G. ノアック、小坂哲也、村上成美、金昌国、P. マイゼンの各氏に、室内楽を岡崎耕治氏に師事。高校、大学在学中よりその実力は高く評価されており、毎日新聞社主催全日本学生音楽コンクール東京大会第1位(1995年)、神戸国際フルートコンクール奨励賞(1997年)、大学内にてNTT Docomo 奨学金を受け、安宅賞(1997年)、宝塚ベガコンクール優勝(1999年)、日本フルートコンベンションコンクール優勝、併せてオーディエンス賞(1999年)、第17回日本管打楽器コンクール、フルート部門第1位及び特別賞(2000年)、第70回日本音楽コンクールフルート部門第1位(2001年)、第12回新日鐵音楽賞フレッシュアーティスト賞(2001年)、ジャン=ピエール・ランパル国際フルートコンクール第3位(2005年)、神戸国際フルートコンクール第3位(2005年)など多数の受賞歴を誇る。

一方で、大学在学中より本格的な演奏活動を開始。これまでに国内主要オーケストラとの共演はもとより、新イタリア合奏団、シュトゥットガルト室内管弦楽団、ミラノ弦楽合奏団、サンクトペテルブルク交響楽団、フランス・リスト室内管弦楽団などと共演。2004年秋にはパリ室内管弦楽団との共演でパリ・デビュー。それに続く日本ツアーにも同行し好評を博した。同時に各地でのリサイタルや室内楽など活発な演奏活動を行っている。2020年には、デビュー20周年を迎え、記念リサイタルを行った。CD録音も活発に行っており、2000年3月には『シシリエンヌ〜フルート名曲集』、『卒業写真〜プレイズ・ユーミン・オン・フルート』を同時リリースしてCDデビュー。その後、『ジェントル・ドリームズ〜20世紀のフルート音楽』、『青春の輝き〜プレイズ・カーペンターズ』を同時リリース、クラ



シックからボサノバまでラテンアメリカの作品を集めた『南の想い』、17世紀から現代までのフルート・ソロ曲を集めた『エール・ブルー〜青の余白』、イタリアで収録した新イタリア合奏団との共演による初めての協奏曲アルバム『イタリア』、大地、自然、生命の息吹をテーマにしたフルート名曲集『EARTH』、ギターの福田進一とのデュオアルバム『海へ』をリリースしてそのすべてが高い評価とセールス実績を残している。2010年には、デビュー10周年を記念して、ベスト盤（日本コロムビア）とモーツァルト：フルート協奏曲集（エイベックス・クラシックス）をリリース。2011年7月には、モーツァルトのフルート四重奏曲全曲集（エイベックス・クラシックス）よりリリースして好評を博す。現在東京藝術大学准教授、および洗足学園音楽大学客員教授、日本大学芸術学部、武蔵野音楽大学、桐朋学園大学の非常勤講師として後進の指導にもあたっている。

#### 出演公演

2024年3月26日[火]19:00 東京文化会館 小ホール  
東京春祭チェンバー・オーケストラ



### 高橋洋介（バリトン）Yosuke Takahashi

東京藝術大学卒業。卒業時に同声会賞を受賞。同大学院修士課程を修了。在学中に高丈二、市原多朗の各氏に師事。その後、新国立劇場オペラ研修所に進み、研修所公演ではヴェルディ《ファルスタッフ》フォード役、プッチーニ《ジャンニ・スキッキ》タイトルロール、ツェムリンスキー《フィレンツェの悲劇》シモーネ役を演じる。研修所修了後には文化庁新進芸術家海外派遣制度にてロンドンへ留学。ロイヤルオペラハウスのヤングアーティストプログラムにゲストとして参加し、デイビット・ゴウランド、ポール・フェリントンの両氏の下で研修を積む。その後、ドイツへと場所を移しシュトゥットガルト音楽演劇大学にてコルネリス・ヴィトヘフト氏に師事。

現在、東京を中心にオペラやコンサートに多数出演。これまでに東京文化会館主催オペラBOXでビゼー《カルメン》エスカミーリョ役、フンパーディング《ヘンゼルとグレーテル》ペーター役、メノッティ《アマールと夜の訪問者》メルヒオール王役などで出演。東京芸術劇場主催全国共同制作プロジェクトでプッチーニ《蝶々夫人》シャープレス役アンダースタディ、プッチーニ《トスカ》シャルローネ役、ヴェルディ《椿姫》ドビニー侯爵役、レオンカヴァッロ《道化師》シルヴィオ役で出演。ニッセイオペラではプッチーニ《トスカ》シャルローネ役で出演及びスカルピア役アンダースタディ、新国立劇場主催公演ではヴェルディ《リゴレット》マルッコ役カヴァー、モーツァルト《魔笛》弁者カヴァー、ジョルダノー《アンドレア・シェニエ》ルーシェ役カヴァーなどを務める。その他、モーツァルト《フィガロの結婚》フィガロ役、《魔笛》パパゲーノ役、《ドン・ジョヴァンニ》タイトルロール、《コジ・ファン・トゥッテ》グリエルモ役、アルフォンソ役、ヨハン・シュトラウス《こうもり》ファルケ役、フランク役、ドニゼッティ作曲《愛の妙薬》ドゥルカマーラ役、ヴェルディ《アイーダ》アモナズロ役、プッチーニ《ラ・ボエーム》マルチェッロ役、《トスカ》アンジェロロッティ役、レオンカヴァッロ《道化師》トニオ役、マスカーニ《カヴァレリア・ルスティカーナ》アルフィオ役などを演じる。

コンサートでは、ベートーヴェン《第九》、ヘンデル《メサイヤ》、モーツァルト《レクイエム》、ヴェルディ《レクイエム》、フォーレ《レクイエム》、オルフ《カルミナ・ブラーナ》などのバリトンソロ、グリーグ《ペールギュント》題名役などで、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、静岡交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、名古屋フィルハーモニー交響楽団等と共演。

オペラユニット「カントキューブ」のメンバーとして活動し、キングインターナショナル



からデビューアルバム『LOVE』をリリース。

第9回東京音楽コンクール2位及び聴衆賞を受賞。第19回コンセール・マロニエ21第1位。第47回、第50回日伊声楽コンクールソ入選。第17回ザンドナーイ国際コンクールファイナリスト。

#### 出演公演

2024年3月27日[水]15:00/30日[土]15:00 東京文化会館 大ホール

東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.15

《トリスタンとイゾルデ》(演奏会形式/字幕付)



### 竹多倫子 (ソプラノ) Michiko Takeda

愛知県立芸術大学卒業、東京藝術大学大学院修了。

第47回日伊声楽コンクール第1位及び歌曲賞。第82回日本音楽コンクール声楽部門(オペラ・アリア)第1位及び岩谷賞(聴衆賞)、E.ナカミチ賞。第20回オルヴィエート国際声楽コンクール「蝶々夫人」部門にて優勝。

平成26年度文化庁新進芸術家海外研修生。平成29年度第28回五島記念文化財団オペラ新人賞受賞。

文化庁新進芸術家海外研修制度及び東急財団(旧五島記念文化財団)第28回五島記念文化賞オペラ新人賞により渡伊。ミラノ、ヴェローナで研鑽を積む。その間、マンチネッリ歌劇場《蝶々夫人》題名役にてイタリアでオペラデビューを果たす。

国内では、小澤征爾音楽塾《蝶々夫人》題名役アンダースタディーの他、同塾《フィガロの結婚》では伯爵夫人役カヴァーキャストとして参加し、特別公演に出演。2017年には日生劇場《ルサルカ》題名役で好評を博す。2021年2月二期会オペラデビューとなった東京二期会《タンホイザー》(セバスティアン・ヴァイグレ指揮、キース・ウォーナー演出)では、ヒロイン・エリザベートを演じ高い評価を得た。2022年東京二期会《トゥーランドット》リユーを演じ、2023年同《ドン・カルロ》ではエリザベッタを演じるなど、本領発揮となるイタリアオペラで喝采を浴びている。

これまでにオーケストラ・アンサンブル金沢、読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等、主要オーケストラと共演を重ねる。2022年5月に五島記念文化賞オペラ新人賞研修成果発表リサイタルを行い、さらなる飛躍が期待される。

NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」出演。2020~22年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」登録アーティスト。令和3年度石川県文化奨励賞受賞。

二期会会員

#### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00/21日[日]15:00 東京文化会館 大ホール

《エレクトラ》(演奏会形式/字幕付)



## 田崎尚美（ソプラノ）Naomi Tasaki

東京藝術大学卒業時にアカンサス音楽賞および同声会賞を受賞。同大学院修士課程オペラ科修了。二期会オペラ研修所第53期マスタークラス修了時に優秀賞を受賞。第8回藤沢オペラコンクール奨励賞受賞。藝大定期《ファルスタッフ》アリーチェ、藝大オペラ in 君津《ラ・ボエーム》ミミ、丹沢音楽祭《アイダ》(演奏会形式)タイトルロール等に出演。2012年二期会、バルセロナ・リセウ大劇場、チューリッヒ歌劇場との共同制作《パルジファル》(飯守泰次郎指揮)クンドリでセンセーショナルな二期会デビューを飾り、以降、2013年神奈川県民ホール・びわ湖ホール《ワルキューレ》ゲルヒルデ、14年二期会とアン・デア・ウィーンとの共同制作《イドメネオ》(準・メルクル指揮)エレットラで出演。16年二期会とライブツィヒ歌劇場との提携公演《ナクソス島のアリアドネ》(S.ヤング指揮)のプリマドンナ/アリアドネ、および2017年日生劇場《ルサルカ》タイトルロールで高い評価を得る。2018年には、びわ湖ホール《ワルキューレ》ジークリンデ、日生劇場《魔笛》侍女I、同年10月にも、びわ湖ホールにおいて同役で出演。19年オーケストラ・ニッポニカ 間宮芳生作曲《ニホンザル・スキトオリヒメ》(第17回佐川吉男音楽賞受賞作品)女王ザル、東京・春・音楽祭 子どものためのワーグナー《さまよえるオランダ人》ゼンタ、二期会《サロメ》タイトルロールで好評を博す。20年びわ湖ホール《神々の黄昏》第3のノルン、グランドオペラ共同制作《トゥーランドット》タイトルロール、21年二期会《タンホイザー》エリーザベト、東京・春・音楽祭 子どものためのワーグナー《パルジファル》クンドリ、宮崎国際音楽祭《トゥーランドット》タイトルロール等出演。22年には、新国立劇場デビューとなった《さまよえるオランダ人》ゼンタで絶賛を博した。その後も、びわ湖ホール《パルジファル》クンドリ、東京・春・音楽祭 子どものためのワーグナー《ローエングリン》エルザ、二期会《パルジファル》クンドリで立て続けに出演。23年も二期会《トゥーランドット》タイトルロール、東京・春・音楽祭 子どものためのワーグナー《ニュルンベルクのマイスタージンガー》エーファ、神奈川フィル・京都市交響楽団・九州交響楽団《サロメ》タイトルロールに出演、ソプラノ・ドランマティコとしてその地位を不動のものとしている。20年、21年NHKニューイヤーオペラに連続出演。ヴェルディ《レクイエム》、ベートーヴェン《第九》やメンデルスゾーン《エリヤ》、マーラー交響曲第4番、《千人の交響曲》等のコンサート・ソリストも務める。二期会会員。

### 出演公演

2024年3月23日[土]14:00/24日[日]14:00/28日[木]19:00

30日[土]14:00/31日[日]14:00

三井住友銀行東館ライジング・スクエア1階 アース・ガーデン

東京春祭 for Kids 子どものためのワーグナー

《トリスタンとイゾルデ》(バイロイト音楽祭提携公演)



## 店村眞積（ヴィオラ）Mazumi Tanamura

京都生まれ。6歳よりヴァイオリンを始め、東儀祐二、鷺見三郎、江藤俊哉の諸氏に師事。全日本学生コンクール、日本音楽コンクール、民音コンクール（室内楽部門）などの受賞歴を重ね桐朋学園大学を経て、1976年イタリアに渡り、P. ファルツリに師事。その後指揮者 R. ムーティに認められ、フィレンツェ市立歌劇場首席ヴィオラ奏者となる。1977年ジュネーブ国際音楽コンクールヴィオラ部門第2位入賞。以後ヨーロッパ各地でソリスト及び室内楽奏者としても活躍。ジュネーブ音楽祭など多くの音楽祭に招待され、桐五重奏団ともヨーロッパツアーを行う。

1984年に帰国後は、読売日本交響楽団ソロ・ヴィオリスト、2001年から2011年5月までNHK交響楽団ソロ首席ヴィオラ奏者を歴任する一方、ソリストとして読響、N響、東京フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、パイヤール室内管弦楽団などと共演。また、セイジ・オザワ 松本フェスティバル、霧島国際音楽祭などには毎年出演。小澤征爾の信頼も厚くサイトウ・キネン・オーケストラ、水戸室内管弦楽団のメンバーでもある。「ヴィオラ・スペース」への出演はもとより、日本を代表するヴィオラ奏者として、室内楽やソロの分野でも幅広い活躍を展開し、CD録音も多数。N響の主要メンバーと「ヴィルトゥオーゾ・カルテット」を結成し、バルトークの弦楽四重奏曲の全曲演奏を果たした。また2021年3月マイスター・ミュージックより新譜『アート・オブ・ヴィオラ』をリリース。

現在、京都市交響楽団ソロ首席ヴィオラ奏者、現在東京都交響楽団特任首席ヴィオラ奏者。東京音楽大学教授、桐朋学園大学非常勤講師として後進の育成にも力を注いでいる。第30回有馬賞、令和2年度京都市文化功労者受賞。

### 出演公演

2024年3月28日[木]19:00 東京文化会館 小ホール  
都響メンバーによる室内楽 ヴィオラアンサンブル



## 田原綾子（ヴィオラ）Ayako Tahara

第11回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞、第9回ルーマニア国際音楽コンクール弦楽器部門第1位併せて全部門最優秀賞、ルーマニア国立ラジオ局賞を受賞。

国内外でソロリサイタルが定期的に行われており、ソリストとして読売日本交響楽団、東京都交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー管弦楽団等と共演。室内楽奏者としても国内外の著名なアーティストと多数共演し、オーケストラの客演首席も務めるなど、活躍の幅を広げている。現代音楽にも意欲的に取り組んでおり、新作の委嘱や世界、日本初演も数多い。

第23回ホテルオークラ音楽賞受賞。

TV朝日「題名のない音楽会」、NHK-BS「クラシック音楽館」、NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」、宮崎国際音楽祭、武生国際音楽祭、東京・春・音楽祭、サントリーホールチェンバーミュージックガーデン、国際音楽祭 NIPPON 等に出演。

桐朋学園大学を卒業後、パリ・エコールノルマル音楽院、桐朋学園大学大学院、デトモルト音楽大学をそれぞれ首席で修了。藤原浜雄、岡田伸夫、ブルーノ・パスキエ、ファイト・ヘルテンシュタインの各氏に師事。

サントリー芸術財団より Paolo Antonio Testore を貸与されている。

Music Dialogue Artist、アンサンブル of トウキョウ、エール弦楽四重奏団、ラ・ルーチェ弦楽八重奏団、Trio Rizzle のメンバーとして活躍中。

## 出演公演

2024年3月29日[金]19:00 東京文化会館 小ホール

シヨスタコーヴィチの室内楽



## 玉井菜採（ヴァイオリン）Natsumi Tamai

京都生まれ。桐朋学園大学在学中に、プラハの春国際音楽コンクールヴァイオリン部門に優勝、併せて審査委員長特別賞を受賞。東儀祐二、小國英樹、久保田良作、立田あづさ、和波孝禧らの諸氏に師事。桐朋学園卒業後、アムステルダム・スヴェーリンク音楽院にてヘルマン・クレバース氏に、また、ミュンヘン音楽大学マイスタークラスにてアナ・チュマチェンコ氏に師事。この間、J・S・バッハ国際コンクール最高位をはじめ、エリザベート王妃国際音楽コンクール、シベリウス国際ヴァイオリンコンクールなど、数々のコンクールに優勝、入賞している。また、平成14年度文化庁芸術祭新人賞、平成20年度京都府文化賞奨励賞など数々の賞を受賞。

これまでに、ロシアナショナル管弦楽団、ベルギー放送交響楽団、ヘルシンキフィル、スロヴァキアフィル、NHK交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団など、国内外のオーケストラと共演。ヨーロッパ各地、国内においてリサイタルを行い、室内楽奏者としての信頼も厚い。また紀尾井ホール室内管弦楽団のコンサートマスター、東京クライスアンサンブルのメンバー、アンサンブル of トウキョウのソロヴァイオリニストとして、幅広く活躍している。東京藝術大学音楽学部教授。使用楽器は東京藝術大学所蔵の“Stradivarius” Ex-Park” (1717年)

## 出演公演

2024年4月6日[土]15:00 東京文化会館 小ホール

小林海都（ピアノ）と仲間たち



## ボグダン・タロシュ（バス）Bogdan Talos

シリアス・バスのレパートリーにおいて最も重要な若手を代表する一人であり、国際的にもますます引く手あまたのアーティストである。

2023/24年シーズン開幕、《ドン・ジョヴァンニ》レポレッコでパリ・オペラ座に再登場。

《リゴレット》モンテローネ伯爵ではコヴェント・ガーデンのロイヤル・オペラ・ハウスにデビューを飾る。ホームグラウンドであるデュッセルドルフ/デュースブルクのライン・ドイツ・オペラでは、2つの新制作に役デビューする。《セビリアの理髪師》バジリオと《さまよえるオランダ人》ダーラントである。加えて、《エフゲニー・オネーギン》グレーミンと《ドン・カルロ》フィリッポ2世でも出演する予定。

近年の主な出演としては、《リゴレット》モンテローネと《トゥーランドット》役人でパリ・オペラ座にデビュー、デュッセルドルフで《青ひげ公の城》青ひげに役デビュー、《フィガロの結婚》フィガロでハンブルク州立歌劇場にデビューした他、ドレスデン・ゼンパーオーパーで《夢遊病の女》ロドルフォ伯爵と《オルフェオ》カロンテを歌った。

ライン・ドイツ・オペラにおける重要な役としては、《ドン・カルロ》フィリッポ2世、《マクベス》バンコー、《アイダ》エジプト王、《清教徒》ジョルジョ・ヴァルトン卿、《マリア・ストゥアルダ》ジョルジョ・タルボ、《ランメルモールのルチア》ライモンド、《チェネレントラ》アリドーロ、《ロメオとジュリエット》ロラン神父、《ドン・ジョヴァンニ》



レポレッコ、《フィガロの結婚》フィガロ、《魔笛》ザラストロ、《ラインの黄金》ファーンホルト等がある。

クルジュ＝ナポカのゲオルゲ・ディマ音楽アカデミーで学び、05年に卒業。10年以降は、数々の権威ある声楽コンクールで入賞を果たしている。10年には、ドニゼッティ《ドン・パスクワーレ》でオペラ・デビュー。その後、11年に《ラ・ボエーム》コッリーネとシヨナール、12年に《カルメン》エスカミーリョと《イル・トロヴァトーレ》フェルランドをルーマニア各地の歌劇場で演じ、ザラストロでオーストリアのザンクト・マルガレーテン音楽祭に客演した。ベルリン・コーミッシェ・オーパーには、オペラ研修所のメンバーでもあったため、その後も定期的に出演している。

コンサート・レパートリーとしては、モーツァルト、ヴェルディ、ブラームスのレクイエムやベートーヴェンの交響曲第9番等がある。

#### 出演公演

2024年4月11日[木]18:30/14日[日]14:00 東京文化会館 大ホール

東京春祭プッチーニ・シリーズ vol.5 《ラ・ボエーム》(演奏会形式/字幕付)



### 辻本 玲 (チェロ) Rei Tsujimoto

7歳よりチェロを始める。11歳まで米国フィラデルフィアで過ごし、東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業(アカンサス音楽賞受賞)。その後ロームミュージックファンデーションより奨学金を得て、シベリウス・アカデミー(フィンランド)、ベルン芸術大学(スイス)に留学。2003年、第72回日本音楽コンクール第2位、併せて聴衆賞受賞。2007年度青山音楽賞新人賞受賞。2006年、2007年、ヴァイオリニスト五嶋みどり氏が主催する「Community Engagement Program」に参加し、世界各地で共演。2009年、第2回ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第3位入賞(日本人最高位)、併せて日本人作品最優秀演奏賞を受賞。2011年にサントリーホール他5大都市でデビュー・リサイタルを開催。2013年、第12回齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。ソロ活動と並行して、サイトウ・キネン・オーケストラや東京・春・音楽祭へ参加するほか、チェロ四重奏団「クアルテット・エクスプローチェ」、「ひばり弦楽四重奏団」、水戸芸術館・新専属楽団「カルテットAT水戸」などの室内楽にも多数参加。2016年に別府アルゲリッチ音楽祭にてワディム・レーピンと共演するなど実力派チェリストとして高い評価を得ている。2019年にソロCD『オブリヴィオン』をリリースしレコード芸術誌にて特選盤に選出。

これまでに、NHK交響楽団、東京交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団、ロシア国立交響楽団、ベルリン交響楽団等と共演。メタ・ワッツ、オランダ・コール、川元適益、上村昇、山崎伸子、アルト・ノラス、アントニオ・メネセスの各氏に師事。

使用楽器はNPO法人イエロー・エンジェルより1730年製作のアントニオ・ストラディヴァリウスを、弓は匿名のコレクターよりTourteを、特別に貸与されている。

現在、NHK交響楽団首席チェロ奏者を務める。

公式サイト <http://www.rei-tsujimoto.com>

#### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00 東京文化会館 小ホール

N響メンバーによる室内楽





## 津田裕也 (ピアノ) Yuya Tsuda

仙台市生まれ。東京藝術大学、同大学院修士課程を経て、ベルリン芸術大学で学ぶ。07年仙台国際音楽コンクールにて第1位、および聴衆賞、駐日フランス大使賞を受賞。11年ミュンヘン国際コンクール特別賞受賞。

ソリストとしてベルリン交響楽団、東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、広島交響楽団、大阪交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団、神戸市室内管弦楽団、ドイツ室内管弦楽団等と共演。東京・春・音楽祭、仙台クラシックフェスティバル、武生国際音楽祭、木曽音楽祭などに定期的に招かれる。室内楽活動にも積極的で、多くの著名な音楽家と共演を重ねる。特に、白井圭 (ヴァイオリン)、門脇大樹 (チェロ) とはトリオ・アコードを結成し、国内各地で演奏。20年にはベートーヴェンを収録したトリオ初のCDをリリースし、絶賛される。

パスカル・ドヴァイヨン、ガブリエル・タッキーノ、ゴールドベルク山根美代子、角野裕、渋谷るり子の各氏に師事。東京藝術大学准教授。

### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00 東京文化会館 小ホール  
N響メンバーによる室内楽



## ディオティマ弦楽四重奏団 Quatuor Diotima

ユン・ペン・ジャオ、レオ・マリリエ (ヴァイオリン)  
フランク・シュヴァリエ (ヴィオラ)  
アレクシス・デシャルム (チェロ)

1996年、パリ国立高等音楽院を卒業したメンバーで結成された、いま世界で非常に高い人気を持つ弦楽四重奏団である。

「ディオティマ」という名は、音楽的に二重の意味を想起させるものだ。一つ目はドイツのロマン主義への寓意で、ドイツの詩人ヘルダーリンが『ヒュペリオン』に登場するヒロインにこの名を与えている。そしてルイジ・ノーノが弦楽四重奏曲《断章=静寂、ディオティマへ》で現代音楽への決起の叫び声をあげた。

ピエール・ブーレーズ、ヘルムート・ラッヘンマンなど20世紀後半の偉大な作曲家たちと緊密な共同作業を行ってきた。また細川俊夫、ミロスラフ・スルンカ、アルベルト・ポサダス、マウロ・ランツァ、ジェラルド・ペソン、レベッカ・サンダース、トリスタン・ミュライユなど現代を代表する優れた作曲家たちに新作を委嘱してきている。

ベートーヴェン、シューベルト、新ウィーン楽派 (シェーンベルク、ベルク、ヴェーベルン)、ヤナーチェク、ドビュッシー、ラヴェル、バルトークなど、19世紀や20世紀の傑作にも新たな光を当てている。

ディスコグラフィも極めて豊富だ。近年の主なものとしてはベラ・バルトークの弦楽四重奏曲全集 (2019、ナイーヴ)、新ウィーン楽派作品集 (2016、ナイーヴ) などがある。2016年には『ディオティマ・コレクション』を始動させ、現代の主要な作曲家作品を採り上げてきた。2021年はジェラルド・ペソン、エンノ・ポッペ、ステファノ・ジェルヴァゾーニ、そしてマウリシオ・ソテロの4人の録音をリリースした。

ペンタトーンレーベルとの新たなコラボレーションの始まりとして、2023年のジェルジ

ユ・リゲティ生誕 100 周年にあたりリゲティに捧げたアルバムをリリースする。グラモフォン誌が「このディスクはこのさき長くリゲティの弦楽四重奏曲の決定盤となるだろう」などと絶賛を浴びた。

2019 年から 21 年までラジオ・フランスのレジデント・アーティストを務めた。これは弦楽四重奏団としては史上初めてのことであった。

またサントル＝ヴァル・ド・ロワール地方で 14 年間にわたりレジデントを務めた後、現在はグラン・エスト地方を新たな拠点としている。ドイツとスイスとの強い文化的つながりはレパートリーやヨーロッパのパートナーたちに影響を及ぼしている。このレジデンスにおいては、若手作曲家や弦楽四重奏団を招聘するシテ・ミュージカル・メツと提携し教育分野を発展させている。加えてストラスブールでの室内楽シリーズ、あるいはミレクルのエコール・ナショナル・ド・リュウテリエでの教育レジデンスを通じ、室内楽、弦楽四重奏というジャンルの存在感を地域全体において高めている。

若手アーティストの指導や育成にも積極的で、エクサンプロヴァンス音楽祭アカデミーにおけるアソシエート・アーティストやシカゴ大学のアーティスト・イン・レジデンスを務めているほか、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、パリ国立高等音楽・舞踊学校、レッジョ・エミリアのカーデ・デル・クアルテット、そしてヨーク大学においてマスタークラスを開いている。

世界有数のホールやコンサート・シリーズに定期的に出演しており、今シーズンはジョージア、アルメニア、アゼルバイジャンをツアーし、エルンスト・フォン・ジームス音楽財団の 50 周年記念コンサートにも呼ばれている。

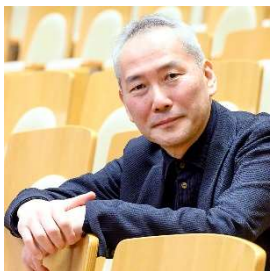
ベルリンのピエール・ブレーズ・ザール、ロンドンのキングス・プレイス、ブリュッセルのボザール、シュトゥットガルトのリーダーハレ、マドリッド芸術協会、ルクセンブルク・フィルハーモニー、フィレンツェ・アミーチ・デッラ・ムジカ、ハンブルクのエルプフィルハーモニーなどでふたたび演奏する。2024 年の春には日本、韓国、そして中国へもツアーする。またパリ・フィルハーモニー管弦楽団ではオーガスタ・リード・トーマスおよびマルク・モネの新作を演奏する。

フランス文化省およびグラン・エスト地域圏の助成を受けているほか、SACEM、アンステイチュ・フランセ、スペディダム、アダミ、および個人の篤志家からの支援を受けている。また PROFEDIM、Futurs Composés、FEVIS のメンバーである。

#### 出演公演

2024 年 4 月 6 日 [土] 14:00 東京藝術大学奏楽堂（大学構内）

ディオティマ弦楽四重奏団



#### 寺嶋陸也（指揮／ピアノ）Rikuya Terashima

1964 年生まれ。東京藝術大学音楽学部作曲科卒、同大学院修了。オペラシアターこんにゃく座での活動や、97 年東京都現代美術館でのポンピドー・コレクション展開催記念サティ連続コンサート「伝統の変装」、03 年パリ日本文化会館における作品個展「東洋・西洋の音楽の交流」などは高く評価され、06 年にはタングルウッド音楽祭に招かれボストン交響楽団のメンバーと自作を含む室内楽を演奏した。作曲、ピアノ演奏のほか、東京室内歌劇場やびわ湖ホールのオペラ公演の指揮など、活動は多方面にわたる。オペラ《あん》《グスコブドリの伝記》《ヒト・マル》《ガリレイの生涯》《末摘花》、合唱オペラ《そして旅に出た》、合唱劇《星の王子さま》、《尺八・二十絃箏と管弦楽のための協奏曲》、合唱のための《詩篇第 49 番》《沖縄のスケッチ》、オーボエ・三味線と打楽器のための《異郷の景色》、古代復元楽器のための《大陸・半島・島》など作品多数。

『大陸・半島・島／寺嶋陸也作品集』(ALCD9026)、『二月から十一月への愛のうた(栗山文昭の芸術 2／寺嶋陸也作品集)』(VICS61092)『寺嶋陸也 plays 林光』(NARD5034)『寺嶋陸也ピアノリサイタル〜シューベルト 3 大ソナタを弾く〜』(NARC2129~30) など、多くのCDがある。

お茶の水女子大学文教育学部非常勤講師。

#### 出演公演

2024年3月28日[木]14:00 東京文化会館 小ホール

にほんのうた XIII ~東京オペラシンガーズ



### 東京オペラシンガーズ (合唱) Tokyo Opera Singers

東京オペラシンガーズ(合唱)1992年、小澤征爾指揮、蜷川幸雄演出で話題を呼んだ《さまよえるオランダ人》の公演に際して、世界的水準のコーラスをという小澤氏の要請により、東京を中心に活躍する中堅、若手の声楽家によって組織された。当公演の合唱は圧倒的な成果を上げ、各方面から絶賛を受けた。その評価により同年、第1回サイトウ・キネン・フェスティバル松本《エディプス王》、バイエルン国立歌劇場日本公演《さまよえるオランダ人》(W. サヴァリッシュ指揮)に招かれ、再び高い評価を得た。翌1993年から活動は本格化し、サイトウ・キネン・フェスティバル(現セイジ・オザワ 松本フェスティバル)、東京・春・音楽祭等を活動の中心に置く他、キーロフ歌劇場管弦楽団(B. ゲルギエフ指揮)、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団(Y. テミルカーノフ指揮)、バルセロナ交響楽団(大野和士指揮)、イタリア国立放送交響楽団等の来日公演に出演、音楽界の活性化に大きく貢献することとなった。1998年には長野冬季オリンピック開会式において、世界6カ国を結ぶ《第九》合唱で、中心となる日本側の演奏を担当した。1999年にはヨーロッパの代表的音楽祭の一つであるエディンバラ音楽祭に出演(東急文化村制作《トゥーランドット》)、最大級の賞賛を得た。2000/01年ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と共演(小澤征爾、S. ラトル指揮)、同楽団からも高い評価を得た。東京・春・音楽祭には、東京のオペラの森時代も含めて第1回から連続出演。2006年にヴェルディ《レクイエム》で共演したR. ムーティからも高い評価を得、以降2023年まで7回の共演をはたしている。東京春祭では他にワーグナー・シリーズ、プッチーニ・シリーズ、合唱の芸術シリーズの合唱も担当、2011年には主要メンバーによる「にほんのうた」シリーズを開始。また2011年4月11日、大震災一月後に急きょ開催されたZ. メータ指揮《第九》(東日本大震災被災者支援チャリティーコンサート)にも出演、当公演は大きな感動を呼んだ。2018年10月上海国際芸術祭、翌年3月上海交響楽団演奏会、2019年1月にはR. ムーティ指揮シカゴ交響楽団来日公演に出演。2020年1月北京国際芸術祭「相約北京」に出演。

#### 出演公演

2024年3月27日[水]/30日[土]15:00 東京文化会館 大ホール

東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.15

《トリスタンとイゾルデ》(演奏会形式/字幕付)

2024年3月28日[木]14:00 東京文化会館 小ホール

にほんのうた XIII ~東京オペラシンガーズ

2024年4月11日[木]18:30/14日[日]14:00 東京文化会館 大ホール

東京春祭プッチーニ・シリーズ vol.5 《ラ・ボエーム》(演奏会形式/字幕付)

2024年4月13日[土]14:00 東京文化会館 大ホール

東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol.11 ブルックナー 《ミサ曲第3番》



## 東京交響楽団 (管弦楽) Tokyo Symphony Orchestra

1946年、第二次世界大戦によって中断された音楽文化の再建と、新しい舞台音楽の公演を目標に「東宝交響楽団」として創立。1951年に「東京交響楽団」に改称し、現在に至る。歴代の指揮者陣には、往年の名指揮者アルヴィド・ヤンソンス、近衛秀麿や上田仁らが名を連ね、外来音楽家が珍しかった1950年代から世界的な演奏家と数多く共演する。指揮者ではマゼール、ヨッフム、フルネ、カザルス、独奏者ではバックハウス、オイストラフ、ケンプ、ロストロポーヴィチらを迎え、聴衆を魅了してきた。

現代音楽やオペラの初演に定評があり、主な作品には1940～50年代にかけてのショスタコーヴィチ「交響曲第7番～第12番」の日本初演、武満徹「弦楽のためのレクイエム」(1957年、委嘱初演)、シェーンベルクの歌劇《モーゼとアロン》(1994年、邦人初演、演奏会形式)、ラッヘンマンのオペラ《マッチ売りの少女》(2000年、日本初演、演奏会形式)、黛敏郎のオペラ《古事記》(2001年、日本初演、演奏会形式)、アダムズ《エル・ニーニョ》(2003年、日本初演)とオペラ《フラワリングツリー\*花咲く木》(2008年、日本初演、セミ・ステージ形式)、ヘンツェのオペラ《ルプパ》(2007年、日本初演、演奏会形式)、ヤナーチェク・オペラシリーズがある。これらの活動により、現代音楽やオペラの初演に定評があり、これまでに文部大臣賞、京都音楽賞大賞、文化庁芸術作品賞、モービル音楽賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞など日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。

2014年シーズンより第3代音楽監督に就任したジョナサン・ノットとともに、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。2017年より3年がかりで取り組んだ「モーツァルト 演奏会形式オペラシリーズ」に続き2022年「R.シュトラウス コンサートオペラシリーズ」第1弾の《サロメ》は音楽の友誌「コンサート・ベストテン2022」で日本のオーケストラとして最高位に選出されるなど各メディアで絶賛された。

2019年には音楽監督ジョナサン・ノット指揮『マーラー：交響曲第10番&ブルックナー：交響曲第9番』が第31回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「優秀録音作品賞」を、翌2020年には第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「オペラ・オーケストラ部門」「室内楽・合唱部門(東響コーラス)」をW受賞した。

ITへの取り組みにも積極的で、「VRオーケストラ」や電子チケットの導入、日本のオーケストラとしてはじめて音楽・動画配信サービス『TSO MUSIC&VIDEO SUBSCRIPTION』をスタートしたほか、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。2021年3月文化庁委託事業「文化芸術収益力強化事業」では代表幹事団体として、全国のプロオーケストラとともにチームラボボードレスでの新感覚コンサートを開催、プロオーケストラとして初めて電子チケットを導入した。

録音においては、TOKYO SYMPHONY レーベル『シューベルト交響曲集(指揮=ユベール・スダーン)』をはじめ、EXTON レーベル『ショスタコーヴィチ：交響曲第5番(指揮=ジョナサン・ノット)』、N&F レーベル『ブルックナー：交響曲第7番、第8番(指揮=ユベール・スダーン)』、キングレコード、日本コロムビア等から多数のCDをリリース。映画やテレビでの演奏も数多く、中でもテレビ朝日「題名のない音楽会」は、1964年の番組開始時よりレギュラー出演している。

舞台芸術創造活動活性化事業として文化庁の助成を受け、サントリーホール、ミューザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、2004年からは川崎市のフランチャイズオーケストラとして定期演奏会や特別演奏会、音楽鑑賞



教室や市内施設への巡回公演などのコミュニティ活動を実施している。これらが高く評価され、2013年に川崎市文化賞を受賞。2020年には「マッチングギフトコンサート」が川崎市の支援のもと開催され、自治体とオーケストラによる前例のない取組が注目を集めた。また、新潟市では1999年より準フランチャイズ契約のもと、定期演奏会や「わくわくキッズコンサート」、学校や病院で室内楽演奏を行い、コンサートやアウトリーチなどを積極的に展開している。これら地域に密着した活動の一方で、海外においてもウィーン・楽友協会での公演（2016年）、日中平和友好条約締結40周年記念公演（2018年）等これまで58都市78公演を行い、国際交流の実を挙げてきた。

また、新国立劇場では1997年の開場時からレギュラーオーケストラとしてオペラ・バレエ公演を担当。さらに、子どものための演奏会にもいち早く取り組んでおり、「0歳からのオーケストラ」（2007年～）が“次世代への音楽文化の伝承に多大に寄与している”として、2010年にひまわり褒章を受賞。サントリーホールとの共催による「こども定期演奏会」（2001年～）は、日本で初めての“子どものための定期演奏会”という、その斬新な発想が多方面から注目されている。

2022年6月より、理事長に松竹株式会社取締役常務執行役員の岡崎哲也を迎え、澤田秀雄会長、依田巽、平澤創両副理事長での体制に移行した。第3代音楽監督にジョナサン・ノット、桂冠指揮者に秋山和慶、ユベール・スダーン、正指揮者に原田慶太楼、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。

#### 出演公演

2024年4月11日[木]18:30/14日[日]14:00 東京文化会館 大ホール  
東京春祭プッチーニ・シリーズ vol.5 《ラ・ボエーム》（演奏会形式／字幕付）



### 東京少年少女合唱隊（児童合唱）The Little Singers of Tokyo

ヨーロッパの伝統音楽に基づく音楽教育を目的とする日本初の本格派合唱団として1951年設立。グレゴリオ聖歌から現代作品までレパートリーは幅広く、同声から混声の合唱作品までをカバーする。松平頼暁、一柳慧、細川俊夫等への委嘱作品も多く手掛ける。6歳からの基礎クラスと15歳から19歳までの演奏グループ「コンサートコア」の他、混声合唱作品に対応する「カンマーコア」まで幅広い年齢構成で活動している。年2回の定期公演の他、1964年の訪米以来海外公演は33回を数える。国内外のオーケストラ、オペラ劇場との共演も多く、C.アバド指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめR.ムーティ、F.ルイーゼとの共演では高い評価を得た。創立65周年プロジェクトではマカオとイタリアの各地で公演を実施。サン・ピエトロ大聖堂の新年ミサでフランシスコ・ローマ教皇のもと全世界の聖歌隊と共に平和祈願を捧げた。2021年に創立70周年を迎え、連続演奏会「70周年記念コンサートシリーズ2021-2023」を実施、最終公演を2023年7月9日にサントリーホールで開催した。

#### 出演公演

2024年4月11日[木]18:30/14日[日]14:00 東京文化会館 大ホール  
東京春祭プッチーニ・シリーズ vol.5 《ラ・ボエーム》（演奏会形式／字幕付）





## 東京都交響楽団 (管弦楽) Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

東京オリンピックの記念文化事業として1965年東京都が設立 (略称：都響)。

現在、大野和士が音楽監督、アラン・ギルバートが首席客演指揮者、小泉和裕が終身名誉指揮者、エリアフ・インバルが桂冠指揮者を務めている。また、ソロ・コンサートマスターを矢部達哉、コンサートマスターを山本友重が務めている。

東京文化会館、サントリーホール、東京芸術劇場での定期演奏会を中心に、小中学生への音楽鑑賞教室、青少年への音楽普及プログラム、多摩・島しょ地域での出張演奏、ハンディキャップを持つ方のための「ふれあいコンサート」や福祉施設での訪問演奏のほか、2018年からは、誰もが音楽の楽しさを体感・表現できる“サラダ音楽祭”を開催するなど、多彩な活動を展開。

CDリリースは、若杉弘、ガリー・ベルティエニ、エリアフ・インバルによる各『マーラー交響曲集』のほか、武満徹作品集などの現代日本管弦楽曲、交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』などのゲーム音楽まで多岐にわたる。

受賞歴に、「京都音楽賞大賞」（第6回）、インバル指揮「ショスタコーヴィチ：交響曲第4番」でレコード・アカデミー賞〈交響曲部門〉（第50回）、「インバル＝都響 新・マーラー・ツィクルス」で〈特別部門：特別賞〉（第53回）など。

「首都東京の音楽大使」たる役割を担い、これまで欧米やアジアで公演を成功させ、国際的な評価を得ている。

2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、《オリンピック讃歌》の演奏（大野和士指揮／録音）を務めた。

### 出演公演

2024年4月13日[土]14:00 東京文化会館 大ホール

東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol.11 ブルックナー 《ミサ曲第3番》



## 東京春祭オーケストラ (管弦楽) Tokyo-HARUSAI Festival Orchestra

今回の東京・春・音楽祭のために特別に編成されたオーケストラ。主要オーケストラメンバーを中心に、国内外で活躍する日本の若手演奏家によって構成されている。

### 出演公演

2024年3月23日[土]14:00/24日[日]14:00/28日[木]19:00

30日[土]14:00/31日[日]14:00

三井住友銀行東館ライジング・スクエア1階 アース・ガーデン

東京春祭 for Kids 子どものためのワーグナー

《トリスタンとイゾルデ》(バイロイト音楽祭提携公演)

2024年4月17日[水]/20日[土]14:00 東京文化会館 大ホール

《アイーダ》(演奏会形式／字幕付)



## 東京バレエ団 The Tokyo Ballet

1964年に創設、3年目の1966年にはモスクワ、レニングラードで公演を行い、ソビエト文化省（当時）より「チャイコフスキー記念」の名称を贈られた。創立以来一貫して、古

典の全幕作品から現代振付家の名作まで幅広いレパートリーを誇る。モーリス・ベジャール（《ザ・カブキ》《M》）、イリ・キリアン（《パーフェクト・コンセプト》）、ジョン・ノイマイヤー（《月に寄せる七つの俳句》《時節の色》）ら現代バレエ界を代表する三大振付家によるオリジナル作品を上演。またウラジーミル・ワシーリエフの《ドン・キホーテ》、ナタリヤ・マカロワの《ラ・バヤデール》、マッツ・エックの《カルメン》、ノイマイヤーの《ロミオとジュリエット》など、当代一流の振付家の作品をその指導により上演している。22のベジャール作品をレパートリーに持ち、モーリス・ベジャール・バレエ団とは兄弟カンパニーとして認められている。ダニエル・バレンボイム、ズービン・メータなど、巨匠指揮者との共演も果たした。

これまでに日本の舞台芸術史上始まって以来の35次786回の海外公演を行い、「日本の生んだ世界のバレエ団」として国内外で高く評価されている。33カ国156都市を巡り、とくにパリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、ポリショイ劇場、マリインスキー劇場などヨーロッパの名だたる歌劇場に数多く出演し絶賛を博した。

2015年8月には斎藤友佳理が芸術監督に就任。その後、2016年2月にはブルメイステル版《白鳥の湖》、2019年3月にはホームズ版《海賊》といった全幕作品のバレエ団初演を果たした。2019年10月には世界的振付家、勅使川原三郎による《雲のなごり》を世界初演し、この成果により令和元年度（第74回）文化庁芸術祭大賞を受賞。さらに2022年にはマカロワ版《ラ・バヤデール》の成果において令和四年度（第77回）の同賞を受賞した。

近年は、東京文化会館での「上野の森バレエホリデイ」、めぐろパーシモンホールでの「めぐろバレエ祭り」など、地域に根ざした活動にも力を入れ、幅広い観客に親しまれるバレエ作品の上演、普及活動を行っている。2023年は10月に金森穰振付《かぐや姫》世界初演を成功させ、続く11月には《眠れる森の美女》を新制作するなど精力的に活動を続けている。

#### 出演公演

2024年3月19日[火]19:00/20日[水・祝]16:00 東京文化会館 大ホール  
東京バレエ団 上野水香オン・ステージ



### 戸田弥生（ヴァイオリン）Yayoi Toda

1993年エリザベート王妃国際音楽コンクール優勝以来、日本を代表するヴァイオリニストの一人として、圧倒的な集中力による情熱的な演奏で聴く者を魅了している。

4歳からヴァイオリンを始める。85年第54回日本音楽コンクール第1位。桐朋学園大学音楽学部を首席で卒業し、92年アムステルダム・スウェーリンク音楽院に留学。これまでに、江藤俊哉、ヘルマン・クレバース、シャルル・アンドレ・リナル、ドロシー・ディレイの各氏ほかに師事。

日本の数多くのオーケストラはもとより、ニューヨーク・チェンバー、モスクワ・フィルハーモニー、プラハ・チェンバー、ハーグ・レジデンティ管弦楽団、スウェーデン放送交響楽団、ボン・ベートーヴェン・ハレ管弦楽団、北オランダ・フィルハーモニー、セント・マーティン・アカデミー管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー、ベルガモ室内オーケストラ、ドイツ・カンマー・フィルハーモニーなどに出演、小澤征爾、ユリー・シモノフ、シュロモ・ミンツ、ジャン・ジャック・カントロフ、アレキサンダー・シュナイダー、スタニスラフ・プーニン、ジャン・フルネ、ガリー・ベルティエニ、マルタ・アルゲリッチ、フランク・ブラレイ、アブデル・ラーマン・エル＝バシヤ、ジェラルド・コセラとも共演している。

94年、第4回出光音楽賞受賞。96年ニューヨークのジュリアード音楽院からディレイ・スカラシップを受け留学。97年にニューヨーク・デビューを果たし絶賛を博す。また、オランダの作曲家トリストラン・カーリス(1946~1996)からヴァイオリン協奏曲第2番(1995)を献呈され、アムステルダム・コンサートヘボウで初演。99年にカーネギー・リサイタル・ホールで室内楽を中心としたリサイタル「Yayoi and friends」を開催。2009年にはアジアにも活動の場を広げ、上海で室内楽や武漢交響楽団と共演、韓国でジェジュ音楽祭に出演。2010年は4月にオランダとスペインでのヴァイオリン・マスタークラスを、11月にピアノのヴァレリー・アフアナシェフとのデュオを東京および福井で行なった。デビュー20周年を迎えた2013年には、東京、大阪、神戸、福井にて、協奏曲、デュオ、無伴奏等で大好評を博した。2017年国際音楽祭 NIPPON、18年びわ湖クラシック音楽祭で演奏。東京・春・音楽祭にも定期的に出演している。19年8月にはフェリス女学院大学名誉教授宮本とも子氏とボストン他郊外の主要な教会で名器 C.B.Fisk オルガンとの共演を果たした。国内外のコンクール審査員としても招かれ、2005年にはエリザベート王妃国際音楽コンクールのヴァイオリン部門審査員を務めた。現在フェリス女学院大学音楽学部演奏学科教授、桐朋学園大学音楽学部非常勤講師。

CDは2002年録音の『バッハ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ&パルティータ全曲』、『20世紀 無伴奏ヴァイオリン作品集』などの無伴奏作品の他、珠玉の小品集『子供の夢』、エル＝バシヤとの『フランク：ソナタ、シューマン：ソナタ第2番』、『エネスク：ソナタ第3番、バルトーク：ソナタ第1番』。2022年4月には20年ぶりの再録音となる『バッハ：無伴奏全曲』をリリース。

使用楽器はシャコンヌ（カノン）所有のガールネリ・デル・ジェス（1728年製作）。

オフィシャルホームページ <https://yayoi-toda.com/>

#### 出演公演

2024年4月5日[金]18:30 旧東京音楽学校奏楽堂

戸田弥生（ヴァイオリン） & エル＝バシヤ



#### ルクサンドラ・ドノーセ（メゾ・ソプラノ）Ruxandra Donose

同世代で最も有名な歌手の一人であり、世界の主要なオペラハウスやコンサート・ホールで批評家や聴衆から高い評価を得ている。

特にモーツァルトとフランスのオペラ・レパートリーに定評があるが、近年はドイツのドラマティックなレパートリーにも取り組んでおり、サー・サイモン・ラトル指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団との《パルジファル》クンドリ、ウラディーミル・ユロフスキ指揮ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団との《ワルキューレ》ジークリンデやジュネーヴでの『指環』チクルスにおけるフリッカ、チューリッヒ歌劇場とウィーン国立歌劇場におけるマンフレート・トロヤーン《オレスト》エレクトラ、アダム・フィッシャー指揮バンベルク交響楽団との《青ひげ公の城》ユディット等で大成功を収めた。

2023/24年シーズンは、サンフランシスコ・オペラに戻ってクレマン・マオ＝タカーチ指揮により、カイヤ・サーリアホの非常に評判となったオペラ《イノセンス》ウェイトレスに出演。コンサートでは、カールスルーエ・バーデン州立劇場でゲオルク・フリッツュの指揮によりマーラーの交響曲第2番を演奏する。

最近の活躍としては、ダニエレ・ガッティ指揮により世界初演のジョルジオ・パティステッリ《ジュリアス・シーザー》カルプルニアでローマ歌劇場にデビュー、またグランジ・パーク・フェスティバルではジョセフ・カレヤとの共演で《ラ・ジョコンダ》ラウラに出演した。

主なコンサート出演としては、ヴァシリー・ペトレンコ指揮ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団とマーラー《大地の歌》、イリイチ・リヴァス指揮アイルランド国立交響楽団とワーグナー《ヴェーゼンドンク歌曲集》、カール＝ハインツ・シュテフェンス指揮イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団との《スペインの時》コンセプション等がある。

その他の最近の活動としては、マドリードのテアトル・レアルで《狂えるオランダ》アルチャーナ、ウィーン国立歌劇場でマルコ・アルトゥーロ・マレツィ演出による《オレスト》エレクトラ、ジュネーヴ大劇場でディーター・ドルン演出の『指環』チクルスにおけるフリッカに役デビュー、ウラディーミル・ユロフスキ指揮ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団と《ワルキューレ》ジークリンデ、アダム・フィッシャー指揮バンベルク交響楽団と《青ひげ公の城》、ルーアン歌劇場で《ノルマ》タイトルロール、ジュネーヴで新制作の《ノルマ》アダルジーザ、ブカレストのエネスク音楽祭とロイヤル・フェスティバル・ホールではウラディーミル・ユロフスキ指揮ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団によるエネスク《エディプス王》ジョカスタ、グランジ・パークで《ドン・カルロ》エボリ公女、モスクワのポリショイ劇場で《ロデリンダ》エドゥイジェ等がある。

さらにリヨンとパリで《セミラーミデ》アルサーチェ、ロイヤル・オペラ・ハウスとベルリン・ドイツ・オペラで《ナクソス島のアリアドネ》作曲家と《ドン・ジョヴァンニ》ドンナ・エルヴィーラ、イングリッシュ・ナショナル・オペラ（イギリス初演）とシンシナティで上演されたカリスト・ピエイト演出による《カルメン》、ジュネーヴで《ジェロルスタン女大公殿下》タイトルロール、ラヴィニア音楽祭でジェームズ・コンロン指揮シカゴ交響楽団と《イドメネオ》イダマンテ、バイエルン国立歌劇場、ポリショイ劇場、シンシナティ・オペラで《ばらの騎士》オクタヴィアン、ロサンゼルス・オペラとスポレートで《コジ・ファン・トゥッテ》ドラベツァ、パリ、ストラスブール、ミュルーズで新制作のヴィヴァルディ《ファルナーチェ》タミーリ、シアトルで《ファウストの劫罰》マルグリート等が挙げられる。

世界の一流オーケストラと共演し、コンサートでも引く手あまたとなっている。最近の主なコンサート出演としては、クリスティアン・マチュラル指揮ケルン WDR 交響楽団とジルベスター・コンサート、タングルウッド音楽祭でフィルハーモニア管弦楽団とベートーヴェンの交響曲第9番、ロイヤル・フェスティバル・ホールで演奏会形式によるワーグナー『指環』チクルスのジークリンデ、フィルハーモニア管弦楽団及びBBC スコティッシュ交響楽団と《クレオパトラの死》、エネスク音楽祭で《大地の歌》、BBC スコティッシュ交響楽団とモーツァルト《レクイエム》、ファビオ・ルイーダ指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団とヴェルディ《レクイエム》、リエージュ・フィルハーモニー管弦楽団のヨーロッパツアーで《夏の夜》、ロイヤル・フェスティバル・ホールでヤニック・ネゼ＝セガン指揮ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団とロッシーニ《スターバト・マーテル》、バービカンでジュゼップ・ポンス指揮ロンドン交響楽団と《スペインの時》、そしてウィグモア・ホールのローゼンブラット・リサイタル（シリーズ）等がある。

非常に高い評価を受けた《ファウストの劫罰》マルグリート役は、彼女のコンサート・キャリアの中でも特に目立っている。これまでにベルリン交響楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、トゥールーズとバレンシアのキャピトル国立管弦楽団、パリ管弦楽団、クリーヴランド管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、サンフランシスコ交響楽団、モントリオール交響楽団と共演しており、さらに同役でヴェルビエ音楽祭にもデビューした。

他に評判となった役としては、《ウェルテル》シャルロット（ロイヤル・オペラ・ハウス、ベルリン・ドイツ・オペラ）、チェネレントラ（グラインドボーン音楽祭、リエージュ、ベルリン・ドイツ・オペラ）、《ジュリオ・チェーザレ》セスト（ロイヤル・オペラ・ハウス、グラインドボーン、サンフランシスコ・オペラ、ウィーン国立歌劇場）、《ホフマン物語》ニクラウス（ロイヤル・オペラ・ハウス、メトロポリタン歌劇場、サンフランシスコ・オ

ペラ、パリ国立オペラ)、《ナクソス島のアリアドネ》作曲家 (ロイヤル・オペラ・ハウス、ベルリン・ドイツ・オペラ、フィラデルフィア)、《スペインの時》コンセプション (ロイヤル・オペラ・ハウス) 等があり、08年にはロサンゼルス・オペラで《ザ・フライ》を初演した。

最近の録音としては、《アルミニオ》(デッカ)、《タメルラーノ》(ナイーヴ)、再発見されたカルダーラのオペラ《惑星の調和》(ドイツ・グラモフォン) の他、初のソロ・アルバム『ロマンス』がある。さらなる録音には、シューベルト《セレナーデ》(フィリップス)、ジュゼッペ・シノーポリとドヴォルザーク《スターバト・マーテル》(ドイツ・グラモフォン)、ミヒャエル・ハラスとマーラー《大地の歌》(ナクソス)、セルジュ・チェリビダッケとバッハ《ロ短調ミサ曲》、ベーラ・ドラホシュとベートーヴェンの交響曲第9番 (ナクソス)、ベルラン・ド・ビリーと《フィガロの結婚》ケルビーノ (アルテ・ノヴァ)、《チェネレントラ》(DVD、オーパス・アルテ)、《エディプス王》(ナクソス)、ニコラエ・ブレタンの歌曲集 (ニンバス)、ヴィヴァルディ《ファルナーチェ》(EMI/ヴァージン) 等がある。

#### 出演公演

2024年3月27日[水]/30日[土]15:00 東京文化会館 大ホール  
東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.15  
《トリスタンとイゾルデ》(演奏会形式/字幕付)



### 戸原 直 (ヴァイオリン) Nao Tohara

東京都八王子市出身。

東京藝術大学音楽学部を卒業、同大学大学院を修了。リューベック音楽大学にてドイツ国家演奏家資格を取得。2012年第17回コンセール・マロニエ21弦楽器部門第1位。2016年バンフ国際弦楽四重奏コンクール(BISQ)にてCareer Development Awardsを受賞。

これまでにヴァイオリンを齋藤真知亜、漆原朝子、漆原啓子、徳永二男、E.ペレーニ、玉井菜採、堀正文、ダニエル・ゼベックの各氏に師事。ヴィオラを川崎和憲氏に師事。

現在、東京藝術大学管弦楽研究部非常勤講師、藝大フィルハーモニア管弦楽団コンサートマスター。紀尾井ホール室内管弦楽団、アンサンブル of トウキョウ、Ensemble FOVEのメンバー。Lemoned Quartet ヴィオラ奏者。また、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団などのオーケストラにもゲスト・コンサートマスターとして客演している。

#### 出演公演

2024年4月5日[金]19:00 東京文化会館 小ホール  
名手たちによる室内楽の極 (きわみ)



### 富永悠紀子 (ヴィオラ) Yukiko Tominaga

桐朋学園大学卒業後、ヴィオラに転向。桐朋オーケストラ・アカデミー研修課程修了。第84回横浜市長賞受賞。第34・36回霧島国際音楽祭受賞。井上道義指揮・オーケストラ・アンサンブル金沢と共演。ヴィオラを店村眞積氏、鈴木学氏に師事。現在、東京都交響楽団ヴィオラ奏者。



#### 出演公演

2024年3月28日[木]19:00 東京文化会館 小ホール  
都響メンバーによる室内楽 ヴィオラ・アンサンブル



### 富平安希子（ソプラノ）Akiko Tomihira

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程オペラ科修了。明治安田生命クオリティ・オブ・ライフの助成により渡独し、シュトゥットガルト州立音楽大学オペラ科を最優秀の成績で修了。2005年リヒャルト・ワーグナー協会奨学生。ヴィルトバート・インターナショナル・ベルカントコンクール第2位、聴衆賞受賞。

バイエルン州立劇場オペラ研修所で学び、同劇場において《ばらの騎士》《魔笛》《ヘンゼルとグレーテル》等出演。著名な共演者のもとで多くの研鑽を積む。また、ドイツ各地で《フィガロの結婚》スザンナ、《メリー・ウィドー》ヴァランシエンヌ等にも出演。

帰国後も、宮本亜門演出《魔笛》《金閣寺》への出演の他、《魔弾の射手》エンヒェン、《ナクソス島のアリアドネ》ナヤーデ、《後宮からの逃走》ブロンデ、《フィデリオ》マルツェリーネ等二期会オペラに数多く出演し好評を博す。

宗教曲、各コンサートにてソリストを務める他、ドイツリートなど歌曲の演奏においても定評がある。表情豊かな声質と華やかな舞台姿、卓越した演技力で活躍の場を広げている。近年では、21年6月日生劇場《ラ・ボエーム》ムゼッタ、8月二期会《ルル》タイトルロール、22年二期会《天国と地獄》ユリディスにて好評を博す。

24年1月二期会《椿姫》（富山・鳥取公演）ヴィオレッタで出演予定。

二期会会員

#### 出演公演

2024年4月7日[日]15:00 東京文化会館 大ホール  
ワーグナー『ニーベルングの指環』ガラ・コンサート

### 富平恭平（合唱指揮）Kyohei Tomihira

東京生まれ。東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。指揮を高関健、田中良和、小田野宏之の各氏に師事。群馬交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、千葉交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京ニューシティ管弦楽団、東京交響楽団を指揮している。洗足学園音楽大学ピアノ科非常勤講師。オペラでの活動が多く、多数の公演で副指揮者、合唱指揮者、コレペティトゥア、ピアニスト、プロンプターなどオペラに関わるあらゆる仕事をつとめている。

2006年4月から2010年3月まで東京二期会専属音楽スタッフとして活動し、2010年8月には新国立劇場音楽スタッフ、2019年4月には新国立劇場合唱団指揮者に就任。

#### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00/21日[日]15:00 東京文化会館 大ホール  
《エレクトラ》（演奏会形式／字幕付）





## 中 実穂 (チェロ) Miho Naka

京都市出身。5歳よりチェロを始める。桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程修了。2010年9月より渡独し、ベルリン芸術大学コンチェルトグザメン課程にて研鑽を積む。同大学にて国家演奏家資格取得後、2012年帰国。これまでにチェロを津田朝子、井上頼豊、松波恵子、山崎伸子、マルクス・ニコシュの各氏に師事。室内楽を毛利伯朗、岡山潔、山崎伸子、クアルテット・エクセルシオに師事。サントリーホール室内楽アカデミー第2期生。

第8回ビバホールチェロコンクール第4位、第77回日本音楽コンクールチェロ部門入選。平成17年日演連推薦・新人演奏会にて大阪フィルハーモニー交響楽団と共演。東京チェロアンサンブルメンバー。NHK交響楽団次席奏者。

### 出演公演

2024年4月6日[土]14:00 東京藝術大学奏楽堂 (大学構内)

ディオティマ弦楽四重奏団

2024年4月18日[木]19:00 東京文化会館 小ホール

N響メンバーによる室内楽



## 中島郁子 (メゾ・ソプラノ) Ikuko Nakajima

東京藝術大学卒業、在学中に安宅賞、卒業時に松田トシ賞を受賞。同大学院修士課程独唱科修了。イタリア・シエナ・キジアーナ音楽院夏期マスタークラス修了。文化庁海外派遣研修員としてミラノに留学し、ミラノ市立音楽院等で研鑽を積む。第72回日本音楽コンクール・オペラ部門第2位、ヴェルチェリ市第56回ヴィオッティ国際音楽コンクール声楽部門第3位、シエナ市第14回ロッカ・デッレ・マチエ国際声楽コンクール第2位、ガルダ湖にて第15回リッカルド・ザンドナーイ国際声楽コンクール・ザンドナーイ特別賞等、多数入賞。2001年びわ湖ホールにてヴェルディ没後100年記念公演《レクイエム》に出演。2004年イタリア・ラクイラ市にて、アブルッツォ州シンフォニーオーケストラ主催のジョイントリサイタルに出演。2012年ヴェルディ《ナブッコ》フェネーナにて二期会デビュー。同《イル・トロヴァトーレ》アズチェーナでも存在感を示した。その後も日生劇場《セビリアの理髪師》ロジーナ、《魔笛》侍女Ⅲ、新国立劇場《カルメン》メルセデス、《ジャンニ・スキッキ》チェスカ、二期会《蝶々夫人》スズキ、三部作《修道女アンジェリカ》公爵夫人／《ジャンニ・スキッキ》ツィータ、びわ湖ホール《ラインの黄金》フロスヒルデ、《ワルキューレ》フリッカ、《神々の黄昏》ワルトラウテ、藤原歌劇団 (共催：新国立劇場・二期会)《ランスへの旅》メリベアー夫人、藤沢市民オペラ《湖上の美人》マルコム等、数々の役を演じ、いずれも高い評価を得ている。また、A. バッティストーニ指揮《カヴァレリア・ルスティカーナ》、シャルル・デュトワ指揮《サロメ》など、著名指揮者との共演も多い。2020年にはNHKニューイヤーオペラコンサートに出演。2021年3月新国立劇場《ワルキューレ》シュヴェルトライテ、5月東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団《ニーベルングの指環》ハイライト特別演奏会～飯守泰次郎傘寿記念～公演がではフロスヒルデにて出演、続けて7月二期会《ファルスタッフ》クイックリー夫人、2022年3月藤沢市民オペラ《ナブッコ》フェネーナ、4月二期会《エドガール》ティグラナーナに出演し、7月びわ湖ホール オペラへの招待《ファルスタッフ》ではクイックリー夫人を好演。コンサートでは、バッハ《ロ短調ミサ》、モーツァルト《レクイエム》《ハ短調ミサ》、ロッシーニ《小荘厳ミサ曲》、ヴェルディ《レクイエム》、ベートーヴェン《第九》《ミサ・

ソレムニス》、ドヴォルザーク《スターバト・マーテル》、マーラー《復活》《大地の歌》《千人の交響曲》等で出演、深く美しい音色と豊かな音楽性で高い評価を得ている。二期会会員

#### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00/21日[日]15:00 東京文化会館 大ホール  
《エレクトラ》(演奏会形式/字幕付)

### 中野りな (ヴァイオリン) Lina Nakano

2004年生まれ、東京都出身。

3歳よりヴァイオリンを始め、桐朋学園大学音楽学部附属子供のための音楽教室にて森川ちひろに学ぶ。2015年よりザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学夏期国際音楽アカデミーにてポール・ロチェックの指導を受ける。2023年4月より桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ・コース及び、9月からはウィーン市立芸術大学にも在学。現在、辰巳明子、カルヴァイ・ダリボルに師事し研鑽を積む。ローム ミュージック ファンデーション 2023年度奨学生。

2014年、第68回全日本学生音楽コンクール東京大会(小学校の部)優勝、及び津田梅子記念音楽賞受賞。2015年若いヴァイオリニストのためのアルテュール・グリユミオー国際コンクール(ベルギー) カテゴリーA 第1位・グランプリ。2018年第72回全日本学生音楽コンクール(中学校の部)優勝。2019年第3回若い音楽家のためのモーツァルトコンクール(中国・珠海)優勝。2020年第7回アリオン桐朋音楽賞受賞。2021年第90回日本音楽コンクール優勝。併せて岩谷賞、レウカディア賞、鷲見賞、黒柳賞、増沢賞を受賞。

2022年第8回仙台国際音楽コンクールにおいて、史上最年少の17歳で優勝、及び聴衆賞を受賞し大きな注目を浴びる。

これまで、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、セントラル愛知交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、ザルツブルク・チェンバー・ソロイスト等と共演し、好評を得ている。

使用楽器：一般財団法人 ITOH より貸与されている1716年製のアントニオ・ストラディバリウス。

#### 出演公演

2024年3月23日[土]14:00 旧東京音楽学校奏楽堂  
中野りな(ヴァイオリン) & ルウオ・ジャチン(ピアノ)

### 中畑有美子 (ソプラノ) Yumiko Nakahata

昭和音楽大学卒業。ヴェネツィア国立音楽院修了。第42回イタリア声楽コンクールソ・ミラノ大賞受賞。細川久美子氏に師事。

2010年、昭和音楽大学オペラ《ピア・デ・トロメイ》のビーチェでデビュー以降、同公演にて《愛の妙薬》アディーナ、《コジ・ファン・トゥッテ》デスピーナ、《ドン・ジョヴァンニ》ドンナ・エルヴィーラに出演。また、海外でもフェニーチェ劇場において《絹のはしご》のジューリアでイタリアデビュー。

藤原歌劇団には、18年より文化庁文化芸術による子供の育成事業巡回公演《助けて、助けて、宇宙人がやってきた!》のエミリーで出演を重ね、21年日本オペラ振興会設立40周



年記念公演／藤原歌劇団公演《ジャンニ・スキッキ》のネッラで本公演デビューし高評を得る。22年《イル・カンピエッロ》ガスパリーナ、《コジ・ファン・トゥッテ》フィオルディリージで出演。

東京・春・音楽祭には、2023年R.ムーティ introduces 若い音楽家による《仮面舞踏会》のオスカルに出演するなど、今後の活躍が期待されている新進ソプラノ。

その他、《トゥーランドット》リユー、《ラ・チェネレントラ》クロリンダなどのオペラや、《メサイア》、ペルゴレージ《スターバト・マーテル》等のソプラノソロ、ゲームソングボーカル、インターネットラジオなど、クラシックジャンル以外にも活動の場を広げている。また、親子で楽しむクラシック名曲コンサートこどもオペラシリーズに様々な役で出演するなど、各方面で好評を得ている。

藤原歌劇団団員。昭和音楽大学非常勤講師。千葉県出身。

#### 出演公演

2024年4月7日[日]15:00 東京文化会館 大ホール

ワーグナー『ニーベルングの指環』ガラ・コンサート

2024年4月17日[水]/20日[土]14:00 東京文化会館 大ホール

《アイーダ》（演奏会形式／字幕付）



### 長原幸太（ヴァイオリン） Kota Nagahara

1981年、広島県呉市に生まれる。東京藝術大学附属音楽高等学校を卒業後、同大学に進学。その間、全額スカラシップを受け、ジュリアード音楽院に留学。92/93年と連続して全日本学生音楽コンクール全国第1位。94年ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリン・コンクール17歳以下の部第3位。98年、日本音楽コンクール最年少優勝。五嶋みどりレクチャーコンサートで奨励賞を受賞し、ニューヨークに招待され、同氏のレッスンを受ける。また、若い人のためのサイトウ・キネン室内楽勉強会で小澤征爾指揮のもとコンサートマスターやソリストを務め、サイトウ・キネン・オーケストラにも最年少で参加。12歳で東京交響楽団と共演したのを皮切りに、日本各地の主要オーケストラや、小澤征爾、岩城宏之、秋山和慶、ゲルハルト・ボッセといった名指揮者と共演。ソリスト以外にも室内楽奏者、オーケストラのゲストコンサートマスターとしても活躍。さらに、別府アルゲリッチ音楽祭、宮崎国際音楽祭、木津川やまなみ国際音楽祭等、各地の音楽祭にも出演。演奏を通じてのボランティア活動にも力を入れている。広島市長賞「広島フェニックス賞」、広島県教育長賞「メイプル賞」受賞、広島国際文化財団ヒロシマ・スカラシップ、広島ホームテレビ文化・スポーツ賞（最年少受賞）、東京藝術大学・福島賞等、受賞多数。これまでに村上直子、小栗まち絵、工藤千博、澤 和樹、ロバート・マンの各氏に師事。2004年9月、大阪フィルハーモニー交響楽団首席客演コンサートマスターに就任、06年4月～12年3月まで首席コンサートマスターを務め、14年10月より読売日本交響楽団コンサートマスターに就任。

#### 出演公演

2024年4月5日[金]19:00 東京文化会館 小ホール

名手たちによる室内楽の極（きわみ）





## 成田達輝（ヴァイオリン） Tatsuki Narita

ロン＝ティボー国際コンクール（2010）で第2位およびセサム賞受賞、エリザベート王妃国際音楽コンクール（2012）にて第2位およびイザイ賞受賞、仙台国際音楽コンクール（2013）で第2位受賞。その超絶技巧と詩情豊かな音楽性に、「パガニーニの再来」とフランス紙で評された。ペトル・アルトリヒテル、オーギュスタン・デュメイ、ピエタリ・インキネンなど著名指揮者および国内外のオーケストラと多数共演し高い評価を得るとともに、リサイタルやジャンルにこだわらない様々なアーティストとの室内楽においても圧倒的なテクニックと多彩な表現力を披露している。現代作曲家とのコラボレーションも積極的に行っている。2013年サントリー芸術財団サマーフェスティバルで成田が演奏した酒井健治作曲のヴァイオリン協奏曲《G線上で》は芥川作曲賞を受賞。2017年11月には一柳慧作曲のヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲を世界初演（チェロ：堤剛）。2022年9月には坂本龍一のヴァイオリンソナタを録音した他、カンブルラン指揮／読売日本交響楽団と演奏した一柳慧作曲《ヴァイオリンと三味線のための協奏曲》（世界初演）の公演は2022年度芸術祭大賞を受賞した。これまでに、澤田まさ子、市川映子、藤原浜雄、ジャン＝ジャック・カントロフ、スヴェトリン・ルセフ、フローリン・シゲティ、田中綾子の各氏に師事。リリースしたCDは『成田達輝デビュー！サン＝サーンス、フランク、フォーレ、パガニーニ』（ピアノ：テオ・フシュヌレ）海外での演奏活動も積極的に行っており、2018年、2019年には韓国平昌で行われた音楽祭に参加し、ソン・ヨルム、スヴェトリン・ルセフらと共演。2018年はミンスクで行われたユーリ・バシメット音楽祭にも参加している。ホテル・オークラ音楽賞、出光音楽賞、上毛芸術文化賞、道銀文化奨励賞受賞。使用楽器は、アントニオ・ストラディヴァリ黄金期の“Tartini”1711年製。（宗次コレクションより貸与）。

### 出演公演

2024年3月21日[木]19:00 東京国立博物館 法隆寺宝物館エントランスホール  
ミュージアム・コンサート 東博でバッハ vol.65 成田達輝（ヴァイオリン）



## 新倉 瞳（チェロ） Hitomi Niikura

桐朋学園大学音楽学部を首席で卒業、皇居桃華楽堂新人演奏会に出演し御前演奏を行う。その後スイスへ渡り、バーゼル音楽院ソリストコース・教職課程の両修士課程を最高点で修了。近年では第18回ホテルオークラ音楽賞、第19回（2020年度）齋藤秀雄メモリアル基金賞 チェロ部門受賞。現在はカメラータ・チューリッヒのソロ首席チェリストとしてスイスを拠点に活躍中、ソリスト、室内楽奏者として全国各地でリサイタル、オーケストラとの共演を重ね、司会、番組ナレーション、音楽劇、演奏家のためのドレス「M Maglie le casset」のプロデュース等、活動の幅を広げ音楽の素晴らしさを広く深く伝えようとする姿勢は多くの共感を集めている。2021年『11月の夜想曲～委嘱作品集』（世界初演／世界初録音）のCDをアールアンフィニ・レーベルよりリリース。使用楽器は、宗次コレクションよりMatteo Goffriller（1710年製）を貸与されている。

### 出演公演

2024年4月11日[木]19:00 東京国立博物館 法隆寺宝物館エントランスホール  
ミュージアム・コンサート 東博でバッハ vol.69 新倉 瞳（チェロ）



## 日橋辰朗 (ホルン) Tatsuo Nippashi

1988年生まれ、東京都出身。12歳からホルンを始める。2010年東京音楽大学卒業。第26回日本管打楽器コンクール第1位。及び特別大賞、審査員特別賞、東京都知事賞、文部科学大臣奨励賞を受賞。第80回日本音楽コンクール第1位。及び岩谷賞(聴衆賞)、E・ナカミチ賞を受賞。2007～2011年小澤征爾音楽塾オーケストラメンバー。木曾音楽祭、東京・春・音楽祭に出演。2019年読売日本交響楽団公演にてソリストを務める。ALEXANDER HORN ENSEMBLE JAPAN メンバー。マイスターミュージックよりCDをリリース。後藤照久、井手詩朗、水野信行の各氏に師事。日本フィルハーモニー交響楽団首席ホルン奏者を経て、現在、読売日本交響楽団首席ホルン奏者。紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。国立音楽大学、東京音楽大学非常勤講師。

### 出演公演

2024年3月26日[火]19:00 東京文化会館 小ホール  
東京春祭チェンバー・オーケストラ



## ルネ・パーペ (バス) René Pape

圧倒的な存在感と深くノブる響きの美声で世界を魅了するバス。

ドレスデン生まれ。1988年、在学中にベルリン国立歌劇場にデビューし、以降、同歌劇場の専属歌手として活躍。《フィデリオ》ロッコ、《トリスタンとイゾルデ》マルケ王、《ローエングリン》ハインリヒ国王、《ニュルンベルクのマイスタージンガー》ポグナーなどでバレンボイムの指揮のもと出演。ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤル・オペラ、ミラノ・スカラ座、シカゴ・リリック・オペラ、サンフランシスコ・オペラなど欧米の主要な歌劇場にも度々招かれており、とりわけニューヨークのメトロポリタン・オペラには多数登場し、マルケ王、ロッコのほか、《ドン・ジョヴァンニ》レポレッロ、《ファウスト》メフィストフェレスなどを歌い絶賛される。またバイロイト音楽祭、グラインドボーン音楽祭、ルツェルン音楽祭など、著名な音楽祭にも度々出演し、2019年のザルツブルク音楽祭では《シモン・ボッカネグラ》フィエスコを演じるなど、国際的な活躍を続ける。

コンサートやリサイタルの分野でも活躍しており、カーネギー・ホールなど世界各地のコンサートホールに登場。クリーヴランド管弦楽団、フィラデルフィア管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ボストン交響楽団などと共演している。録音も数多く、バレンボイム、コリン・デイヴィス、レヴァイン、ゲオルグ・ショルティ、アントニオ・パッパーノらとの共演によるCDをBMG、EMI、ドイツ・グラモフォン、テルデックなどのレーベルからリリース。2008年にドイツ・グラモフォンからリリースされたセバスティアン・ヴァイグレ指揮、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団(シュターツカペレ・ドレスデン)との初めてのソロ・アリア集のCDは、ドイツでのグラミー賞にあたるECHO賞を受賞しているほか、これまでにグラミー賞を2回受賞。2002年、ミュージカル・アメリカ誌の最優秀歌手賞を受賞。2007年1月にはオペラ・ニュース賞、2010年10月にはメトロポリタンオペラギルドよりMETマイスタージンガー称号を贈られたほか、2019年には欧州文化賞を受賞している。

近年は、ウィーン国立歌劇場での《ドン・カルロ》《パルジファル》《エレクトラ》《魔笛》、パリ国立オペラでの《ドン・カルロ》《ボリス・ゴドゥノフ》、ドイツ・ヴィースバーデン劇場、オペラ・バステューユ、ベルリン国立歌劇場での《トリスタンとイゾルデ》などがある。ベルリン国立歌劇場ではさらに、《ウィンザーの陽気な女房たち》《魔笛》、ニューヨークコンサートガラでのベートーヴェン《第九》などに出演している。

## 出演公演

2024年4月10日[水]19:00 東京文化会館 小ホール

東京春祭 歌曲シリーズ vol. 38

ルネ・パーペ (バス) & カミッロ・ラディケ (ピアノ)

2024年4月18日[木]19:00/21日[日]15:00 東京文化会館 大ホール

《エレクトラ》(演奏会形式/字幕付)



## ダニエル・ハイデ (ピアノ) Daniel Heide

ワイマール出身のピアニスト。引く手あまたのリート伴奏者であり、室内楽奏者である。ワイマール・フランツ・リスト音楽大学でルートヴィヒ・ベッツェルに師事、クリスタ・ルートヴィヒやディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウからはパイオニア精神を受け継いだ。

彼の広範なコンサート活動は、全ヨーロッパから多くのアジア諸国にまで及び、リート伴奏者や室内楽奏者として、定期的に著名な音楽祭に招かれている。例えば、シュヴァルツェンベルクとホーエネムスのシューベルティアードやヴィラベルトラン (スペイン) のシューベルティアード、エッパン・リートの夏音楽祭 (イタリア)、BBC エディンバラ国際フェスティバル (イギリス)、オックスフォード・リート・フェスティバル (イギリス) 等である。また、ヨーロッパの主要なコンサート・ホールにも客演しており、ベルリン、ケルン、パリのフィルハーモニーや、ウィーン・コンツェルトハウス、フランクフルト歌劇場、ロンドンのウィグモア・ホール、アムステルダム・コンセルトヘボウ、チューリッヒ・トーンハレ、マドリードのサルスエラ劇場、バルセロナのカタルーニャ音楽堂、コペンハーゲンのベルスサーレン、アントワープのデ・シンゲル、ヘントのデ・ベイローク音楽センター等が挙げられる。

これまでに共演した歌手には、アンドレ・シュエン、クリストフ・プレガルディエン、コンスタンティン・クリンメル、ユリアン・プレガルディエン、ジモーネ・ケルメス、カタリーナ・コンラーディ、パトリック・グラール、インゲボルク・ダンツ、ブリッタ・シュヴァルツ、ヨハネス・ヴァイサー、ローマン・トレーケル、ナタリー・ペレス、シェヴァ・テオヴァル等がいる。また、ギリシャ系ドイツ人のメゾ・ソプラノ歌手シュテラ・ドゥフェクシスともしばしば共演し、ドビュッシーの歌曲を収録したCD『ポエム』は、ドイツ・レコード批評家賞を受賞した。

ソナタ・リサイタルの伴奏者としては、タベア・ツィンマーマン、アンティエ・ヴァイトハース、ヴォルフガング・エマヌエル・シュミット、イェンス＝ペーター・マインツ、フリーデマン&アレクシア・アイヒホルン、アンドレアス・ヴィルヴォール、バルバラ・ブントロック、ユリアン・シュテッケル、イサン・エンダース、コンスタンツェ・フォン・グートツァイト、ブノワ・フロマンジェ、石坂団十郎、ユリア・ハーゲン、ハリエット・クリーフ、フランツィスカ・ヘルシャー等のソリストの他、マンデルリング四重奏団等と共演している。

2011年に、コンサート・シリーズ「歌曲サロン～エッタースブルク城のリートの日」を創設したことが、リート伴奏者としてのキャリアにとって重要なモチベーションとなった。すでにそこで90もの歌曲リサイタルを行っており、ピアノ伴奏者として数多くの著名な歌手たちと共演した。

演劇的な作品にも関心があり、クリスティアン・ブリュックナー、クラウス・マリア・ブランダウアー、トーマス・ティーム、ハンス・ツィッシュラー、マルクス・マイヤー、スカイ・デュモン、ウド・ザメル等の俳優とも共演している。

多忙なコンサートに加え、数え切れぬほどのCD録音がある。直近ではシューベルトの歌

曲集『白鳥の歌』を、アンドレアス・バウアー・カナバス (CAvi-Music、2023) とアンドレ・シュエン (ドイツ・グラモフォン、2022) とでリリースしている。またコンスタンティン・クリンメルとは、『リスト：歌曲集 Vol.2』 (CAvi-Music、2022) とシューベルトの歌曲集『美しき水車小屋の娘』 (Alpha、2023) を出しており、アンドレ・シュエンと共演したトーマス・ラルヒャー《Unerzählt》(世界初録音) を収録したアルバムは、ミュンヘンのECMレーベルからリリースされている。

20年3月からのコロナ禍の始まりとともに、ピアノ独奏曲のレパートリーに熱心に取り組むようになった。すでにリサイタルでは数え切れぬほど弾いてきたが、改めてベートーヴェンの32曲のピアノ・ソナタやシューベルトのソナタに焦点を当てた。その取り組みはまず2枚のベートーヴェンのピアノ・ソナタ集アルバム (CAvi-Music、2021/22) に結実している。

#### 出演公演

2024年4月12日[金]19:00 東京文化会館 小ホール

東京春祭 歌曲シリーズ vol.39

コンスタンティン・クリンメル (バリトン) & ダニエル・ハイデ (ピアノ)



### 萩谷金太郎 (ヴァイオラ) Kintaro Hagiya

東京都出身。東京音楽大学卒業。桐朋学園大学院大学を修了。ヴァイオリンを藤原浜雄に、ヴァイオラを百武由紀に、室内楽を上田晴子、岩崎洸の各氏に師事。パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌2011、カザルス国際音楽祭、アフィニス夏の音楽祭などに参加。京都市交響楽団契約楽員、NHK交響楽団アカデミーを経て、2017年より東京都交響楽団に所属。弦楽合奏団「石田組」メンバー。オーケストラや室内楽の他、スタジオレコーディングやライブサポート、作編曲など、多岐に渡って活動。

#### 出演公演

2024年3月28日[木]19:00 東京文化会館 小ホール

都響メンバーによる室内楽 ヴィオラ・アンサンブル



### 長谷川久恵 (児童合唱指揮) Hisae Hasegawa

東京少年少女合唱隊の芸術監督／常任指揮者。主催公演並びに海外公演を牽引する傍ら、国内外のオペラ・オーケストラの公演にてコーラスマスターを数多く歴任。混声合唱曲にも対応するグループ「カンマーコア」や「コールスLSOT」を組織し、幅広い演奏活動を展開。国内外の合唱コンクールの審査員や合唱祭などで講師を務める。

#### 出演公演

2024年4月11日[木]18:30/14日[日]14:00 東京文化会館 大ホール

東京春祭プッチーニ・シリーズ vol.5 《ラ・ボエーム》(演奏会形式／字幕付)





## マリアム・バッティステッリ（ソプラノ）Mariam Battistelli

エチオピア生まれのイタリア人ソプラノ歌手。マントヴァ音楽院“ルチオ・カンピアーニ”を優秀な成績で卒業した。

2010年、非常に若い年齢で『マントヴァのリゴレット』に小姓役で出演。これはアンドレア・アンダーマンの着想にもとづくイタリア国営放送（RAI）制作のテレビ映画で、ズービン・メータ指揮 RAI 国立交響楽団でプラシド・ドミンゴがタイトルロールを務め、世界同時中継された。

すでに一流の国際オペラ・コンクールで注目されており、ヴェローナのマリア・カラス国際コンクール（14年・第3位）、第4回フランカ・マッティウッチ国際声楽コンクール（15年・第3位）の他、なかでも17年の第16回オッターヴィオ・ジーノ国際オペラ・コンクールでは、第1位とともに聴衆賞を受賞した。

13～16年は、バレンシアのソフィア王妃芸術宮殿にある“プラシド・ドミンゴ”王立オペラ・スタジオに在籍した。17年、マスカット王立歌劇場のステイヴン・マーキュリオ指揮、ダヴィデ・リヴァーモア演出『ジ・オペラ！』世界初演でエウリディーチェ役を演じた。同年、マドリードのテアトロ・レアルにおけるガラ・コンサートでも歌った。18年、ウィーン国立歌劇場アンサンブルに加入し、20年夏まで在籍。《ラ・ボエーム》ムゼッタ、フンパーディンク《ヘンゼルとグレーテル》グレーテル、《魔笛》パミーナ等、多くの役を演じる機会を得た他、クリスティアン・ティーレマン、アダム・フィッシャー、スペランツァ・スカップッチ等、優れた指揮者とも共演した。ウィーンではそれ以外にも、アルマ・ドイチャー《シンデレラ》タイトルロール、《愛の妙薬》ジャンネッタ、《フィガロの結婚》バルバリーナ等、多くの公演に出演した。

最近の主な出演としては、オランジュ音楽祭の「ミュージック・アン・フェット」や、ミラノ・スカラ座、グラインドボーン音楽祭、トゥーロン歌劇場で《ラ・ボエーム》、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団とのモーツァルト《レクイエム》、グラインドボーンオペラ・ツアーでの《ドン・パスクワーレ》ノリーナ、マルティーナ・フランカのヴァッレ・ディトリア音楽祭でのスカルラッティ《グリゼルダ》等がある。23年の次のプロジェクトでは、グラインドボーン・オペラで《愛の妙薬》アディーナに役デビューする。

### 出演公演

2024年4月11日[木]18:30/14日[日]14:00 東京文化会館 大ホール

東京春祭プッチーニ・シリーズ vol.5 《ラ・ボエーム》（演奏会形式／字幕付）



## 林 康夫（ヴィオラ）Yasuo Hayashi

福岡市生まれ。6歳よりヴァイオリンを始める。全日本学生音楽コンクール西部地区高校の部第2位。ヴィオラに転向後、東京藝術大学卒業、同大学院修了。1992年東京都交響楽団に入団。これまでにヴァイオリンを太期晴子、岸邊百百雄、原田幸一郎、ヴィオラを菅沼準二、玉置勝彦の各氏に師事。現在はオーケストラだけでなく、室内楽やアマチュア・オーケストラのトレーナーなど活躍の場を広げている。

### 出演公演

2024年3月28日[木]19:00 東京文化会館 小ホール

都響メンバーによる室内楽 ヴィオラ・アンサンブル



## イノン・バルナタン (ピアノ) Inon Barnatan

—非凡な感受性を持つ演奏家だ— (アレックス・ロス ニュー Yorker 誌)

1979年テルアビブ生まれ。3歳でピアノを始め、11歳でオーケストラ・デビューを果たした。ヴィクトル・デレヴィアンコ、マリア・クルチョ、ロンドンの王立音楽院のクリストファー・エルトンに師事し、レオン・フライシャーの薫陶も受ける。現在、ニューヨーク在住。「同世代で最も優れたピアニストのひとり」(ニューヨーク・タイムズ紙)と評され、繊細な感受性、知的な音楽性、そして極めて高い芸術性が称賛されているピアニスト、イノン・バルナタン。ロンドンのウィグモア・ホール、サウスバンク・センター、ニューヨークのカーネギー・ホールなどでリサイタルを行うほか、チェロ奏者アリサ・ワイラースタインのリサイタル・パートナーを務めるなど室内楽にも積極的に取り組み、世界的ソプラノ歌手ルネ・フレミングとも共演している。世界の一流オーケストラとの共演も数多く、ニューヨーク・フィルハーモニック、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、NDR エルプフィルハーモニー管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団、ロサンジェルス・フィルハーモニック、クリーヴランド管弦楽団、フィラデルフィア管弦楽団、シカゴ交響楽団、サンフランシスコ交響楽団などと共演している。2009年エイヴリー・フィッシャー・キャリア賞、2015年リンカーン・センターよりマーティン・E・シガール賞を受賞。2014年シーズンより3年にわたり、ニューヨーク・フィルハーモニックの初代アーティスト・イン・アソシエーションを務めた。2019年7月にはカリフォルニアのラ・ホーヤ音楽協会が主催するサマーフェストの音楽監督に就任した。リリースしたCDはいずれも高く評価されており、シューベルトのソナタでは「生まれながらのシューベルトファン」(グラモフォン誌)と称賛され、ソロ・アルバム『ダークネス・ヴィジブル』はニューヨーク・タイムズ紙の「ベスト・オヴ2012」の1枚に選ばれた。アラン・ギルバート指揮アカデミー・オブ・セント・マーティン・イン・ザ・フィールズと収録したベートーヴェンのピアノ協奏曲全集もリリース。2021年11月には『The Time Traveler's Suite』(Pentatone)をリリース。

日本では、2016年1月、アラン・ギルバート指揮/東京都交響楽団に招かれ、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番を演奏、絶賛を博した。その結果、2017年4月にも招かれ、東京と大阪でラフマニノフのパガニーニ狂詩曲を共演。2018年6月には、東京でのデビューリサイタルを開催、絶賛を浴びた。

### 出演公演

2024年4月17日[水]19:00 東京文化会館 小ホール

イノン・バルナタン (ピアノ)



## エレナ・パンクラトヴァ (ソプラノ) Elena Pankratova

繊細な音楽性と卓越したテクニック、そして舞台上での圧倒的な存在感を兼ね備えた世界屈指のドラマティック・ソプラノ。

ロシアのエカテリンブルク生まれ。指揮とピアノを学んだ後、サンクトペテルブルク国立音楽院を卒業。歌手・俳優・声楽教師として活躍。イタリアとスペインの国際的な声楽コンクールで優勝後、故レナータ・スコットのもと研鑽を積み、イタリアオペラのレパートリーも広げる。

これまでに、ズービン・メータ、ワレリー・ゲルギエフ、キリル・ペトレンコ、クリスティアン・ティーレマン、セミヨン・ビシュコフ、ケント・ナガノ、ラルフ・ワイケルト、ピンカス・スタインバーグ、ハルトムート・ヘンヒェン、大野和士、シャルル・デュトワ、

シモーネ・ヤングなど、名だたる指揮者と共演している。ミラノ・スカラ座、マリインスキー劇場、ウィーン国立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、ボローニャ歌劇場、オランダ国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場など数多くの劇場で、《タンホイザー》ヴェーヌス、《ワルクューレ》ジークリンデ、《フィデリオ》レオノーレ、《イル・トロヴァトーレ》レオノーラ、《仮面舞踏会》アメリアなどで出演。またロッシーニ《スターバト・マーテル》、ショスタコーヴィチ《交響曲第14番》、マーラー《交響曲第2番》、《交響曲第8番》などシンフォニーの分野でも活躍。2019年には、東京・春・音楽祭に登場しシェーンベルク《グレの歌》トーヴェなどを歌い、聴衆から熱狂的な支持を受けた。

バイロイト音楽祭には、これまでに《パルジファル》クンドリヤ《ローエン格林》オルトルートで出演しており、18年にはバイロイト音楽祭やベルリン国立歌劇場での目覚ましい活躍が評価され、最優秀女性歌手としてオペラ賞 Casta Diva を受賞。

#### 出演公演

2024年4月7日[日]15:00 東京文化会館 大ホール

ワーグナー『ニーベルングの指環』ガラ・コンサート

2024年4月18日[木]19:00/21日[日]15:00 東京文化会館 大ホール

《エレクトラ》(演奏会形式/字幕付)



## Piano Duo Sakamoto

### 坂本 彩、坂本 リサ (ピアノ)

第70回ARD ミュンヘン国際音楽コンクールピアノデュオ部門において、日本人デュオとして初の第3位入賞・併せて聴衆賞を受賞。第7回国際ピアノデュオコンペティション(ポーランド)にて第1位及びパデレフスキ賞。第21回シューベルト国際ピアノデュオコンクール(チェコ)にて第1位を受賞するなど、国内外のコンクールにおいて入賞を重ねる。

2022年、日本センチュリー交響楽団定期演奏会において、久石譲作曲「Variation 57〜2台のピアノのための協奏曲〜」管弦楽版を作曲者自身による指揮のもと世界初演。同年、ハワード・グリフィス指揮・ウィーン放送交響楽団と、ジョナサン・ノット指揮・東京交響楽団とモーツァルト2台のピアノのための協奏曲 K.365 を共演。2023年九州交響楽団定期演奏会において、パスカル・ロフエ指揮のもとプーランク2台のピアノのための協奏曲を共演。さらに日本フィルハーモニー交響楽団、バイエルン放送交響楽団など、数々のオーケストラや奏者との共演のほか、日本とドイツを拠点に積極的な演奏活動を行っている。NHK「クラシック倶楽部」「ベストオブクラシック」「囲碁フォーカス」他、テレビや新聞などのメディアにも多数取り上げられている。

姉妹ともに東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程ピアノ科で学び、ドイツ国立ロストック音楽・演劇大学ピアノデュオ科修士課程を最優秀の成績で修了。現在、同大学の国家演奏家資格課程に在籍。

2020年よりFamilie-Rahe財団奨学生。2021年度ブルーノ・フライ音楽賞を受賞。

ピアノデュオを加藤真一郎、伊藤恵、オルジャ・チパーク&オレクシー・クシュニール、ハンス=ペーター シュテンツェル&フォルケル・シュテンツェルの各氏に師事。姉妹共に福岡県出身、日本棋院・囲碁三段。

#### 出演公演

2024年4月13日[土]14:00 旧東京音楽学校奏楽堂

坂本 彩 & 坂本 リサ (ピアノ・デュオ)



## 東 亮汰 (ヴァイオリン) Ryota Higashi

第 88 回日本音楽コンクール第 1 位、併せてレウカディア賞、鷺見賞、黒柳賞をはじめ受賞多数。

ソリストとして、NHK 交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、大阪交響楽団などと共演。

リサイタルや室内楽でも好評を博しており、ソヌ・イエゴン、清水和音、コンスタンチン・リフシツの各氏をはじめ、国内外の著名な演奏家と共演。

反田恭平氏がプロデュースする Japan National Orchestra コアメンバー (最年少)。

コンサートマスターやアシスタントコンサートマスターとして、読売日本交響楽団、東京交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団など、国内主要オーケストラへの客演も重ねている。NHK-FM「リサイタル・パッショ」、NHK-FM「粗品のクラシックためにならない話」、MBS ラジオ「反田恭平 Growing Sonority」、NHK 総合「チョコちゃんに叱られる」NHK 総合「うたコン」、NHK E テレ「クラシック TV」、テレビ朝日「題名のない音楽会」などメディア出演も多数。インターネットラジオ OTTAVA にてレギュラー番組「東亮汰 カプリチオーソ・ムジカ」のプレゼンターを務めている。

高崎芸術劇場 T-Shot シリーズとして、オクタヴィア・レコードより『東亮汰 IN CONCERT Recorded at Takasaki City Theatre 2022』をリリース。ユニバーサル ミュージックより『パッヘルベル：カノン』をリリース。ソロや室内楽、オーケストラなど幅広く、精力的に演奏活動を行なっている。桐朋学園大学音楽学部を首席で卒業。特待生として同大学大学院音楽研究科修士課程 2 年に在学し、辰巳明子氏に師事。これまでにヴァイオリンを森川ちひろ、室内楽を池田菊衛、磯村和英、岡本美智子、小池郁江、山崎伸子、若林顕の各氏に師事。

公益財団法人青山音楽財団 2018、2019 年度奨学生。公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション 2021、2022 年度奨学生。2019 年から 2 年間、一般財団法人 ITOH より 1716 年製 A. Stradivarius を貸与される。サントリーホール室内楽アカデミー第 6・7 期フェロー。CHANEL Pygmalion Days 2023 参加アーティスト。2023 年 4 月より NHK E テレにて放送されているアニメ「青のオーケストラ」の主人公の演奏を担当。ユニバーサル ミュージックよりメジャーデビューアルバム『Piacere』が 10 月 25 日に発売。

X(Twitter): @HigashiRyota\_V1

Instagram: eastviolin

### 出演公演

2024 年 4 月 5 日 [金] 19:00 東京文化会館 小ホール  
名手たちによる室内楽の極 (きわみ)



## 樋口雅世 (ヴィオラ) Masayo Higuchi

東京藝術大学音楽学部卒業、シンシナティ大学音楽院修士課程修了。藝大モーニングコンサート出演、同声会賞受賞。ジェラルディン・ジー国際基金ヴィオラコンクール第 1 位受賞。2003 年ライオネル・ターティス国際ヴィオラコンクール特別賞受賞。オレゴン交響楽団、シカゴ・グラントパーク音楽祭オーケストラを経て 2010 年より東京都交響楽団団員。

### 出演公演

2024 年 3 月 28 日 [木] 19:00 東京文化会館 小ホール  
都響メンバーによる室内楽 ヴィオラ・アンサンブル





## オッカ・フォン・デア・ダメラウ (メゾ・ソプラノ) Okka von der Damerau

ハンブルク出身。同世代を代表するメゾ・ソプラノの一人。リヒャルト・ワーグナーやジュゼッペ・ヴェルディのオペラでも、グスタフ・マーラーやアルノルト・シェーンベルクの歌曲でも、パワフルでニュアンス豊かなメゾ・ソプラノと明瞭で自然なディクションで、あらゆるキャラクターに本物の音色を感じ取り、聴衆と心を通わせる。

バルセロナ・リセウ大劇場での《仮面舞踏会》ウルリカ、ウィーン国立歌劇場の《ルサルカ》魔女、バイエルン国立歌劇場の《タンホイザー》ヴェーヌス等、様々なオペラ出演に加えて、2023/24年シーズンは、様々なオーケストラ・コンサートにも出演する。例えばミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団のドイツ国内外におけるコンサート・プロジェクトにいくつか参加したり、キリル・ペトレンコ音楽監督のもとバイエルン国立管弦楽団とマーラーの交響曲第8番を歌ったりする。

長年にわたってバイエルン国立歌劇場のアンサンブル・メンバーとして活動し、キリル・ペトレンコのもとで《神々の黄昏》ヴァルトラウテ、《ラインの黄金》及び《ジークフリート》エルダ、アロイス・ツィンマーマン《兵士たち》シャルロッテ等を演じた他、《イル・トロヴァトーレ》アズチーナでも名声を博した。

ミュンヘンから彼女の国際的なキャリアはスタートしている。2015年にデビューした後、23年夏にはミラノ・スカラ座でエマ・ダンテ演出の新制作《ルサルカ》の舞台に立っていた。さらに、パリ国立オペラ、ウィーン国立歌劇場、ナポリのサン・カルロ劇場、マドリードのテアトロ・レアル、ドレスデンのゼンパーオーパー、そしてバイロイト音楽祭等、世界的にも重要なオペラの舞台に定期的に出演している。

2022/23年シーズンにデビューした役は、高い評価を得た。2つの興味深い役によってレパートリーが広がった。すなわち、コルネリウス・マイスター音楽監督のもとシュトゥットガルト州立歌劇場で初めて歌った《ワルキューレ》ブリュンヒルデと、バイエルン国立歌劇場で大成功を収めてデビューした《ナクソス島のアリアドネ》タイトルロールである。彼女の広範なレパートリーにおけるもう一つの重要な役は、《トリスタンとイゾルデ》ブランゲーネである。17年にシモーネ・ヤング指揮バイエルン国立歌劇場でデビューした際には聴衆と報道陣から絶賛された。新制作において、同役で再び舞台に立ったのは21年ミュンヘンであり、この時はキリル・ペトレンコが音楽監督だった。同役は、パリ・オペラ座ではグスターボ・ドゥダメルによる指揮、またロサンゼルス・フィルハーモニックとは演奏会形式で共演している。

オペラでの様々な活動に加え、コンサートも彼女の芸術活動にとって大切な構成要素であり、これまでにシカゴ交響楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、シュターツカペレ・ベルリン、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団と共演している。18年には、フランツ・ウェルザー＝メスト指揮の《トリスタンとイゾルデ》ブランゲーネでクリーヴランド管弦楽団にデビューした。

その他の重要なコンサート活動としては、アムステルダム・コンセルトヘボウでエドワード・ガードナー指揮によるリリ・ブーランジェ《詩篇 第130番》、ザルツブルク音楽祭でダニエル・バレンボイム指揮によるマーラー《亡き子をしのぶ歌》等が挙げられる。

リート歌唱にも大きな情熱を注いでおり、17年にファビオ・ルイーヅ指揮フィルハーモニア・チューリッヒと共演したフランク・マルタンの歌曲集《旗手クリストフ・リルケの愛と死の歌》の録音は高く評価された。

ヴェネツィアで開催されたワーグナー声楽作品のための国際声楽コンクールで、06年に特別審査員賞を受賞、13年にはミュンヘン・オペラ・フェスティバルでフェスティバル賞を受賞した。

## 出演公演

2024年4月13日[土]14:00 東京文化会館 大ホール  
東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol.11 ブルックナー 《ミサ曲第3番》  
2024年4月15日[月]19:00 東京文化会館 小ホール  
東京春祭 歌曲シリーズ vol.40  
オッカ・フォン・デア・ダメラウ (メゾ・ソプラノ) & ソフィー・レノー (ピアノ)



## 藤木大地 (カウンターテナー) Daichi Fujiki

2017年、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場にライマン《メデア》ヘロルド役で鮮烈にデビュー。

東洋人のカウンターテナーとして初めての快挙で、大きなニュースとなる。2012年、第31回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてオーストリア代表として2年連続で選出、

世界大会でファイナリストとなり、ハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。

2013年、ボローニャ歌劇場にてグルック《クレリアの勝利》マンニオ役に抜擢されてヨーロッパデビュー。国際的に高い評価を得る。国内では、主要オーケストラとの公演や各地でのリサイタルが常に絶賛され、全国からのオファーが絶えない。

2017年、ファーストアルバム『死んだ男の残したものは』(キングインターナショナル)をリリース。2018年には、村上春樹原作の映画『ハナレイ・ベイ』の主題歌を担当、同時にメジャー・デビュー・アルバム『愛のよろこびは』(ワーナーミュージック・ジャパン)を発表。2020年、東京文化会館にて企画原案・主演をつとめた新作歌劇《400歳のキャスト》が大成功をおさめた。

また、新国立劇場2020/21シーズン開幕公演 ブリテン《夏の夜の夢》にオーベロン役で主演、

続けてバッハ・コレギウム・ジャパンとのヘンデル《リナルド》でもタイトルロールを務め、

その圧倒的な存在感と唯一無二の美声で聴衆を魅了し、オペラ歌手としての人気を不動のものにする。2021年、3枚目のアルバム『いのちのうた』(キングインターナショナル)がリリース。

2022年から自身がプロデューサーを務める横浜みなとみらいホールで、オーケストラ公演や室内楽公演を次々と企画。全国各地の劇場との連携事業や学生と共に創りあげる新作音楽劇を成功へ導くなど、その手腕に注目を集めている。

2023年は全国共同制作オペラ J. シュトラウス II 世《こうもり》オルロフスキー役をはじめ各地でオペラ公演や演奏会への出演が予定されている。デビューから現在まで絶えず話題の中心に存在する、日本が世界に誇る国際的なアーティストのひとりである。

洗足学園音楽大学客員教授。横浜みなとみらいホール プロデューサー 2021-2023。

Official Website : [www.daichifujiki.com](http://www.daichifujiki.com)

## 出演公演

2024年4月7日[日]14:00 東京文化会館 大ホール  
ミュージアム・コンサート  
藤木大地 (カウンターテナー) & 大塚直哉 (チェンバロ)



## 藤村俊介（チェロ） Shunsuke Fujimura

桐朋学園大学音楽学部卒業。チェロを安田謙一郎氏に師事。日本演奏連盟賞受賞。第58回日本音楽コンクールチェロ部門第2位。1989年NHK交響楽団に入団。1993年ドイツに留学し、メロス弦楽四重奏団のペーター・ブック氏に師事。

これまでに5枚のソロアルバム、師匠の安田謙一郎氏との2枚のデュオアルバムをリリースしているほか、チェロ四重奏のラ・クアルティエーナとして10枚のアルバムをリリースしている。

現在NHK交響楽団チェロ奏者、ラ・クアルティエーナのメンバーを務める他、フェリス女学院大学非常勤講師、桐朋学園大学非常勤講師、洗足学園大学客員教授として後進の指導に当たるなど、ソロ、室内楽、オーケストラと多彩に活躍している。

### 出演公演

2024年3月26日[火]19:00 東京文化会館 小ホール

東京春祭チェンバー・オーケストラ



## 藤村実穂子（メゾ・ソプラノ） Mihoko Fujimura

ヨーロッパを拠点に国際的な活躍を続ける日本を代表するメゾ・ソプラノ。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修了後、ミュンヘン音楽大学大学院に留学。在院中にワーグナー・コンクール（パイロイト）で事実上の優勝、マリア・カナルス・コンクール優勝など数々の国際コンクールに入賞。オーストリア第2のオペラハウス、グラーツ歌劇場の専属歌手としてキャリアを築き、その後も幅広いメゾのレパートリーを歌う。

2002年パイロイト音楽祭に（主役級としては日本人初）デビュー直前、異例にもミュンヘン国立歌劇場のミュンヘンオペラフェスティバルのオープニングとなる新演出《ワルキューレ》の初日にもフリッカ役で出演したことで国際的な注目を集め、以来ミラノ・スカラ座、パイロイト音楽祭、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤル・オペラ、ミュンヘン国立歌劇場、ブエノスアイレス・コロソ劇場、パリ・シャトレ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ドレスデン国立歌劇場、マドリッド・リアル歌劇場、ルツェルン音楽祭、フィレンツェ歌劇場、ジュネーブ大劇場、ヴェローナ歌劇場、バルセロナ・リセウ歌劇場、エクサンプロヴァンス音楽祭などに出演。

またウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ローマ聖チェチーリア音楽院管弦楽団、ロンドン交響楽団、パリ管弦楽団、ルツェルン祝祭管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、フィラデルフィア管弦楽団、ワシントン・ナショナル交響楽団、モントリオール交響楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団、バーミンガム市交響楽団、バンベルク交響楽団、マーラー室内管弦楽団など世界的なオーケストラとも共演している。

これまでにクリスティアン・ティーレマン、クラウディオ・アバド、ズービン・メータ、クリストフ・エッシェンバッハ、リッカルド・シャイー、サー・コリン・デイヴィス、クルト・マズア、マリス・ヤンソンス、ダニエル・ハーディング、ケント・ナガノ、チョン・ミョンフン、セミヨン・ビシュコフ、ロナルド・ラニクルズ、ファビオ・ルイーゼ、フランツ・ウェルザー＝メスト等の各氏と共演。またブランゲーネ役でプラシド・ドミンゴ、アントニオ・パッパーノとのCD録音『トリスタンとイゾルデ』（EMI社）でも各方面より注目を浴びた。

オペラ・レパートリーはクンドリ、ブランゲーネ、ヴェーヌス、フリッカ、カルメン、エボリ、アムネリス、アズチーナ、イダマンテ、メリザンド、オクタヴィアンなどがある。2002年出光音楽賞、2003年第54回芸術選奨文部科学大臣新人賞、2007年第37回エクスンモービル音楽賞洋楽部門奨励賞、2012年度サントリー音楽賞、2014年紫綬褒章をそれぞれ受賞。

#### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00/21日[日]15:00 東京文化会館 大ホール  
《エレクトラ》(演奏会形式/字幕付)



### ヴェンツェル・フックス (クラリネット) Wenzel Fuchs

オーストリア・インスブルックに生まれる。地元の音楽院でヴァルター・ケーファー教授のもと、クラリネットを学び始める。その後ウィーン国立音楽大学でペーター・シュミードルに師事、優秀な成績で学位を取得した。また、オーストリア科学芸術省賞や、ドイツ青少年音楽コンクールでも受賞している。在学中はウィーンのあらゆるオーケストラで代行を務め、そのなかにはウィーン国立歌劇場管弦楽団やウィーン・フィルハーモニー管弦楽団等がある。19歳の時にウィーン・フォルクスオーパー交響楽団のソロ・クラリネット奏者となり、5年後にはウィーン放送交響楽団でも同じ役目を受けた。1993年からはベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のソロ・クラリネット奏者を務め、同楽団のカラヤン・アカデミーでも教えている。

ハンス・アイスラー音楽大学で教授(2008~13)、東京藝術大学で客員教授を務め、2015年からはザルツブルク・モーツアルテウム大学の教授を務める。日本、ヨーロッパ、アメリカで数多くのマスタークラスを開催する他、ソリストとして世界中をまわり、東京フィルハーモニー交響楽団、中国国家交響楽団、韓国国立交響楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団等と共演している。室内楽のパートナーとしては、イエフィム・ブロンフマン、エマニュエル・パユ、アンドラーシュ・シフ、アルブレヒト・マイヤー、内田光子、ダヴィド・ゲリンガス等が挙げられる。また、ベルリン・フィル管楽ソロイスト、ベルリン・フィル管楽アンサンブル、ベルリン・フィル八重奏団、ウィーン=ベルリン室内管弦楽団のメンバーとしても活躍している。

#### 出演公演

2024年4月20日[土]18:30 東京文化会館 小ホール  
ベルリン・フィルのメンバーによる室内楽



### ルドルフ・ブッフビンダー (ピアノ) Rudolf Buchbinder

現代における伝説的な演奏家の一人である。60年以上にもわたる権威あるキャリアは、そのピアノ演奏においてエスプリと自由闊達さに独自に結び合わされており、伝統と革新、忠誠と自由、信頼と虚心坦懐が、偉大なピアノの文脈を解釈することのなかにすべて溶け込んでいる。

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン楽友協会、ウィーン・コンツェルトハウス協会、ウィーン交響楽団、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団の名誉会員であり、シュターツカペレ・ドレスデンからは、ソリストとして初めて名誉の金バッジを授与された。

特にそのベートーヴェン作品における演奏は、スタンダードを作ったと見なされている。



ドイツ・グラモフォンの『ブッフビンダー：ベートーヴェン』は、2021年12月の75歳の誕生日を目前に控え、32曲のピアノ・ソナタと5曲のピアノ協奏曲を完全収録して発表、かくしてブッフビンダーとベートーヴェンという近現代の傑出した2人による音楽の金字塔が打ち立てられたのである。2014年ザルツブルク音楽祭において、ベートーヴェンのピアノ・ソナタをひと夏の音楽祭で全曲演奏した最初のピアニストである。このザルツブルクでのチクルスは、DVD (Unitel) のためにライブ録音され、現在は9枚のCDで発売されている。

また、ベートーヴェンのピアノ協奏曲の全曲録音は、まさに驚くべきプロジェクトであった。ウィーン楽友協会におけるコンサート・シリーズとして上演されたが、この伝説的なホールの150年の歴史の中でも、この種のものとしては初めてのチクルスであった。何しろこの5つの協奏曲を、5人の素晴らしい世界的な指揮者及びオーケストラと共演するのである。すなわち、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団とそのカベルマイスターであるアンドリス・ネルソンス、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団とリッカルド・ムーティ、バイエルン放送交響楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、シュターツカペレ・ドレスデンと、各々の首席指揮者であるマリス・ヤンソンス、ヴァレリー・ゲルギエフ、クリスティアン・ティーレマンである。

2020年にはベートーヴェン生誕250年に寄せて、ベートーヴェンの画期的な「ディアベリ変奏曲」作品120を起源とする新しいディアベリ変奏曲のサイクルを開始した。世界中の11のコンサート・ハウスや音楽祭と協力して、エルンスト・フォン・ジューメンス音楽財団のサポートを受け、現代の一流の作曲家11人に新しい作品を委嘱した。このプロジェクトは、ベートーヴェンの作品を21世紀へと投射し、彼の言語があらゆる境を越えて普遍性を持つものであることを、見事なまでにはっきりと示した。ドイツ・グラモフォンは「ディアベリ・プロジェクト」というタイトルで、この新しいディアベリ変奏曲の世界初録音を、1976年に録音していたベートーヴェン《ディアベリ変奏曲》の新たな解釈とともにリリースした。このダブル・アルバムが、ドイツ・グラモフォンとの独占的なパートナーシップの始まりとなった。

#### 出演公演

2024年3月15日[金]19:00 東京文化会館 小ホール

ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ全曲演奏会 I

2024年3月16日[土]15:00 東京文化会館 小ホール

ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ全曲演奏会 II

2024年3月17日[日]15:00 東京文化会館 小ホール

ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ全曲演奏会 III

2024年3月19日[火]19:00 東京文化会館 小ホール

ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ全曲演奏会 IV

2024年3月20日[水・祝]15:00 東京文化会館 小ホール

ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ全曲演奏会 V

2024年3月21日[木]19:00 東京文化会館 小ホール

ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ全曲演奏会 VI

2024年3月22日[金]19:00 東京文化会館 小ホール

ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ全曲演奏会 VII



#### 古部賢一 (オーボエ) Ken-ichi Furube

東京藝術大学在学中の1991年、小澤征爾音楽監督率いる新日本フィルハーモニー交響楽団に首席オーボエ奏者として就任以降、2020年3月まで30年間にわたり大きな功績を残した。現在、同団特任首席奏者。兵庫芸術文化センター管弦楽団特別奏者。

2000年、第10回出光音楽賞をオーボエ奏者として初めて受賞。以後、国内外の多くのオーケストラや世界的奏者、指揮者と共演を重ねる。これまでに、イタリア合奏団、ミラノ・スカラ弦楽合奏団、ザルツブルク室内管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、N響室内合奏団などのオーケストラのソリストとして、また、ハンブルク北ドイツ放送交響楽団

(現・NDR エルプフィルハーモニー管弦楽団)、ベルリン・ドイツ交響楽団、シュトゥットガルト室内管弦楽団などに客演首席奏者として招かれるほか、ラ・フォル・ジュルネ TOKYO、セイジ・オザワ 松本フェスティバル、宮崎国際音楽祭、木曾音楽祭などにもソリスト、室内楽奏者として定期的に出演。ピアノの塩谷哲、ギターの渡辺香津美、鈴木大介、箏の野坂恵璃とのコラボレーションなど、ジャンルを超えた活動も展開している。東京音楽大学教授、札幌大谷大学客員教授、相愛大学特別講師のほか、主催：公益財団法人ソニー音楽財団 国際オーボエコンクール・東京、日本音楽コンクール等の審査員を務めるなど、後進の指導にもあたっている。

#### 出演公演

2024年3月26日[火]19:00 東京文化会館 小ホール  
東京春祭チェンバー・オーケストラ



### 幣 隆太朗 (コントラバス) Ryutarō Hei

10歳より、故奥田一夫に手ほどきを受ける。

1999年、兵庫県立西宮高校音楽科卒業、同年、東京藝術大学入学。

2001年、渡独。ドイツ・ヴュルツブルク音楽大学入学。DAAD 外国人のための学内コンクールで1位となり、奨学金を授与される。05年、同大学ディプロマ試験を最高得点で卒業、同大学院マスターコースに入学。同年ベルリン国立歌劇場オーケストラ (シュターツカペレ・ベルリン) のアカデミー試験に合格、首席指揮者ダニエル・バレンボイム指揮のもと、オーケストラの一員として研鑽を積む。07年、南西ドイツ放送交響楽団 (旧シュトゥットガルト放送交響楽団) に入団。現在、同楽団団員として、ドイツ国内外でのソロリサイタル、音楽祭への参加、小菅 優、檜本大進、庄司紗矢香、フィリップ・トゥーンドゥル、セバスティアン・マンツ、セバスティアン・ジャコーなど、世界を代表するソリストとの室内楽の共演等、精力的に活動している。日本では毎夏、日本帰国リサイタルツアーを開催。10年よりサイトウ・キネン・オーケストラのメンバーとして公演に参加。

文屋充徳、奥田一夫、河原泰則、永島義男、南出信一、村上満志、山本 修、マティアス・ヴィンクラーの各氏に師事。12年より上野製薬株式会社より1670年製コントラバスの名器「ブゼット」を貸与されている14年より、ヴァイオリン白井 圭、チェロ横坂 源と共に、ルートヴィヒ・チェンバー・プレイヤーズ結成。

#### 出演公演

2024年3月17日[日]14:00 国立科学博物館 日本館2階講堂  
ミュージアム・コンサート  
吉田 秀 (コントラバス) & 幣 隆太朗 (コントラバス)  
2024年4月5日[金]19:00 東京文化会館 小ホール  
名手たちによる室内楽の極 (きわみ)



### オハッド・ベン＝アリ (ピアノ) Ohad Ben-Ari

イスラエル生まれ。わずか12歳でソリストとしてイスラエル・フィルハーモニー管弦楽団と共演、キャリアをスタートさせる。その翌年、テルアビブ大学に正式に入学してピアノと作曲を学んだ。ピアニストとしてミュンヘン国際音楽コンクールやルービンシュタイ

ン国際ピアノコンクール等、国際コンクールにおける数え切れぬほどの受賞歴によって、世界中からリサイタルやオーケストラのソリスト、室内楽奏者として多くの招待を受けている。

1996年アメリカに渡り、ポップスやアーバンミュージックに特化した音楽プロデューサーとして活動を開始する。その後、数年はアメリカの一流ポップ・アーティストと活動し、テレビ番組や録音で、クラシックからジャズ、ポップスに至るまで幅広い音楽スタイルやレパートリーを手掛ける。また、姉でヴァイオリニストのミリ・ベン＝アリとの共演は大きな成功を収め、参加した彼女のソロ・アルバム（ユニバーサル・レコーズ）はグラミー賞を受賞した。

2010年より家族とともにベルリンに在住。14年にベルリン・ID フェスティバルを創設し、ディレクターを務める。ドイツ連邦政府のサポートを受けているこのフェスティバルの目的は、在ドイツのイスラエル人アーティストの活動を紹介することである。また、演奏家・作曲家としてもさらに幅広い活動を続けており、ヴァイオリニストのガイ・ブラウンシュタインやマンドリン奏者のアヴィ・アヴィタル、メゾ・ソプラノのマグダレーナ・コジェナーとは頻繁に共演している。他にも、アリサ・ワイラースタイン、ソル・ガベッタ、ノア・ベンディックス＝バルグリー、エマニュエル・パユ、ダーフィット・オルロフスキ、アンドレアス・オッテンザマー、レイ・チェン、ユジャ・ワン等とも共演を重ねている。

14年にサー・サイモン・ラトル指揮でデビューして以来、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団とは緊密な関係を築いており、室内楽奏者として楽団メンバーと頻繁にツアーを行っている。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団から委嘱された弦楽合奏のための《希望のヴァイオリン》は、同楽団によって15年に初演された。

作曲及び編曲した作品は、世界中で演奏されている。初めての交響楽作品となる《ティップス》は、13年にハンブルク交響楽団と初演され、14年にはマリンバ協奏曲が東京で初演。15年には《希望のヴァイオリン》がベルリン・フィルハーモニー管弦楽団より委嘱された。合唱、オルガン、大編成による室内アンサンブルのための《レクイエム》は、18年にハンブルクで初演。21年には、シュトゥットガルト国際ヴァイオリン・コンクールのために《アポプレクシー》を作曲した。最近の作品では、メゾ・ソプラノとオーケストラのための歌曲集《パターソン》が、インゴルシュタット・ジョージア室内管弦楽団によって来シーズンに初演される予定。

#### 出演公演

2024年4月20日[土]18:30 東京文化会館 小ホール  
ベルリン・フィルのメンバーによる室内楽



#### ライナー・ホーネック（ヴァイオリン）Rainer Honeck

1961年オーストリア生まれ。7歳よりヴァイオリンを始め、ウィーン国立音楽大学に学ぶ。81年ウィーン国立歌劇場管弦楽団／ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に第1ヴァイオリン奏者として入団、84年には同歌劇場管のコンサートマスターに、92年にはウィーン・フィルのコンサートマスターに就任。

オーストリアをはじめとするヨーロッパ各地、日本、アメリカなどでソリストとして活躍。室内楽にも意欲的に取り組み、多数のラジオ、テレビ出演、CDも多くリリースしている。近年では指揮にも力を入れており、2017年より紀尾井ホール室内管弦楽団首席指揮者を務めた後、2022年より同名誉指揮者に就任。

使用楽器は1725年製のストラディヴァリウス“シャコンヌ”（オーストリア国立銀行からの貸与）。

## 出演公演

2024年3月18日[月]19:00 東京文化会館 小ホール

ライナー・ホーネック（ヴァイオリン）& 菊池洋子（ピアノ）



## 外園萌香（ヴァイオリン） Moeka Hokazono

桐朋女子高等学校音楽科（男女共学）を経て、桐朋学園大学卒業。

サントリーホール室内楽アカデミー第2期生。

サイトウ・キネン室内楽勉強会、小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトX等、国内外の音楽祭、セミナーに参加。東京・春・音楽祭、草津夏期国際音楽フェスティバル、トランス＝シベリア芸術祭 in Japan にも出演。

これまでに、鈴木裕子、堀内麻貴、故・名倉淑子、トマシュ・トマシェフスキの各氏に、室内楽を店村眞積氏、故・岡田伸夫氏、東京クワルテット、クアルテット・エクセルシオに師事。

現在、オーケストラへの客演、室内楽を中心に活動。

## 出演公演

2024年3月26日[火]19:00 東京文化会館 小ホール

東京春祭チェンバー・オーケストラ



## ステファン・ポップ（テノール） Stefan Pop

オペラリア賞を受賞し、国際的に引く手あまたのテノールの一人で、ベルカントからヴェルディやプッチーニまで、特にイタリアのレパートリーを得意としている。

2023/24年シーズンは、ベルリン国立歌劇場の《ドン・カルロ》から始まったが、同歌劇場では昨シーズンにタイトルロールに役デビューして絶賛されたのだった。また、《蝶々夫人》ピンカートンで再びベルリンに登場する他、コヴェント・ガーデンのロイヤル・オペラ・ハウスでは《リゴレット》マントヴァ公爵と《ラ・ボエーム》ロドルフォ、バイエルン国立歌劇場には《マクベス》マクダフに招かれた。トロンハイムでもロドルフォを演じる。ドレスデンでは、ゼンパーオーパーの《ドン・カルロ》とフィルハーモニー管弦楽団とのヴェルディ《レクイエム》に出演。

昨シーズンの主な出演は、ロンドンで《トスカ》カヴァラドッシに役デビュー、リエージュでアンジェラ・ゲオルギューとの共演により《ラ・ボエーム》ロドルフォに役デビュー等がある。他にも、タオルミーナでプラシド・ドミンゴ指揮により《リゴレット》マントヴァ公爵、ウィーン国立歌劇場でのロドルフォ等もあった。パルマでの新制作による《二人のフォスカリ》ヤコポはCDとブルーレイでリリースされている。

レパートリーには、《椿姫》アルフレード、《リゴレット》マントヴァ公爵、《仮面舞踏会》リッカルド、《シモン・ボッカネグラ》アドルノ、《アッティラ》フォレスト、《二人のフォスカリ》ヤコポ、《マクベス》マクダフ、《ナブッコ》イズマエーレといったヴェルディの大役だけでなく、《ノルマ》ポリオーネといった、イタリアのほぼすべての主要な歌劇場で歌ったベルカントのレパートリーや、《ルクレツィア・ボルジア》ジェンナーロ、《ランメルモールのルチア》エドガルド、《愛の妙薬》ネモリーノ、また《ロベルト・デヴリュー》やグノー《ファウスト》、ザルツブルク音楽祭で歌った《ばらの騎士》歌手等が挙げられる。世界の主要な歌劇場で歌っており、そのなかにはベルリン国立歌劇場、コヴェント・ガーデンのロイヤル・オペラ・ハウス、パリ・オペラ座、ハンブルク州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、チューリッヒ歌劇場、マドリードのテアトロ・レアル、フランクフルト歌劇場、テルアビブの新イスラエル・オペラ等があり、日本にも定期的に客演している。



これまでに共演した指揮者としては、ズービン・メータ、ファビオ・ルイーダ、ダニエレ・ルスティオーニ、ダニエレ・ガッティ、ミケーレ・マリオッティ、ネルロ・サンティ等がいる。

アンジェラ・ゲオルギューとのコンサート・ツアーでは、ソウル、上海、オマーンのマスターカット等をまわった。19年には「オスカー・デッラ・リリカ・ヤング・ジェネレーション」を受賞している。

ビストリツァ（ルーマニア）に生まれ、クルジュ＝ナポカのゲオルゲ・ディマ音楽アカデミーを卒業後、「ハリクレア・ダルクレ」国際声楽コンクールやソウル国際音楽コンクールで優勝した。15年からは故郷ビストリツァの名誉市民となっている。

#### 出演公演

2024年4月11日[木]18:30/14日[日]14:00 東京文化会館 大ホール

東京春祭プッチーニ・シリーズ vol.5 《ラ・ボエーム》(演奏会形式/字幕付)



### 堀 正文 (ヴァイオリン) Masafumi Hori

5歳よりヴァイオリンをはじめ、京都市立堀川高校音楽科を経て、ドイツのフライブルク音楽大学へ留学。在学中より、ハイデルベルク室内合奏団のソリストとして、ヨーロッパ各地への演奏旅行を行う。

1973年、フランクフルト放送交響楽団とヴィエニャフスキのヴァイオリン協奏曲第1番を共演。1974年よりダルムシュタット国立歌劇場管弦楽団の第1コンサートマスターに就任。ヨーロッパ各国でオーケストラ活動はもとより、ソロ、室内楽などに幅広く活躍した。1979年、東京でのNHK交響楽団とのチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲共演が大きな反響を呼び、同年9月HNK交響楽団にコンサートマスターとして入団。以来35年間の長きにわたり楽団を牽引し、2015年、名誉コンサートマスターに就任。数多くのソロ・リサイタルや室内楽に幅広く活躍している。また、N響での功績に対して有馬賞を受賞している。その他、ジュネーヴ国際音楽コンクール、レオポルト・モーツァルト国際ヴァイオリンコンクール、シュポア国際コンクールの審査員を務め、桐朋学園大学で後進の指導にあたるなど、日本クラシック界を代表するヴァイオリニストとして精力的な活動を繰り広げている。

#### 出演公演

2024年3月26日[火]19:00 東京文化会館 小ホール

東京春祭チェンバー・オーケストラ



### リヴェー・ホルンダー (バリトン) Liviu Holender

オーストリア出身のバリトン歌手。ウィーン国立歌劇場の子どものためのオペラ学校のメンバーとして、とりわけ《トスカ》羊飼いを演じる等、幼少の頃からオペラに親しんだ。故郷ウィーンでは幅広い音楽教育を受け、ウィーン国立音楽大学でクラリネット、ウィーン音楽院でピアノを学んだ。2013年からはウィーン国立音楽大学でカールハインツ・ハンザーに声楽のレッスンを受け、さらに法学部の修士課程も修了している。

フランクフルト歌劇場では《カプリッチョ》オリヴィエに加えて、《ヘンゼルとグレーテル》ペーター、《はるかなる響》伯爵、《蝶々夫人》シャープレスにデビュー、次シーズンの主な出演には、ファビオ・ルイーダ指揮によるジェノヴァのカルロ・フェリーチェ劇場

と演奏会形式によるグラーツ楽友協会での2つの《こうもり》ファルケ博士がある。また、ウィーン・コンツェルトハウスでは、フランツ・ウェルザー＝メスト指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団でJ. S. バッハ《マタイ受難曲》イエスを歌う。

17～19年まで、ミュンヘンのゲルトナープラッツ州立劇場のアンサンブル・メンバーとして、《密猟者》エーベルバッハ伯爵、《魔笛》パパゲーノ、《コジ・ファン・トゥッテ》グリエルモ、《ラ・ボエーム》ショナール、ウド・ツィンマーマンの《白いバラ》ハンス・ショル等を歌った。19/20年シーズンからはフランクフルト歌劇場のアンサンブルの常任メンバーとなり、すでに新制作のカール・ニールセン《仮面舞踏会》ヘンレクをはじめ、《リゴレット》マルッコ、《ジャンニ・スキッキ》マルコ、《フィガロの結婚》アルマヴィーヴァ伯爵、《タメルラーノ》レオーネ、《トリスタンとイゾルデ》舵手、《カルメン》モラレスとダンカイト、《ドン・ジョヴァンニ》マゼット等に出演してきた。

客演では、ミラノ・スカラ座でヴェルディ《仮面舞踏会》シルヴァーノに役デビュー、フィレンツェ五月音楽祭劇場でズービン・メータ音楽監督による《こうもり》ファルケ博士、ダニエレ・ガッティ指揮の新制作《ナクソス島のアリアドネ》ハルレキン等がある。東京・春・音楽祭ではマレク・ヤノフスキ指揮の《ローエングリン》で王の伝令に役デビューした。また、リガのラトビア国立歌劇場でのアルマヴィーヴァ伯爵と並行して、ブカレスト国立歌劇場で《道化師》シルヴィオにも出演。19年のブレゲンツ音楽祭ではマルッコで登場した。オペラの舞台での活動に加え、コンサート歌手としてもますます人気を得ている。コンサートの主な出演には、フレデリック・シャスラン指揮エルサレム交響楽団でマーラー《少年の魔法の角笛》、マレク・ヤノフスキ指揮バーゼル交響楽団でブラームス《ドイツ・レクイエム》等がある。また、リートにも注力しており、「ハイデルベルクの春」音楽祭・歌曲アカデミーの21年度奨学生として、パリ・ロワイヨモン歌曲アカデミーの一環で、フィラルモニ・ド・パリ、ラジオ「フランス・ミュージック」、ロワイヨモン音楽祭、オルセー美術館講堂、リール歌劇場等におけるリサイタルで歌った。

#### 出演公演

2024年4月11日[木] 18:30/4月14日[日]14:00 東京文化会館 大ホール

東京春祭プッチーニ・シリーズ vol.5 《ラ・ボエーム》(演奏会形式/字幕付)



#### 松田拓之 (ヴァイオリン) Hiroyuki Matsuda

1975年山口県生まれ。5歳よりヴァイオリンを始める。桐朋女子高等学校(男女共学)を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業。2000年にNHK交響楽団にヴァイオリン奏者として入団。

指揮者を置かない室内オーケストラ「ARCUS(アルクス)」を国内第一線で活躍している演奏家たちと結成、2005年3月にデビュー。ひとつのテーマにそって演奏者自らが企画するというコンサートを行っている。また、メンバーが意見を出し合って構成される、「ARCUSファミリーコンサート」や、2・3歳児を対象にした「よちよちワークショップ」等子供向けの意欲的なプログラムにも力を入れている。

新日本フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団などに客演首席奏者として出演。ソロ・室内楽をはじめオーケストラの指揮、指導などの分野にも力を入れている。現在、NHK交響楽団次席奏者、昭和音楽大学講師、桐朋学園大学オーケストラ特別招聘講師、桐朋学園

オーケストラアカデミー講師。これまでにヴァイオリンを辰巳明子、堀正文、指揮を山本七雄、小泉ひろしの各氏に師事。

#### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00 東京文化会館 小ホール

N響メンバーによる室内楽



### ユリア・マトーチュキナ (メゾ・ソプラノ) Yulia Matochkina

ロシア出身のメゾ・ソプラノ歌手。2022/23年シーズンは、一連の重要なデビューと再出演を飾った年である。再出演では、メトロポリタン歌劇場で《ドン・カルロ》エボリ公女、ロサンゼルス・オペラで《仮面舞踏会》ウルリカ、ベルリン・ドイツ・オペラで《アイダ》アムネリスと《ローエン格林》オルトルート、チューリッヒ歌劇場で《イル・トロヴァトーレ》アズチーナ、ローマ歌劇場とボルティモア交響楽団、オランダ国立オペラ（演奏会形式）でヴェルディ《レクイエム》等があり、デビューでは、東京・春・音楽祭でリッカルド・ムーティ指揮による《仮面舞踏会》ウルリカの他、ロイヤル・オペラ・ハウスで《ドン・カルロ》エボリ公女、バイエルン国立歌劇場で《仮面舞踏会》ウルリカ等が挙げられる。さらなるデビューとしては、コヴェント・ガーデンのロイヤル・オペラ・ハウス、アリーナ・ディ・ヴェローナ、ベルリン・ドイツ・オペラ、オランダ国立オペラ、チューリッヒ歌劇場、ボルティモア交響楽団等で、《ドン・カルロ》エボリ公女、《イル・トロヴァトーレ》アズチーナ、《アイダ》アムネリス、《カルメン》タイトルロール、《ローエン格林》オルトルート、ヴェルディ《レクイエム》等に出演。

最近の主な出演としては、メトロポリタン歌劇場で《リゴレット》マッダレーナ、ロサンゼルス・オペラで《タンホイザー》ヴェーヌス、スカラ座とシカゴ交響楽団（リッカルド・ムーティ指揮）で《仮面舞踏会》ウルリカ、アリーナ・ディ・ヴェローナに《カルメン》タイトルロールでハウス・デビュー、オランダ放送フィルハーモニー管弦楽団とヴェルディ《レクイエム》、パリ国立オペラで《ホヴァーンシチナ》マルファ、ベルリン・ドイツ・オペラで《ドン・カルロ》エボリ公女と《カルメン》、ザルツブルク音楽祭とハンブルク州立歌劇場で《ルイザ・ミラー》フェデリカ、ラス・パルマスで《カヴァレリア・ルスティカーナ》サントウツァ、ロッテルダムのデ・デーレンで《ファウストの劫罰》マルグリート、フィラルモニ・ド・パリで《パルジファル》クンドリ、東京の新国立劇場で《ドン・カルロ》エボリ公女と《サムソンとデリラ》デリラ、ミュンヘンのガスタイクとエルプフィルハーモニー・ハンブルク、バーデン＝バーデンで《トリスタンとイゾルデ》ブランゲーネ、モスクワのボリショイ劇場と東京の新国立劇場で《皇帝の花嫁》リュバーシャ、サンクトペテルブルグのマリインスキー劇場では、《アイダ》アムネリス、《アドリアーナ・ルクヴール》ブイヨン公爵夫人、《トロイアの人々》ディドン、《サムソンとデリラ》デリラ、《修道院での婚約》クララ等といった役を演じた。マリインスキー劇場屈指のソリストとして、《アイダ》アムネリス、《ドン・カルロ》エボリ公女、《アドリアーナ・ルクヴール》ブイヨン公爵夫人、《トロイアの人々》ディドン、《サムソンとデリラ》デリラ、《タンホイザー》ヴェーヌス、《パルジファル》クンドリ、《スぺードの女王》ポリーナ、《ベンヴェヌート・チェッリーニ》アスカーニオ、《ドン・キショット》ドウルシネ、《ファウストの劫罰》マルグリート、《オルレアンの少女》ジャンヌ・ダルク、《ホヴァーンシチナ》マルファ等で登場している。2015年、第15回チャイコフスキー国際コンクールで第1位と金メダルを受賞した。今後の予定としては、《仮面舞踏会》ウルリカでバイエルン国立歌劇場、《カヴァレリア・ルスティカーナ》サントウツァでシカゴ・リリック・オペラにデビュー、《アイダ》アムネリスと《ローエン格林》オルトルートでベルリン・ド

イツ・オペラに再出演する他、《タンホイザー》 ヴェーヌスと《イル・トロヴァトーレ》 アズチーナでバイエルン国立歌劇場、《ドン・カルロ》 エボリ公女でドレスデン・ゼンパーオーバー、《サムソンとデリラ》 デリラでテネリフェ歌劇場、《カルメン》 タイトルロールでラス・パルマス歌劇場、ヴェルディ《レクイエム》でチューリッヒ歌劇場、ロイヤル・オペラ・ハウスへの再出演等がある。

#### 出演公演

2024年4月17日[水]/20日[土]14:00 東京文化会館 大ホール

《アイーダ》（演奏会形式／字幕付）



### オラフ・マニングァー（チェロ） Olaf Maninger

1978年からヤーノシュ・シュタルケルに師事し、85年から91年にかけては、ボリス・ペルガメンシコフに学ぶ。1995年にベルリン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。96年、ソロ・チェロ奏者に昇格。97年から2002年までは、同団のメディア活動管理会社の取締役を務めた。また02年の財団法人ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の設立以降は、財団役員を務めている。現在、同団のメディア代表として活躍。映像配信サービス「デジタル・コンサートホール」の発足に貢献し、08年からは、その運営会社、ベルリン・フィル・メディアの取締役を務めている。室内楽奏者としては、「ベルリン・フィル12人のチェリストたち」のメンバーでもある。

#### 出演公演

2024年4月20日[土]18:30 東京文化会館 小ホール

ベルリン・フィルのメンバーによる室内楽



### 三浦一馬（バンドネオン） Kazuma Miura

10歳よりバンドネオンを始める。

2006年に別府アルゲリッチ音楽祭にてバンドネオンの世界的権威ネストル・マルコーニと出会い、その後自作CDの売上で渡航費を捻出してアルゼンチンに渡り、現在に至るまで師事。2008年10月、イタリアのカステルフィダルドで開催された第33回国際ピアソラ・コンクールで日本人初、史上最年少で準優勝を果たす。2011年5月には別府アルゲリッチ音楽祭に出演し、マルタ・アルゲリッチやユーリー・バシユメットら世界的名手と共演し、大きな話題と絶賛を呼んだ。2014年度出光音楽賞受賞。バッハからガーシュウィンまでを編曲・演奏するなど、既成の概念にとらわれない意欲的な取り組みや、バンドネオンの可能性を追求する真摯かつ精力的な活動ぶりが2010年9月NHK「トップランナー」に取り上げられ、再放送となる反響を呼ぶ。テレビやラジオ出演も多数。2007年、井上道義指揮神奈川フィルハーモニー管弦楽団、マルコーニ作曲“Tangos Concertantes”日本初演をもってオーケストラ・デビュー。以後、大植英次指揮大阪フィルハーモニー交響楽団、アロンドラ・デ・ラ・パーラ指揮東京フィルハーモニー交響楽団、飯森範親指揮大阪フィルハーモニー交響楽団、藤岡幸夫指揮関西フィルハーモニー管弦楽団、高関健指揮京都市交響楽団、井上道義指揮札幌交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢等と共演を重ねている。

CDは『タンゴ・スイート』に続き、セカンド・アルバム『ブエノスアイレスの四季』をリ



リース、本作は『レコード芸術』誌にて特選盤に選ばれる。2012年には『カーメラタンゴス』をリリース。リリース記念ツアーとして、マルコーニと東京・兵庫・名古屋で競演を果たし、白熱した演奏で聴衆を沸かせた。2015年4月には『三浦一馬プレイズ・ガーシュウィン』をリリース。2016年はデビュー10周年を迎え、3月にはデビュー公演を行った久喜総合文化会館公演を成功に導く。6月には恩師であるネストル・マルコーニと再びの競演で日本ツアーを開催。7月には大阪フィルハーモニー交響楽団第500回定期演奏会でパカロフの《ミサ・タンゴ》のソリストに抜擢され好評を博す。2017年、ドイツにてドグマ・チェンバーオーケストラとマルコーニ作曲の《カーメラタンゴス》で共演。また自らが率いる室内オーケストラ「東京グランド・ソロイスツ」を新たに結成し、さらなる活動の場を拓いている。2021年、ピアソラ生誕100年に合わせて、東京グランド・ソロイスツとしての初音源『ブエノスアイレス午前零時』をリリース、同時にピアソライヤーを記念した全国ツアー公演の開催。2022年、三浦一馬 五重奏団によるピアソライヤーの最後に相応しいアルバム『ピアソラ スタンダード&ビヨンド』を日本コロムビアよりリリース。また、NHK大河ドラマ「青天を衝け」の大河紀行音楽演奏を担当するなど若手実力派バンドネオン奏者として各方面から注目されている。

使用楽器は、恩師ネストル・マルコーニより譲り受けた銘器、Alfred Arnold。

#### 出演公演

2024年3月19日[火]19:00 上野の森美術館 展示室

ミュージアム・コンサート

三浦一馬（バンドネオン）～現代美術と音楽が出会うとき

### 三浦友理枝（ピアノ）Yurie Miura

1981年東京生まれ。3歳よりヤマハ音楽教室に入会、1993年よりヤマハマスタークラスに在籍。江口文子、ヴェラ・ゴルノスタエヴァ、浦壁信二各氏に師事。05年英国王立音楽院大学課程を首席で卒業。07年同音楽院・修士課程を首席で修了。クリストファー・エルトン氏に師事。95年「第3回ゲッティンゲン国際ショパンコンクール」第1位受賞。これを機にドイツなどでコンサート活動を開始。99年「第3回マリエンバート国際ショパンコンクール」最年少で第1位受賞。01年「第47回マリア・カナルス国際音楽コンクール」ピアノ部門第1位、および金メダル、最年少ファイナリスト賞、カルロス・セプロ特別メダル賞を受賞。06年9月には「第15回リーズ国際ピアノコンクール」にて特別賞を受賞した。02年ロンドン・ソロイスツ室内オーケストラとの共演でロンドンデビュー。04年には国際ショパン協会ウィーン本部の招きでリサイタルを行いウィーンデビュー。同年、ロンドン・ソロイスツ室内オーケストラと再共演。これまでに、東京フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、群馬交響楽団、千葉交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、日本センチュリー交響楽団、京都市交響楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、広島交響楽団、九州交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、山形交響楽団、シンフォニア・ヴァルソヴィア、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団、ロンドン・ソロイスツ室内オーケストラ、カイロ交響楽団など国内外の主要オーケストラと多数共演。10年東京オペラシティ主催のリサイタルシリーズ B→C に出演、15年にはフィリアホールにおいて「ラ



ヴェルピアノ作品全曲演奏会」を行うなど注目を浴び続けている。また「ラ・フォル・ジュルネ」、「東京・春・音楽祭」、「仙台クラシックフェスティバル」、「いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭」等の音楽祭にも数多く招かれている。室内楽の分野でも幅広く活躍しており、オランダ人ヴァイオリニスト、シモーネ・ラムスマとはエルガーの CD をリリース（NAXOS）、日本、イギリス、オランダ等でコンサート・ツアーも行った。また、09年川久保賜紀（ヴァイオリン）、遠藤真理（チェロ）とピアノ・トリオを、15年にはソリスト達で構成される木管アンサンブル「東京六人組」を結成するなど積極的な活動を展開している。「名曲リサイタル」「ベスト オブ クラシック」「クラシック倶楽部」「みんなのショパン」「きらクラ!」「ららら♪クラシック」などテレビ、ラジオの出演も数多く、10年にはFM 仙台のクラシック番組で1年間パーソナリティを務めた。05年、エイベックス・クラシックスより CD デビュー。『ショパン：24のプレリュード』（2010年リリース）、『ミニアチュアーズ』（2014年リリース）『ショパン：バラード&スケルツォ』（2018年リリース）は『レコード芸術』（音楽之友社）で特選盤に選ばれている。16年、第26回新日鉄住金音楽賞「フレッシュアーティスト賞」を受賞した。

オフィシャルウェブサイト [www.yuriemiura.net](http://www.yuriemiura.net)

#### 出演公演

2024年3月24日[日]14:00 東京都美術館 講堂

ミュージアム・コンサート

「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」展記念コンサート

vol.3 三浦友理枝（ピアノ）

### 三国レイチェル由依（ヴィオラ） Rachel Yui Mikuni

奈良県出身。6歳からヴァイオリンを習い始め18歳でヴィオラに転向。東京藝術大学音楽学部卒業後、同大学院音楽研究科修士課程修了。

小澤征爾音楽塾オペラプロジェクト XVI、XVII、セイジ・オザワ 松本フェスティバル 2018.19、小澤国際室内楽アカデミー奥志賀 2018.19.22、小野文化財団ヴィオラ塾、サイトウ・キネン・オーケストラ、武生国際音楽祭 2022 に参加。ヴィルフリート・シュトレレ公開マスタークラス、タベア・ツィンマーマン公開マスタークラス、ヴィオラスペース 2019 東京公開マスタークラス（講師：キム・セジュン氏）を受講。

第23回コンセール・マロニエ 21 入選。紀尾井ホール室内管弦楽団 2021 年度シーズン・メンバー。これまでにヴァイオリンを岩谷悠子氏、相原瞳氏、ヴィオラを中島悦子氏、市坪俊彦氏に師事。2022年7月よりNHK交響楽団団員。

#### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00 東京文化会館 小ホール

N響メンバーによる室内楽





## 水谷上総（ファゴット） Kazusa Mizutani

京都市立芸術大学卒業。ドイツ学術交流会（DAAD）奨学金を得てデトモルト音楽大学を最優秀で卒業、ヘルマン・ユンク氏に師事。ライン・ドイツ歌劇場管弦楽団、群馬交響楽団を経て2001年NHK交響団首席奏者に就任。CDは池辺晋一郎のファゴット協奏曲『炎の資格』（カメラータ）『ゾナーテン』『ドイツ作曲家によるファゴット作品集』『ファゴッティエーノ』（オクタヴィア・レコード）をリリース。紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。東京音楽大学兼任教授。

### 出演公演

2024年3月26日[火]19:00 東京文化会館 小ホール  
東京春祭チェンバー・オーケストラ



## ハンナ=エリーザベト・ミュラー（ソプラノ） Hanna-Elisabeth Müller

「水晶から切り出したような声」（ザルツブルガー・ナッハリヒテン紙）を持ち、リートやコンサート・レパートリーにおいて今日屈指の演奏者であるとともに、最も人気があるオペラ歌手の一人でもある。ソプラノとして世界的に注目を浴びたのは2014年のザルツブルク復活祭音楽祭で、R.シュトラウス《アラベラ》ズデンカとしてクリスティアン・ティエレマン指揮のもと、ルネ・フレミングやトーマス・ハン普森と共演した。この役によって、オペルンヴェルト誌の「ヤング・アーティスト・オブ・ザ・イヤー」にも選ばれた。さらに、このプロダクションはC Majorとの提携により、Unitel ClassicaからDVDとしてリリースされた。世界の主要なオペラハウスや音楽祭にも頻繁に客演しており、バイエルン国立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ドレスデン・ゼンパーオーパー、スカラ座、コヴェント・ガーデンのロイヤル・オペラ・ハウス、チューリッヒ歌劇場、ザルツブルク音楽祭等が挙げられる。

2023/24年シーズンは、ウィーン国立歌劇場に再登場して比類のない多才さを示し、セバスティアン・ヴァイグレ指揮でR.シュトラウス《ダフネ》タイトルロールに役デビューする。また同歌劇場では、昨シーズン絶賛を浴びたデビューに続き、《ニュルンベルクのマイスタージンガー》エファでさらなるパフォーマンスを行なう。バイエルン国立歌劇場では《イドメネオ》エレットラを再演し、ザルツブルクのモーツァルト週間では《皇帝ティエートの慈悲》ヴィテリリアに役デビューする。コンサートでは、十八番でもあるR.シュトラウス《4つの最後の歌》を、アンカラのCRRコンサート・ホール、モーツァルテウム管弦楽団とのザルツブルク公演、クリストフ・エッシェンバッハ音楽監督によるバンベルク公演、と三度歌う。また、ソリストとしてヤープ・ヴァン・ズヴェーデン音楽監督のニューヨーク・フィルハーモニックに初登場し、マーラーの交響曲第2番《復活》を歌う。同公演はケルン・フィルハーモニーでも上演される。さらにチューリッヒでブラームス《ドイツ・レクイエム》、フィリップ・ヘレヴェツェ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団とベートーヴェン《ミサ・ソレムニス》、ヘルシンキでベルク《7つの初期の歌》、ドレスデンではマレク・ヤノフスキ指揮でドヴォルザーク《スターバト・マーテル》も歌う。加えてドレスデン聖母教会の2023年クリスマス・コンサートでは、クリスティアン・ティエレマン指揮でピョートル・ベチャワと共演。このコンサートはZDFによりライブストリーミングされる。昨シーズンは、ウィーン国立歌劇場の《ニュルンベルクのマイスタージンガー》エファで幸先のよい役デビューを果たし、同歌劇場では新制作の《フィガロの結婚》アルマヴィーヴァ伯爵夫人や、バリー・コスキー演出の《ドン・ジョヴァンニ》ドンナ・アンナでも活躍した。同役ではさらにバイエルン国立歌劇場や、パブロ・ゴラス=カサド

の指揮とロバート・カーセンによる記念碑的な演出でスカラ座にも出演した。近年のシーズンの主なオペラ出演としては、《フィデリオ》マルツェリーネでメトロポリタン歌劇場にデビューし、続いて《フィガロの結婚》スザンナと《魔笛》パミーナで再登場した。チューリッヒ歌劇場には《イドメネオ》イリアでデビューし、同作品のエレットラをバイエルン国立歌劇場のアントウ・ロメロ・ヌネスによる新制作で歌った。2012～16年までバイエルン国立歌劇場のアンサンブル・メンバーとして活動して以来、同歌劇場でも人気を得て、日本ツアーで《魔笛》パミーナ、ニューヨークのカーネギー・ホールで《ばらの騎士》ゾフィー、パリのシャンゼリゼ劇場公演等にも出演している。コンサートで注目すべき出演としては、クリスティアン・ティーレマン指揮シュターツカペレ・ドレスデンとベートーヴェン交響曲第9番、ダニエル・ハーディング指揮パリ管弦楽団とマーラー交響曲第2番とシューマン《ゲーテのファウストからの情景》、シュターツカペレ・ベルリンと《4つの最後の歌》、クリストフ・エッセンバッハ指揮ケルン WDR 交響楽団とシュトラウスのオーケストラ伴奏歌曲、パーヴォ・ヤルヴィ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団とベルク《7つの初期の歌》等がある。経験豊かなリサイタリストであり、ミラノ・スカラ座、ロンドンのウィグモア・ホール、ハイデルベルク春の音楽祭、ケルン・フィルハーモニー、アントワープのデ・シングル、マドリードのサルスエラ劇場、ヴィラベルトランのシューベルティアータ、ラインヴァーカル音楽祭等、主要な会場で演奏している。ペンタトーン・レーベルの専属アーティストとして、デビュー・アルバム『夢を載いて』を17年にリリースし、シュトラウス、ベルク、シェーンベルクの歌曲を収録した。2枚目のリット・アルバム『ハートのクイーン』は、シューマン、ツェムリンスキー、プーランクの作品を収録し、20年にリリースした。3枚目のアルバムは、『象徴』と題されたオール・シュトラウス・プログラムで、前述のクリストフ・エッセンバッハ指揮ケルン WDR 交響楽団との共演による22年のコンサートでのライブ録音である。長年、ルドルフ・ピエルネに師事した他、ディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウ、ユリア・ヴァラディ、エリー・アーメリング、トーマス・ハンブソンのマスタークラスにも参加している。

#### 出演公演

2024年4月13日[土]14:00 東京文化会館 大ホール

東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol.11 ブルックナー 《ミサ曲第3番》



©Todd Rosenberg Photography  
- By Courtesy of  
riccardomutimusic.com

### リッカルド・ムーティ (指揮) Riccardo Muti

ナポリ生まれ。サン・ピエトロ・ア・マイエッラ音楽院でヴィンチェンツォ・ヴィターレにピアノを学び、優秀な成績で卒業。その後ミラノのジュゼッペ・ヴェルディ音楽院でブルーノ・ベッティネッリとアントニーノ・ヴォットに師事し、作曲と指揮でディプロマを取得した。

1967年ミラノのグイード・カンテッリ国際指揮者コンクールにおいて、審査員の満場一致により優勝、初めて批評家と聴衆からの注目を集めた。68年「フィレンツェ五月音楽祭」の首席指揮者となり、80年までその任を務めた。71年、ヘルベルト・フォン・カラヤンに招かれてザルツブルク音楽祭に初登場。以降、何度も出演を重ね、2020年には同音楽祭との芸術的なコラボレーションが50周年を迎えた。



1970年代はオットー・クレンペラーの後を継いでロンドンのフィルハーモニア管弦楽団の首席指揮者（72～82年）を務め、80～92年まではユージン・オーマンディの後任としてフィラデルフィア管弦楽団の音楽監督を受け継いだ。

1986～2005年までミラノ・スカラ座の音楽監督として、モーツァルトのダ・ポンテ三部作やワーグナーの《リング》チクルス等の主要なプロジェクトを手がける。また、古典的なレパートリーと並行して、演奏機会の少ない作品や顧みられることのなかった作品も取り上げた。そのなかには18世紀ナポリ楽派の作品や、グルック、ケルビーニ、スポンティーニ等のオペラがある。プーランク《カルメル派修道女の対話》では、批評家たちから栄えあるアッピアーティ賞を受賞した。スカラ座の音楽監督として過ごした長い歳月が最高潮を迎えたのは2004年12月7日、改修を終えたスカラ座の輝かしい再開を祝う、アントニオ・サリエリ《見出されたエウローパ》公演だった。ヴェルディのレパートリーに対する貢献は多大で、これまでに《エルナーニ》、《ナブッコ》、《シチリア島の夕べの祈り》、《椿姫》、《アッティラ》、《ドン・カルロ》、《ファルスタッフ》、《リゴレット》、《マクベス》、《運命の力》、《イル・トロヴァトーレ》、《オテロ》、《アイーダ》、《仮面舞踏会》、《二人のフォスカリ》、《群盗》等を指揮している。スカラ座の音楽監督としての在任期間は史上最長である。

並はずれたキャリアのなかで世界の主要なオーケストラを指揮しており、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、フランス国立管弦楽団の他、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団とは1971年ザルツブルク音楽祭で共演して以来、とくに親密で大切な絆によって結ばれている。ウィーン・フィルの創立150周年記念コンサートを指揮するために招かれた際には、同楽団から特別な尊敬と愛情の印として、ごく少数の選ばれた指揮者にしか与えられない「金の指環」が贈られた。1993年、97年、2000年、04年、18年に続いて、21年には自身6回目となるニュー・イヤーズ・コンサートでウィーン・フィルを指揮した。18年のコンサート録音は、同年8月ザルツブルク音楽祭における同楽団とのコンサートに際してダブル・プラチナムを達成している。

03年4月、ラジオ・フランスの音楽専門局フランス・ミュージックが「リッカルド・ムーティの日」と題した番組を放送し、これまでに彼が指揮してきたすべてのオーケストラとのオペラや交響楽の録音を14時間にわたって紹介した。また同年12月14日には、再建を果たしたヴェネツィアのフェニーチェ劇場で待望のこけら落とし公演を指揮した。ラジオ・フランスは、18年5月17日にも再び「リッカルド・ムーティの日」と題して、メゾン・ド・ラ・ラジオのオーディトリウムにおけるコンサートの模様を放送している。

04年には、イタリア全土から集まった600人以上の器楽奏者の中から、国際委員会によって選ばれた若手演奏家で構成されるルイーダ・ケルビーニ・ジョヴァニーレ管弦楽団を創設した。

レコーディング活動は、すでに1970年代には重要となり、交響楽やオペラから現代音楽の作品にまで及んでいる。その録音は数多くの賞を受賞しており、RMMusic

([www.riccardomutimusic.com](http://www.riccardomutimusic.com)) というレコード・レーベルで取り扱っている。

そのアーティストとしての社会的・市民的な良心は、過去の悲惨な出来事や現代の歴史を象徴するような場所で行なわれるコンサートに示されている。ラヴェンナ音楽祭が主催するプロジェクト「友情の道」の一環として指揮をしてきた公演が、まさにそれであ

る。サラエヴォ（1997）、バイルート（1998）、エルサレム（1999）、モスクワ（2000）、エレバンとイスタンブール（2001）、ニューヨーク（2002）、カイロ（2003）、ダマスカス（2004）、チュニジアのエル・ジェム（2005）、メクネス（2006）、レバノンのためのコンサート（2007）、マツァーラ・デル・ヴァッロ（2008）、サラエヴォ（2009）、トリエステ（2010）、ナイロビ（2011）、ラヴェンナ（2012）、ミランドラ（2013）、レディプーリア（2014）、オトラント（2015）、東京（2016）、テヘラン（2017）、キーウ（2018）、アテネ（2019）、パエストウム（2020）、エレバン（2021）、ルルドとロレートの聖母教会（2022）、ジャラシュとボンペイ（2023）において、ミラノ・スカラ座管弦楽団・合唱団、フィレンツェ五月音楽祭管弦楽団・合唱団、ヨーロッパの主要オーケストラのトップ・プレーヤーで構成された「ミュージシャンズ・オブ・ヨーロッパ・ユナイテッド」、そして最近ではルイーダ・ケルビーニ・ジョヴァニーレ管弦楽団が公演を行ってきた。

これまでに授けられた国際的な栄誉は数知れず、イタリア共和国からカヴァリエーレ大十字勲章、ドイツ連邦共和国から功労十字勲章等の他、フランスでは、エリゼ宮殿で開かれた非公開のセレモニーで、ニコラ・サルコジ大統領からレジオン・ドヌール勲章オフィシエが授与された。英国では、エリザベス女王より大英帝国勲章（ナイト爵）を賜った。ザルツブルクのモーツァルテウムからはモーツァルトの音楽に対する貢献により銀メダルを授与され、ウィーンではウィーン楽友協会、ウィーン宮廷楽団及びウィーン国立歌劇場の名誉会員に選ばれた。イスラエル国からはウルフ賞（芸術部門）、ウクライナのポロシェンコ大統領からは2018年7月の友情コンサートに際してメリット勲章を授与された。同年10月には、高松宮殿下記念世界文化賞（音楽部門）を受賞した。

また、世界中の主要な大学から、20以上の名誉学位を授与されている。

ザルツブルク祝祭大劇場で開かれたモーツァルト生誕250年祝賀行事のオープニング・コンサートでウィーン・フィルハーモニー管弦楽団を指揮、2021年には同楽団との共演が途切れることなく50周年を迎えた。

07年のザルツブルク聖霊降臨祭音楽祭において、ルイーダ・ケルビーニ・ジョヴァニーレ管弦楽団との5年間にわたるプロジェクトを開始した。これは18世紀ナポリ楽派のオペラ及び宗教音楽という遺産の再発見と再評価に捧げられたものである。

10年9月～23年6月まで、シカゴ交響楽団の音楽監督を務め、その在任期間の終わりに、同楽団から終身名誉音楽監督として認められた。

2010年、「ミュージカル・アメリカ」誌で「ミュージシャン・オブ・ザ・イヤー」に選ばれる。11年2月には、シカゴ交響楽団・合唱団とのヴェルディ《レクイエム》のライブ録音が、第53回グラミー賞の最優秀クラシック・アルバム賞と最優秀合唱パフォーマンス賞の2つを獲得。同年3月には名誉あるビルギット・ニルソン賞の受賞者に選ばれ、10月13日にストックホルムのスウェーデン王立歌劇場における授賞式で、カール16世グスタフ国王とシルヴィア王妃臨席のもと、同賞が授与された。同年4月にはニューヨークのオペラ・ニュース賞、5月にはスペインの栄誉あるアストゥリアス皇太子賞（芸術部門）を受賞した。皇太子賞はその秋にアストゥリアス皇太子が主宰するオビエドにおける授賞式で授与された。また、同年7月はウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の名誉団員に、8月にはローマ歌劇場の終身名誉監督に選ばれている。

12年5月、ローマ教皇ベネディクト16世より最高位の騎士団勲章である大聖グレゴリウス勲章（大十字）が贈られた。16年には日本政府より旭日重光章を受章。21年8月、オ

ーストリア政府が民間人に授与する中では最高位の荣誉である、オーストリア共和国功績勲章の名誉大金章を授与された。同年10月にはロシア芸術アカデミーより名誉外国人会員に選ばれた。

15年7月、これまで以上に若手演奏家の指導に注力したいという思いが実現して、若手の指揮者・コレペティートル・歌手のための「リッカルド・ムーティ イタリア・オペラ・アカデミー」の第1回が、ラヴェンナのアリギエーリ劇場で開催された。アカデミーには世界中から才能ある若手音楽家や音楽愛好家が集って参加した。同アカデミーの目的は、マエストロ・ムーティの経験や受けた教を若手演奏家に手渡し、また聴衆にはオペラ上演に至るすべての複雑な過程について理解を深めてもらうことである。第1回のアカデミーは歌劇《ファルスタッフ》に焦点を当て、翌16年に選ばれた作品は《椿姫》（ラヴェンナとソウルで）、17年は《アイーダ》、18年は《マクベス》（ラヴェンナで。21年4月には東京で）、19年は《フィガロの結婚》、同年3月の第1回「イタリア・オペラ・アカデミー in 東京」は《リゴレット》、20年は《カヴァレリア・ルステイカーナ》と《道化師》、そして21年12月ミラノでの《ナブッコ》は、プラダ財団との初めてのコラボレーションとなった。22年12月にはラヴェンナでヴェルディ《レクイエム》、23年には東京で《仮面舞踏会》を上演した。

#### 出演公演

2024年4月17日[水]/20日[土]14:00 東京文化会館 大ホール

《アイーダ》（演奏会形式／字幕付）



#### 向山佳絵子（チェロ） Kaeko Mukoyama

東京生まれ。9歳よりチェロを始め、松波恵子、堀江 泰氏、レーヌ・フラショー、毛利伯郎の各氏に師事。1985年、第54回日本音楽コンクール第1位入賞。87年、東京藝術大学入学。88年、第3回アリオン賞審査委員奨励賞受賞。90年、ドイツ・リューベック国立音楽大学に留学し、ダヴィド・ゲリングスに師事。同年、第10回ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第1位入賞。92年、NHK交響楽団の「若い芽のコンサート」に出演し、高い評価を受けた。同年、第2回出光音楽賞受賞。カザルスホールでの「向山佳絵子とチェロの世界」シリーズや、東京オペラシティでの連続リサイタル、各地の音楽祭への参加、JTアートホール室内楽シリーズのプランナーとして活躍、また98年よりハレー・ストリング・カルテットのチェリストに迎えられるなど、常に話題を集めている。チェロのヤーノシュ・シュタルケル、ダヴィド・ゲリングス、ヴァイオリンのアイザック・スターン、ヨセフ・スーク、イヴリー・ギトリス、ピアノのマルタ・アルゲリッチほか、世界の一流演奏家たちとの共演も数多くこなす一方、NHK交響楽団、東京都交響楽団、読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団など主要オーケストラとも共演。そのほか、リサイタル、室内楽にと多彩な演奏活動を繰り広げている。また、98～99年にはNHK-FMの人気番組「おしゃべりクラシック」のパーソナリティを務め広い層からの支持を得た。その後もNHK-FMには度々出演、生放送中のリクエストに答えたり、特番の司会を務める等し、話題となった。最近では企画の公演が、BSクラシック倶楽部等テレビでも放送されている。2013～2017年にはNHK交響楽団首席チェロ奏者も務めた。録音はソニー・ミュージックジャパンインターナショナルより『シューベルト：アルペジオーネソナタ他』『祈り』

『森の静けさ』『白い風景』『バッハ無伴奏チェロ組曲全曲』の5枚のCDが発売されており、いずれも高い評価を得ているほか、カメラータ・トウキョウから池辺晋一郎及び三善晃のチェロ協奏曲のCDもそれぞれ発売されている。また録音曲はNHKスペシャルや、ドラマのテーマ曲、TVCM曲などにも使用されている。2017年度まで東京藝術大学非常勤講師として、2018年度からは京都市立芸術大学准教授として後進の指導を務める傍ら、日本を代表する実力派チェリストとして益々活動の場を広げている。

#### 出演公演

2024年4月13日[土]19:00 東京文化会館 小ホール  
ブラームスの室内楽 XI



### 村上淳一郎（ヴィオラ） Junichiro Murakami

桐朋学園大学卒業後、文化庁新進芸術家海外派遣員としてイタリア、フィレンツェに留学。トリエステ国際コンクール第1位（イタリア、トリエステ）当時のイタリア大統領チャンピ氏より金メダルを授与される他、イタリア全土、ヨーロッパ各地で約50回のコンサートを提供される。ヴィットリオ・グイ国際コンクール第1位（イタリア、フィレンツェ）イタリアからドイツに移りケルン放送交響楽団ソロヴィオリストに就任、またゲヴァントハウス管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、バンベルク交響楽団等で客演首席奏者として出演の他、ヨーロッパ各地の音楽祭で独奏者や室内楽奏者として出演。

2021年10月よりNHK交響楽団首席ヴィオラ奏者。

#### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00 東京文化会館 小ホール  
N響メンバーによる室内楽



### 村田恵子（ヴィオラ） Keiko Murata

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、同大学音楽学部を経て、同大学院修士課程修了。第4回日本アンサンブルコンクール最優秀演奏者賞受賞。五嶋みどり氏主催「第2回コミュニティエンゲージメントプログラム2007（カンボジア）」「小澤征爾音楽塾オーケストラプロジェクト」などに参加。トリトン晴れた海のオーケストラ、アンサンブル of トウキョウ、ヴィオラ四重奏 Alto de Campagne メンバー。

現在、東京都交響楽団ヴィオラ副首席奏者。

#### 出演公演

2024年3月28日[木]19:00 東京文化会館 小ホール  
都響メンバーによる室内楽 ヴィオラ・アンサンブル

### デイヴィッド・メイソン（ヴィオラ） David Mason

米国ウィスコンシン州生まれ。ボストンのニューイングランド音楽院で全額奨学金を得て学士号を取得。同じく全額奨学金を得てイェール大学で音楽修士号を取得した。2017年に





兵庫芸術文化センター管弦楽団に入団。2020年、日本フィルハーモニー交響楽団に入団し、2021年に首席ヴィオラ奏者に就任。同年、パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌に客演首席奏者として出演。現在、東京都交響楽団ヴィオラ奏者。

#### 出演公演

2024年3月28日[木]19:00 東京文化会館 小ホール  
都響メンバーによる室内楽 ヴィオラ・アンサンブル



### ピエール・ジョルジョ・モランディ (指揮) Pier Giorgio Morandi

ミラノ・スカラ座管弦楽団の首席オーボエ奏者を10年間務めた。ミラノのジュゼッペ・ヴェルディ音楽院で作曲を学び、ザルツブルク・モーツァルテウムでフェルディナント・ライトナーに指揮を学んだ。スカラ座にいた数年の間に、リッカルド・ムーティ、続いてジュゼッペ・パターネのアシスタント指揮者となり、そこで様式的なイタリアのレパートリーを洗練させ、イタリア・オペラの伝統のあらゆるコツを掴む多くの経験を得た。

1987年、アメリカのタングルウッドでレナード・バーンスタインや小澤征爾の指導を受け、同年バーンスタイン賞としても知られるタングルウッド・コンペティションで優勝した。89年に、ローマ歌劇場の副首席指揮者に就任し、《エルナーニ》や《蝶々夫人》、その他いくつかの交響曲コンサートを指揮した。90年には、ローマ歌劇場と最初のオペラとしてパイジエッロ《ラ・マンチャのドン・キホーテ》を録音した。また91年より5年間、ブダペストのハンガリー国立歌劇場の首席客演指揮者を務めている。イタリア・オペラのレパートリーは幅広く、90年以来、客演指揮者として定期的に呼ばれており、これまでに指揮したイタリア、ヨーロッパ、世界中のあらゆる主要な歌劇場には、パレルモ、トリエステ、ローマ、マルセイユ、セビリアのマエストランサ、東京文化会館、大阪、ソウルの国立歌劇場、ブエノスアイレスのテアトロ・コロン、ストックホルムのスウェーデン王立歌劇場、ブリュッセルのモネ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、フランクフルト歌劇場、ウィーン国立歌劇場、マチェラータ音楽祭、アリーナ・ディ・ヴェローナ、チューリッヒ歌劇場、ヨーテボリ、パルマのレージョ劇場、ナポリ、トッレ・デル・ラーゴのプッチーニ音楽祭、ビルバオ、マヨルカ島、ラス・パルマス、バレンシア、コペンハーゲンのオペラハウス、シアトル・オペラ、ロンドンのロイヤル・アルバート・ホール等が挙げられる。

交響曲レパートリーの演奏家としても高い評価を受けており、これまでにハンガリー放送交響楽団、ブダペスト・フィルハーモニー管弦楽団、ブダペスト国立歌劇場管弦楽団、フランダース放送管弦楽団、ローマのサンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、ヴェローナのフィラルモニコ劇場管弦楽団、サンレーモ交響楽団、レッジョ・カラブリア交響楽団、九州交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、ヘルシンボリ交響楽団等を指揮してきた。レコーディングも数多く手掛けており、テノールのホセ・クーラとロンドン交響楽団でヴェルディ・ガラDVDや、テノールのヴィットリオ・グリゴロとのヨーロッパツアーで2枚のCD(ソニー・クラシカル)をリリースしている。近年のシーズンのハイライトには、首席客演指揮者を務めたストックホルムのスウェーデン王立歌劇場で《西部の娘》、《トスカ》、《仮面舞踏会》、オスロとカタールで《アイダ》、ドレスデンで《愛の妙薬》、《ラ・ボエーム》、《ドン・カルロ》、フランクフルトで《マリア・ストゥアルダ》、スカラ座で《マクベス》、ブダペストの芸術宮殿で《アッテイヤ》、ナポリで《リゴレット》、グラーツ楽友協会での交響曲コンサート等が挙げられる最近では、スカラ座で《ドン・カルロ》、《アイダ》、《ランメルモールのルチア》、コペンハーゲンで《オテロ》、オスロで《蝶々夫人》、ドレスデンで《マノン・レスコー》、《リゴレット》、《トゥーランドット》、《蝶々夫人》、《ラ・ボエーム》、《椿姫》、フランクフルトで

《西部の娘》、北京の中国国家大劇院で《オテロ》、《愛の妙薬》、東京の新国立劇場で《マノン・レスコー》、オペラ・バステューユで《リゴレット》、メトロポリタン・オペラで《リゴレット》、《蝶々夫人》、ハンブルクで《ランメルモールのルチア》、《ドン・カルロ》、スフェリステリオ音楽祭で《トゥーランドット》、オペラ・オーストラリアで《アイダ》、トリノのレージョ劇場で《蝶々夫人》等がある。

#### 出演公演

2024年4月11日[木]18:30/14日[日]14:00 東京文化会館 大ホール  
東京春祭プッチーニ・シリーズ vol.5 《ラ・ボエーム》(演奏会形式/字幕付)



### 盛田麻央 (ソプラノ) Mao Morita

国立音楽大学院修了。明治安田クオリティオブライフの奨学金を受け渡仏。パリ・エコー・ノルマル音楽院、パリ国立高等音楽院修士課程を最優秀の成績で修了。第17回日仏音楽コンクール第1位及び竹村賞、第12回東京音楽コンクール第2位、第8回エレナ・オブラストヴォヴァ国際ヤングオペラコンクール第3位。オペラでは二期会《ドン・ジョヴァンニ》ツェルリーナで出演後、《メリー・ウィドウ》ヴァランシェンヌ、《魔笛》パミーナ、他にも日生劇場《ルサルカ》《魔笛》、小澤征爾音楽塾《子どもと魔法》、調布市民オペラ《椿姫》ヴィオレッタ等数多く出演し、いずれも好評を博す。コンサートにおいても全国各地の主要オーケストラと共演を重ねており、ベートーヴェン《第九》をはじめ、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」等に出演。NHK「リサイタル・パッシオ」出演。18年には「NHK ニューイヤーオペラコンサート」に出演するなど、今後ますますの活躍が期待されている。国立音楽大学非常勤講師、二期会会員。

#### 出演公演

2024年4月19日[金]14:00 東京都美術館 講堂  
ミュージアム・コンサート「デ・キリコ展」プレ・コンサート



### 安田謙一郎 (チェロ) Ken-ichiro Yasuda

斉藤秀雄、ガスパール・カサド、ピエール・フルニエに師事。1965年第34回日本音楽コンクール第1位を受賞。翌年、ロストロポーヴィチ、フルニエに勧められ第3回チャイコフスキー国際コンクールを受け、第3位入賞。69年ルツェルン音楽祭合奏団のソリストとして日本、ヨーロッパ、アメリカ、カナダの演奏旅行に同行する。74年香港、サンフランシスコにて小澤征爾と共演。75年より桐朋学園で後進の指導にあたる。水戸室内管弦楽団のメンバーとして活躍。86年に結成した安田弦楽四重奏団では、80曲におよぶハイドンの弦楽四重奏曲全曲演奏、ベートーヴェン年代順室内楽作品の演奏会などのコンサート活動を続け、高い評価を得ている。日本現代音楽協会、日本音楽舞踏会議、日本・ロシア音楽家協会、会員。

#### 出演公演

2024年4月16日[火] 国立科学博物館 地球館2階常設展示室  
ミュージアム・コンサート 白井 圭 (ヴァイオリン) & 安田謙一郎 (チェロ)



## 安宅 薫 (ピアノ) Kaoru Yasumi

桐朋女子高等音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業。

イタリア・シエナのキジアーナ音楽院夏季セミナーでディプロマ名誉賞受賞。イタリア・トリエステで開かれた第3回セルジョ・ロレンチ国際室内楽コンクールにて石岡久乃とのピアノデュオで第2位入賞、国内外でのリサイタルの他に、NHK 交響楽団、読売日本交響楽団、東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等と共演。パイヤール室内楽管弦楽団の全国ツアーにも同行した。プリムローズマジックとして8枚のCDをリリース。ピアノデュオ以外でも様々な演奏家と共演し、録音したCDも多い。

桐朋学園大学音楽学部弦楽科嘱託演奏員を務め、同大学付属「子供のための音楽教室」講師。オーケストラジャパンメンバー。

### 出演公演

2024年3月17日[日]14:00 国立科学博物館 日本館2階講堂

ミュージアム・コンサート

吉田 秀 (コントラバス) & 幣 隆太郎 (コントラバス)



## マレク・ヤノフスキ (指揮) Marek Janowski

伝統的なドイツ音楽における偉大な巨匠の一人として、ワーグナー、シュトラウス、ブルックナー、ブラームス、ヒンデミット、新ウィーン楽派の演奏で全世界に知られており、これらのレパートリーにおいて広範で優れた録音がある。ベルリン放送交響楽団とのワーグナー・オペラのチクルスは、演奏会形式によるオペラの新しいスタンダードとなった。ペンタトーン・レーベルによるライブ録音は、BBC ミュージック・マガジンによって「これぞ21世紀『リング』のサウンドだ」と評されている。

世界の一流オーケストラの間でも傑出した評価を得ており、定期的に共演しているオーケストラには、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団、ケルン WDR 交響楽団、NDR エルプフィルハーモニー管弦楽団、バイロイト祝祭管弦楽団、ブダペスト祝祭管弦楽団、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、スイス・ロマンド管弦楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、NHK 交響楽団、東京のオペラの森 (現: 東京・春・音楽祭) の他、アメリカではサンフランシスコ交響楽団、シカゴ交響楽団、ワシントン・ナショナル交響楽団等がある。

国際的に通用するオーケストラを作り上げる手腕が評価され、音楽監督や首席指揮者として引く手あまたである。ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者及び芸術監督を、最近では2019~23年まで、それ以前は2001~03年まで務め、来シーズンには多くのプロジェクトに客演指揮者として戻ってくる。その前は2002~16年までベルリン放送交響楽団の芸術監督、2000~05年はモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督を務めた。1984~2000年にかけてはフランス放送フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督として、同楽団をフランス国内だけでなく世界でも群を抜いたオーケストラに育て上げた。そのパリでの地位に加えて、1986~90年はケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団の首席指揮者、1997~99年にはベルリン・ドイツ交響楽団の首席客演指揮者も務めている。

ワルシャワに生まれ、ドイツで教育を受け、アシスタント指揮者としてアーヘン、ケルン、デュッセルドルフ、ハンブルクを経て、フライブルク・イム・ブライスガウ (1973~75年) やドルトムント (1975~79年) で音楽総監督の地位に就いた。ドルトムント時代に急速に評判を上げ、いくつものヨーロッパの主要な歌劇場に指揮者として招かれるようになった。1970年代後半から、世界的に名を知られたあらゆる歌劇場で定期的に客演しており、それ

はニューヨークのメトロポリタン歌劇場からミュンヘンのバイエルン国立歌劇場、シカゴやサンフランシスコからハンブルク、ウィーンやベルリンからパリにまで及ぶ。90年代からは、ドイツの偉大な交響曲レパートリーに集中するようになり、非常に高い評価を受けている。

40年にわたって築き上げられた優れた録音の中には、ドレスデン・シュターツカペレとのワーグナー《リング》チクルス（1980～83年）の記念碑的な収録がある。その他にも、ペンタトーンに収録されたスイス・ロマンド管弦楽団とのブルックナー・チクルス等、いくつものオペラ全集や交響曲チクルスの録音があり、その多くが国際的な賞を受賞している。さらにペンタトーンからのリリースには、リーゼ・ダヴィドセンやアンドレアス・シャーマー、フランクフルト放送交響楽団やライブツィヒ放送交響楽団と収録したウェーバー《魔弾の射手》、ケルン WDR 交響楽団と収録したベートーヴェンの交響曲第5番と第6番等の他、最近ではドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団と収録したシューベルトの交響曲《未完成》や《ザ・グレート》等がある。また、モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団とトランシルヴァニア国立フィルハーモニー合唱団、フレディ・デ・トマーゾを筆頭にレスター・リンチ、サイオア・エルナンデス等、豪華キャストによるヴェルディ《仮面舞踏会》は5つ星の評価を受け、BBC ミュージック・マガジン 2023年9月号のオペラ・チョイスに選ばれた。

#### 出演公演

2024年3月27日[水]/30日[土]15:00 東京文化会館 大ホール  
東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.15  
《トリスタンとイゾルデ》（演奏会形式／字幕付）  
2024年4月7日[日]15:00 東京文化会館 大ホール  
ワーグナー『ニーベルングの指環』ガラ・コンサート



### 山内俊輔（チェロ） Shunsuke Yamanouchi

1969年長野市生まれ。10歳よりチェロを故・徳永兼一郎氏に師事桐朋学園大学在学中、室内楽を徳永二男、山口裕之、毛利伯郎、練木繁夫の各氏に師事。また、ダニエル・シャフラン、ミシェル・シュトラウス、ワルター・ノータス各氏のマスタークラスを受講。1994年、NHK交響楽団に入団。1999年、文化庁在外研修員として渡独、ミュンヘン音楽大学教授ワルター・ノータス氏に師事。またイゴール・オイストラフ氏の室内楽マスタークラスを受講。現在、オーケストラ以外にも、NHK交響楽団元コンサートマスター山口裕之氏らとカルテットリゾナンツァ、又同じくピアノクインテット スペランツァ等室内楽奏者としても活動している。現在NHK交響楽団次席奏者。

#### 出演公演

2024年4月10日[水]19:00 国立科学博物館 日本館2階講堂  
ミュージアム・コンサート N響メンバーによる室内楽



### 山岸 努（ヴァイオリン） Tsutomu Yamagishi

1986年千葉市出身。桐朋女子高等学校音楽科（男女共学）を経て、2008年同大学を卒業、NHK交響楽団入団。



第 51 回・第 54 回全日本音楽コンクール入賞。第 12 回日本モーツァルト音楽コンクール第 1 位・大賞受賞。国内主要音楽祭にて音楽賞受賞。第 9 回千葉市芸術文化新人賞を受賞。これまでに辰巳明子、堀正文の各氏に師事。室内楽やソロコンサートでも活動中。現在 NHK 交響楽団第 1 ヴァイオリン次席奏者。

#### 出演公演

2024 年 4 月 18 日 [木] 19:00 東京文化会館 小ホール  
N 響メンバーによる室内楽



### 山岸リオ (ホルン) Rio Yamagishi

神奈川県出身。15 歳からホルンを始める。2001 年渡独し、2008 年リュウベック国立音楽大学を卒業。その間にオーケストラ、オペラや室内楽での演奏をはじめ、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン音楽祭や北ドイツ放送交響楽団のモーツァルト祭などにも出演し好評を博す。また、ユーディ・メニューイン財団「Live Music Now」の支援により、ホルン四重奏団「NordicHorning」での活動を精力的に行なう。2009 年に帰国し、現在読売日本交響楽団ホルン奏者。さまざまなオーケストラ、音楽祭にも出演している。ホルン四重奏 Quartet Hornets メンバー。これまでにホルンを、山岸博、ブルーノ・シュナイダー、クリストフ・コーラー、日高剛の各氏に、室内楽を、トーマス・ブランディス、ディートヘルム・ヨナスの各氏に師事。

#### 出演公演

2024 年 3 月 26 日 [火] 19:00 東京文化会館 小ホール  
東京春祭チェンバー・オーケストラ



### 山下浩司 (バス) Koji Yamashita

国立音楽大学卒業。同大学大学院歌曲専攻修了。ザルツブルク及びウィーン国立音楽大学にて研鑽を積む。第 9 回日本モーツァルト音楽コンクール第 1 位。

東京のオペラの森 2005 年《エレクトラ》後見人、06 年《オテロ》モンターノ、07 年《タンホイザー》ラインマルで出演。東京・春・音楽祭には、10 年《パルジファル》第 2 の聖杯騎士、12 年《タンホイザー》ラインマル、13 年《ニュルンベルクのマイスタージンガー》コンラート・ナハティガルで出演している。

オペラへの出演としては、06 年二期会《フィガロの結婚》フィガロ、07 年同《魔笛》パパゲーノ、08 年新国立劇場《魔弾の射手》キリアン、10 年同《影のない女》夜番、11 年日生劇場《夕鶴》惣ど、二期会創立 60 周年記念《パルジファル》グルネマンツ、13 年びわ湖ホール・神奈川県民ホール《椿姫》ドビニー侯爵、同《ワルキューレ》フンディング、日生劇場《フィデリオ》ロッコ、16 年二期会・日生劇場《ナクソス島のアリアドネ》音楽教師、17 年新日本フィルハーモニー交響楽団《ラインの黄金》(演奏会形式) ファフナー等数多く出演。近年では、18 年 3 月びわ湖ホール《ワルキューレ》フンディング、同年 6 月に日生劇場《魔笛》弁者・僧侶役、8 月サントリーホールサマーフェスティバル 野平一郎作曲《亡命》ゾルタン、19 年 1 月間宮芳生作曲《ニホンザル・スキトオリメ》ソトオリメ、20 年 1 月びわ湖ホール《こうもり》フランク、20 年 9 月二期会《フィデリオ》ロッコ、21 年二期会《ルル》シゴルヒ、22 年まつもと市民オペラ《山と海猫》川田、二期会《パ

ルジファル》グルネマンツ、23年東京・春・音楽祭 R.ムーティ指揮《仮面舞踏会》サムエル、二期会《椿姫》ドビニー、で出演、好評を博した。

コンサートでは、バッハ《ヨハネ受難曲》、モーツァルト《レクイエム》《戴冠ミサ》、ベートーヴェン《第九》《ミサ・ソレムニス》、フォーレ《レクイエム》等、全国各地のオーケストラと多数共演。2014年度には、国立音楽大学長期国外研究員としてニューヨークにて研究活動を行い、帰国後、Hakuju Hallにて、シューベルト《美しき水車小屋の娘》全曲リサイタルを開催し絶賛を博す。

また、男声ユニット IL DEVU メンバーとして、アルバム『DEBUT』『NUKUMORI』『LOVE CHANGES EVERYTHING』を日本コロムビアよりリリース。

2023年は11月・12月びわ湖ホール・東京芸術劇場・やまぎん県民ホール共同制作《こうもり》フランク、12月まつもと市民オペラ《山と海猫》(再演)川田に出演予定。国立音楽大学教授。二期会会員。

#### 出演公演

2024年3月23日[土]14:00/24日[日]14:00/28日[木]19:00

30日[土]14:00/31日[日]14:00

三井住友銀行東館ライジング・スクエア1階 アース・ガーデン

東京春祭 for Kids 子どものためのワーグナー

《トリスタンとイゾルデ》(バイロイト音楽祭提携公演)



### 山田武彦 (ピアノ) Takehiko Yamada

東京藝術大学大学院作曲専攻修了。1993年フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院ピアノ伴奏科に入学、同クラスの7種類の卒業公開試験を、審査員の満場一致により首席で一等賞(プルミエ・プリ)を得て卒業。フランスの演奏団体である2e2m、L'itineraire、Triton2等でソリストとして演奏し、現代音楽の紹介を務める。帰国後はピアニストとして数多くの演奏者と共演、的確でおおらかなアンサンブル、色彩豊かな音色などが好評を博し、コンサート、録音、放送等の際のソリストのパートナーとして厚い信頼を得る。東京藝術大学招聘教授を経て現在同大学音楽文化学所属(ソルフェージュ分野主任)、洗足学園音楽大学客員教授。全日本ピアノ指導者協会正会員、日本ソルフェージュ研究協議会理事、日本ピアノ教育連盟会員。

2017年より浅草オペラ100周年記念企画「ああ夢の街浅草！」にて音楽監督を務め、全曲の作・編曲を担当、浅草「東洋館」他にて上演を行う。

#### 出演公演

2024年4月19日[金]14:00 東京都美術館 講堂

ミュージアム・コンサート 「デ・キリコ展」プレ・コンサート



### トム・ヤンセン (ピアノ) Thom Janssen

ピアノをヤープ・スパーンデルマン、ヤン・ヴァイン、ヘアマン・ウールホーンに師事。ユトレヒトで音楽理論とピアノを学び、優秀な成績でディプロマを取得した。のちにルドルフ・ヤンセン、マーティン・アイセップ、ヘルムート・ドイチュとともに、リート伴奏を専門とする。また、バーデン・バイ・ウィーンにあるフランツ・シューベルト・インス

ティテュートでも学び、ロベルト・ホルの国際シューベルト・マスタークラスに参加、南フランスのヴィルクローズ音楽アカデミーにも招かれて学んだ。エリー・アーメリングやハンス・ホッター、ヴァルター・ベリー、ヴォルフガング・ホルツマイアのマスタークラスでは伴奏を務めた。

ソロ・リサイタルを行ない、様々なアンサンブルやオーケストラとも共演している。数年にわたって現代音楽に特化した「BASHO アンサンブル」のメンバーとして活動。しばらくは「オペラ SKON」の音楽リーダーを務め、《魔笛》、《カルメン》、《賢い女》等のオペラを上演してヨーロッパ各地をまわる様々なツアーに同行した。

ピアニストとして、オランダ室内合唱団、オランダ放送合唱団、オランダ国立オペラ合唱団とともに、ベルナルト・ハイティンク、リッカルド・シャイー、イヴァン・フィッシャー、エフゲニー・スヴェトラノフ等の指揮者と共演している。

数々の著名なコンクールでも伴奏者を務めており、ブリュッセルのエリザベート王妃国際音楽コンクール、ザルツブルクの国際モーツァルト・コンクール、ミュンヘン国際音楽コンクール等が挙げられる。

頻りに様々な音楽祭に招かれており、デルフト室内楽音楽祭、ゴールウェイ音楽祭、ハーグランドン音楽祭等に出演する他、オランダ放送4やBBC 3、バイエルン放送、ベルギー国立放送等のラジオやテレビで収録もしている。

数年にわたってアルクマール音楽院のピアノ科教授を務め、現在はハーグ王立音楽院で教鞭を執る。しばしばオランダ国内のスタインウェイ・コンクールやペトロフ・コンクール等のピアノ・コンクールで審査員を務めている。

#### 出演公演

2024年4月4日[木]19:00 東京文化会館 小ホール

レネケ・ルイテン (ソプラノ) & トム・ヤンセン (ピアノ)



#### 尹 千浩 (トランペット) Yoon Cheonho

神奈川県横浜市生まれ。愛知県立芸術大学在学中、アジアユースオーケストラ、小澤征爾音楽塾、PMFに参加。ヤマハ新人演奏会出演、おきでんシュガーホール新人演奏会においては優秀賞受賞。同大卒業後渡米し、クリーヴランド音楽院及びコルバーン音楽院修了。在米中にウエストヴァージニア交響楽団の2番/副首席トランペット奏者、バークレー交響楽団の首席奏者を歴任し、ヘルシンキフィル、マレーシアフィルなどの海外オーケストラにも客演。これまでにトランペットを織田準一、佐藤友紀、武内安幸、マイケル・サックス、ジェームス・ウィルトの各氏に師事。

現在読売日本交響楽団トランペット奏者。Bach Artists Japan 匠メンバー。昭和音楽大学、洗足学園大学各非常勤講師。

#### 出演公演

2024年3月26日[火]19:00 東京文化会館 小ホール

東京春祭チェンバー・オーケストラ



## 横坂 源 (チェロ) Gen Yokosaka

新潟市出身。2002年7月、チェリストの登竜門として知られる全日本ビバホール・チェロコンクールでの最年少優勝(15歳)をはじめ、2005年に第15回出光音楽賞を、2008年に第7回齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。2009年5月には全ドイツ学生音楽コンクールで第1位(室内楽)を、2010年9月には第59回ミュンヘン国際音楽コンクール・チェロ部門で第2位を受賞し、国際的なチェリストとしてのキャリアを本格化させる。

1999年10月、13歳で東京交響楽団とサン＝サーンスのチェロ協奏曲を共演したのを皮切りに、日本フィルハーモニー交響楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、バイエルン放送交響楽団ほか、小澤征爾、岩城宏之、秋山和慶、小林研一郎、大友直人、尾高忠明、広上淳一、山下一史、梅田敏明、渡辺一正、山田和樹、クリストフ・ポッペン各氏等と共演し、好評を博す。

豊かな音楽性やイメージーションが卓抜したテクニックで表現され、「力強く、豊かで、円熟した音色、そして高い集中力と、何よりも情熱的で生き生きとした演奏」(ハレル・タグプロット)など、各誌で絶賛されている。

桐朋学園女子高等学校(男女共学)を卒業後、ソリストディプロマ・コースを経て、シュトゥットガルト国立音楽大学、並びにフライブルク国立音楽大学で研鑽を積む。鷲尾勝郎、毛利伯郎、ジャン＝ギアン・ケラスの各氏に師事。ピエール・ブーレーズが指揮するルツェルンフェスティバル・アカデミーに18歳で参加して以来、現代音楽にも積極的に取り組んでいる。録音では、2016年に『J.S. バッハ: ガンバ・ソナタ集(ピアノ: 藤井一興)』、2020年12月には『シューマン&メンデルスゾーン(ピアノ: 加藤洋之)』をリリースし、レコード芸術誌で特選盤に選ばれた。これまでに、テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHK「クラシック倶楽部」、「FM名曲リサイタル」等、メディアにも出演多数。現在最も幅広い演奏活動を展開するチェリストの一人である。

### 出演公演

2024年4月19日[金]19:00 東京文化会館 小ホール

東京春祭〈Geist und Kunst〉室内楽シリーズ vol.4

郷古 廉(ヴァイオリン) & 加藤洋之(ピアノ) 横坂 源(チェロ)を迎えて



## 吉井瑞穂 (オーボエ) Mizuho Yoshii

甘美な音色と豊かな音楽性で世界の聴衆を魅了するオーボエ奏者。

東京藝術大学入学後、渡独。カールスルーエ国立音楽大学を首席で卒業。日本音楽コンクール優勝ほか、英バルビローリ国際コンクール、日本管打楽器コンクールで入賞。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のエキストラ奏者として活躍後、2000年から約20年間にわたってマーラー室内管弦楽団の首席奏者として欧州を中心に演奏活動を行い、クラウディオ・アバドをはじめ(共演200回以上)、ギュンター・ヴァント、ニコラウス・アーノンクール、ピエール・ブーレーズ、ダニエル・ハーディング、グスターボ・ドゥダメル、フランソワ＝グザヴィエ・ロトといった巨匠の指揮で演奏を重ねた。欧州の主要オーケストラ、アンサンブルから頻りに客演首席奏者として招かれる一方、ソロや室内楽でも精力的な活動を展開し、NHK交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団、テツラフ弦楽四重奏団、レイフ・オヴェ・アンズネス、マーティン・フロストらと共演。

ニューヨークのマンハッタン音楽院、イギリス、スペイン、ドイツ、コロンビア、ベネズエラなどでマスタークラス教授として招かれ、後進の指導にあたる。



東京藝術大学准教授。ルツェルン祝祭管弦楽団設立メンバー。第 49 回 JXTG 音楽賞（現 ENEOS 音楽賞）奨励賞受賞。鎌倉市出身・在住。

#### 出演公演

2024 年 4 月 1 日[月]19:00 東京文化会館 小ホール

吉井瑞穂（オーボエ） & 川口成彦（フォルテピアノ & チェンバロ）



### 吉田 秀（コントラバス） Shu Yoshida

1986 年東京藝術大学音楽学部卒業。藝大フィルハーモニア管弦楽団首席奏者を経て 1991 年 NHK 交響楽団に入団。現在首席奏者を務める。室内楽の分野ではオーギュスタン・デュメイ、ピンカス・ズッカーマン、ライナー・キュッヒル、ギドン・クレメル、マリア・ジョアン・ピリス、ヴォルフガング・サヴァリッシュ、マルタ・アルゲリッチ、ゲルハルト・オピッツ、カルミナ弦楽四重奏団、ベルリンフィルピアノ四重奏団、ターリッヒ弦楽四重奏団、メロス弦楽四重奏団、ライブツィヒ弦楽四重奏団、ゲヴァントハウス弦楽四重奏団、モザイクカルテットなどと共演。また東京シンフォニエッタ、いずみシンフォニエッタ大阪、紀尾井ホール室内管弦楽団、鎌倉ゾリステンなどのメンバーとしても活動。霧島国際音楽祭、宮崎国際音楽祭などに参加。東京藝術大学教授、東京音楽大学特任教授、相愛大学客員教授、沖縄県立芸術大学非常勤講師。

#### 出演公演

2024 年 3 月 17 日[日]14:00 国立科学博物館 日本館 2 階講堂

ミュージアム・コンサート

吉田 秀（コントラバス） & 幣 隆太朗（コントラバス）

2024 年 3 月 26 日[火]19:00 東京文化会館 小ホール

東京春祭チェンバー・オーケストラ

2024 年 4 月 6 日[土]15:00 東京文化会館 小ホール

小林海都（ピアノ）と仲間たち



### 吉村結実（オーボエ） Yumi Yoshimura

東京音楽大学に特待奨学生として在籍し、卒業後パリ地方音楽院に入学。同音楽院オーボエ及びオーケストラ科を審査員満場一致の最優秀の成績で修了。第 9 回東京音楽コンクール第 3 位、第 10 回東京音楽大学コンクール第 1 位、第 82 回日本音楽コンクール第 1 位の他受賞。ソリストとして日本センチュリー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団などと共演の他、NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」、読売新人演奏会、ヤマハ管楽器新人演奏会などに出演。PMF オーケストラアカデミー修了生。オーボエを高山郁子、宮本文昭、古部賢一、ノラ・シスモンディの各氏、イングリッシュホルンをクリストフ・グランデル氏に師事。兵庫芸術文化センター管弦楽団を経て、現在 NHK 交響楽団首席オーボエ奏者。

#### 出演公演

2024 年 4 月 18 日[木]19:00 東京文化会館 小ホール

N 響メンバーによる室内楽



## 読売日本交響楽団（管弦楽）Yomiuri Nippon Symphony Orchestra

1962年、クラシック音楽の振興と普及のために読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビのグループ3社を母体に設立された。創立以来、世界的な指揮者、ソリストと共演を重ねている。2019年4月からセバスティアン・ヴァイグレが第10代常任指揮者を務め、充実した活動を展開している。現在の指揮者陣には、首席客演指揮者の山田和樹、指揮者／クリエイティヴ・パートナーの鈴木優人、桂冠指揮者のカンブルラン、名誉指揮者のテミルカーノフらが名を連ねている。

現在、名誉顧問に高田宮妃久子殿下をお迎えし、サントリーホールや東京芸術劇場などで演奏会を多数開催中。22年12月には文化庁芸術祭大賞を受賞した。演奏会の様子は日本テレビ「読響プレミア」で放送されている。

オペラ公演にも精力的に取り組み、数々の業績を上げてきた。17年11月にはメシアンのアシスタント・ベストテン第1位、サントリー音楽賞などを受賞。23年には、東京・春・音楽祭のブッチェーニ・シリーズ《トスカ》に出演し好評を博した。<https://yomikyo.or.jp/>

### 出演公演

2024年4月18日[木]19:00/21日[日]15:00 東京文化会館 大ホール  
《エレクトラ》(演奏会形式/字幕付)



## トーマス・ラウスマン（音楽コーチ）Thomas Lausmann

19/20シーズン初め、メトロポリタン歌劇場の音楽部門の監督に指名された。それ以前には、13～19年にウィーン国立歌劇場の音楽コーチを務め、またそれに先立って、同歌劇場のアシスタント指揮者／コーチを、3シーズン務めていた。ウィーン国立歌劇場時代には、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の専属ピアニストとして、定期公演やツアーでピアノやチェレスタ、ハープシコード、オルガンを演奏していた。

08年より、バイロイト音楽祭の首席コーチを務めている。同音楽祭では、『リング』のプロダクションや、『トリスタンとイゾルデ』、『タンホイザー』、『さまよえるオランダ人』でクリスティアン・ティーレマンのアシスタントを務めたほか、16/17シーズンには、マレク・ヤノフスキ指揮による『リング』チクルスの音楽コーチを務めた。また、ザルツブルク音楽祭の首席コーチ、ベルリン・コーミッシェ・オーパーの共同・音楽コーチ、ハンブルク国立歌劇場のアシスタント音楽コーチ、ヴォルフ・トラップ・オペラの音楽コーチおよびキャスティング顧問、ワシントン・ナショナル・オペラのアシスタント指揮者、ニューヨーク・シティ・オペラのアシスタント指揮者も務めている。

シュトゥットガルト音楽演劇大学でピアノ演奏を学んだ後、アメリカのイーストマン音楽学校で音楽修士を取得。さらにマンハッタン音楽学校でウォーレン・ジョーンズに師事し、オペラ指導法のディプロマを取得した。

### 出演公演

2024年3月27日[水]/30日[土]15:00 東京文化会館 大ホール  
東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.15  
《トリスタンとイゾルデ》(演奏会形式/字幕付)  
2024年4月7日[日]15:00 東京文化会館 大ホール  
ワーグナー『ニーベルングの指環』ガラ・コンサート



## カミッロ・ラディケ (ピアノ) Camillo Radicke

ドレスデン生まれのピアニスト。故郷ドレスデンでレギーナ・メツナー、アマデウス・ウェーバー・ジンケ、アルカディ・ツェンツィパーに学んだ。1990年パルマ・デ・マヨルカのショパン国際ピアノ・コンクール、92年アテネのマリア・カラス国際コンクール、92年ヴェルチェッリのヴィオッティ国際音楽コンクール等で第1位となる。その後、ソリスト及び室内楽奏者として、ほぼ全ヨーロッパ、中東、キューバ、南米、日本、韓国、アラブ首長国連邦等で数え切れぬほどのコンサートを行なってきた。

数々の国際音楽祭にも客演しており、ザルツブルク音楽祭やルール・ピアノ・フェスティバル、ボン・ベートーヴェン音楽祭、ドゥシュニキ・ショパン国際ピアノ・フェスティバル、エディンバラ国際フェスティバル、ロンドン・BBC ランチタイム・コンサート、ダブリン国際室内楽音楽祭、コスタ・ヴェルデ音楽祭、バイロートのアル・ブスタン音楽祭、アイゼンシュタットのハイドン音楽祭、ラインガウ音楽祭、ドレスデン音楽祭、MDR 音楽の夏、シュヴァルツェンベルクのシューベルティアード等が挙げられる。

コンサートで共演したオーケストラには、ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団、シュターツカペレ・ドレスデン、シュトゥットガルト・フィルハーモニー管弦楽団、ミュンヘン室内管弦楽団、トリノのRAI 国立交響楽団等があり、共演した指揮者にはマレク・ヤノフスキ、ゲルト・アルブレヒト、ミシェル・プラッソン、ユーリ・テミルカーノフ、タマーシュ・ヴァーシャーリ、ベルンハルト・クレー、ルートヴィヒ・ギュトラー、イェルク・ペーター・ヴァイグレ、ペーター・シュライアー等がいる。また、これまで演奏したコンサート・ホールには、ミラノ・スカラ座、ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場、ブエノスアイレスのテアトロ・コロン、アムステルダム・コンセルトヘボウ、東京オペラシテイ、フランクフルトのアルテ・オーパー、ベルリン・フィルハーモニー、ウィーンの楽友協会とコンツェルトハウス、トーンハレ、チューリッヒ歌劇場、ザルツブルク・モーツァルテウム、ケルン・フィルハーモニー、ミュンヘンのヘラクレス・ザール、マドリードのサルスエラ劇場、バルセロナのリセウ大劇場、パリのシテ・ド・ラ・ミュージック、ガルニエ宮、ロンドンのウィグモア・ホール、アテネのメガロン、サンパウロのサーラ・プレステス、チリのサンティアゴ市立劇場、ドバイ・コミュニティ劇場、ブリュッセルのモネ劇場、ジュネーヴ大劇場、ベルリン・コンツェルトハウス、ドルトムント・コンツェルトハウス、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス、ドレスデンのゼンパーオーパーや聖母教会、ハンブルクのエルプフィルハーモニー等が挙げられる。

伴奏者として共演した歌手には、ペーター・シュライアー、オラフ・ベアー、ユリアーネ・バンゼ、ルート・ツィーザク、ピョートル・ベチャワ、マルリス・ペーターゼン、ソンドラ・ラドヴァノフスキー、ルネ・パーペ等がいる。2006年のモーツァルト・イヤーには、ヴォルフガング・ヘントリッヒ（ドレスデン・フィルの第1コンサートマスター）と、モーツァルトのヴァイオリン・ソナタ全26曲を演奏。その中から選曲して、CDもリリースした。同年には、ミュンヘン国際音楽コンクールで審査員も務めた。CDレーベルのハルモニア・ムンディには、マルリス・ペーターゼン、ステラ・ドゥフェクシス/アンケ・フォン・ドゥング、ヴェルナー・ギュラ、コンラッド・ジャーノット、クリストフ・ベルナー等と、ブラームス《愛の歌》やシューマン《スペインの愛の歌》を4声と4手ピアノで収録。07年以来、同アンサンブルは賞を獲得したこの作品を、ヨーロッパ中の多くのコンサート・ホールで演奏している。

## 出演公演

2024年4月10日[水]19:00 東京文化会館 小ホール

東京春祭 歌曲シリーズ vol.38

ルネ・パーペ (バス) & カミッロ・ラディケ (ピアノ)



## シュテファン・リュウガマー (テノール) Stephan Rügamer

幅広いレパートリーと明瞭かつ豊かな声で世界を舞台に活躍するテノール。

ヴァルトザッセン生まれ。ヴェルツブルクとリュベックにて学んだ後に、リリック・テノールとしてリュベック歌劇場でキャリアを開始。《ドン・ジョヴァンニ》ドン・オッターヴィオ、《後宮からの誘拐》ベルモンテ、《こうもり》アルフレード、《椿姫》アルフレードなどの主要な役を務める。1999年には、バレンボイム指揮《ニュルンベルクのマイスタージンガー》ダフィットとしてベルリン州立歌劇場にデビュー。以降、同歌劇場レギュラー歌手として多数のオペラに出演し活躍する。そのほかフランクフルト、エッセンをはじめ、ドレスデン、ハンブルク、ミュンヘンやシュトゥットガルトなどドイツの主要劇場に登場し、さらにはミラノ・スカラ座、パリのシャトレ座、テアトロ・レアルなどで、《アラベラ》マッテオ、《タンホイザー》ヴァルター、プロコフィエフ《賭博者》侯爵、《ラインの黄金》ローゲなどを歌い好評を博す。またルツェルン音楽祭、シカゴ・ラヴィニア音楽祭、ザルツブルク音楽祭、ブレゲンツ音楽祭など各地の音楽祭にも招かれている。

コンサートでは、ブーレーズ、ドホナーニ、ギーレン、ロペス=コボス、メッツマッハー、ネルソンス、ラトル、ズヴェーデン、メータら巨匠の指揮で、ドイツをはじめ世界各地の主要オーケストラと共演している。

近年のハイライトとしては、テアトロ・レアル《カーチャ・カバノヴァー》ボリス、ミラノ・スカラ座《ラインの黄金》ローゲなど、ハンブルク州立歌劇場《アラベラ》マッテオ、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団《こうもり》アイゼンシュタイン、パリ国立オペラ《ヴォツェック》大尉、ジュネーヴ大劇場《ヴォツェック》大尉、《ラインの黄金》ローゲ、ライプツィヒ歌劇場《反キリスト教徒の墮落》芸術家、ベルリン・コーミッシェ・オーパー《カーチャ・カバノヴァー》チホン、カールスルーエ・バーデン州立劇場《さまよえるオランダ人》エリックなどのオペラのほか、シュターツカペレ・ベルリン (バレンボイム、ルイージ)、バイエルン放送交響楽団、シカゴ交響楽団、NDR エルプフィルハーモニー管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団などのコンサートに出演している。

## 出演公演

2024年4月18日[木]19:00/21日[日]15:00 東京文化会館 大ホール

《エレクトラ》(演奏会形式/字幕付)





## レネケ・ルイテン (ソプラノ) Lenneke Ruiten

ハーグ王立音楽院とミュンヘンのバイエルン国立歌劇場アカデミーでフルートと声楽を学ぶ。2002年スヘルターヘンボス国際声楽コンクールで、いくつもの賞を受賞。今日、コンサートやオペラの分野で、卓越した国際的なキャリアを持つ引く手あまたのソプラノの一人である。

23年2月にエリー・アーメリング賞を受賞。この賞は、歌曲賞としてアムステルダム・コンサートヘボウが創設し、最初にエリー・アーメリングに贈られた後、ロベルト・ホルに引き継がれ、現在はレネケ・ルイテンへと受け渡された。

最近、ブリュッセルのモネ劇場で《バスタルダ》マリア・ストゥアルダ、アントワープ及びヘントのフランダース・オペラで《フィガロの結婚》(伯爵夫人・役デビュー)、アムステルダムのオランダ国立オペラでカイヤ・サーリアホ《イノセンス》、北オランダ交響楽団のニューイヤー・コンサート、ジェノヴァのカルロ・フェリーチェ劇場で《イドメネオ》エレットラ、ガーディナー指揮ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団でブラームス《ドイツ・レクイエム》、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団でバッハ《ロ短調ミサ》、バイエルン放送交響楽団とエマニュエル・アイム指揮ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団でヘンデル《愛の妄想》、ブリュッセル・モネ劇場で歌曲リサイタル、チコーニア・コンソートとコンサート共演、ストラスブールのラン国立オペラで《ホフマン物語》のソプラノ4役、アムステルダム・コンサートヘボウとケルン・フィルハーモニーでガラ・コンサート、フレンスブルクでマーラーの交響曲第2番等に出演。

昨年の主な出演としては、アントネッロ・マナコルダ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団とベートーヴェンの交響曲第9番(12/21、1/22)、ローマでジョン・エリオット・ガーディナー指揮サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団とイタリア語によるハイドン《天地創造》(1/22)、ディエゴ・ファソリス指揮でローザンヌ歌劇場にて《アルチーナ》(3/22)、アントネッロ・マナコルダ指揮カンマーアカデミー・ポツダムと演奏会形式による《コジ・ファン・トゥッテ》最終幕(22年3月)、バーゼル・バッハ合唱団と《オリーブ山上のキリスト》(4/22)、マーク・エルダー指揮フィレンツェ五月音楽祭管弦楽団とモーツァルト《ああ、私はそれを知っていた》(22年4月)、エマニュエル・アイム指揮スペイン国立管弦楽団とのコンサート(22年5月)、ブリュッセルのモネ劇場でマイアベア《ユグノー教徒》マルグリット(22年6月)等が挙げられる。

様々な歌劇場に招かれており、パリ、ミラノ、バーデン＝バーデン、ブリュッセル、アムステルダム、シュトゥットガルト、ウィーン、ローザンヌ等で、《後宮からの誘拐》コンスタンツェ、《魔笛》パミーナ、《フィガロの結婚》スザンナ、《コジ・ファン・トゥッテ》フィオルディリージ、《ドン・ジョヴァンニ》ドンナ・アンナ、《ルーチョ・シッラ》ジュニア等のモーツァルト作品の他、《ナクソス島のアリアドネ》ツェルビネッタ、《リナルド》アルミレーナ、《ばらの騎士》ゾフィー、《アムレット》オフェリ、《トーリードのイフィジェニー》タイトルロール、《オルランド》アンジェリカ、《ランメルモールのルチア》タイトルロール等を歌った。

また、音楽祭にも頻りに招かれており、ザルツブルク音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭、エディンバラ国際フェスティバル、モストリー・モーツァルト・フェスティバル、BBCプロムス、ライブツィヒ・バッハ音楽祭、プラハの春音楽祭、オールドバラ音楽祭、ルツェルン音楽祭、オランダ芸術祭、ドロットニングホルム・フェスティバル等に出演している。

これまで共演したオーケストラには、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、グルノーブル・ルーヴル宮音楽隊、レ・タラン・リリク、18世紀オーケストラ、イングリッシュ・バロック・ソロイスト、モンテヴェルディ合唱団、モーツァルテウム管弦楽団、ベルリン古楽アカデミー、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、シュターツカペレ・ドレスデン、バ

イエレン放送交響楽団等があり、これまで共演した指揮者には、クリストフ・エッシェンバッハ、ジョン・エリオット・ガーディナー、アントネッロ・マナコルダ、クリストフ・ルセ、クリスティアン・ティーレマン、マレク・ヤノフスキ、ヘルムート・リリング、フランス・ブリュッヘン、トン・コープマン、マルク・ミンコフスキ、エマニュエル・アイム、イヴァン・フィッシャー等がいる。

CD 録音には、『モーツァルト：アリア集』、『J.S. バッハ：カンタータ集』、『オルフ：カルミナ・ブラーナ』、『フランスのメロディー』等がある。

最も情熱を注いでいるものの一つに歌曲がある。ドイツ語・フランス語の歌曲や詩を、偉大なリート歌手であるエリー・アーメリング、ロベルト・ホル、ハンス・ホッター、ヴァルター・ベリー等に学んでリート歌手として実力を認められ、ピアニストのトム・ヤンセン、ルドルフ・ヤンセンとリサイタルを開催している。ロンドンのウィグモア・ホールや、アムステルダム・コンセルトヘボウ、ブルックリンでの室内楽の集い、フランクフルトのカイザーザール、ジュネーヴのパレ・デ・ラテネー、金沢、ワルシャワの国際ショパン・フェスティバル、ブリュッセル、マドリード、ダブリン、ゴールウェイ、デルフト室内楽フェスティバル等でリートを歌っており、ザイストの国際リート・フェスティバルには定期的に招かれている。

#### 出演公演

2024年4月4日[木]19:00 東京文化会館 小ホール

東京春祭 歌曲シリーズ vol. 37

レネケ・ルイテン (ソプラノ) & トム・ヤンセン (ピアノ)

2024年4月6日[土]14:00 東京藝術大学奏楽堂 (大学構内)

ディオティマ弦楽四重奏団



#### マルソー・ルフェーヴル (ファゴット) Marceau Lefevre

#### 出演公演

2024年4月8日[月]19:00 東京文化会館 小ホール

アンサンブル・アンテルコンタンポラン I



#### ソフィー・レノー (ピアノ) Sophie Raynaud

今日最も引く手あまたのピアノ伴奏者の一人である。ヨーロッパの主なオペラハウスでは、ウィーン国立歌劇場、チューリッヒ歌劇場、シャトレ座、アン・デア・ウィーン劇場、フェニーチェ劇場、ザルツブルク音楽祭等でコーチを務めてきた。2006年には、バイエルン国立歌劇場の主要なコレペティートルの一人として招かれ、現在に至る。

舞台裏での活躍とバランスをとるように、ピアニストとしても舞台に立っており、ヨーロッパの主なコンサート会場でコンサートを行ってきた。例えば、ロンドンのウィグモア・ホール、エディンバラ国際フェスティバル、パリ・オペラ座、ケルン・フィルハーモニー、バーデン＝バーデン祝祭劇場、エルマウ城、ミュンヘンのキュヴィリエ劇場、バイエルン

国立歌劇場、ローマのヴィラ・メディチ、マドリードのサルスエラ劇場、ペララーダ城フェスティバルの他、最近ではニューヨークのカーネギー・ホール等が挙げられる。

コンサートでは、バイエルン国立管弦楽団、ミュンヘン室内管弦楽団、バイエルン放送交響楽団のメンバー等と共演している。また、業界の最も有名なソリストたちとも定期的にコンサートや歌曲リサイタルで共演しており、その中にはアンジェラ・ブラウアー、ディアナ・ダムラウ、リーゼ・ダヴィドセン、サマンサ・ハンキー、ヨナス・カウフマン、ソフィー・コッシュ、ミヒャエル・フォレ、オッカ・フォン・デア・ダメラウ、エレナ・ツァラゴヴァ等がいる。

バイエルン国立歌劇場のオペラ・スタジオで若手ピアニストを指導することによって、音楽家の新しい世代の育成をサポートすることにも積極的である。他にも、ブリュッセルのエリザベート王妃音楽礼拝堂、ブレーメンやベルン、ミュンヘンの音楽院等、ヨーロッパの重要な教育機関で声楽を学ぶ生徒たちの指導にもあたっている。

マスタークラスでの伴奏も務めており、ザルツブルクのモーツァルテウムその他、ウィーンのリッパース劇場で行なわれたクリスタ・ルートヴィヒのマスタークラスは撮影されてアートハウス・レーベルからDVDとして出版されている。

その抜群の音楽的能力のおかげで、CDレコーディングにあたっての声楽コーチやサウンド・エンジニアとしての役割をしばしば任されている。例えば最近の2つのコラボレーションを挙げるとすれば、ヨナス・カウフマン（ソニー）やマリーナ・レベカ（プリマ・クラシック）等がある。

また、メゾ・ソプラノのソフィー・コッシュとともに「ル・シャン・ドウ・モンド」レーベルで2枚のCDを収録した。現在は、ソロアルバム『子ども時代の鏡』（プリマ・クラシック）を準備中。

#### 出演公演

2024年4月15日[月]19:00 東京文化会館 小ホール

東京春祭 歌曲シリーズ vol.40

オッカ・フォン・デア・ダメラウ（メゾ・ソプラノ） & ソフィー・レノー（ピアノ）



#### カタリーナ・ワグナー（監修／芸術監督）Katharina Wagner

リヒャルト・ワグナーの曾孫にあたり、2015年からはバイロイト音楽祭の総監督の地位にある。同音楽祭傘下に置かれたBFメーディエン有限会社の代表取締役も務めている。ベルリン自由大学で舞台芸術学を学び、現在はバイロイトとベルリンに居を構えている。これまでの演出作品には、

ヴェルツブルクでの《さまよえるオランダ人》、ブダペストでの《ローエン格林》、ミュンヘン・ゲルトナープラッツ州立劇場の《刀鍛冶》、ベルリンでのプッチーニ「三部作」、マインツでの《蝶々夫人》と《低地》、ブレーメン劇場の《リエンツィ》、カナリア諸島ラス・パルマスでの《タンホイザー》等が挙げられる。07年《ニュルンベルクのマイスタージンガー》が、バイロイト音楽祭への演出デビューとなった。15年にクリスティアン・テューレマン指揮のバイロイト音楽祭で《トリスタンとイゾルデ》を演出、18年は東京の新国立劇場で《フィデリオ》を演出した。19/20シーズンにはバルセロナのリセウ大劇場で《ローエン格林》を演出予定だったが、このプロダクションは、2022年3月にライプツィヒで世界初演、2025年リセウ劇場での上演が予定されている。

ハンス・アイスラー音楽大学ベルリンの演出学科・名誉教授。異母姉エファ・ワグナー＝パスキエとともに、10年に「B.Z.」紙より文化賞、12年にバイエルン文化賞を受賞。13

年にはブルゲンラント州政府よりブルゲンラント州名誉大勲章が授与された。多数のワーグナー協会の名誉会員でもある。2019年、マルクス・ゼーダー州首相よりバイエルン功労勲章を授与された。

#### 出演公演

2024年3月23日[土]14:00/24日[日]14:00/28日[木]19:00

30日[土]14:00/31日[日]14:00

三井住友銀行東館ライジング・スクエア1階 アース・ガーデン

東京春祭 for Kids 子どものためのワーグナー

《トリスタンとイゾルデ》(バイロイト音楽祭提携公演)